

一一 西原亀三ノ関与セル对中国借款關係一件

一二 对中国借款善後策ニ関スル件

一三 中国内政關係雜件

附録 日本外交文書大正七年第二冊日附索引

(以上下巻)

事項一 中国南北調停一件

一 二月二十一日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(在東京)

中国南北間争乱ノ成行監視、北京ニ於ケル有
力政治家間ノ不和反目ノ緩和除去ノ努力、中
国トノ軍事上經濟上ノ提携ノ方針ニ関シ内訓
ノ件

附記 本野外務大臣ヨリ林公使ニ交付ノ三月八日附内
訓覚書 对中国政策ニ関スル件

極秘

帝国ノ对支政策ハ昨年一月九日閣議^(註)ニ於テ決定セラレ爾来
此方針ニ拠リ行動シ来リ其間兩國親交ノ關係ハ稍々増進ノ
形跡アリト雖モ未タ充分ニ我目的ヲ達シ得タリト云フ可カ
ラス蓋シ支那ノ政局ハ常ニ動搖シ今日ニ至ル迄未タ安定ノ
曙光ヲ見ス随テ帝国カ其既定ノ方針ニ拠リ支那ヲシテ我誠
実ナル指導ノ下ニ必要ナル庶政ノ改善ヲ図ラシメントスル
計画ノ如キモ其実現甚タ遼遠ナリ右ノ次第ナルヲ以テ帝国
政府ハ支那ニ於ケル国内ノ争乱一日モ速ニ其局ヲ収メ強固

一 中国南北調停一件 一

ナル政府ノ樹立セラルルコト極メテ必要ナルヲ認ム而テ此
目的ヲ達スル為メニハ世上ニ唱道セラルルカ如ク南北ノ調
停ヲ謀ル如キモ或ハ一策ニシテ主義上政府ニ於テモ敢テ異
論ナシト雖モ支那現今ノ状態ニテハ其実行蓋シ至難ナルヲ
免カレス元来支那ニ於ケル南北ノ対峙確執ハ其原因深甚ニ
シテ容易ニ相融和シ難キ相違ニ基因スルモノナルカ故ニ此
際帝国カ成功ノ目算立タスシテ既定ノ方針ニ違ヒ自ラ進
テ此鬭争ノ渦中ニ投シ支那ノ内政ニ干渉スルハ甚タ危険ノ
措置ニシテ少クモ今日ハ断シテ其時機ニ非スト認ム随テ本
問題ハ今姑ク之ヲ自然ノ推移ニ一任シテ徐ニ其成行ヲ監視
スルノ外ナキモ現ニ北京政府部内に於ケル執政者并ニ其他
ノ有力ナル政治家間ノ不和反目ハ此上之ヲ増長セシムルハ
支那ノ刻下ノ紛争ヲシテ益拡大錯綜セシメ時局ノ收拾ヲ愈
困難ナラシムルハ勿論支那ヲ指導啓発シテ庶政ノ改善ヲ図
ラシメントスル我已定ノ对支政策ノ遂行ニ直接ノ障礙トナ
ルヘキヲ以テ貴官ハ任地ヘ帰還ノ上ハ現ニ北京ニ於ケル有

一

力ナル各政治家間ノ不和反目ヲ緩和除去スルノ趣旨ヲ以テ
機宜ノ行動ヲ執ラルヘシ

欧州戦局昨今ノ状態ハ漸次極東ノ形勢ニ憂慮スヘキ影響ヲ
波及セントスルノ観アリ特ニ露国ノ崩壊ハ独逸勢力東漸ノ
形勢ヲ馴致スルノ憂ヲ顯著ナラシメタリ從テ一朝帝国カ右
ノ状態ニ余儀ナクセラレ極東ノ平和ヲ確保スルカ為メ必要
ノ行動ヲ執ラサルヲ得サル場合アルナキヲ保シ難ク旁帝国
ハ此際益支那ト親睦融和シ互ニ相信頼扶翼スルノ關係ト了
解トヲ成立セシメ置クコト必要ナルノミナラス更ニ進ンテ
極東有事ノ際ニ処スル為メ予メ支那ト軍事上經濟上ノ提携
ヲ取極メ置クヲ得策ト認ム

就テハ貴官ハ右第一段ノ計画ヲ内密ニ措置セラルルト同時
ニ進ンテ第二段ノ計画ヲ遂行スルニ必要ナル措置ヲ執ラレ
我目的ノ達成ヲ期セラルヘシ

(欄外註記)

「二月二十一日日本野外務大臣ヨリ林公使ニ交付(小幡)」
註 日本外交文書大正六年第二冊四文書附記參看

(附記)

本野外務大臣ヨリ林公使ニ交付ノ三月八日附内訓覽書

林公使ニ対スル内訓覽書

着々実行ノ歩ヲ進メシメタキ希望ヲ懷ケルヲ以テ右等ノ
問題ニ関シ慎重ナル研究ヲ遂ケ其實行方法ニ就キ政府ニ
稟申スル事

大正七年三月八日

註 本覽書ノ記録控ノ欄外ニ「三月八日閣議報告済」ト本野大
臣ノ記入アリ

二 三月二十九日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

中国南北ノ統一実現ノ為本邦滞在中ノ唐紹儀
張繼ノ兩人ヲシテ孫文ヲ本邦ニ招致セシムル
様取計方稟請ノ件

第四四〇号(親展)

(三月三十日接受)

極秘

当国ノ時局ハ目下ノ処猶断言シ難キモ段総理ニ於テ南方ト
妥協ノ希望ナキニアラザル次第ハ往電第四三七号ノ通りニ
付キ湖南ノ平定ト共ニ此方針ヲ以テ漸進スルモノト看做シ
得ベク而シテ幸ニ各派トノ妥協成立シ曲リナリニモ南北統
一ヲ告グルニ於テハ寔ニ賀スヘキ次第ナルガ広東ニ於ケル
所謂軍政府トノ妥協ハ蓋シ相当困難ナルモノ有之ベキヤニ

一 中国南北調停一件 二

一、帝国ノ対支政策ハ大体大正六年一月九日ノ閣議ニ於テ
決定セラレタル方針ニ依リ進行スル事

二、右方針ノ貫徹ヲ期スル為ニハ支那国内ノ擾乱一日モ速
ニ鎮靜シテ鞏固ナル政府ノ樹立セラルルコト緊要ナリト
認メラルルニ付テハ一面北京政府部内ノ一致融合ヲ希フ
ト同時ニ他面南北ノ陰離抗争ヲ終止セムコトヲ望ム依ツ
テ貴官帰任ノ上ハ前項ニ指摘セル対支根本方針ニ戻背セ
サル限リ右ノ趣旨ニ依リ機宜ノ措置ヲ執ル事

三、露国ノ近状ニ鑑ミルニ日支兩國ノ間ニ於テ軍事上共同
動作ヲ行フヲ必要トスル時機切迫セムトシツツアルニ付
右ニ関シ適當ノ措置ヲ施シ支那ヲ扶持シテ以テ兩國永遠
ノ計ヲ為ス事

四、将来日支ノ親善ヲ図リ相互産業ノ発達ヲ期スル為或時
期ニ於テ帝國政府ハ其ノ団匪事件賠償金ノ残額全部ヲ放
棄スルモ差支ナキ考ナルニ付其ノ含ヲ以テ予メ之カ利用
方策ニ関シ攻究シ置ク事

五、帝国自衛ノ為及支那開發ノ為日支共通鉄自給策、支那
鉄道問題、幣制改革及税制整理等ノ諸問題ハ極メテ重要
ノ問題ナルニ付帝國政府ハ支那ヲシテ此等諸問題ニ関シ

察セラルル処元來孫派ハ中央政府トハ勿論同シク南方派中
ニ在リテモ陸榮廷側ト全然融和セザル次第ハ疾ク御承知ノ
通りニ有之要スルニ孫派ハ何レノ方面ニモ好カラザル次第
ニ付キ其首領タル孫ヲ他ニ移シ以テ妥協ノ前途ヲシテ多少
トモ容易ナラシムルヲ得バ實ニ好都合ニ有之殊ニ孫派ハ今
後龍濟光軍ノ活動ニ伴ヒ益々不利ノ形勢ニ陥ルベキハ見易
キノ理ニ有之從テ孫自身ノ利益ヨリ云フモ今ニ於テ其身ヲ
安全ノ地ニ移スハ最モ得策ニ有之ベク而シテ右安全ノ地ト
ハ本邦ヲ措テ他ニ無之次第ナルニ付テハ帝國政府ニ於テ若
シ右ニ御同感ナルニ於テハ目下幸ヒ唐紹儀、張繼等本邦滞
在中ナルヲ機トシ然ルベキ筋ヲ通シテ兩人ニ極ク内密御交
渉ノ上兩人ヲシテ孫ヲ本邦ニ招致セシムル様御取計相成タ
シ孫ニシテ広東ヲ去ルニ於テハ軍政府モ到底成立セザルベ
ク広東平定ノ上ニ一步ヲ進ムルハ明白ニ有之尚右ニ関スル
帝國政府ノ御内意ヲ承知シタル上本使ヨリ段側ニ対シ適當
ノ注意ヲ与ヘ孫及軍政府ノ殘党ニ対スル待遇方ニ付キテモ
寛大ノ措置ヲ執ル様説得ヲ試ムル方可然ト存ス何分ノ御電
訓ヲ請フ

三 四月十二日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

南北統一ノ為湖南広東二省平定ヲ必要トスト
ノ曹汝霖ノ意見ハ適切ト認メラルルニ付右ノ
如キ西南政策是認方稟申ノ件

第五一六号 極秘 （四月十二日接受）

四月十一日曹汝霖他用ヲ以テ来訪ノ節對西南問題ニ談及シ
国民党側ハ別段眼中ニ置クノ価値ナク目下ノ問題ハ陸榮
廷、唐繼堯側ノ処分如何ニアル次第ナルカ陸唐等ト妥協ヲ
遂クルコトニ付テハ中央政府当局ニ於テモ何人モ異存ナキ
所ナルカ自分等ノ見ル所ヲ以テスルニ有終ノ妥協ヲ遂ケン
トセハ先ツ宜シク湖南広東ノ二省ヲ平定スルノ必要アリ然
ラザレバ一旦妥協成立スルモ永統スベシトモ見受ケラレズ
旁兎ニ角右二省ノ平定ヲ図ルコト刻下ノ急務ナルガ之カ為
大体四五ヵ月位ヲ要スベク然ル後始メテ真実ノ妥協ニ入ル
ヲ得ベシト思考スル旨述ベタリ右ハ事情抛ロナク且適切ノ
意見ニテ本使ニ於テモ右以外ニ実行シ得ヘキ考案モ無之様
思考セラルル次第ナルガ帝国政府ニ於テモ一応熟考ヲ重ネ
ラルルニ於テハ蓋同一結論ニ達セラルルコト存ズ就テハ

スルカ何レトモ今少シク迅速ニ時局收拾ノ方策ナキモノニ
ヤ右ニ関スル貴官ノ腹藏ナキ御所見参考迄承知シ度キ旨寺
内総理大臣ヨリ申出ラレタルニ付右御回電アリタシ

五 四月二十一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

中国南北妥協ヲ成功セシメントセバ北軍ヲシ
テ今一步南征ノ歩ヲ進メシムル様我方ノ財政
的援助ヲ必要トスベキ旨回申ノ件

第五七一号 極秘
貴電第二七二号ニ関シ

実ハ本使ヨリモ意見上申ニ及バントシタル折ナルガ段内閣
ガ南方派ト妥協ノ意向ヲ有スル次第ハ既ニ御承知ノ通ナル
処唯妥協ニ着手スルノ機会ニ就テハ之ヲ長沙陷落後ニ於テ
スベキカ將又更ニ南征ノ歩ヲ進メタル後ニ於テスベキカ本
使ニ於テモ当初明確ナル消息ヲ有セザリシ次第ナル処昨今
討伐軍ノ司令官タル曹錕張懷芝二人ノ態度ニ煮切ラザル節
之アリ此促推移センカ此上南征ノ歩ヲ進ムルコト到底不可
能ニ之アリ從テ段内閣トシテハ對西南策ニ関シ此際進止何

内閣総理大臣トモ御内議相成、相成ヘクハ外交調査会ニモ
御附議ノ上帝国政府トシテ右ノ如キ對西南政策ヲ是認セラ
ルルニ至ランコトヲ希望ス

四 四月二十日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛（電報）

中国南北統一ヲ迅速ニ実現スル方策ナキヤ意
見問合ノ件

第二七二号

支那ガ今日ノ如ク南北相對峙シテ干戈遏ム時ナキ状態ニ在
ルハ国際政局緊迫ノ現状ニ顧ミ支那ノ為メ不幸ナルハ勿論
帝国政府ニ於テモ支那ガ一日モ速ニ南北統一ニ歸スルコト
ヲ切望シ居ル次第ハ貴官ニ於テモ充分御承悉ノ通ナル処貴
電第五一六号ニ依レバ段内閣現在ノ方針ニテハ今後湖南広
東討伐ニ少クモ四五ヶ月ヲ費シタル上妥協ヲ進メントスル
目論見ノ如ク察セラルルモノ内外四囲ノ状勢ハ到底斯ル緩慢
ナル計畫ヲ許サザルヤニ考ヘラルルニ付此際段政府ニ於テ
右討伐ノ方針ニ決スルナラバ一氣呵成ニ之ヲ実行スルカ若
シ又右実行不可能ナラバ寧ロ直ニ端緒ヲ求メテ妥協ヲ促進

レカニ決セザルヘカラザル羽目ニ立チタルモノト云フベク
旁今回段自ラ南下シテ親シク曹張等ト意思ノ疏通ヲ計ラン
トシツアル次第ナルガ実ハ刻下ノ時局ハ独リ段内閣ノ對
西南策ニ関スル危機タルノミナラズ之ヲ帝國ノ立場ヨリ見
ルモ頗ル重大ナル危機ニ達セルモノト云フベシ蓋シ南方ト
云フト雖モ要スルニ陸榮廷唐繼堯及国民党ノ三派ニ過キス
陸ハ広西広東ニ蟠踞シ更ニ進シテ湖南ヲモ其掌裡ニ収メン
トシ昨年以来干戈ヲ執リテ動カザルモ其目的トスル所単ニ
自家ノ權勢拡張ニアルノミ此以外何等主義政見アルニアラ
ズ唯現下尚強大ノ兵力ヲ有スルヲ以テ政府ニ對シテハ兎ニ
角最大ノ強敵ト云フベシ

唐ハ雲貴ニ依リ更ニ四川ヲ領有シタル上中央ニ敵セントス
ルモノニシテ其政見ハ国民党ニ接近セルモ陸ト一致スルヲ
得ベキヤ頗ル疑ハシキモノアリ国民党ニ至リテハ孫文ヲ中
心トシテ広東ニ軍政府ヲ組織スルモ陸唐等ヲシテ節制ニ服
セシムル能ハズ且首領中一致ヲ欠キ勢力又微弱ニシテ唯僅
カニ陸唐等ト相呼応シテ政府ニ反抗スルノミ以上三派ノ勢
力ハ打テ之ヲ一丸ト為スモ尚中央政府ヲ顛覆スル能ハザル
ノミナラズ仮リニ偶々右ニ成功スベシトスルモ其成功ノ永

統スベキモノニアラザルヤ極メテ明白ナリ今日彼等ハ幸ニ北方ノ内争ニ乗ジテ幾分ノ勢力ヲ保持スルモ全国統一ノ業ニ至リテハ先ヅ彼等ノ企及シ得ベキ所ニアラズトスルヲ穩当トスベク從テ中央政府ニシテ全国平定ノ見地ヨリ妥協ヲ提議スルニ於テハ宜シク直チニ之ヲ応諾シテ可ナルベキ管ナルモ長沙ノ陥落位ヲ以テシテハ彼等ノ要求条件決シテ輕微ナラザルベク例之仮リニ中央政府ヨリ妥協条件ノ一トシテ陸ノ(脱)之ヲ受諾セザルベキハ想像ニ余リ有リ其他ノ条件ニ関シテモ亦類推スルヲ得ベク要スルニ現状ヲ基礎トシテ今直チニ妥協ヲ促進セシムルコト到底其望ミナシト断言スルモ不可ナシ從テ有終ノ妥協ヲ遂ケントセバ今一步南征ノ歩ヲ進メ更ニ一段ノ圧力ヲ加フルノ必要アルハ敢テ論ヲ俟タザル所ナリ

中央政府ニシテ此方針ニ出デントセバ先ヅ陸側ニ対シ広東ヲ回收シ唐側ニ対シ四川ヲ廓清セザルベカラズ之レ実ニ刻下段内閣トシテ全国統一ノ為メ執ルベキ必要已ムヲ得ザルノ途トス御来示ニ依レバ四五ヶ月ノ討伐ハ永キニ失ストノ御意見ナルガ如キモ前記ノ如キ討伐方針ヲ実行セントセバ四五カ月ヲ要スルコト已ムヲ得ザル次第ニ之アリ而カモ之

故前記ノ通り軍費トシテ果シテ四百万弗ヲ要ストセバ尚更ニ二百万弗ヲ加算セザル可カラザルガ故結局収入ノ不足ハ依然巨額ニ達スルガ故何レノ途本年中ニハ更ニ八千万乃至一億ノ外債ヲ起スニ非ザレバ到底国政ヲ料理スル能ハザル運命ニ在ルモノトス然ラバ如何ナル方法ニ依リ右ノ如キ外債ヲ起ス可キカ一千万又ハ二千万位ノ金額ナルニ於テハ鉄道借款又ハ其他適當実業借款ノ名義ニテ貸付クル事トシ差支ナキモ八千万又ハ一億ノ如キ巨額ニ至リテハ右ノ如キ方法ニ依ル事能ハザルベキガ故寧ロ正々堂々四国団ニ対シ大借款ノ提議ヲ為サシメタル上成ル可ク日本側ニテ之ヲ引受クル様努力スル方可然ト存ス序々申上グ)

事情右ノ通りナルガ故帝國政府ニ於テモ此際断然其態度ヲ一決セラレ支那側ヨリ前記約二千万弗ノ軍費借受方希望ヲ申出ヅル節ハ相当ノ形式ニテ之ヲ引受け以テ中央政府ヲシテ前記ノ方針ニ依リ全国ヲ統一セシムルコトトセラレ度ク而シテ全国統一ノ上ハ中央政府ヲシテ適當ノ便法ニ依リ主要督軍部下軍隊ノ全部又ハ一部解散方ヲ納得セシメ以テ國家支出ノ主要項目タル軍費ヲ削減シ而シテ後国政改善ノ端緒ヲ開カシムルコト必要ニ之アリ是実ニ今ニ於テ決定セザ

ニ要スル軍費等ニ就テハ我方ヨリ相当助力ヲ為スニアラザレバ到底討伐ノ成功ヲ見ザルコト是亦明白ナリトス但シ茲ニ繰返シ申上置クノ必要アルハ討伐ト云フト雖モ徹頭徹尾討伐ヲ遂行スベシト云フノ意ニアラズシテ広東ノ回收乃至四川ノ廓清位ヲ以テ程度トナスノ一事ニ之アリ広東ニシテ回收セラレ四川ニシテ廓清セラルルニ於テハ茲ニ初メテ中央政府ヲシテ陸唐等ト握手セシメ有終ノ妥協ヲ遂ゲシムルヲ得ベシ尤モ此場合ニ於テモ多年相睨睨シタル南北両派ヲシテ直接商議ニ從ハシムルコト或ハ随分困難ナルモノアルベク從テ此場合ニハ我方ニテ適當ノ形式ニ於テ仲介斡旋ノ勞ヲ執ルコト然ルベシト存ズ

將又討伐ノ軍費ニ就テハ段側ノ説明ニ依レバ一ヶ月約四百万弗ヲ要シ広東ノ回復乃至四川ノ廓清ニ仮リニ五ヶ月ヲ要ストセバ合計二千万弗ノ經費ヲ要スル次第ナリ(当国予算ノ概要ヲ聞クニ一ヶ月収入合計七百十萬弗ニ対シ支出一千三百九十一萬弗ニシテ差引六百八十一萬弗ノ不足ナリ尤モ右収入ノ内ニ海關收入ノ剰余等尚幾分ノ余裕有之可キモ固ヨリ未ダ前記ノ不足額ヲ補填スルヲ得ザルノミナラズ支出ノ内臨時經費トシテ計上シアル軍費ハ僅ニ二百万弗ナルガ

ル可カラザル唯一ノ政策ト思考ス或ハ新思想ト言ヒ或ハ旧思想ト言ヒ一応ノ理由ハ之アル可キモ段派ト雖モ南方派ヲ粉碎スル迄ノ意嚮無キ以上南方派ノ同情者モ亦支那ノ累卵ノ危キニアルノ形勢ニ顧ミ現政府ヲシテ今一步南征ノ歩ヲ進メシメ然ル後有終ノ妥協ヲ遂ゲシムルコトニ同意シテ然ル可シト存ズ就テハ帝國政府ニ於テ形勢ノ極メテ重大ナルニ顧念セラレ卑見御採用ノ上速ニ刻下ノ急ニ応ズル為メ對支政策ヲ決定セラレ本使ヲシテ之ニ依リ支那政府当局者ニ對シ必要ノ説示ヲ為スニ便ナラシメラレンコトヲ懇願ス

六 四月二十二日 在中國林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

中国南北双方ニ対シ日本又ハ日英米仏露等ヨリ妥協ヲ強硬ニ勸告セラレ度キ旨總統府最高顧問王芝祥ヨリ進言ノ件

第五七五号

總統府最高顧問タル王芝祥ハ元來國民黨員ナルカ第二革命以來超然タル態度ヲ執リ居ルニ拘ハラズ南方ニ対シテハ依然重ヲナシ同人ハ両広ノ事情ニ精通シ且陸榮廷等ト從來極メテ親密ノ間柄ナルヨリ常ニ西南各省ト中央政府トノ間ニ

立ち奔走斡旋スル所アリタルモ一部北洋派軍人等ノ偏狹且我假ナル行動ノ為メ予期ノ結果ヲ齎ス能ハズ大ニ失望シ郷里通州ニ引籠リ居リシカ近來時局ハ益々紛糾スル傾向アルヲ憂ヘ此際何トカシテ時局收拾上帝國ノ援助ヲ得度キ希望ヲ懷キ四月二十一日及二十二日ノ兩日ニ亘リ予テ懇意ナル船津ト会见大要左ノ如キ私見ヲ開陳シタル趣ナリ果シテ実行シ得可キヤ否ヤハ別問題トシテ何等御参考迄ニ申進ス段總理ハ嘗テ長沙陷落後直ニ南北妥協ノ実行ニ取掛ル可シトノ説アリシモ倪嗣冲、徐樹錚等ノ勸告ニ依リ武力圧迫政策ヲ継行スルコトナリタルモノノ如シ右ハ多分妥協提議ハ時機尚早ナルヲ以テ先ヅ広東四川ヲ完全ニ北方ニ回復シタル上ニテ妥協ノ提議ヲ為ス積ナラン然シ自分ノ見ル所ニテハ右ノ如キ計画ヲ実現セシムルコトハ中々容易ノ業ニアラズ外国ヨリ充分ナル財政上其他ノ援助ヲ受ケタランニハ或ハ陸榮廷唐繼堯等ヲ討滅スルコト不可能ニアラザル可キモ単ニ陸唐等ヲ除キタリトテ兩広全省ヲ完全ニ北方政令ノ下ニ置クコトハ短時日ノ能クスル所ニアラズ況ンヤ是ガ為メ國家ハ非常ノ犠牲ヲ払ヒ全國ノ元氣ヲ消耗スルヤ必セリ惟フニ段カ今日ノ如キ政策ヲ執ルニ至リシハ多分今日北方

年以来西南各省ハ勿論湖南湖北地方ニ至ル迄兵乱ノ巷トナリ人民塗炭ニ苦シミ陝西地方ノ如キ僅ニ省城及漢中ヲ除ケバ殆下全省土匪横行ノ有様ニテ其他河南、山東、江蘇ノ一部分モ又同様ナリ若シ此假ニ推移セバ支那ハ遂ニ乱麻ノ如ク紛糾シ支那自身ガ苦慘ヲ嘗ムルハ致シ方ナシトスルモ軀テ密接ノ關係アル日本又其餘累ヲ蒙ムルニ至ルハ明カナリサレバ日本ハ自國ノ為メ及善隣ノ交誼上此際支那ニ對シ南北直チニ停戦スル様勸告ヲ試ミラルルハ当然ニシテ且今ハ其好時機ナリト信ズ南北停戦ノ上ハ更ニ大略左ノ如キ条件ニテ段總理ヨリ自發的ニ妥協ヲ提議スル様勸告セラルルコトヲ希望ス

(一)旧約法ニ依リ新国会ヲ召集スルコト若シ北方督軍ニ於テ反對スル場合ハ新法ニ依リ新国会ヲ召集スル様南方派ヲシテ讓歩セシムルコト

(二)國務院ハ広ク人材ヲ網羅シ一党一派ニ偏セザルコト

(三)西南地方長官ノ任命ハ勿論中央政府ニ於テ之ヲ行フモ当該地方ニ適任者ナルヲ条件トス即チ成ルベク地方人民トノ折合宜シキモノヲ選択スルコト露骨ニ換言スレバ現在西南地方ニテ実力アル陸榮廷、唐繼堯等ノ意見ヲ參酌シテ決定

ヨリ妥協ヲ提議スレバ南方ノ要求尚過大ニシテ相談容易ニ纏ラサル虞アルニ付寧ロ今少シク南方ニ威圧ヲ加ヘタル後ニテ協議スル方得策ナリトノ考ヨリ出デタルナランモ右ハ全然妄想ニシテ圧迫ヲ加フレバ加フル程南北妥協ノ実現ハ却テ困難ナリ之ニ反シ北方ニ於テ今少シク法律ヲ尊重スルノ態度ヲ示シ平和的手段ニ依リ然ルベキ方法ヲ以テ南方ト交渉スレバ南北ノ統一ヲ実現セシムルコト決シテ難事ニアラズ茲ニ南方ト云フハ南方ヲ統御シ得ル實際ノ勢力ヲ有スルモノ即チ陸榮廷唐繼堯等ヲ指ス岑春煊ノ兩広ニ於ケル聲望ハ彼ガ多年該地方ニ督撫タリシ關係上今尚隆々トシテ陸ノ如キモ岑ノ云フ所ハ常ニ聽從スル傾キアルニ付之亦一ノ勢力ト看做サザルヲ得ズ唐紹儀ヤ孫文等ハ暫ク度外ニ置クモ差支ナシ

而シテ自分ノ所謂然ルベキ方法ナルモノハ此際日本政府ヨリ南北兩方ニ向テ妥協ノ勸告セラルルヲ云フ(日本單獨ニテ之ニ当ルヲ好マザレバ英米仏露等ヲ誘ヒ共同勸告ヲ試ミラルルモ一策力)若シ之ニシテ共ニ応ゼザル場合ハ多少威嚇ノ態度ニ出ヅルモ差支ナシサスレバ南北ハ必ズ其勸告ニ從フナラント信ズ而シテ今日ハ絶好ノ機會ナリト思料ス昨

スルコト

(四)自分ハ熊希齡ト共ニ上海ニ赴キ岑春煊ト会同シ一応前述ノ方針ニ基キ談合シタル上更ニ陸、唐及四川ノ熊克武等ノ代表トモ意見ヲ交換シ具體的協議ヲ遂クルコト

(五)總理ハ飽迄段祺瑞ヲシテ之ニ当ラシムルヲ条件トスルコト

以上ノ各条件ニ對シ段祺瑞之ニ応ゼザレバ日本政府ハ今後何等ノ援助ヲ与ヘザルコトヲ通告セバ段ハ必ズ履(脱)フ篤ト説明スベシ左スレバ南北双方共ニ日本ノ勸告ニ服從シテ南北ノ統一モ實現セラルルニ至ルベシト信ズ殊ニ南方派側ハ自分(王)ノ説得ニテハ直ニ承諾セシメ得ル見込アルヲ以テ日本ノ威嚇ノ態度ヲ示ス必要ナカルベシト思考ス云々(終)

七 四月二十三日 在広東海軍武官ヨリ
海軍省宛(電報)

孫文ハ目下正式国会ノ成立ノ為最善ノ尽力ヲ為シツアル旨孫文談話ノ件

孫文ノ談 (四月二十五日海軍省ヨリ接受)

余ガ昨年独立海軍ト共ニ当地ニ來レルハ一ニ国会ヲ回復シ

約法保護ノ実ヲ挙ケン為ナリシナリシカ四囲ノ状況ハ余ノ素志ヲ貫徹セシムル能ハズシテ今日ニ到レリ余ハ飽ク迄余ノ素志ヲ貫徹セン為目下正式国会ノ成立ニ尽力シツアルモノニシテ余ガ最善ノ尽力ヲナスニ拘ハラズ予定期日タル六月十二日ニ於テ法定数ニ達スル能ハザレバ其罪ハ国会議員全部ニ帰セザルベカラズ云々

右ノ語氣ヨリ察スルニ彼ハ正式国会ノ成立不能ニ陥ラバ自己ノ責終レリトシテ広東ヲ去ル意志アルニアラズヤト思考サル 御参考迄 二十三日

八 四月二十九日 在中国林公使ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

中国南北ノ妥協促進ニ対シ我方ノ執ルヘキ方

針ニ関シ重ネテ意見具申ノ件

第五九四号

南北妥協ニ関スル本使ノ意見ハ往電第五七一号ニテ御承知相成リタルコトト存ゼラルル処帝國政府ノ一部ニハ尚現状ヲ基礎トシテ今直チニ妥協ヲ促進セシムルヲ可トスル論者有之趣ナルモ妥協ニ著手シテ却テ紛糾ヲ加フルガ如キハ固ヨリ望マシカラザル所ニ有之然ルニ南方側ニ於テハ旧国会

意ヲ欠クコト多シ是亦御考慮相成タシ

九 四月二十九日 在漢口瀨川總領事ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

阪谷男ガ大總統始メ官民有力者ニ対シ中国南北和解ノ必要ヲ力説シタル結果ニ付同男ヨリ

山県元帥及寺内首相ヘ報告ノ件

第一八五号

山県元帥及寺内総理大臣ヘ阪谷男ヨリ

出発ノ際御話アリタル支那側有力者ヘ南北和解ニ付力説ノ件ハ機會アル毎ニ之ヲ試ミタリ要スルニ双方其意アルモ来ル大總統選舉済ム迄ハ到底実現困難ナリ北方諸氏ノ考ハ此際南方ニ対シ兵力ヲ用フルト同時ニ幣制改革ノ如キ積極的事業ニ着手シ威力ヲ内外ニ示サントスルニアリ但シ南方ニシテ干戈ヲ棄ツルニ於テハ毫モ之ヲ追窮スルノ意アルニ非ズ拙者ハ南北握手ス可キ端緒ノ機會ヲ捉ヘント注意シ居レリ拙者ハ大總統始メ官民有力者ニ向ツテ世界時局ノ關係ヲ詳細ニ説キ今日ノ如ク日支ノ利害一致シタル事又此一致シタル事ヲ日本官民ノ充分了解シタル事ナキヲ詳説シ支那ガ欧州戦乱ノ平定以前ニ速ニ内乱ヲ鎮定シ戦後ノ對外關係ニ

一 中国南北調停一件 九一〇

ノ恢復其他種々注文ヲ提出シ来ル模様ナルニ其ノ真意ハ段ヲシテ國務總理ノ地位ヲ去ラシメントスルニ有之即チ現下ノ時局ノ程度ニテハ南北ノ間ニ尚根本思想ニ於テ多大ノ軒輊アルガ故兩者ヲシテ握手セシムルコト先ヅ望ミナシト謂ハザルベカラザルノミナラズ仮リニ南方側希望ノ通り段ニシテ辭職シ南方側ニ於テ後継内閣ヲ組織スルトセンカ北方側督軍連ノ之ニ服從セザルベキハ觀易キノ理ニ有之本使ト雖モ南北妥協ハ素ヨリ歡迎スル所ナルモ一旦妥協促進ニ着手スル以上有終ノ妥協成立ヲ目的トセザルベカラザルコト勿論ニシテ見込ナキ妥協ハ寧ロ着手セザルヲ得策トス且又妥協促進ノ見込急ニ付キ難キガ為メ中央政府ニ対スル援助ヲ見合スト云フガ如キ議論モ或ハ之ナキヲ保セザルベキモ昨年来英仏等与國ト共ニ執リ来レル政策ニモ反スルト同時ニ支那ノ統一ハ益々長引クノ結果ヲ来タスベク存セラル就テハ帝國政府ニ於テ若シ刻下妥協方御詮議中ナルニ於テハ此辺篤ト御考量相成置カルル様致シ度シ將又妥協促進ノ時機ニ於テモ其方法ニ関シ国民党ガ勢力ヲ恢復スルガ如キ手段ハ余程手加減ヲ要ス国民党ノ半面ハ排日ノ氣勢ヲ以テ充チ居ルコトニ注意セザルベカラズ本邦ノ輿論ハ右状況ニ注

処スルノ必要ヲ述べ置キタリ支那官民ハ今回拙者ノ支那ニ来リタル事ニ付深キ信頼ノ情ヲ示セリ拙者ハ今晚上海ニ向ヒ夫ヨリ北京ニ引返ス可シ其途次二三督軍ニモ会見ノ筈外國公使及領事等拙者行動ニ付注意ヲ払ヒ居レリ

一〇 四月三十日 在北京坂西陸軍少將ヨリ 田中參謀次長宛(電報)

迅速ニ中国ノ南北統一ヲ遂クベキ方策ニ付意

見開陳ノ件

坂特電四六 (五月二日參謀本部ヨリ接受)

四月二十五日發齋藤少將宛貴電中我政府ハ軍事協約成立セバ公然南北妥協ノ必要ナル所以ヲ説キテ支那政府ニ勸告スルノ方針ナリト信ズベキ理由アリト示サレアリ、右ニ就キ卑見開陳ス

南北妥協シテ速ニ統一セラルルコトハ何人モ異論ナキコト故苟クモ其方法ノ適當ト確認スベキモノアレバ速ニ之ヲ行ハザルベカラズ之ガ為メ我ヨリ勸告スルハ有利ナルモ勸告シタル以上ハ支那ヲシテ之ヲ実行セシムベキ確信ト權威トヲ有セザルベカラズ然ルニ南方派ノ現政府ニ反對スルハ種々ノ理由ヲ唱フルモ其根源ハ北洋派ノ勢力ヲ押シ倒スカ或

ハ尠クトモ中央政權ノ一部ヲ握ラントスルニアリ旧国会ノ恢復若クハ旧約法ニ拠ル新国会召集ヲ希望スル所以玆ニアリ、蓋シ旧約法ハ議會ガ國務各員ノ任命權ト彈劾權トヲ有シ外國ト約束スベキコトハ一部事業ノ借款ニ至ル迄干涉スベキヲ以テ國務ハ常ニ渋滞シ國務各員ハ常ニ不安ノ念ニ驅ラレ其責任全部ヲ議會ニ帰シ日支兩國關係ノ如キハ事ノ大小ニ論ナク總テ其掣肘ヲ受ケ目下吾人ノ行ヘツツアル軍事協約ノ如キ精神の結合ハ到底夢想ニモ及バザル情況ヲ呈スルハ既往二回ノ經驗ニ徴シテ明ナリ此時日本ハ其責任者ヲ責ムルモ益ナシ蓋シ其罪ハ人ニアラズシテ旧約法ニ存スレバナリ

然ルニ刻下支那現政府反對者若クハ之ニ同情アル我邦人士ハ彼等ガ現政府ヲ目シテ約法ヲ無視スル非法者ナリト称スル耳ニ入り易キ言ヲ吐ク為メ深ク其法ノ不可ナルヲ究メズ尽ク絶對的武断乱暴ナルモノト解セラレアリ北洋派固ヨリ挙テ善良ナルニアラザルモ袁ノ死後民黨ノ多数ガ政權ヲ握リタル當時民黨國務閣員ノ多数ガ賄賂罪ニ問ハレ其政務ノ実績挙ラズ日本トノ結合ニモ利益アリト認メタルモノナク要スルニ人物ノ点ニ就テハ南北齊シク所謂支那人根性ヲ有

スルモノト觀ルヲ至当トスベク然シテ約法ハ右ノ如ク政務ノ進行ヲ妨ゲ日支ノ結合ヲ不可能ナラシメ北洋派ノ為ニ二回迄モ解散セラレタルナリ此法ガ日支兩國ノ為メ不良ナルコト明瞭ナル以上此法ヲ守リテ政權ヲ握ラントスルモノハ日本ノ對支政策上歡迎スベキニアラズ抑々此法ガ南京臨時政府ニ於テ袁世凱ノ大總統ヲ認メザルヲ得ザルニ際シ彼ヲ掣肘センガ為急遽ニ立案セラレタルモノナルヲ以テ其不良ナルハ勿論ニシテ此法ノ存在スル以上所謂南北妥協若クハ調停ノ如キハ之ヲ行フモ無益ニシテ一時姑息のニ行ハレタリトスルモ夫ハ擾乱ヲ三度スルノ近因タラシムルニ外ナラズ

我政府ノ所謂南北妥協ヲ必要トスルハ蓋シ三度擾乱ヲ繰返サシムルニアラズシテ速ニ支那ヲ統一セシムルニアルベシ果シテ然ラバ支那政府ヲシテ強力ナラシメ尠クトモ北方各省ハ勿論長江沿岸ノ督軍ヲシテ能ク中央ノ命ニ服シテ行動スルゴトクスルノ外無シ然ラザレバ日支ノ結合ハ到底期スベカラズ今回ノ協約ノ如キ苟クモ出兵ヲ実行セザル限り全ク一ノ空文トナリ終ルベシ此際日本ハ強力ヲ以テ日支ノ結合ヲ迫ルベキヤ如何恐ラク遽ニ行フコト能ハザルベシ

故ニ目下日本トシテ支那ヲ導クノ途ハ他ニアラズ先ヅ此軍事協定ヲ成立セシメ玆ニ參戰準備ノ必要ヲ自覺セシメ（現政府ハ自覺シ居ルモ資金ヲ得ルノ途ニ付苦慮シツツアリ）之ニ要スル国防軍教師團ヲ新ニ編成シ其資力ヲ我ニ仰グト同時ニ国防軍ノ組織訓練ニモ我ノ助力ヲ仰ガシメナバ今回ノ軍事協定成立ノ為メ支那ハ啻ニ對外防備ノ実力ヲ増スノミナラズ能ク國際的地位ヲ高ムルト同時ニ恐ラク此国防師

團中ノ一兵ヲモ動カスコトナク先ヅ北方並長江沿岸督軍及其地方ニ對スル威信ヲ増大シ其命令行ハルベク第一線ノ將士ヲシテ中央ヲ疑ハシムルナカラシメバ自ラ各地ノ帰服ヲ見ル機到ルベク而シテ一方政府ハ立法機關ノ開設ヲ速ニシ約法ヲ改メ法ニ依リテ万事ヲ行ハバ統一ノ目的ヲ達シ得ベキコトナキヲ保セズ要スルニ現下支那問題解決ノ根本ハ旧約法ノ改正ニ存シ其改正決行ハ現政府ノ有力ナルヲ要シ其有力ナルノ途ハ日本トノ軍事協定ニ依リ誠實ニ參戰準備ノ必要ヲ自覺セシメ速ニ日本ノ援助ニ依リ個人的ナラザル国防軍ヲ組織練成セシメ而モ日本トシテハ資金供給ニ對スル相当ノ担保以外特ニ瑣々タル目前ノ利權獲得ヲ望ムコトナク能ク日支ノ為ニ支那財政ノ實際的改善ト産業開発ニ依リ

テ國家收入ヲ増加スルト同時ニ兩國貿易ヲ發達セシメ所謂東亞獨立自給ノ大策ヲ確立シ先ヅ支那政府當局者ヲシテ此覺悟ヲ取ラシメ能ク支那各地ノ事情ヲ察シテ支那ヲシテ困難ノ位置ニ立タシメザル如ク指導シタランニハ万一將來日本ガ歐米ニ對シテ經濟若クハ軍事的ニ輪贏ヲ決セントスルコトアルモ恐ルルニ足ラザルベシ

徒ニ無責任ニシテ權力ナク政權ニ屈シツツ而カモ言論ニ巧ナル所謂支那人ノ言論ヲ標準トスル受働的行為ハ頗ル危險ニシテ幾多失敗ノ歴史ヲ繰返セシハ日支兩國ヲ通シテ然リ、第一次革命以來吾人ハ實ニ數回苦キ經驗ヲ嘗メタリ故ニ曰ク苟クモ迅速ナル支那ノ統一ヲ望マバ南北政争ノ如キハ一時全ク度外視シテ之ニ触ルルコトナク軍事協定成立後速ニ支那政府ノ為スベキ參戰ノ準備タル国防軍教師團ノ編成ヲ援助シ支那ノ内外ニ對スル実力ヲ増サシムルト同時ニ合法的施設ヲ決行セシムルノ外ナシト其所謂南北妥協ノ必要モ此意味ニ於テ勸告セラルルナランニハ北洋派ヲ包容シ得ベク日本ノ權威支那ニ加ハリテ遂ニ支那統一ノ鍵ヲ握リ得ベシト信ズ

右ハ林公使ト齋藤少將トニ示シタルニ全ク同感ノ趣ニテ特

ニ至急発送ヲ希望セラレタリ

二十七日東京発共同通信電報ハ南方連合政府組織案ガ日本ニテ唐紹儀張繼等ト頭山寺尾博士等トノ間ニ略々成立セリト伝ヘタリ

一一 五月一日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

段祺瑞南方ノ征圧及平和的解決ノ両手段ヲ用

フル意向ナル旨談話ノ件

第六一三号

四月三十日日本使段総理ヲ往訪シ今回南方出張ノ状況ニ付尋ネタル処段ハ漢口ニ於テ王占元、曹錕、張懷芝、吳光新等ト会合西南ニ対スル方針ニ関シ協議ヲ遂ケタル結果湖南広東ヲ先ツ北軍ノ手ニ回收スルコトヲ決議シ而シテ広東方面ハ北軍カ韶州ニ到着スルヲ待チ李耀漢及李福林等ヲシテ内応セシムル計画ナリ又李厚基、童保暄ヲシテ厦門ヨリ漸次潮州汕頭ヲ略取セシメンコトヲ期ス四川方面ハ広東ノ完全ニ我手ニ入ルヲ待チテ漸次統一ヲ計ラントス如上湖南広東方面ノ方略ヲ遂行スルニハ約二ヶ月位ニテ目的ヲ達スルヲ得可シト考ヘ居リシ処最近第二路左翼ニ蹉跌アリ攸県茶陵

ヲ南軍ニ奪回サレンヲ爲予定ノ計画ニ多少頓挫ヲ来シ是カ回復ヲ急カンカ爲メ徐樹錚ヲシテ奉天軍ノ一部ヲ提ケ長沙ヘ急行セシメタリ又九江ニテハ陳光遠ト会见シ南京ニ於テハ李純、盧永祥、倪嗣冲、王廷楨、齊燮元トモ打合ヲ爲シ諸事好都合ニ進行シ得ル見込ナリト答ヘタリ本使ハ西南地方カ武力抵抗ヲ止メサル限り或程度迄南方ヲ圧迫スルコト已ムヲ得サル所ナルモ同時ニ王芝祥、岑春煊等ヲ利用シテ西南各省ヲ説得シ可成平和的手段ニ依リ速ニ統一ヲ実現セシムルコトモ亦一策ナラスヤト述ヘタルニ段ハ自分ニ於テモ同感ニシテ南方出張前將軍府參軍林葆懌ヨリ面会ヲ申出タルカ同人ハ元陸榮廷ト久シク事ヲ共ニシ陸ト極メテ懇意ナル關係アルヲ以テ多分何等妥協談ヲ持掛クルニアラスヤト推測サルル節アリシニ付不取敢錢能訓ヲシテ会见セシメタル処果シテ想像ノ通り林ハ陸カ平和的解決ヲ希望シ居ルトノ意味ヲ洩シ且自分ニ直接会见ヲ懇望シ来リタルヲ以テ之ヲ快諾シタルニ偶々陸榮廷死去ノ風説アリシ際ナリシ故何等具体的ニ話ヲ進ムルニ至ラスシテ自分ハ南下ノ途ニ就キタリ尤モ其際湖南ヨリ広西軍全部ヲ撤退セシムルトキハ陸榮廷ハ依然広西ノ督軍タラシムヘク而シテ北軍ハ決シテ広寺内総理大臣ヨリトシテ阪谷男ニ至急左ノ通傳達アリタシ（但貴地ニ立寄ラサルカ又ハ已ニ通過後ナラハ在上海有吉総領事ニ転電セヨ）

四月二十九日附在漢口瀨川総領事經由貴電拝誦然ルニ此際南北和解ニ付力説セラルルコトハ差控ヘラルル様致度將又閣下ハ単ニ支那御遊歴中ニシテ支那政府顧問ノ件モ未タ決定セサル次第ナレハ一般支那統治ノ問題乃至外交問題ニ触ルル如キ事項ニハ論及ヲ避ケラルルコトヲ希望ス爲念右併セテ申進ス尚此際一ト先ツ切上ケ御帰朝相成ル御含ニテ進退セラレタシ

一三 五月六日 在上海松井中佐ヨリ
田中參謀次長宛（電報）

孫文ヨリ渡日ノ意向申出アリタルニ付請訓ノ

件

上海電六十

孫文ヨリ今回広東ヲ去ル機會ヲ得タルニ付要スレハ日本ニ行カントノ希望ヲ申シ来レリ小官ハ兎ニ角之ヲ日本ニ拉致スルコト有利ナリト考フ犬養等ヲシテ招致セシムルモ可ナ

西ヲ侵ササルヘシ但シ広東ハ中央ノ節制ニ服セシムヘシト

ノ意ヲ申聞ケ置キタルカ之ニ対シ未タ陸榮廷ヨリ何等ノ接拶ニ接セス又過日岑春煊ノ代表章士釗カ来訪シタル際は亦切リニ時局ノ平和的解決ヲ説ク所アリシニ付自分ハ平和的解決ハ最モ希望スル所然シ地方ハ中央ノ合理的命令ニ服從セサルヘカラス然ラサレハ國家ノ体裁ヲ為サストノ趣旨ヲ説明シ且前述ノ通陸榮廷ノ地位ヲ保証シ唐繼堯モ雲貴巡閱使兼雲南督軍ノ地位ヲ与ヘテ充分其面目ヲ立テシメ以テ時局ヲ平和的ニ解決セント欲スルノ意アルコトヲ篤ト申聞ケタル処章モ同意ヲ表シタリ斯ノ如ク自分トモ決シテ武力一方ニテ時局ヲ收拾セントスル次第ニアラス出来得ヘクンハ平和的方法ニテ解決セント腐心シ居ル所ナリ此点ハ日本政府ニ於テモ諒トセラレンコトヲ希望スト答ヘタリ

一二 五月二日 後藤外務大臣ヨリ
在南京高尾領事宛（電報）

阪谷男ニ対シ中国遊歴中ニ中国南北和解ヲ力

説スルコトヲ差控フル様寺内首相ヨリ電報ノ

件

第三号

一 中国南北調停一件 一二 一三

リ、唐紹儀等トモ御相談ノ上何分ノ指示ヲ乞フ

一四 五月十五日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日本政府ガ中国政府ニ対シ南北妥協ノ勸告ヲ

為サザル様曹汝霖ヨリ要請ノ件

支極秘第二六五号

(五月十七日參謀本部ヨリ接受)

昨夜曹汝霖本職ニ内密ニ依頼セシ言左ノ如シ外間伝フル所ニ依レハ日本ハ最近ニ於テ南北妥協ニ就キ支那政府ニ勸告スル所アラントスト右ハ事実ナリヤ若シ之ヲ提議セラルルニ於テハ段内閣ハ到底之ヲ実行スルコト能ハス為メ内閣ハ辭職シ再ヒ紛乱ニ陥ルノ外ナシ冀クハ貴官(本職)ヨリ是非事情ヲ内々ニ貴政府ニ伝ヘラレ万一ニモ之カ提議ナキ様致度シト 本職ハ之ニ対シ断シテ斯卡ルコトナカルヘク安意セラルヘント告ケ置キタリ

四月十九日極秘第二一九号及四月二十九日坂特電第四六号ノ通り此際支那政府ニ妥協ヲ勸告セハ曹汝霖ノ云フ如ク段内閣ハ倒レ再ヒ混乱ヲ繰返スニ至ルヘキコト必然ナレハ此処兩三ヶ月形勢ヲ觀望シタル上更ニ状況ニ依リ適當ノ方法ヲ講セラレ度而シテ其場合ニ於テ重要ナル利権ハ収メラル

大阪商船会社汽船蘇州丸ニテ台灣ヲ經日本ニ向フ
此件ハ孫文ノ依頼ニヨリ極秘トセラレ度

一七 五月十七日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日本政府ガ中国政府ニ対シ中国南北妥協勸告

ヲ為サザル様徐樹錚ヨリ要請ノ件

支極秘第二六六号

(五月二十二日參謀本部ヨリ接受)

徐樹錚ハ支極秘二六五号曹汝霖ノ言ト同様日本政府カ南北妥協ニ就キ支那政府ニ勸告スル所アラントシ今ヤ首相及ヒ外相モ此意見ニ傾キツツアリ右ハ東京公使館ニ關係アル某支那人ヨリ報告アリタリトテ之ヲ憂慮シ万一ニモ斯ル勸告ヲ受クルニ付テハ段内閣ハ倒レ先ニ經驗セシヨリヨリ以上ノ混乱不統一ニ陥ルヘケレハ日本政府ニ於テ其辺ヲ考慮セラレ万一此ノ如キ計畫アレハ思ヒ留マラレ度其内広東方面ノ始末モナシ得ル考ヘニテ段總理トシテハ日本ニ対シ終始變ル所ナク益親善ノ実ヲ挙げ度考ヘナル旨ヲ述ヘ此意ヲ本職ヨリ日本ニ通センコトヲ希望セリ本職ハ之ニ対シ曹ニ述ヘタルト同様ノ答ヲナシ尚南方討伐ノ遅々タルコト段及ヒ其幕僚ノ焦慮セルニ拘ラス討伐各指揮官及部下軍隊ノ意向

一 中国南北調停一件 一七 一八

ルヲ得策ト思考ス

一五 五月十五日

在上海松井中佐ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

渡日引止メ運動アルモ孫文ノ渡日意思ニ変化

ナキ旨報告ノ件

(五月十七日參謀本部ヨリ接受)

貴電孫文ニ伝ヘタリ

目下広東上海等ノ過激民党派ハ西南軍人派ノ軟化ヲ防ク為飽ク迄孫ノ再任ヲ希望セルモ孫自身現下ノ政治的立場ヲ離レテ日本ニ漫遊センコトヲ望ミ内心之ニ決定シアリ大元帥辭職ノ後始末著次第出發スヘキ旨小官ヨリ閣下ニ伝ヘ置カレ度旨依田ヲ經テ依頼シ来レリ犬養位ヨリ重ネテ渡東ヲ勸告セシメラレテハ如何委細書面

一六 五月十七日

在広東依田大尉ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

孫文五月二十日広東発日本ニ向フ旨報告ノ件

広東電第四十七号

(五月十八日參謀本部ヨリ接受)

孫文ハ聯合軍政府組織大綱ノ發表ヲ機トシ病氣療養ノ名義ニテ広東ヲ去リ日本ニ漫遊スルニ決セリ来ル二十日広東発

カ必スシモ政府ノ意向ト一致セサルコトヲ指摘シ武力討伐敢テ不可ナラサレ共其實行意ノ如クナラスシテ余リ遅延セハ日本政客ノ一部ニ於テ支那全般ノ幸福利益ヲ増進スルノ見地ヨリ何トカシテ南北ヲ妥協セシメ統一ノ実ヲ挙げシムルヲ可トスルノ意見漸次拡張スルニ至ルナラント察スルニ依リ成ルヘク速ニ統一ノ実ヲ挙げクルヲ希望スト告ケ置キタリ目下滯在中ノ楠瀬中將去ル十四日段總理ニ面会ノ際段ハ只今仏国公使来リ李耀漢、李福林、陳炯明、魏邦平、連名ニテ広東ハ広東人ニテ統治セシメハ北京政府ノ命令ニ服従スヘキ旨ヲ在広東仏国領事ヨリ北京政府ニ傳達セン事ヲ依頼セルニヨリ伝達スト言ヘルトノ談話アリシニヨリ其後之ニ関スル段及其幕僚等ノ觀察ヲ探查スルニ右ハ全ク北京政府ヲシテ討南計畫ヲ緩メシメントノ策略ニシテ誠意ヨリ出ツルモノニアラスト諸情報ニヨリ判断シアリ

一八 五月十八日

海軍軍令部ヨリ
外務省宛

孫文二十日広東発日本ニ向フ旨ノ広東電報ヲ

送付ノ件

海謀支報第七二四号

大正七年五月十八日 海軍軍令部

広東電報(五月十六日発)

孫文ハ軍政府改組案通過ノ結果全ク行詰リノ態ニテ広東ヲ立チ去ラサルヘカラサル羽目ト為リ日本行ヲ希望シ且ツ張開儒事件ニモ何等カ関係アルヤノ疑ヲ受ケ居ル等ノ事情ニテ愈々二十日蘇州丸便ニテ当地発台湾經由日本ニ向フコトニ決定セル由隨行者ハ戴天仇、葉夏声、鄭魯、朱執信、居正ノ数名ナル由(終)

一九 五月二十日 在広東太田総領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

孫文五月二十一日広東出發日本ニ向フコトト

ナレル事情報告ノ件

第七一号

穩健ナル国会議員ヨリ見放サレ督軍側ヨリ圧迫セラレシ結果孫文ハ当地ニ居タマラス遂ニ秘密ニ二十一日蘇州丸ニテ当地ヲ去ルコトトナリタル由ナルカ其日本ニ赴クコトトナリシハ曩ニ五月四日非常會議ニ於テ軍政府改組案ヲ議決セシ際孫ハ既ニ広東ヲ去ルコトニ決シタルモノノ如ク当地駐在武官依田大尉ニ対シ日本ニ行ク意思アル旨ヲ暗ニ仄メカ

他方は等南方首領ヲ説得セル筈ナリト

二一 五月二十八日 後藤外務大臣ヨリ
在厦門矢田部領事宛(電報)

刑事被告人護送ノ巡查ヲシテ蘇州丸ニテ孫一行ノ保護ニ当ラシムルハ差支ナキ旨回訓ノ件

第一五号

貴電第三〇号ニ関シ

刑事被告人護送ノ為巡查二名基隆へ出張ノ序ヲ以テ傍ヲ孫一行ノ保護ニ当ルコトハ差支ナシ
汕頭へ転電アリタシ

二二 六月四日 後藤外務大臣ヨリ
在汕頭田中領事館事務代理宛(電報)

蘇州丸ニテ渡台ノ孫文保護ノ為特ニ巡查ヲ汕頭ヨリ厦門迄同船セシムルハ見合スベキ旨回訓ノ件

第六号

貴電第三五号ニ関シ

御承知ノ通り厦門ノ場合ハ犯人護送ノ為基隆へ出張スヘキ

一 中国南北調停一件 二一 二二 二三 二四

シタル由ニテ依田大尉ヨリ田中參謀次長ニ其旨電報シタル処日本ニ於テ政治的活動サヘセサレハ来ルコトハ差支ナシト返電アリ後上海松井中佐ヨリ日本行ヲ勧告スヘキ旨来電アリタル由ニテ依田大尉ヨリ孫ニ日本行ヲ勧メシ結果孫モ愈々決心セシモノニシテ只孫ハ香港上陸ヲ禁止セラレ居ル為当地ヨリ蘇州丸ニテ香港ニ上陸セス台湾ニ赴クコトトセルモノナリト、在支公使へ電報セリ

二〇 五月二十日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

日本政府ニ中国南北妥協勧告ノ意思無キ旨在
本邦章公使ヨリ電報アリ中国政府ハ安心セル

旨ノ曹汝霖談話報告ノ件

支極秘第二百七十号

(五月二十二日參謀本部ヨリ接受)

昨十九日曹汝霖ノ言

章公使ヨリ十八日後藤外相ハ章公使ニ日本政府ハ南北妥協ニ就キ支那政府ニ勧告スルノ意志ヲ有セスト告ケタル旨ノ電報到達シ是カ為政府ハ大ニ安心セリ広東ニ於ケル六人ノ首領等カ仏国領事ヲ經テ北京政府ニ妥協ヲ請フノ外南方海軍中ニモ同様ノ意志アリ政府ハ一方討伐ヲ寬メサルト共ニ

巡查カ傍ヲ同船中ノ孫一行ヲ保護スルコトハ差支ナキ旨電訓シタル次第ナル処貴館ニ於テ右同様ノ事情ノ下ニ巡查ヲ派遣セラルルコトハ差支ナキモ孫一行ノ為ニ特ニ出張セシメントセラルル趣旨ナラハ見合ハサルル様致シタシ
広東、厦門へ転電アリタシ

二三 六月五日 在汕頭田中領事館事務代理ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

孫文一行天草丸ニテ厦門經由日本向ケ汕頭出發報告ノ件

第三八号

本官發厦門領事宛電報

孫逸仙一行今朝入港セル天草丸ニテ今夕出發ノ事ニ決定準備ヲ了セリ船内ハ安全ノ処置ヲ為ス様船長ト十分協議シ当館ヨリハ巡查ヲ同船セシメサルニ付右御含ノ上同船貴地著ノ際何分ノ御手配アリタシ(五日)

外務大臣へ転電セリ

二四 六月十二日 清野兵庫縣知事ヨリ
後藤外務大臣宛

孫文一行ノ兵庫縣通過及孫等ノ来日目的等ニ

関スル談話等報告ノ件

兵外発秘第九一七号

(六月十五日接受)

大正七年六月十二日

兵庫県知事 清野長太郎(印)

内務大臣法学博士

水野鍊太郎殿

外務大臣男爵

後藤 新平殿

警視總監

岡田 文次殿

台湾総督府警視総長

殿

神奈川、大阪、岡山、山口府県知事殿

孫逸仙一行来朝ニ関スル件

孫逸仙 当五十一年

胡漢民 当四十年

戴天仇 当三十三年

阿祥 当二十五年

孫逸仙一行本月七日信濃丸ニテ台湾出發当地ニ向ヒタル旨
台湾総督府警視(貴)総長ノ電報ニ依リ注意中ノ処更ニ同
月十日夜一行下関発特急列車ニテ箱根ニ向フ筈ノ処同人ニ
對シテハ危害ヲ加ヘントスル虞アルニ付列車当地着ノ際ハ
厳重注意ヲナスト共ニ若シ保護警察官山口県ノモノニアラ

スシテ通次引継キ居レハ特ニ本県警察官ヲシテ行先地迄附
添ハシメ身辺保護方手配スヘキ旨警保局長ヨリ電報ニ接シ
タルヲ以テ之カ準備ヲナシ注意中ノ処昨十一日午前六時二
十八分姫路駅着列車ニテ岡山(貴)県ヨリ保護方引継ヲ受
ケタリ

而シテ一行ハ門司迄出迎ヘタル宮崎寅藏、菊地良一ト共ニ
同七時三十一分神戸駅着神戸商業會議所副会頭本多一太
郎、日支実業協會幹事草鹿甲子太郎、当地在留支那人有力
者鄭祝三、楊寿彭等ノ出迎ヲ受ケ同七時四十分何等異状ナ
ク同駅発箱根ニ向ヒタルヲ以テ本県警察官二名附添ハシメ
国府津駅迄同乗セシムル事トシ此旨警保局長並ニ神奈川県
ヘハ電報シ大阪府ヘハ電話セリ

尚前記「楊寿彭」(革命党当地支部長ニシテ孫ト密接ナル
關係アルモノ)ハ神戸駅ヨリ同乘大阪駅迄送りタルカ車
中ニ於テ孫ト親シク交談シタル趣ニテ「孫」並ニ「戴」等
カ「楊」ニ對シ漏シタル処ヲ探聞スルニ

一、来朝ノ動機並ニ目的ニ関シテ曰ク

今回ノ渡来ハ約三ヶ月本邦ニ滞在スル予定ニテ渡米スル
ヤ否ヤハ未定ナルモ来朝ノ目的ハ勿論政治上ノ意味ヲ含

一、「孫」ノ現境遇並ニ南方政界ノ現状ニ関シ曰ク

過日迄大元帥ノ地位ヲ有シ南方政界ノ為専心努力シタル
モ其命令行ハレス往々ニシテ自己ノ期待ニ反セル結果ヲ
生シ遂ニ之カ地位ヲ維持シ得サル運命ニ至リ職ヲ辞シタ
ルハ実ニ残念ナリ政界ノ人トナリテ以来数十年間ノ苦心
慘憺モ今ヤ將ニ水泡に帰セムトシ深ク思ヘハ前途ヲ悲觀
セサルヲ得ス然リト雖モ一度志ヲ政治ニ注キタル以上ハ
死スル迄奮闘スル覚悟ナリ云々

南方政界ノ現状ハ実ニ悲惨ナルモノニシテ各省夫々意見
ヲ異ニシ婦一スル処ナク各々自己ノ慾望ヲ満足センコト
ノミ汲々トシ從ツテ逐日其ノ内容貧弱ニナリツツアルハ
憂慮スヘキコトナリトテ歎声ヲ漏シ次テ政務總裁當選ニ
對スル就任ノ点ニ関シテハ之ヲ承諾スヘキ意嚮ヲ有シ居
ルモノノ如キモ未タ何人モ承諾シ居ラサルヲ以テ他ノ就
任ヲ見タル上ニ於テ最後ニ之ヲ承諾スヘキ考ナルカ之等
ニ関シテハ来朝中ノ「唐紹儀」トモ擬議スヘシト云フ
一、更ニ南北妥協ノ能否ニ関シ曰ク

南北妥協ヲ為シ挙国一致ノ可ナルハ今更言フ迄モナキト
コロニシテ素ヨリ之ニ反対スルモノニアラサルモ段内閣

云フ

ハ自己ニ有利ナル条件ノ貫徹ニ汲々トセル外、国家的觀念皆無ナルヲ以テ之カ妥協ハ言フヘクシテ実現ハ至難ナリ故ニ今日ニ於テハ西南聯合政府ハ結束シテ実力ヲ養フコト急務ナルモ之レ亦至難ノ業ニ属ス此等ノ点ニ関シテハ日本朝野名士ノ援助ニ俟ツモノ多キヲ信ス云々

一、日本官憲ニ対スル感情ニ関シテハ頗ル好感ヲ有セルカ如ク広東出發後ニ於ケル本邦官憲ノ接遇ニ対スル所感ヲ述ヘテ曰ク

福建省廈門ハ南方ノ位置ニ在リト雖モ段内閣ノ実力配下ニアルモノ多ク從ツテ同地通過ノ際ハ内心憂惧シ居リタルカ同地駐在日本官憲ノ厚意ニヨリ無事通過スルコトヲ得タリ又台湾基隆港ニ於テ信濃丸ニ転乗ノ際自分等ヲ便乗セシメムカ為同地官憲ノ配意ニヨリ約二時間出帆ヲ延期シ以テ同船ニ便乗シ得タルノミナラス門司着以來鐵路沿道ニ於テモ保護便宜ヲ与ヘラレ居ル様認メラレ衷心感謝シ居レリ

一、尚孫、陸間ノ關係ニツキ「戴」ハ曰ク

孫ト陸榮廷トハ未タ親シク会谈シタルコトナシト云フヲ得ヘク從テ真ニ意見合致セサルヤ否ヤハ忖度スルヲ得ス

ト雖モ恐ラクハ真ニ意見ノ相反セルカ如キコトナキモノト思考セラル而モ兩者ノ意思疏通セサル原因ハ孫、陸、兩者其ノモノニアラスシテ之カ下僚ニ在リ自分ノ見ル処ニ依レハ陸ノ下僚ニ比シ孫ノ下僚ハ政治的智識経験優越セルカ故ニ兩者接近シ協同政治ヲ行フニ於テハ極要ナル地位ヲ我下僚ニ奪ハルルナキヤヲ憂慮セル陸ノ下僚ニヨリ兩者ノ疎隔ヲ来シ居ルモノナリ

尚過般広東ニ於テ段派ノ間者ニヨリ第一革命當時ヨリ孫ト兄弟ノ契ヲ結ヒ居リ広東軍政府海軍總長ノ職ニ在リタル「程璧光」暗殺セラレタル為孫ハ之カ喪ニ服シ居レリ云々

一、一行ノ来朝ニ関シ当地在留支那人中南方派ニ属スル有力者王敬祥、鄭祝三、何世錫等ノ意嚮ヲ綜合スルニ何レモ孫ノ広東ニ於ケル勢力ノ減退ニ同情シ居レリ又来朝ノ目的ハ日本朝野名士ノ声援ヲ得テ再挙ヲ目論見居ルナラムモ之カ成功ハ覺束ナシ云々ノ口吻ヲ漏セルニ過キス

又北方派ニ属スル有力者馬聘三ハ沈黙シテ何等ノ意見ヲ吐露セサルカ同派ニ属スル王文達ハ曰ク

クコトナリタルハ何等理由アルコトト存セラルルニ付其内情同人貴地着後ノ行動ト共ニ御内查相成隨時当方及北京ニ電報アリタシ

右為参考北京広東ニ転電アリタシ

二六 八月二十八日 在英國珍田大使ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

中国南北間ノ内乱ハ聯合各国ノ何等力ノ介入無クシテ解決不可能ナル旨タイムス特派員ノ

通信報告ノ件

第六五七号

八月二十一日上海発支那時局ニ関スル「タイムス」特派員通信要領左ノ通

二五 六月十九日 後藤外務大臣ヨリ 在上海有吉總領事宛(電報)

孫文、戴天仇ト共ニ上海ニ渡航スルニ付其目的、著後ノ行動等査報方訓令ノ件

第四八号

過般来箱根滞在中ナリシ孫文ハ胡漢民ノミヲ日本ニ残シ戴天仇帶同二十三日神戸発ノ近江丸ニテ貴地ニ向フコトトナリタル趣ナル処其ノ用向ハ不明ナルモ同人力急ニ貴地ニ赴

リ成り段派ノ走狗ニ過キズトシテ非難セラレ居レリ伍廷芳ガ南方軍政府ノ為メニ列国ニ訴ヘタル宣言書ハ極メテ注意スヘキモノニシテ該宣言ニハ昨年北方軍閥ニ依リ改選セラレタル旧国会議員広東ニ集マリ既ニ兩院共定數ニ達セル事及旧国会恢復ノ目的ヲ達スル迄ハ講和セザルコトヲ声明シタルガ該宣言ハ南方及西南方兩派ノ共同ニ依リ岑春煊以下七人ノ政務總裁ガ署名シタル為メ重要視セラレ且從來互ニ兵力ヲ擁シテ下ラザリシ陸榮廷及唐繼堯ノ兩人ガ握手協同シ之ニ孤立ヲ伝ヘラレタル孫逸仙ヲ加ヘ首鼠兩端定マラザリシ揚子江沿岸及四川ガ實際上南方ニ同情ヲ表スルニ至ル以上北方派ガ之ヲ討伐セント欲スルモ蓋シ不可能ノ事ナリ此際ノ問題ハ聯合各国ガ其在支公使ヲシテ調停ヲ申込マシムルヤ否ヤニアリ聯合國ハ南方政府ヲ承認スル訳ニ行カザルハ明瞭ノ義ナルガ此際須ラク此上無益ノ内乱繼續ハ列国ノ看過シ得サル所ナル旨北京政府ニ対シ剴切ナル「ヒント」ヲ与ヘザルベカラズ支那新聞紙ハ湖南ノ第三師長吳佩孚ガ南北調停ニ李純ノ協力ヲ求メタル事ヲ重要視シ居レドモ斯ノ如キ運動ハ從來モ屢々繰返ヘサレタル所ニシテ外部ヨリ何等カノ援助ヲ与フルニアラズンバ遂ニ内乱平定ヲ見

英国公使來談ノ際同公使ハ南北妥協斡旋ノ方法若クハ南北双方ヲ納得セシメ得ル妥協条件等ニ関シ何等談及スルトコロナカリシ次第ナリヤ若シ其ノ辺ニ付英国公使ニ於テ何等言及セル廉アラハ電報アリ度シ又右ノ際何等言及スル所ナカリシニ於テハ適當ノ機會ニ於テ質問ケ間敷態度ヲ避ケ全然貴官一己ノ思付トシテ夫トナク前記諸点ニ対スル英国公使ノ意嚮ヲ探リ回電アリ度シ

二九 九月十四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

在中国英国公使ノ中国南北妥協斡旋方法及妥協条件ニ関スル意向探査方ノ件

第一二二七号

貴電第七七九号ニ関シ

英国公使ハ単ニ南北紛争ノ為通商貿易ノ蒙ル損害ノ甚大ナルコトヲ指摘シタル後既報ノ如キ談ヲ為シタルノミニテ斡旋方法、妥協条件ニ論及スル所ナカリシ次第ナルガ同公使ノ胸中ニハ尚右ノ如キ細目ニ関シ別段ノ成案ナキヤ計リ難キモ兎ニ角仮令其個人的意見ニセヨ同公使ヨリ進ンデ日本ヲ主トセル列国ノ斡旋云々ノ言説ヲ為シタルハ本官ニ於テ

ルヲ得ヘカラザルナリ

二七 九月十日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

中国ノ内争ハ日本ヲ主トスル列国ノ斡旋無クシテハ鎮定シ難キ旨在中國英国公使談話ノ件

第一二一六号極秘

九月十日英国公使來訪ノ際談支那現下ノ政局ニ及ヒ同公使ハ大統領ノ更迭アルニセヨ支那人ノミニテハ到底其内争ヲ治ムルコト困難ナルヘク結局日本ヲ主トセル(Japan taking the lead)列国ノ斡旋ヲ俟タサルヘカラサル旨述ヘタル処右ハ多分同公使一己ノ私見ナルヘキモ此際特ニ我方ニ執リテハ大ニ参考トナルヘクト存ス

二八 九月十三日 後藤外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

列国ノ中国南北妥協斡旋ニ付其方法、妥協条件ニ関スル在中國英国公使ノ意向探査方訓令

ノ件

第七七九号

貴電第一二一六号ニ関シ

頗ル貴重ト認メタルニ付直ニ斡旋方法乃至妥協条件ノ如キ細目ニ迄切込ミテ之ガタメ我方ノ心裡ニ疑ヲ挾マシムルガ如キコト有リテハ取返シ付カザルコトナルベキニ依リ右ハ態ト後日ノ機會ヲ待ツコトトシタル次第ナルガ幸ヒ御訓示モ有之其中同公使ニ面会ノ上(同公使ハ田舎ニ赴キ三四日不在ナリ)御指図通り意嚮ヲ探リ結果電票スベシ(十四日)

三〇 九月十五日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

上海及南京ニ於ケル孫逸仙等民黨側及宗社黨側其他要人ノ時局觀ニ付高尾總領事ヨリ報告

ノ件

第七八号

高尾總領事ヨリ左ノ通

本官上海來著後有吉トモ協議ノ上孫逸仙、孫洪伊、張繼、戴天仇、汪兆銘、張耀曾等ノ民黨側及姚文藻、鄭孝胥、李經邁等ノ宗社黨人物トモ親シク往来シ忌憚ナキ彼等ノ意嚮ヲ聴取セル結果ヲ綜合スルニ民黨側ニ在リテハ徐世昌ノ當選ハ時局ヲ益々紛糾スルノ外更ニ何等ノ効果無ク南方軍政

府ガ是ヲ承認セザルベキハ勿論更ニ進ンデ對抗策ヲ講ズルニ至ルベク要スルニ北方政府ニシテ旧国会ヲ承認セザル限リ解決ハ断ジテ不可能ナリト云フニ在リ然ラバ旧国会ニシテ復セバ直チニ統一ノ実ヲ挙げ得ベキヤト云フニ更ニ何等ノ定見無ク孫逸仙ノ如キハ口ヲ極メテ南方ノ不統一ヲ罵リ親米主義ノ不可ヲ論ジ寧ロ此際徐世昌ヲシテ復辟ヲ断行セシメ然シテ後真ノ共和ヲ求ムルニ如カズト為セリ

各国ニ要求セル軍政府承認問題ニ至リテハ宣言書ヲ起草セリト云フ戴天仇ノ説ク所ニ依レバ承認ヲ求ムルコトガ主タル目的ニ非ズシテ之ニ依リ各国ヲシテ蔽正中立ノ態度ニ出デシメ北方政府ニ軍器及資金ノ供給ヲ杜絶セシメ時局ノ解決ヲ迅速ナラシメ度シト云フニ在リテ承認(脱)列国干涉ノ危険ノ如キハ最早ヤ顧ルノ違ナク王正廷ノ米国行モ篤ト右ノ趣旨ヲ説明セントスルニ外ナラズト云ヘリ但シ王ノ米国行ニ付テハ民党側ニモ批難ノ声高ク十日迄ノ情況ニテハ果シテ実行シ得ルヤ否ヤ疑ハシキヤニ認メラレタルモ日本人ニハ絶對ニ面会ヲ避ケ居ルガ為メ真相ヲ突止メ難シ日本ニ對スル民党側ノ感情不良ナルコト実ニ夥シク其主タル動機ハ世上伝フル如ク我政府ノ北京政府ニ對スル軍器ノ

党側モ略ボ同様ノ意見ナルヲ以テ手続サヘ南方ノ希望ヲ參酌シ之ヲ行フニ於テハ時局ノ解決ニ多大ノ効果アルベシト信ゼラル余ノ研究シツツアル解決ノ方法トシテハ先ヅ徐世昌ノ大總統承認ト共ニ段祺瑞ヲ隱退セシメ田文烈等ノ穩健分子ヲシテ一時的過渡内閣ヲ組織セシメ之ニ依リテ南方ノ感情ヲ融和シ次デ新旧両国会共ニ解散シテ新ニ揚子江流域ノ如キ中立地点ニ国会ヲ召集シ正式ニ徐大總統ヲ承認セシメ更ニ進ンデ南北ノ双方ヨリ代表者ヲ特派シテ解決ノ方法ヲ協議スルコトトセバ既ニ軍費ニ窮シ統一ニ苦ミ面目サヘ立タバ速ニ妥協ヲ試ミント焦慮シツツアル南方側ノ現状ニ顧ミ案外容易ニ拾収ノ効ヲ奏シ得ベキカト考ヘ居レリ右ノ意見ハ内密段祺瑞ヘモ申送り同時ニ段ニ向ツテハ此際潔ク隱退スルコト當ニ局面展開ニ有利ナルノミナラズ将来永ク政治家トシテノ運命ヲ保チ得ル所以ヲ勸告シタルニ前者ニ對シテハ確ト賛否ノ答ナキモ後者ニ對シテハ深く感謝スベキ旨ヲ申越セリ果シテ実行シ得ルヤ否ヤ未ダ明カナラザルモ幸ヒ段ニシテ隱退スルトセバ茲ニ現政府ノ主戰政策ハ放棄セラレ愈々南方ト協議ヲ開始スルノ順序トナルベキ処單ニ南方ト云フモ固ヨリ統一セラレタル団体ニ非ズシテ是ヲ

供給借款ノ斡旋ニ在リト云フニ在ルモ他方面ニ於テ探知セル所ニ依レバ先般來日本ハ外交当局以外ノ筋ヨリ唐紹儀及岑春煊等ニ特ニ其ノ日本ニ信頼スベキ旨ヲ以テシ軍器及借款ノ如キ敢テ至難ニ非ザルヤニ慫慂セルガ為メ唐ハ日本ニ行キ岑ハ南方ニ赴キタル次第ナリ然ルニ兩者共ニ結局馬鹿ヲ見タル次第ニテ茲ニ日本人側ノ無節操ヲ恨ミ延テ南方人士全般ニ亘リ甚シク反感ヲ抱クニ至リタルモノナリト云フ右ハ過日唐紹儀ガ本官ニ漏セル不平ト照シ合セ必ズシモ否定シ難キ所ナルベシ

李經邁等宗社党連中ノ説ク所ハ徐世昌ニ依リ復辟ヲ実行セラルルノ時期アルベシトノ夢想ヲ抱クノ外何等纏リタル意見無シ就中姚文藻ノ如キハ清朝ノ為メ盛ニ気焰ヲ吐キ居レドモ老耄語ルニ足ラズ假令復辟ヲ是ナリトスルモ到底彼等ノ手ニ依リ大事ヲ為シ遂ゲ得ベシトモ思ハレズ

上海ノ情況大体叙上ノ通りニ付本官ハ九月十二日当地ニ來リ李純ヲ訪問シ親シク会谈ヲ試ミタル処李ハ徐世昌ノ大總統タルコトハ時局ノ解決ニ多大ノ利益アリテ現ニ岑春煊陸榮廷ノ如キモ選舉ノ手続ニ於テハ之ヲ承認シ難キモ徐世昌ノ大總統タルコトハ最モ歡迎スル所ナリト申越シ其他ノ民

大別セバ岑春煊、陸榮廷、唐繼堯三派分立ノ姿ナレバ其何レヲ相手トスベキヤハ頗ル難問ニシテ北方ニ馮段兩派ノ存スルガ如ク何事モ容易ニ纏ラザルベク或ハ妥協ノ進行ニ連レ南方自身ガ更ニ又分裂ヲ來シ結局拾収シ難キ破目ニ陥ルヤモ知ルベカラズ依テ已ム無クンバ廣東広西湖南ノ三省ニ勢力ヲ有シ常に北方ト氣脈ヲ通ジツツアル陸榮廷ノミヲ相手トシ唐繼堯ノ率ユル雲南貴州四川ノ三省ハ暫ク之ヲ後廻シトスルノ外致方無カルベキカト考ヘ居レリト語リ順序能ク運ババ時局ノ解決ハ最早ヤ遠キニ非ザルベシト云ヘリ次イデ本官ハ李純ニ親近セル二三ノ有力者ヲ歴訪シタルニ何レモ徐世昌ノ大總統タリシコトガ時局ノ解決ニ多大ノ利益アリテ近ク統一ノ実ヲ挙げ得ベシトナシ李ガ徐ノ内命ヲ含ミ目下頻ニ調停ニ尽力シツツアル旨ヲ語リ頗ル得意ノ様子ニ見受ケタリ要スルニ李純ノ態度ハ今後共ニ多大ノ注意ヲ要スベキ義ト存ゼラル不取敢御參考迄

北京ヘ転電セリ

三 九月十六日 後藤外務大臣ヨリ 在英国珍田大使宛(電報)

在中国英国公使ノ中国南北妥協方法ニ関スル

意見探査方在中国芳沢臨時代理公使ニ訓令シ
アル旨通報ノ件

第五一七号

往電第五一〇号ノ(伍)支那南北妥協ニ関スル在支英國公使談話ノ際同公使ハ妥協斡旋ノ方法若ハ妥協条件等ニ関シ何等談及スル所ナカリシヤ若シ之ナカリシニ於テハ一己ノ思付トシテ適當ノ機會ニ夫レトナク英國公使ノ意嚮ヲ探リ回電スル様芳沢代理公使ニ電訓シ置キタル処同代理公使ヨリ英國公使ハ単ニ南北紛争ノ為通商貿易ノ蒙ル損害ノ甚大ナルコトヲ指摘シタル後既報ノ如キ談ヲ為シタルノミナルカ其ノ際直チニ前記諸点ノ如キ細目ニ迄切込ムハ甚タ「デリケート」ノ關係アルニ付態ト後日ノ機會ヲ俟ツコトトシタル次第ナルカ追テ右訓令通り英國公使ノ意嚮ヲ探ルヘキ旨電報アリタリ不取敢御含迄

右各大使ニ転電アリタシ

三二 九月十八日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

中国南北妥協ノ具体的方法ニ付在中国英國公使ノ私見報告ノ件

速ニ国内統一ノ実ヲ挙ケンコトハ素ヨリ本官ニ於テモ衷心ヨリ希望シツアル所ナルカ扨テ翻テ如何ニシテ平和ヲ恢復スヘキヤノ實際問題ヲ考覈スルトキハ忽チ多大ノ困難ヲ感セサルヲ得ス即チ過日貴説ノ如ク此假支那人ノ手ニ放任スルニ於テハ何時迄モ到底円満ナル解決ヲ期待シ難ク勢ヒ外国側ヨリノ斡旋ニ待タサルヘカラサルヘキモ右斡旋ノ方法並斡旋ヲ為スニ際シテ南北両者ヲシテ妥協セシムヘキ条件等ニ就テハ頗ル熟慮ヲ要スル儀ト思考セラルル処貴公使ニ於テ右方法及条件等ニ関シ何等御考案ノ次第モアラハ此際御差支ナキ限り拝聴スルコトヲ得ハ欣幸ナル旨内談シタルニ同公使ハ斡旋ノ方法及南北両者ニ満足ナル妥協条件ヲ得ルコトノ極メテ困難ナルコトニ就テハ全然同感ニシテ右等ニ就テハ今日迄本國政府ト何等往復ヲ重ネシコトナキ旨前提セル上唯自分一己ノ私見ニ依レハ斡旋ノ方法トシテハ例ヘハ広東ニ於ケル海關收入問題ノ如キ發生セル機會ヲ捕ヘ日本ヲ始メ英米仏伊共同シテ南北双方ニ対スル無益ノ紛争停止方提議スルコトトスルモ一策ナルヘク將又妥協ノ条件トシテハ(一)徐世昌ハ頗ル穩健ナル人物ナルガ故徐ノ人物ニ就テハ南方派ニ於テモ差シタル異存ナキヤニ認メラルル

一 中国南北調停一件 三三

第一二四七号極秘

貴電第七七九号及ビ往電第一二二七号ニ関シ九月十八日英國公使ニ面会ノ上過日貴公使外交總長ニ会見ノ砌南北平和回復問題ニ関シ何等カノ御話有リタル旨新聞紙上ニ伝ヘラレタルガ右ハ果シテ事實ナルベキヤ又若シ事實ナリトセバ御差支ナキ限り右談話ノ内容ヲ承知スルコトヲ得バ幸甚ナル旨述べタル処同公使ハ右ハ事實ニシテ過日外交總長往訪ノ際廣東軍政府ノ海關收入抑留問題ニ言及シタル際支那ガ斯ク内争ヲ繼續スルハ誠ニ痛歎ノ至リニ付速ニ平和統一ヲ計ルコト必要ナルベキ旨ヲモ附言シタルガ当日ノ談話ハ單ニ右ノ通ニ過ギザルモ自分ハ国内平和ノ回復ガ支那刻下ノ急務ナルヲ確信スルモノニシテ久シキニ亘リテ頑迷ナル内争ヲ持續スルガ如キハ一般臣民ノ為メ極メテ不幸事タルハ勿論為ニ外國商人ノ蒙リツツ有ル損失ノ甚大ナルモ亦今更絮説ヲ要セザル次第ニシテ現ニ在上海英國商人ヨリモ累次平和回復ニ対スル希望ヲ自分ニ申出デ自分ヨリモ本國政府ニ支那ノ時局ヲ委細報告ノ上其考量ヲ求メ来レル次第ナルガ前陳自分ノ感想ハ過日モ貴代理公使ニ一言セル通り(往電第一二一六号御参照)ナル旨答ヘタルニ付本官ハ支那カ

ニ付同人ハ大總統ニ就任セシムルト同時ニ副總統ハ是非南方派ノ人物ヲ就任セシムルコト(二)北京新議會並南方旧國會共ニ解散セシメタル上右ノ結果トシテ新ニ選挙法ヲ制定シ以テ全然新ナル國會ヲ組織セシムルコト(三)南北妥協ニ関聯シテ必要ナルハ資金ノ調達ナルガ支那側ニシテ列國ノ斡旋ニ応ズルニ於テハ右資金ノ調達ヲ尽力スルコトハ大体自分差向ノ考案ナル旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ同公使ノ隔意ナキ談話ヲ謝シタル上本官ノ予テ抱持セル卑見ニ因ルモ支那人ノミニテハ到底此紛糾セル時局ヲ收拾スルコト能ハズト思惟シ居ル次第ナルガ適貴公使ノ所見ト大体ニ於テ一致スル所アリタルハ欣快ニ堪ヘザル旨ヲ答ヘタル後本日貴公使ト会谈ノ内容ハ参考ノ為本國政府ニ報告シタキ希望ナルガ別段異存ナカル可キヤト試問シタルニ同公使ハ何等異存ナキ旨ヲ答ヘ自分ニ於テモ簡單ニ本國政府ニ電報ス可キ旨ヲ約シ且右会谈ノ次第ハ互ニ極秘ニ附スルコトニ打合セテ退出セリ(十八日夜)

三三 九月十九日 在英國珍田大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

中国南北間ノ内乱ノ鎮定ニハ聯合國ノ共同仲

二九

裁ヲ要ストノ北京発タイムス特電要領報告ノ

件

第七三九号

北京発九月十一日及十二日附「タイムス」通信要領左ノ通り

有力ナル支那人間ニハ支那内乱ノ調停ハ聯合國ノ力ニ待タルヘカラス聯合國ノ援助ナクンハ内乱ハ尚継続スヘク又行政借款以外ノ借款ハ全部之ヲ中止スヘシトノ論漸ク勢力ヲ加ヘツツアリ外国人ノ利益保護ノ為メニハ軍隊解散ヲ敢行スルノ要アリ軍人政治ノ継続スル限リ強固ナル立憲的政府ヲ樹立スルコト難シ今ヤ内乱其極ニ達シ国ヲ挙ケテ軍人ト匪賊ノ跳梁ニ任セ通商貿易ハ一般ニ阻害セラレ此際ニ看過センカ聯合國又損害ヲ蒙ルニ至ルヘシ軍資ノ供給ナクンハ内乱ハ速ニ中止セラレ強固ナル政府樹立セラレ支那ハ現戦争ニ相当ノ貢獻ヲ為シ得ルニ至ルヘク而シテ軍資ノ供給ハ之ヲ中止セシムルコト極メテ易シ大總統徐世昌ハ各省ノ有力者ニ対シ国難救済ニ助力ヲ求ムル通電ヲ発シタルカ其内ニハ憲法ノ不成立、国庫ノ空乏、全国ニ亘ル内乱ト匪賊ノ横行トヲ述ヘ歐洲大戦後支那ハ列國ノ經濟の競争ノ中心

旋ノ得失等ニ付梁士詒ノ意見問合回電方訓令

ノ件

第八一四号

貴電第一二四七号ニ関シ

右英國公使所見ハ或ハ畢竟梁士詒ヨリ得タル感想ニ基クモノニアラスヤトモ推測セラルルニ付旁々貴官ハ船津ヲシテ至急梁士詒ニ面会ノ上近來頻リニ南北妥協ニ関スル新聞記事ヲ見受クルノミナラス梁士詒自身モ妥協ノ為何等斡旋ノ勞ヲ執リ居ラルルヤノ流説ヲ耳ニシ且徐世昌モ陸榮廷岑春煊等トノ間ニ妥協ニ関シ内々意思ノ疏通ヲ図リ居レルヤノ情報モアリ又北京外交団中ニモ妥協ノ希望ヲ抱キ居レル向モ有之模様ナルニ就テハ徐世昌力愈々大總統就任ノ曉ハ妥協ノ氣運促進セラルヘキ見込ナルヤ又梁自身ニ於テハ如何ナル方法乃至条件ヲ以テセハ妥協ノ目的ヲ達シ得ヘキモノト思考シ居ルヤ將又徐世昌大總統就任ノ結果愈々妥協ノ氣運ヲ促進スルノ見込アリ且妥協ヲ取纏ムルニ恰好ノ方法乃至条件アリトセハ適當ノ機會ニ日本其他列國ニ於テ斡旋助力ノ手段ヲ尽スコト妥協實現ノ上ニ有利ナル効果ヲ齎ラスヘキヤ將又却テ妥協促進ニ有害ナルヘキヤ以上ノ諸点ニ

トナルヘキヲ警告セリ以上ノ通電モ南方ニ対シ北方督軍ヲ中心トスル軍人政治廢棄ノ讓歩ヲ為スニアラスンハ効果ナカルヘシ伍廷芳ハ徐世昌ヲ大總統トシテ擁護スヘク其条件トシテ南北ノ現在国会ヲ共ニ解散シ旧選舉法ニ依リ更ニ新国会ヲ作ルヘシトノ提案ヲ為シタルト告ケタルカ此提案ニシテ成立センニハ調停ノ見込ナキニアラサルモ若シ不成立ノ場合ニハ支那ヲ混亂ノ巷ヨリ救フ為メ聯合國ハ共同仲裁ヲ為スノ必要アリ

支那問題ハ露國ト異リ極メテ簡單ナリ此際聯合國カ適當ナル手段ヲ採用スルコトハ參戰國トシテノ義務ヲ認ムル支那人有識者ノ熱心ニ歡迎スル所ナリ聯合國ハ支那ニ極メテ重要ナル關係ヲ有シ之以上ノ紛争継続ヲ忍フヲ得ス若シ夫レ或方面ニ盛シニ慫慂セラルル如ク某國ヲシテ單獨ニ調停者タラシムルハ更ニ時局ヲ急轉シ益々困難ナラシムルモノナリ之ヲ要スルニ支那ノ現時局ハ聯合國共同シテ調停ヲ為スカ然ラスンハ全然何人モ関与セサルヲ可トス

三四

九月二十一日 後藤外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛（電報）

中国南北妥協ノ可能性其ノ条件妥協ニ列國幹

対スル梁ノ腹藏ナキ所見ヲ船津限リノ参考ノ為メトシテ承知シタキ旨申入レシメラレ其ノ応答振回電アリ度シ

三五

九月二十三日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

中国南北妥協問題ニ関スル梁士詒ノ意見報告

ノ件

第一二六九号

貴電第八一四号ニ関シ九月廿三日船津ヲシテ梁士詒ニ面会セシメ貴電ノ趣旨ニ依リ一々質問セシメタル処梁ハ今春歸京ノ際一寸英國公使ニ会見シ時局ニ談及シタルコトアルモ今回廣東ヨリ歸京ノ後ハ未タ一回モ会見セス從テ南北妥協問題ニ関シ同公使ト意見ヲ交換シタルコトナシ徐世昌ハ目下陸榮廷岑春煊等トノ間ニ時局解決ニ関スル意見ヲ交換セント試ミツツアルカ何レモ間接ノ方法ニ依リ就中交通系ノ人物ヲ介シテ行ヒツツアルモ今日迄ノ所何等進捗シ居ラス実ハ自分モ徐ト両三回会見シタルモ僅ニ西南ノ情形ヲ詳細報告シタルニ止マリ未タ解決ノ方法等ニ関シテ意見ヲ闢ハスノ暇ナカリシ但シ徐ハ南北問題解決ノ第一方法トシテハ先ツ陸榮廷唐繼堯ト交渉ヲ開始スル意向ヲ有シ既ニ之ニ関

シ交通系ノ内ヨリ特使ヲ選派スルコトニ内定シ居レリ(之ハ極秘ナリト特ニ附言セリ)徐ノ方針ハ目下ノ所平和的解決ニアリ隨テ極力之ヲ促進スルニ努ムヘキモ今日迄ノ所未タ具体的便法ヲ表示セス時局解決条件トシテ南方人士ヨリ種々ノ提議アル模様ナルカ副總統ノ地位西南軍費ノ支出西南甘肅地方官ノ配置等ニ関スル事實問題ハ何トカ相談ノ余地アルヘキモ法律問題即チ新旧国会ノ処分ハ頗ル難物ナルカ如シ新旧国会共ニ解散スルコトヲ以テ南北妥協ノ主要条件ナリト説クモノアルモ新国会解散ハ北方督軍連ノ断シテ承認セサル所若シ無理ニ遂行セントセハ却テ時局ヲ一層紛糾スルコトナルヘク此点ハ徐總統ト雖モ如何トモスル能ハサルヘシ於是自分ハ深思熟考ノ結果新国会ハ憲法ヲ制定スル迄此保存続スルコトトシ一面南方政客ヲ満足セシムル為ニ各省選出議員ノ定員ヲ増加シテ南方派議員ヲ選出セシムルコトトセハ国会問題モ或ハ其解決困難ナラサルヘシト思料ス又南北ノ妥協ヲ取纏ムルニハ今少シク支那自ラ種々ノ方法ヲ研究シ其促進ヲ努力シタル後尚成効ノ見込ナキ際ニハ兎モ角今日直ニ日本其他列国ノ斡旋助力ヲ依頼スルハ未タ其時機ニアラサルカ如シト存ス何レニシテモ時局解決

ノ具体的方法ニ関シテハ其内徐總統ト十分意見ヲ交換シタル上差支ナキ限リ内報ニ及フヘシト述ヘ梁ハ平和的解決ニ對シ大ニ望ミヲ囑シ且頗ル自信アル如キ口吻ヲ洩ラシタル趣ナリ

三六 九月三十日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

中国南北ノ妥協ヲ北京政府ニ共同勸告スル英國提案ニ付在本邦英國大使ヨリ幣原次官ニ内相談アリタル旨通報ノ件

附記 九月二十七日在本邦英國大使ヨリ幣原次官ニ送越セル覚書及其送狀

第五四四号(極秘)

九月二十六日在本邦英國大使來省幣原次官ニ對シ実ハ本國政府ヨリ支那妥協問題ニ関シ訓令ヲ受ケ居レルモ日本目下ノ政局ニ顧ミ本國政府ノ允許ヲ得テ暫ク其執行ヲ差控ヘ居レルカ不取敢非公式ニ外務次官ノ意見承知致度次第ナル旨説明シタル上実ハ英國政府ハ新大統領ノ選舉ハ正ニ好機會ト認ムルニ付在支日英米仏四國公使ヨリ北京政府ニ對シ内争中止ノ上双方妥協ニ付共同勸告セムコトヲ帝國政府ニ

提議スヘキ旨竝右妥協成立ニ至ル迄ハ一面北京政府ニ對シ

テハ關稅及塩稅收入ノ剩余ヲ同政府ニ交付セサルコトヲ声明シ又右勸告ハ南方援助ノ意味ト見エサル為他面広東軍政府ニ對シテモ右兩稅ヲ押収スヘカラサル旨声明スルコトト致度旨竝英國政府ハ右ニ對シ帝國政府ヨリ全然同意ヲ得ル迄ハ米仏兩國ニハ本件ヲ提議セサルヘク尚帝國政府ニ於テ右英國政府提議ニ同意ノ場合ハ帝國政府ニ於テ主導的地位ニ立チ米仏兩國政府ニ提議セラルルコトニ異存ナキ旨本國政府ヨリ訓令ニ接シ居レル趣申出テタルニ付幣原次官ハ支那妥協問題ニ付テハ夙ニ日本ニ於テ深ク考慮ヲ加ヘ居レル処目下支那政界ニ重要ノ地位ヲ占メ殊ニ南北妥協ヲ主持斡旋シ居レル梁士詒ハ最近在支帝國公使館員ノ間ニ對シ徐世昌ニ於テ現ニ平和解決ノ為折角画策中ナルコト並ニ今少シク支那自ラ努力シタル後ハ兎モ角今日直チニ列國ノ斡旋助力ヲ求ムルハ未タ其時機ニ在ラサルコトヲ内話シ梁自ラ妥協ノ成立ニ望ミヲ囑シ且自信ヲ有スルモノノ如キ語調ヲ示セリ旁々帝國政府ニ於テハ暫ク形勢ヲ推移ヲ注視シ居レル次第ナリト説明シタルニ同大使ハ右帝國政府ノ立場ヲ能ク諒解シ一応之ヲ本國政府ニ電報スヘキ旨述ヘ引取りタリ御

含迄

右極秘含迄トシテ在仏伊米各大使ニ転電アリタシ

(附記) 九月二十七日在本邦英國大使ヨリ幣原次官ニ送越セル覚書及其送狀

Confidential.

British Embassy, Tokyo
September 27, 1918.

Dear Mr. Shidehara,

In accordance with the wish which you expressed yesterday, I enclose a Confidential Memorandum of the views of my Govt. in regard to a possible endeavour on the part of the Four Powers to bring about an understanding between the Rival parties in China,
Yours sincerely,

(Signed) Conyngham Greene.

(別紙)

CONFIDENTIAL.

MEMORANDUM...

In the opinion of His Majesty's Government the election of a new President in China seems to afford a favourable opportunity for bringing pressure to

bear on the Northern Party in that country to settle their differences with the Southern Party. They suggest confidentially that this might take the form of joint representations to be made by the Representatives of Great Britain, Japan, France and America in China to urge the necessity upon the Peking Government of arriving at a friendly arrangement of the internal quarrels which are producing such a disastrous effect not only upon the happiness of the Chinese themselves, but also upon the interests of the Foreign Powers. The four Representatives referred to might be instructed to declare that until an arrangement on the above lines has been effected it will not be possible for the Governments referred to sanction any further releases of the surplus of the Customs returns and the revenues from the Salt Taxse.

With a view to avoiding the appearance of an intervention by the four Representatives in favour of the South, the four Governments might at the same time declare to the present independent Government at Canton that they protest energetically against

any appropriation of the above mentioned Salt Revenues by the Government of the Southern Party, and are also decided to prevent any seizure by forcible means of the revenues of the Customs.

His Majesty's Government will not put forward this suggestion to the Governments of the United States and France until they have secured the complete concurrence of the Imperial Government. Should the latter concur in the course of action proposed above, His Majesty's Government would raise no objection to the Japanese Government taking the initiative and approaching the Governments of the United States and France.

BRITISH EMBASSY.

TOKYO.

September 27th, 1918.

(右和訳文) (註 右實書ノ仮訳文ナリ)

極秘

英国政府ハ支那ニ於ケル新大統領ノ選挙カ同国北方派ニ対シ南方派トノ不和ヲ解決スル様圧迫ヲ加フルノ好機會ヲ与フルモノナルヤニ思考スルヲ以テ在支英日仏米四国代表者

中国南北妥協ハ此際見込無キコト、寺内内閣

ノ对支政策ハ列国ノ猜疑ト中国人ノ反感ヲ招

キタルコト等北京政府顧問モリソンノ談話報

告ノ件

第一三五号

在支代理公使來電第二二三号ニ関シ

(註)

「モリソン」ハ昨四日来滬ノ由ニテ今朝本官來訪談話ニ曰ク、今次香港行ハ単ニ狀況視察ノ為ニテ何等ノ目的ナク同地ニ二日広東ニ二三日位滞在直ニ引返ス筈ナリト云ヒ明年三月ニハ本国ニ帰還スベク旁々其ノ前一応各地ノ模様ヲモ見置キ度キ為ニ外ナラズトシ自分ハ北方政府ノ顧問トシテ給料ヲ受ケ居ルモ寧ロ何レヨリモ羈束セラレザル地位ニアリ偏ニ支那ノ和平ヲ希望シ南北党ノ鬭争ノ速ニ終熄センコトヲ望ミ居ルモノナルモ今次南京ニ於テ李純ト会谈シタル結果等ニ見到底此ノ際妥協等ノ行ハレ能ハザルヲ益々確認セリト云ヒ李純ノ人物ヲ称揚シ奉天軍南下等ニ対スル李ノ憤慨ノ無理ナラザルヲ説キ徐樹錚等ガ如クシテ時局ヲ一層紛糾セシムルヲ攻撃シ広東ニ於テハ岑春煊、伍廷芳等有力者ト会见其意見ヲ質シ其ノ当ヲ得ザルト認ムル処ハ相当ノ

ヨリ北京政府ニ対シ共同提議ノ形式ニヨリ支那人自身ノ幸福上ノミナラス外国ノ利害關係上ニモ悲惨ナル影響ヲ生シツツアル内争ヲ友誼的ニ妥協スルノ必要ヲ勸説セムコトヲ内密ニ提議ス右妥協ノ成立ヲ見ル迄ハ前記四国政府ハ此上関稅收入及塩稅收入ノ剩余ノ引渡ヲ承認スルコト能ハサルヘキ旨ヲ宣言スル様前記四国代表者ニ訓令スルコトト致度シ四国代表者カ南方ノ為ニ干渉ヲナスカ如キ觀ヲ避クルノ見地ヨリ四国政府ハ同時ニ広東ニ於ケル現在ノ獨立政府ニ向ヒ南方派政府カ擅ニ前記塩稅收入ヲ流用スルニ対シ強硬抗議ヲナス旨並関稅收入ヲ強力ニ訴ヘテ押収スルヲ妨止スルニ決定シタル旨ヲ声明スル様致度シ

英国政府ハ帝國政府ノ完全ナル同意ヲ得ル迄ハ米仏兩國政府ニ対シ本提議ヲナササルヘク又帝國政府ニ於テ前記提議ニ同意ナル場合ニハ英國政府ハ日本政府カ主導の地位ヲ取リ且米仏兩國政府ニ対シ申入ヲナスコトニ異存ナシ

在東京英國大使館ニ於テ

一九一八年九月二十七日

三七 十月五日

在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

弁駁等ハ之ヲ試ム可キモ自分ノ地位トシテ妥協等ヲ勸誘スル考ハ之ナシトシ出発前徐世昌ニモ会见セルモ彼ハ単ニ漠然南北統一ノ希望ヲ有スルノミニテ毫モ具体的ノ考案ナク特ニ欧州戦後ノ講和開始ニ対スル準備等ニ至リテハ一モ成案アルナク前途寒心ニ堪ヘズト云ヒ支那ノ憂ハ大人物ナキコト之ナリト談シ日本政府ノ方針ニ付テハ寺内内閣若クハ無思慮ノ企業家等ノ無頓着ナル借款政策ハ実ニ支那ノ騒乱ヲ永続セシメタル大ナル原因ヲナシ他列国ノ猜疑ヲ招クノ因ヲ作レリト云ヒ北京ニ於ケル英米協同ノ如キモ元米国側ヨリノ勧誘ニ基キ我等英人等ニ加入セルモノニ過ギザルモ而モ右ハ日本ニ対スル若干反感ノ反映ト見得ベク北京「ロイテル」通信員乃至「デリーリ」、ニュース」等ノ最近日本ニ対スル通信論説モ又一部思潮ノ向フ処ヲ認ム可ク日本ヲ除外シテ支那ニ如何ナル政策モ行ヒ得可カラザルハ勿論ナルモ將來必ズ日本ノ（不明）上ニ立ツベキ運命ヲ有スル支那ニ対スル永遠ノ政策上斯ル列国ノ猜疑ヲ招キ若クハ支那人ノ反感ヲ買フガ如キハ甚ダ惜ムベシトシ居タリ尚同人ハ明日出帆鹿島丸ニテ香港ニ向フ筈在支公使在広東総領事ヘ電報セリ

方針ニ出テラレンカ畜ニ家屋ノ建設不可能ニ終ルノミナラス折角ノ基礎工事モ遂ニ減茶減茶トナリ南方ノ排日の気分ト相待テ日本ノ対支那關係ハ為ニ根本ヨリ覆サルルニ至ルヘシ但シ余ト雖モ少クモ徐世昌大總統トナリ時局解決ノ歩ヲ進メントスル今日日本当局ニ於テ依然南方ヲ度外視セラレタシト望マス或程度迄ハ南方側ノ穩健ニシテ有力ナル人物ヲ援助セラレ之ヲ北方ニ導クト同時ニ北方武断派中ノ危險人物ニ対シテハ寧ロ之ヲ政治圈外ニ驅逐スルノ策ヲ取リ以テ南北妥協ノ氣運ヲ促進セラレンコトヲ希望スル次第ナリ寺内内閣ノ北京政府援護主義ハ至極結構ナリシモ予ヲシテ忌憚ナク言ハシムレバ余リニ放任ニ流レタル嫌アリ例セバ張作霖軍隊ノ横暴ヲ黙過シ然モ一方ニ於テ窃ニ声援ヲ与ヘタル等ノ傾アルガタメ今日ニ於テハ同軍ノ跋扈跳梁ハ実ニ時局解決ノ一大障礙トナリ居レル次第ナリ原内閣ニ於テハ特ニ這般ノ消息ニ留意セラレ前陳ノ方針ニ基キテ機宜安排セラレンコトヲ望ムモノナリ

徐大總統ノ時局解決方針ハ要スルニ先ヅ憲法ノ制定ヲ急ギ之ニ依リテ統一ノ実ヲ擧ゲントスルニアリテ眼中南北ノ區別ナク和戦共ニ論ズルノ限ニ非ズトナスモノノ如ク其德望

註 在支代理公使來電第二二三号（同代理公使發外務大臣宛第一三二〇号）省略ス

三八 十月六日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

曹汝霖ガ高尾ニ語リタル日中關係ニ関スル意

見要領電報ノ件

第一三三九号

十月四日曹汝霖カ多年ノ親交アル高尾ニ対シ日支ノ關係ニ付腹藏ナキ意中ヲ表白スヘシトテ語リタル左記ノ要領ハ時節柄御参考ノ一端トモ相成ルヘキ義カト存シ電報ス寺内内閣ノ対支政策ハ其大限内閣時代ニ於ケル南方援助主義ト其趣ヲ異ニシ全然北京政府ノ擁護ノ方針ニ出テラレタルカ為借款其他ノ關係ニ於テ少クモ日支親善ノ基礎丈大体定ムルヲ得タルモ未タ以テ強固ナリト云フヘカラス吾人ノ願フ所ハ右ノ基礎工事ヲ土台トシ日支兩國人ノ同棲シ得ヘキ完全ナル家屋ヲ建設スルニ在ル処新タニ組織セラレタル原内閣カ果シテ前内閣ノ方針ノ通り此目的ヲ達成スルニ勉メラルヘキヤ甚タ疑無キヲ得ス若シ不幸ニシテ絶対反対ノ

ト相俟ツテ必ズヤ目的ヲ達成シ得ベシト信ズルガ故ニ日本ニ於テハ飽迄徐大總統ヲ中心トシ統一セラレタル公正ノ手段ニ依リ遺憾ナク其政策ヲ遂行セラレンコトヲ望ムモノナリ云々

尚高尾ガ叙上ノ談話ヲ聞取リタル際ノ感想トシテ本官ニ語ル所ニ依レバ張作霖軍隊ノ横暴ヲ助成セシメタルハ寧ロ曹汝霖等ノ画策ニ出デタル可キ筈ナルニ今ニ於テ之ヲ我方ノ責任ニ転嫁シ既ニ西原借款等ニ依リ所謂日支親善ノ基礎確立セリト云フ可キガ至当ナル可キニ僅ニ基礎工事ヲ定メタルノミニテ今後ノ遣口如何ニ依リテハ遂ニ減茶々々トナル可シト述ベ次デ主戰論一点張ノ筈ナリシ同人ノ口ヨリ南方人士ノ勧誘方ヲ求ムルガ如キ如何ニモ辻褄ノ合ハザル話ニテ要スルニ時勢ニ迎合スル支那一流ノ態度ト云フノ外ナク從テ同人ガ段内閣ト共ニ現地位ヲ退キタル後ニ於テハ所謂親善ノ基礎工事ナルモノガ其我方ニ求ムルヨリモ寧ロ同人等自身ニ於テ果シテ如何ナル程度迄真面目ニ活用ス可キヤハ頗ル疑問ナルヤニ認メタル趣ナリ右ハ本官ニ於テモ至極同感ノ義ト存ズ御参考迄ニ申添フ

三九 十月七日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛 (電報)

徐世昌大總統就任式ノ日取及其際各国ハ祝電

ヲ送ル模様ナリヤ問合ノ件

第九〇九号 至急

(一)徐世昌ハ愈々十月十日大總統就任ノコトニ確定セルヤ(二)
大總統就任式ハ右就任ト同時ニ行ハルル筈ナリヤ或ハ十月
二十五日就任式舉行セラルベシトノ説アル処果シテ然リヤ
右至急取調回電アリタシ將又先年袁世凱就任ノ際ハ我帝室
ヨリ御祝電ヲ発セラレタルカ當時ハ兎モ角南北和平ノ裡ニ
袁ノ就任ヲ見タル次第ナルモ今回ハ聊カ事態ヲ異ニシ南北
ハ尚対立ノ形勢ヲ呈シ徐世昌ノ大總統選舉ニ付テハ南方側
ニ異論モ有之次第ニテ甚タ「デリケート」ノ考慮ヲ要シ寧
ロ此際南方ノ感触ヲ害スルカ如キコトハ之ヲ避クル方可然
ト思料スル次第ナル処各国側ニ於テハ徐世昌就任ノ際其元
首若クハ政府ヨリ祝電ヲ寄セムトスル模様ナリヤ至急二三
大國公使ノ意向ヲ確メラレ回電アリタシ

四〇 十月八日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛 (電報)

ナクスルカ如キ政略の措置ニ出テシメサル様内々可然御手
配置相成タシ

(別電) 十月八日内田外務大臣發芳沢臨時代理公使宛電報第

九一七号

十月八日田中陸軍大臣ヨリ在北京青木中將宛電報内

容

第九一七号 大至急

徐世昌へ閣下個人ノ思付キトシテ至急左ノ意味ヲ伝ヘラレ
タシ

明後十日閣下ノ大任ニ就カルル由ヲ聞キ欣快ノ情ニ不堪而
シテ閣下就任ノ後ハ必ス南北ノ和平統一ニ全力ヲ傾注セラ
レ以テ國礎ノ安固ヲ保障セラルヘキヲ確信シ閣下ノ威望ニ
期待スルモノ頗ル大ナリ若シ万一周回ノ情誼ニ余義ナク猶
従前ノ方策ヲ踏襲シ南伐ヲ続行セラルルカ如キコトアラム
カ貴國ノ和平克復ハ遂ニ其ノ機ナク独リ貴國ノ紊乱疲弊ヲ
増長セラルルニ止マラス欧米諸國モ亦永ク其ノ災害ヲ免カ
ルル能ハサル理由ノ下ニ或ハ内政ニ容喙スルニ至ラム事茲
ニ至ラハ密ニ貴國ノ不幸タルノミナラス弊邦ノ特ニ苦痛ト
スル所ナリ從テ斯卡ル場合ニハ我國モ亦大總統新任ノ大典
ニ對スル祝辭ニ迷ハサルヲ得サルナキヤヲ虞ル是レ茲ニ總

徐世昌總統就任ニ當リ陸軍大臣ヨリ青木中將
ヲシテ北京政府二個人的祝詞及勸告ヲ為サシ
ムルコトトセルニ付各國政府ヨリ仰々シキ祝
電ヲ發セザル様取計方訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣發芳沢臨時代理公使宛第九一

七号

十月八日田中陸軍大臣ヨリ在北京青木中將宛電

報内容

第九一六号 至急

徐世昌總統就任ノ際ニ処スル帝國政府ノ態度ニ関シテハ往
電第九〇九号ヲ以テ内訓ノ通り南方ニ對スル迷惑モ之アル
処貴官ヨリ此際本大臣承知ノ上ニテ支那ノ内事ニ立入り干
渉ガマシキ行為ニ出ツルコトハ面白カラサルニ付陸軍大臣
ヨリ内密青木ヲシテ別電第九一七号ノ通り取計ハシムル筈
ニ付貴官ニ於テモ可成右ノ趣旨ヲ体シ各國元首若クハ政府
ヨリ此際爭フテ仰々シク祝電ナドヲ寄スル如キコトナキ様
前以テ可然關係國同僚へ暗示シ置カレタク尚又万一各國ヨ
リ右祝電ヲ發送セサルヲ得サルカ如キ場合ニ立至ルトモ帝
國政府ヨリノ分力種々ノ事情ヨリ自然遲延スル様ノ事アル
モ保シ難キニ付支那側ヲシテ予メ進ンテ我方ノ祝電ヲ余儀

統ニ就任セラルルノ近キヲ悦フト共ニ其ノ前途ノ幸福ヲ冀
ヒ併セテ日支兩國ノ關係ヲ益親密ナラシメムトスルノ見地
ニ基キ敢テ忌憚ナク卑見ヲ呈シ予メ閣下ノ考慮ヲ煩ハサム
トスル所以ナリ

四一 十月八日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛 (電報)

梁士詒秘書劉展超ニ對シ中国ガ一日モ速ニ南

北統一スルコトヲ希望スル旨談話セル趣通報

ノ件

第九一九号

十月七日梁士詒秘書劉展超本大臣ヲ來訪シ本大臣就任ニ對
スル梁氏ノ祝意ヲ傳達シタル後支那政局ノ今後ニ對シ何等
本大臣ヨリ教示ヲ受ケ之ヲ復命スヘキ内意ヲ受ケ來レル旨
ヲ告ケタルニ付本大臣ハ政治上ノ紛爭ハ何レノ國ニ於テモ
屢々其例アルコトナルカ支那カ今日迄南北干戈ヲ以テ相對
峙シ外國ニ對シテモ統一セル一國家トシテ久シク行動シ得
サル狀態ニ在ルコトハ南北双方ニ友人ヲ有スル本大臣ノ私
情ヨリ云フモ常ニ遺憾ニ感シ居ル所ナリ特ニ歐洲戰爭最近
ノ模様ハ大勢聯合側ニ有利ニ傾キ終局ニ於ケル勝敗ノ數モ

略々明カトナリ或ハ何時講和ノ時期ニ到達スルヤモ測リ難キ際支那カ南北内争ノ為メ国家兩分ノ形勢ヲ呈シ統一セル国家トシテ斯ル時勢ニ対応シ得サルカ如キハ最モ支那ノ為遺憾ニ堪ヘサル次第ナリトテ南北統一ノ必要ヲ縷陳シタル上此ノ統一ノ事業ハ一ニ懸テ南北双方ノ有力者ノ双肩ニ在ルカ故ニ本大臣ハ切ニ此等有力者ノ努力ニヨリ一日モ速ニ統一ノ実行セラレンコトヲ希望シテ止マサル次第ナル旨ヲ告ケタル処劉ハ南北統一問題ニ関シテハ梁士詒モ目下熱心尽力中ナルヲ以テ将来必要ノ場合ニ同人ニ適當ノ助力ヲ与ヘラレタシト言ヘルニ付本大臣ハ必要ノ時期ニ必要ノ助力ヲ為スニ躊躇セサルヘキ旨告ケ置ケリ

四二 十月九日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

徐世昌總統就任ニ当リ青木中将個人ノ資格ニ

テ徐世昌ニ申入レシムル理由説明ノ件

第九二一号 大至急

往電第九一七号ニ関シ

青木中将宛田中将電報ノ趣意ハ南方側ニ於テ徐世昌カ非法国会ノ選出ニ係ル為其ノ就任ニ反対シ居レル行懸モアリ

徐世昌就任ノ為却テ益々南北乖離ヲ来タスカ如キ情勢ト相成リテハ我国ハ新總統ニ対シ祝辭ヲ呈スルニモ苦シム次第ニ付此ノ如キ事態ト相成ラサル様切望ニ堪ヘサル旨態ト青木中将個人ノ資格ニ於テ徐世昌ニ申入レシムルニ在リ就テハ右ノ含ヲ以テ青木中将トモ御打合セノ上前電ノ趣旨ニヨリ可然御措置アリ度シ為念申進ス
本電青木中将ニモ示サレタシ

四三 十月九日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐世昌大總統就任ニ際シ各国政府ヨリ祝電ヲ

發セシメザル様取計方ノ訓令ニ付意見具申ノ

件

第一三五六号至急

貴電第九一六号ニ関シ

徐世昌ノ大總統就任ニ対シ南方側ニ於テ頻ニ反対ノ氣勢ヲ揚ゲツアル此際仰々シク帝國政府ノ名ニ於テ祝電等ヲ發セラルノ面白カラザルハ本官ニ於テモ寧ロ御同感ニ存ズル次第ナルガ各国元首又ハ政府ヨリノ祝電ニ対シ本官ヨリ当地駐節ノ關係公使ニ可然暗示シテ其取次ヲ阻止シ又ハ手

心ヲ用ヒシメントスルガ如キハ第一、右等公使ニ於テ本官ノ勸告ヲ応諾シテ自國政府ノ訓令ヲ奉行セザルコトノ出来得ベカラザルニ顧ミ到底不可能ノ事タルハ申ス迄モナク從ツテ御訓示ノ趣旨ヲ貫徹セシメラルル御所存ナルニ於テハ右等各国駐節ノ帝國大、公使ヲシテ先ヅ以テ直接夫々駐節國政府ト必要ノ打合ヲ遂ゲシメラルル方可然ト存ズ、右ハ大總統就任ノ日取り左程切迫シ居ラザル場合ニ関シ申上グル次第ナルモ就任式現在明日ニ切迫セル今日ニ於テハ遺憾乍ラ御来示ニ副フベキ何等措置ヲ執ルノ余裕之ナク若シ此際遽シク他國側ニ対シ祝電阻止等ノ措置ニ出ヅルニ於テハ場合ニ依リ無用ノ誤解又ハ不利益ヲ醸スノ結果ニ至ラサルヤヲ虞ル卑見ニ依レハ支那大總統ノ交迭ニ対シテ深甚ナル注意ヲ払ヒ居ルモノ我國ニ若クモノナク外國元首又ハ政府ノ祝電ハ主トシテ一片ノ「コンプリメント」ト新大總統ノ款心ヲ得置キタシトノ比較的淺薄ナル希望ニ基ツクニ外ナラスシテ我國ノ如ク南北双方ニ亘リ複雑ナル思惑ヲ有スルモノトハ同一ニ見做スヘカラル義ト思考ス且又此際徐世昌ニ対シテ仰々シク我カ政府ノ祝電ヲ發スルコト面白カラサルモノトセハ外國政府ヨリ祝電ヲ送り越スコト却テ我カ

方ノ立場ヲ有利ニ導クモノトモ見做シ得ヘク旁之等ノ理由ニ依リ前記ノ通り益御来示ノ如キ措置ニ出テラレサルノ得策ナルヲ認ム尤モ貴電末段御来示ノ通支那側ニ対シ差向ノ措置トシテ然ルヘク胡魔化シ置クノ得策ナルハ至極御同感ニ付適宜手配致スヘシ尚貴電第九一六号ハ九日朝接到シタルカ貴電第九〇九号ハ奉天經由ニテ御發電相成タルモノト見エ未タ接到致サス又貴電第九一七号ハ直電ナランモ之亦只今(午后六時半)迄接到致ササル次第第二付右等貴電接到拜読ノ上名案浮フニ於テハ時機ヲ失セス然ルヘク措置致スヘキモ既ニ拝受シタル貴電ニ基ツキ右ノ次第取敢ヘス申進ス

四四 十月九日 在北京青木陸軍中将ヨリ
田中陸軍大臣宛(電報)

徐世昌大總統就任ニ際シ申入方訓令ノ執行ハ

就任式後トスヘク又略同趣旨ノ申入ハ既ニ為

シタル旨報告ノ件

号外極秘

貴電本九日午後三時拝承然ルニ大統領就任式ハ既ニ明朝ニ迫リ居ルヲ以テ其以前ニ徐世昌ト会見ノ余裕ナシ依テ就任

式後機會ヲ見テ貴電ノ申越ヲ伝達セントス尤モ之ト殆ト同様ノ意味ハ今ヨリ約一週間以前彼ニ会見セシ際ニモ陳述シ同時ニ南北妥協条件ニ対シ左ノ意見ヲ書面ニテ呈出シ置ケリ

一、大統領就任後一切ノ国事犯特赦令ヲ発シ孫文、吳景濂等過激派ノ感情ヲ融和スルコト

二、長江督軍及曹錕其ノ他ノ中立派ヲ以テ調停団ヲ組織シ南方トノ折衝ニ当ラシムルコト

三、議會問題ニ就テハ北方ノ顧慮スル体面問題ト南方ノ主張スル護法問題トヲ折衷シ不言ノ間ニ旧議會ヲ承認シ且實際的ニ之ヲ解決スルタメ左ノ如キ処置ヲナス

(i) 北方議會ノ選舉セル大統領ヲ南方ニ於テ承認スルト共ニ南方議會ノ選出スル副總統ヲ北方ニ於テ承認スルコト

(ii) 南北兩議會ヨリ同数ノ委員ヲ選出シ一地ニ集合シテ憲法及国会組織法ヲ起草セシメ兩議會ニ於テ之ヲ討論ニ付スルコト

(iii) 議決終ラハ新組織法ニ依リ新国会ヲ召集シ旧国会ヲ速ニ解散スルコト

トノ論議漸ク外国人間ニ盛ナル次第ハ迭次ノ稟報ニ依リ御了悉ノ通ニシテ現ニ「ノールス、チャイナ、デーリー、ニュース」ノ如キ有力ナル英字新聞モ其社説ニ於テ公然之ヲ提唱セルノミナラス進ンテ右調停ノ任ニ當リ得ルモノハ差向英米兩國アルノミナリトノ極論ヲ試ミタルハ之亦奇怪(?)ナル処最近路透社通信員「フボツ」來訪ノ際談偶々本問題ニ及ブラ同通信員ハ前記「ノールス、チャイナ、デーリー、ニュース」ガ愈々調停ニ当ル場合ニ於テモ日本ヲ除外スルコト然ルヘキ旨ヲ主張シタルカ如キハ素ヨリ在留英國人ノ輿論ヲ代表スルモノニアラス殊ニ該論說ハ在上海英國總領事旅行不在中ニ掲載セラレタルモノニ係リ或ハ嘗テ平和運動ニ於テ奔走セル「リットル」ノ所説ニ基キタルモノニアラサルカト想察セラルル節アリ現ニ(不明)国公使ノ如キモ無稽ナル同紙ノ極論ニ対シ痛ク非難ヲ加ヘ居タル程ニシテ要スルニ日本排除云々ハ有識者ノ殆ド夢想ダニセザル所ナリト雖モ只支那国内ニ於ケル平和ノ克復ガ結局列強ノ調停ニ依ルニ非ザレバ到底之ガ実現ヲ期待シ難キハ既ニ争フ可カラザル結論ニシテ之ガ為メ列強ガ隔意ナキ了解ノ下ニ協同動作ニ出ヅルノ必要アルハ在留外人中ノ有識者ニ

四、督軍西南ノ重要巡撫ニハ之ヲ満足セシムルタメ適當ノ位置ヲ与フルコト

五、馮元大統領ハ元老ノ資格ヲ与ヘ之ヲ優遇シ段總理其職ヲ辞スレハ參戰督弁ニ選任スルコト

六、若シ武力ヲ以テ南方討伐ヲ繼續センカ多大ノ年月ヲ要ス為メニ支那ハ自ラ分裂又ハ滅亡スルカ或ハ外国ノ干涉ヲ招クニ至ルヘキコト

之ヲ要スルニ時局收拾ハ二段ニ分チ又南北統一ノタメニ馮大統領以下従前ヨリノ融和ヲ利用シ更ニ南北統一後ノ軍民分治ノ為ニ段總理ヲ利用スル考案ヲ述ヘシニ徐ハ段ノ利用法ニ就テハ頗ル同意ナリト述ヘタリ

四五 十月九日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国国内ノ和平克復ハ列強ノ居中調停ニ依ル
外無シトノ中国在留外人ノ意見ニ付路透社通信員ノ談話報告ノ件

第一三五七号

支那内争ヲ一日モ速ニ鎮定シテ平和統一ノ実ヲ挙ケントセハ一ニ列強ノ居中調停ノ勞ニ俟ツノ外他ニ手段ナカルヘシ

於テ等シク痛切ニ感得シツアル所ナリ此際日本政府ニ於テモ亦深く念ヲ致シ率先シテ他列強ノ勧誘シテ機宜ノ措置ニ出ヅル必要ナキカ只返ス々々モ遺憾ナルハ輒近ニ於ケル日支借款ノ簇生ニシテ右等借款ハ之ヲ実績ニ徴シテ只徒ラニ北方軍閥派ノ野望ヲ煽リ仍テ以テ内争ヲ益紛糾セシメ秩序回復ノ曙光ヲシテ弥微弱ナラシムルノ主因ヲ為シタルニ過ギザリシハ既ニ云フ可カラザルノ事實ナリト断ゼザル可カラズ如斯既往ノ恨事ハ暫ク之ヲ追究セストスルモ前頭ノ通り列強ノ調停ヲ以テ唯一ニシテ且最善ノ時局収集策トナスハ在留外人ノ殆ド一致セル信念ニシテ此際列強ノ對支政策ニ何等カノ一進展ヲ劃セザル可カラザルノ機運正ニ熟シツアリト云フ可ク早晚英米兩國ガ協同若ハ單獨ニ何等カ積極的措置ヲ提唱スルニ至ル可キハ殆ド避ク可カラザルノ趨勢ト思料セラルル旨極メテ熱心ニ縷述セル趣ナルガ右路透通信員ノ所言ハ往電第一二四七号英國公使ノ本官ニ對スル内話及閣下宛在上海總領事發電報第一三五号「モリソン」談ト相俟テ在留有力外人ノ時局ニ對スル感想ヲ語ルモノトシテ頗ル傾聴ニ値スルモノアリト思考セラル、御參考迄ニ

四六 十月十日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐大總統就任祝賀ニ関シ青木中将トノ打合願

末報告及陸軍将官ヲ通ズル对中国接触ノ場合

外交統一ノ必要ニ付意見具申ノ件

第一三六四号 至急 極秘

貴電第九一七号及同第九二二号共ニ九日夜接到シタルカ之ヨリ先キ貴電第九一六号御来示ニ依リ青木中将宛陸軍大臣来電ヲ同中将ヨリ貰受ケタル上陸軍大臣ノ御趣意遂行方ニ付同中将ト打合ヲ遂ケタル処同中将ハ大總統就任式ノ甚シク切迫シ居リ陸軍大臣来電ノ如キ祝詞ヲ述フルハ其違ナク且過日徐世昌ニ対シ略ホ右来電ト同一精神ノ意見ヲ申述置キタルコトニモアリ旁此際陸軍大臣御希望ノ如キ祝詞ヲ述フルコトハ之ヲ差控ヘ追テ今後好機ニ於テ祝意表彰方ヲ実行スルコトトシタシトノコトニテ右ハ至極尤モノ義ト認メラレタルニ付本官ニ於テモ同意ヲ表シ置キタリ就テハ右様御承知置アリタシ

本件ニ関シ序々申上度ハ前記陸軍大臣ヨリ青木中将宛電

訓ハ本屬上級官庁ヨリ下級官庁ニ対スル訓令ニテ殊ニ側面的外交上ノ措置トシテ其趣旨ニ於テ何等間然スル所ナク閣下ノ御承諾ヲ得居ル次第ニモ有之旁本官ニ於テ特ニ是非ノ意見ヲ申上度次第ニアラサルモ実ハ当地ニハ陸軍将官三人ニ達シ且当地ノ外当国各主要開市ニハ夫々相当陸軍武官駐在シ居レルカ前内閣時代ニ於テ其筋ヨリ余リニ屢々是等ノ武官ヲ通シテ種々ノ措置ニ出テ純然タル外務省所管事務ノ範圍ニ侵入シタル事蹟モ有之是等ハ当国ノ如キ国情ノ国ニ在リテハ已ムヲ得サル場合モナキニアラサルト又対外行動上便利ノ点ナキニアラサルニハ相違ナキモ若シ外交機關ニ於テ之ヲ統轄スルコトトスルニアラスンハ忽チ外交不統一ノ結果ヲ生シ中央ニ於テハ公使館地方ニ於テハ領事館ノ權威信用ヲ失墜シ其結果日本帝國ノ損失トナルコト申上ル迄モナシ

西原が当地ニ在リテ借款交渉ヲナスニ当リ某々将官等ガ公使トハ没交渉ニテ西原ノ交渉ヲ援助シ其結果今日ニ至リタルガ該借款契約ノ善後ニ付一片ノ憂慮ヲ禁ズル能ハザルモノアルハ往電第一三六五号ニテ稟申スベキ通リナリ本官ハ徒ラニ詭弁ヲ好ムモノニ非サルモ新内閣ニ於テ対支政策ニ

一転機ヲ劃セントセラルルニ非ザルヤノ節アルヲ察シ此際閣下ノ御勇断ヲ以テ出来得ル限り外交統一ノ実ヲ挙ゲラレシコトヲ切望シ幸、目下青木、斎藤、坂西三将官共本官ト円満ナル關係ニアル次第ニモ之アリ今後ハ事情ノ許ス限り成ルベク三将官ノ対外行動ノ時ハ本官ニ於テ之ヲ統轄若ハ今回同様本官ト脈絡ヲ保持セシメラルル様(更ニ忌憚ナク申上グレバ今回ノ件ノ如キモ閣下ヨリ本官ニ電訓セラレ本官ヨリ青木中将ニ依頼スルコトトセラルルニ於テハ尚更好都合ナリシカト存ズ)其都度然ルベク御配慮アラシコトヲ懇願ス(本官病氣モ数日来頗ル輕快ニ赴キ精神モ大ニ爽快トナリタルニ付何分御省慮ヲ請フ御含迄ニ)

四七

十月十一日 内田外務大臣ヨリ
在英国珍田大使宛(電報)

列国ヨリ中国南北妥協ヲ勧告スル提案ヲ在本

邦英國大使ヨリ正式ニ提出シタル件

第五六四号

往電第五四四号ニ関シ

十月七日梁士詒ノ代表者劉展超来省ノ際幣原次官ヨリ仮リニ此際列国ヨリ支那南北双方ニ対シ其ノ内争ヲ和解セシメ

一 中国南北調停一件 四七

ムカ為好意的勧告ヲ為スコトアリトセハ支那側ハ如何ニ之ヲ迎フヘキヤ試ミニ其ノ所見ヲ叩キタル処同人ハ(一)右列国協同ノ勧告力全然誠意ニ基キ且何等圧迫ノ措置ニ出ツルコトナシトスルモ支那側トシテハ一種ノ干渉ヲ受ケタルカ如キ感想ヲ抱クヲ免レサルヘク又(二)列国共同シテ東洋問題ニ関スル発言ヲ為スハ東洋政局ノ将来ニ向テ惡例ヲ貽スモノナリト思考セララルルニ付若シ妥協勧告ノ要アルトキハ寧ロ日本单独ニテ非公式ニ之ヲ申入レラルルコト然ルヘク日支兩國ノ關係ハ特殊ノモノアルニ顧ミ右日本单独ノ措置ナラハ比較的ニ角立タサルヘシ尤モ今日ハ此ノ措置スラモ尚未タ其ノ時機ニ達シ居ラスト思考ス尚南北ノ妥協ハ南方派ノ云フカ如ク左迄難事ニアラサル旨ヲ述ヘタリ然ルニ十月八日英國大使来省ノ際幣原次官ヨリ右劉展超会談(一)ノ要旨ヲ内話シタル上右ニ鑑ミルモ此際列国ノ妥協勧告ハ考慮ヲ要スル旨私見トシテ述ヘ置キタリ其後同大使十月十日更ニ来省本大臣ニ対シ往電第五四四号英國政府提案ヲ正式ニ申出テタルニ付本大臣ハ右幣原次官私見トシテ述ヘタル趣旨ヲ是認シ本件再議ノ必要起リタルトキハ帝國政府ヨリ開談スヘキ旨答ヘ置ケリ

右在仏伊米各大使ニ転電アリ度シ

四八 十月十一日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

青木中将陸軍大臣ノ訓示ニ拠リ徐總統ニ南北

和平統一ヲ勸説ノ件

坂極秘第二八八号 青木電 (十月十五日参謀本部ヨリ外務省接受)

大臣訓示ノ趣旨ニ依リ今十一日徐總統ニ会見シ目下日本ノ上下ハ挙リテ閣下カ南北ノ和平統一ニ全力ヲ注ギ速ニ其実効ヲ挙げラレンコトヲ切望ス若シ万一周回ノ事情ニ余儀ナクセラレ従前ノ方策ヲ襲踏シ討伐ヲ実行セラレンカ和平克復ハ殆ト覚束ナク更ニ国家ノ紊乱疲弊ヲ加ヘ遂ニ外国ノ干涉ヲ招クノ憂アリ果シテ茲ニ至ラハ舊ニ貴国ノ不幸ナルノミナラス又日本ノ甚タ苦痛トスル所ナレハ此際断乎タル決心ヲ以テ和平統一ニ極力尽力セラレンコトヲ述ヘシニ徐總統ハ之ニ対シ全然同意ナリトテ特ニ昨日大總統就任ノ際ニ発シタル宣言書ヲ示シ其中ノ「精神ヲ以テ統一ノ進行ヲ計リ氣力ヲ以テ和平ノ主旨ヲ達ス」トアルハ即チ其意味ニシテ昨日段祺瑞ノ辭職ヲ許セシハ此事ヲ事実上ニ表明セシモ

曹錕等北方派人士ヲ副總統ニ選任スルコトハ

暫ク控フル様徐世昌等ニ勸告スルコトニ関シ

請訓ノ件

第一三三三号

貴電第九一六号ニ関シ

徐世昌ノ就任カ却テ南北乖離ノ因ヲ為スコトナキヲ保シ難カルヘシトノ御懸念ハ一応尤モニシテ今日迄当館ノ得タル情報ニ依ルモ徐就任ノ結果幾分南北乖離ノ度ヲ増スコト或ハ有リ得ヘキカト想察セラルルモ更ニ最モ顧慮ヲ要スルハ副總統ニ選舉セラルヘキ人物如何ニ之アリ元來南方派ト雖モ其底意ニ於テハ徐ノ人物ニ対シテハ格段ノ異議ナキ次第ナルカ万一副總統ヲモ現ニ隱密色氣ヲ有スル曹錕其他所謂北方派ノ人物ヨリ選出セラルルカ如キコトアランカ南方派ノ反对ハ愈々高潮ニ達シ勢ヒ遂ニハ南北調停ノ希望ヲシテ当分消滅セシムルコトナキヤヲ恐ルル次第ニ之アリ旁副總統ノ地位ヲ以テ両派妥協促進ノ誘因タラシメンカ為メ暫ク之ヲ留保セシメ此際現ニ候補者ト目セラルル北方系人物ノ当選ヲ避ケシムルコト之ヲ大局ヨリ見テ頗ル望マシキ義ヤニ思料セラルルニ付テハ御異存之ナキニ於テハ此際至急徐

ノナリ其他馮国璋、李純、梁士詒等ト其実行方法ニ就キ極力研究中ナレハ此事ニ就テハ安心シテ可ナリト述ヘ尚思ヒ付ノ事アレハ遠慮ナク陳述セヨトノ事ニ就キ第二ノ問題ニ付日本ノ朝野ハ中国第一ノ元老タル閣下ノ大總統當選ヲ衷心歡迎シアルモ南方人カ非法国会ノ挙ケタル大總統ヲ承認セストノ説ヲ聞キ今次大總統ノ就任ニ依リ更ニ支那ノ南北ヲ乖離セシメンコトヲ憂ヒ祝意ヲ発スルニ躊躇セル新聞等モアルヤニ聞ケリ實際如何ニ成リ行キ居ルヤ之ニ対シ何カ防禦ノ方策アルヤト尋ネシニ当地ニテ現ニ接觸シアル陸榮廷、岑春煊、唐繼堯、李耀漢ノ代表者間ニ未タサル説アルヲ聞カス尤モ広東方面ノ状況ハ極メテ混乱シアル故激烈派中ニハ或ハ其説ヲ為スモノアランモ固ヨリ小部分ニ過キサヘルヘシ彼等ニ相当ノ位置ト糊口ノ道ヲ与フレハ其反对モ自然ニ消滅ス貴国ハ(脱字) 依頼セリ南北和平統一ノ為ニハ馮国璋ヲ、又統一後各省軍民ニ分治ヲ勵行セシムル為ニハ段祺瑞ヲ利用スルヲ可トスヘキ小官ノ意見ニ対シテハ重ネテ頗ル同意ナル旨語レリ

四九 十月十一日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

世昌及梁参議院議長ニ対シ夫レトナク右ノ趣旨ニ基ク友誼的勸告ヲ与フルコトト致度既電ノ通り副總統選舉会モ既ニ十六日ニ迫リ居リ且曹ノ為ニ盛ンニ金錢ヲ振撒キテ運動シ居ル向モ之アル由ニテ昨今ノ形勢ニ鑑ルトキハ或ハ急転直下曹錕ノ當選ヲ見ルコトナキヲ保シ難キ節アルニ就テハ折返シ何分ノ義御回訓ヲ請フ

五〇 十月十二日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

曹錕ノ副總統選舉ハ南北ノ乖離ヲ深クスル故

選舉会ヲ延期スル方可ナルベキカト梁士詒ニ

内話スル様回訓ノ件

第九四〇号

貴電第一三三三号末段ニ関シ此際徐世昌及梁士詒ニ友誼的勸告ヲ試ムルコトハ暫ク差控フルコトトシ度ク其代リ貴官ヨリ梁士詒ニ対シ南北ノ統一ヲ見ルコトハ帝国政府ノ熱心希望スル所ニシテ徐總統カ南北統一ノ方針ヲ懷キ其就任ニ際シテ之ヲ声明セラレタルニ鑑ミ帝国政府ハ之カ実現ニ多大ノ希望ヲ囑スル次第ナルカ一方副總統ノ人選如何ハ南北妥協ニ対シ重大ナル關係アルヤニ思考セラル帝国政府ハ目

下副總統ノ候補者ト目セラルル曹錕個人ニ對シテハ何等不信ノ念ヲ有スルニハアラサレトモ其當選ノ為南北ノ乖離ヲ深クシ益統一ノ事業ヲ困難ナラシムルカ如キコトアリテハ甚タ遺憾ナルニ就テハ來ル十六日ノ選挙会ハ或ハ暫ク之ヲ延期スル方得策ナルヤニ考ヘラルル旨ヲ内話セラレ梁士詒ノ意嚮ヲ確メラレ尚南北統一問題ニ関シ徐世昌始メ梁等ニ於テ劃策計畫ノ次第アラハ之ヲ聴取り電報アリタシ

五一 十月十三日 内田外務大臣 章士 會談 鈞

中国南北妥協問題ニ関スル件

内田外務大臣ト広東軍政府派遣

章士鈞氏ト会見要録

(大正七年十月十三日於外務大臣官邸)

午後四時章士鈞氏ノ需ニ依リ面会、(殷汝耕氏及隨員謝曉石氏同伴殷氏通訳ス)章氏ハ先ツ今回ノ來朝ハ全然非公式ノモノナルコトヲ述ヘ然ルニモ拘ラス沿道懇篤ナル款待ヲ受ケタルヲ深謝シタル後來朝ノ目的ハ日本朝野ノ名士ニ親シク支那殊ニ南方ノ事情ヲ開陳シ其同情アル理解ヲ得ルニアル旨ヲ述ベ更ニ語ヲ繼ギ御承知ノ如ク輓近日支兩國ノ

話シ置クヘシト答ヘラレタリ

五二 十月十四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

徐總統就任ニ對シ我陸海軍大臣ヨリ祝辭申入

ニ関シ請訓ノ件

第一三九三号

海軍大臣ノ徐總統ニ對スル祝辭申入方一応見合サンメ置キタル次第ハ往電第一三八七号ノ通ニシテ海軍大臣ヨリモ伊集院大佐ニ對シ申入見合セノ電訓有リタル趣ノ処一面青木中将ヨリ承知セル所ニ依レバ陸軍大臣ヨリ同中将ニ對シ祝辭申入方電訓シ有リ(尤モ發電者ノ暗号稍々不明ナリシモ同中将ニ於テ同大臣ト判断シタルモノノ由)既ニ同中将ニ於テ右申入ヲ実行シタル趣ノ処本官ニ於テハ右実行後ニ至リ初メテ承知シタルガ為往電第一三八七号ト同一ノ措置ニ出デ難カリシ次第ナルガ原来兩大臣ヨリスノ如キ電訓有リタルハ貴電第九一六号中御垂示ノ御方針ニ其後變更ヲ来シタル次第ナルベキヤ何分ノ義御電示有度ク尚又既ニ陸軍大臣ヨリノ祝辭申入済ノ上ハ海軍大臣祝電モ此際直ニ伝達スルコト然ルベキハ勿論閣下ヨリモ祝辭ヲ申入有ル方然ルベ

一 中国南北調停一件 五二 五三

關係ハ益々緊密ノ度ヲ加ヘ日本ノ態度如何ハ支那ノ内政ニ迄影響ヲ及ホスニ至レリ從テ日本ニ於テ北方ニ援助ヲ与ヘラルルハ南方ニ對シ多大ノ影響ヲ及ホスモノニシテ日本ニシテ北方援助ヲ繼續セラルルニ於テハ南北妥協ノ如キモ困難ナリト語リタルニ付大臣ヨリ南北妥協ニ関スル章氏ノ意見ヲ尋ネラレタル処章氏ハ右ニ関シテハ執レ日ヲ改メテ申出ツルコトアルヘキモ孰レニセヨ目下ノ如キ状態ニテ漫然妥協ヲ図ルモ到底見込ナシ先ツ南方ヲモ北方ト對等ノ資格ニ置キ兩對等者間ニ双方ヨリ委員ヲ派出シ商議ヲ遂ケ度考ナリ尚本件ニ付テハ他日重ネテ申出ツベシト答ヘタルニ付大臣ヨリ本月七日劉展超ニ話サレタル趣旨ヲ述ヘラレ世界ノ大勢上支那統一ノ一日モ速ニ完了センコトヲ望ム旨ヲ說示サレタルトコロ彼レ大臣ノ懇情ヲ深謝シ南方トテ何時迄モ其主張ヲノミ固執シ妥協ヲ斥クルモノニアラサル旨ヲ答ヘ終リニ自分今回ノ來朝ハ日本政府ニ對シテハ全然非公式ノモノナルモ軍政府ニ對シテハ同政府ヨリ全權ヲ委任セラレ居ルモノナル旨ヲ附言シ尚總理大臣、内相、陸相ヲモ訪問致度ガ如何ニヤト尋ネタルニヨリ大臣ヨリ非公式ニ訪問セラルルニ於テ何等差支ナカルヘシ自分ヨリモ右各大臣ニ

キヤニ思考セラル就テハ御考量ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ (十四日)

註 芳沢臨時代理公使ノ第一三八七号省略ス

五三 十月十四日 幣原外務次官 章士 會談 鈞

中国南北妥協問題ニ関スル件

幣原外務次官ト章士鈞氏トノ會談要録

(大正七年十月十四日於外務省)

午前十時章氏ノ需ニ依リ面会、(殷汝耕氏及隨員謝曉石氏同席)章氏ヨリ前日内田外相ニ談話セルト略ホ同様ノコトヲ話シタルカ幣原次官ヨリ章氏ニ對シ徐世昌氏ノ大總統就任ハ南北妥協ヲ困難ナラシメタルヤ否ヤトノ質問ニ對シ章氏ハ然リ甚タシク困難ナラシメタリ其ノ故ハ徐カ個人トシテ妥協ニ斡旋スルハ南方ノ多トスル所ナルモ違法ニ選挙セラレタル大總統ノ地位ニ在リテ妥協ヲ試ムルモ我々南方ハ到底之ニ応スル能ハサレハナリト答ヘタルニ付次官ヨリ徐政府力違法ナリト謂ハルルモ広東軍政府トテモ正當ノモノタルヤ否ヤ疑問ナリ然ラハ即チ支那ハ結局無政府ナリト謂ハサルヘカラサルニ非サヤト反問セラレタルニ章ハ袁世凱

以来ノ歴史ト約法論ヲ云々シ北方政府ノ不正統ナル所以ヲ弁シ且北方派ノ行動カ何等誠意ノ認ムヘキモノナキ事実ヲ挙ケテ從來ノ行懸ヲ述ヘタルニ付次官ヨリ此等ノ議論ハ既ニ屢々聞ケル所ナルカ自分ノ觀ル所ニテハ是レ畢竟末節ニ過キス目下ノ重大ナル時局ニ際シ支那ノ憂国者ハ寧ロ広ク支那国家ノ利益ト国民ノ幸福トニ起見シ法理論又ハ感情ヲ一擲シテ釈然融和スルコト必要ナラスヤト応答セラレタル処章ハ個人トシテハ右意見ニ同感ナル旨答ヘタリ

五四 十月十四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国内争終結ノ為早晚列国ノ調停又ハ斡旋ヲ必要トスベキニ付予メ準備ヲ整ヘ置ク必要アル旨稟申ノ件

第一三九八号(極秘)

貴電第九三三号ニ関シ英國大使カ本国政府ノ訓令ニ依リ御来示ノ如キ申出ヲナシタル動機ハ往電第一二四七号末段ニ申述ヘタル在支英國公使ヨリ本官トノ談話要領ヲ本国政府ニ電稟セルニ基クモノト思料セラル將又右ニ対スル次官ノ御答弁ハ至極御尤ニテ本官ニ於テモ御同感ニ存スル次第ナ

珍田大使宛電報第五四四号(三六文書)ト同文

五五 十月十五日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

陸軍大臣ハ青木中將ニ対シ徐總統ニ就任祝賀申入方訓令シタルコト無キ旨通報ノ件

第九四六号

貴電第一三九三号ニ関シ

陸軍大臣ニ確メタル処同大臣ニ於テハ徐總統ニ祝辭申入方青木中將ニ電訓シタル覚ナク恐ラク何カノ行違ナルヘシトノコトニテ要スルニ政府ニ於テハ往電第九一六号ノ趣旨ニ何等変更ヲ来タシタルコトナシ又從テ海軍大臣祝辭モ矢張り伝達方差控ヘシメラレ度シ右ハ海軍大臣ニ於テモ承知済

五六 十月十五日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

中国南北間ノ紛争ノ外国ニ依ル調停問題ニ関スル在中國米國公使及米本國政府ノ意向問合方訓令ノ件

第九四七号

貴官ハ至急米國公使ニ面会ノ上支那南北妥協ハ現状ノ俛ニ

一 中国南北調停一件 五五 五六 五七

ルカ実ハ当國ノ時局ハ既往ノ實際ニ顧ミ支那人ノミノ手ニテ之ヲ收拾スル事先ツ望ナシト申スモ大体誤リナカルヘク早晚帝國政府カ主動者トナリ与國ヲ誘ヒテ調停若クハ斡旋ノ手段ヲ取ルノ挙アルヘキ義ト信セラルル処刻下ノ形勢ニテハ最早徐世昌大總統トナリ梁士詒等ノ有力者ト共ニ兎モ角局面展開ノ氣運ヲ促シ南北妥協ノ手段ヲ講シツツアル折柄ナレハ暫ク彼等ノ為ス所ニ任セ其成行ヲ傍觀シタル上愈々收拾スヘカラサル羽目トナリ支那人自身モ事ノ成効期シ難キヲ知リ外人モ亦支那人ノミニ一任シテハ時局ノ解決到底望ナキヲ認メ内外共ニ事ノ難渋至極ナルヲ周知シタル曉ニ於テ帝國政府カ主動者トナリ英米仏ノ友邦ヲ誘ヒテ最敏活ニ予定ノ行動ニ出ヅルコト可然蓋シ斯ル事態ノ出現スヘキコトハ今日ノ場合既ニ想像ニ難カラス然レハ帝國政府ニ於テモ単ニ英國側ノ發議セル妥協条件ノミニ頼ルコトナク主動者タルヘキ我政府自身ニ於テ今ヨリ篤ト研究ヲ遂ケラレ即刻ニテモ直ニ行動シ得ヘキ丈ケノ準備ヲ整ヘ置カレ臨機ノ措置ニ遺算ナカラシメラレンコトヲ希望スル次第ナリ右ハ申迄モナキ義トハ存セシモ念ノ為メ卑見電稟ス

註 十月十一日外務大臣宛第九三三号ハ前出九月三十日在英國

放任スルニ於テハ容易ニ實現ノ見込ナシトテ昨今上海附近ノ英米國人中外國側ノ調停ヲ唱道スルモノ尠カラサルノミナラス北京外交団中ニ於テモ英公使ノ如キハ同様ノ意見ヲ抱持シ居レルヤニ認メラルル処米國公使ニ於テハ本件調停問題ニ対シ如何ニ思考セラルルヤ又最近帰任セラルル際本件ニ付何等本國政府ヨリ指図ヲ受ケラレタルコトナキヤ内話ヲ得度旨申入レラレ其ノ応答振電報アリ度シ

五七 十月十五日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中陸軍大臣宛(電報)

段祺瑞派ト大總統及政府トノ間ニ軋轢ヲ生ズルガ如キ場合ノ我方ノ措置ニ付予メ考慮シ置ク必要アル旨上申ノ件

坂極秘第二八九号 (十月十六日陸軍省ヨリ外務省接受)
政府当局ヘノ希望事項

世界大勢ノ向フ所武力一点張ノ統治法ハ今後支那ニ於テモ永続スル能ハサラントス即チ從來ノ如キ偏頗ナル援軍閥主義ヲ排シ自然支那ヲ相手トシテ親善關係ヲ結び多數民意ノ赴ク所ニ適合スル如ク我外交上ノ基礎ヲ有スヘキコトヲ望ム國際交渉ニ當リ第二國ノ政府ヲ相手トスルコトハ固ヨリ

当然ノコトナレトモ現下ノ如ク政府ト大統領トノ間ニ頻繁ナル軋轢ヲ生スル国家ニアリテハ我好意ヲ一ニ政府方面ニノミ寄スルコトハ弊害ナキニアラス宜シク時ニ臨ミ勢ヲ察シ真理ノアル所ニ同情セラレンコトヲ望ム

今日迄屢々繰返サレタル政府員間ノ軋轢及其為ノ事件ニ就キ我当局ハ事実上常ニ援段又ハ援徐樹錚主義ニ傾キシ形跡アリ今回段總理ハ時勢ノ迫ル所トナリ其職ヲ辞セシモ依然參戰督辦ノ重任ニ當リ其ノ実力ハ今後參戰督軍軍隊ノ練成ト共ニ益々増大スルニ至ル彼カ爾後ノ形勢ヲ顧ミス一ニ國家ヲ念トシ大統領ニ對シ絶對ニ服從スル間ハ督辦トシテ最モ適任ナリト雖モ今後政局ノ形勢ニ依リ自党ノ利害ニ關係ヲ及ホスカ如キコトアランカ彼自身ハ何等野心ナシトスルモ其ノ幕下ノ小策士靳雲鵬、曲同豐ノ穩健派等カ參戰軍ヲ提ゲテ大統領及政府ニ對シ謀反的行爲ニ出ツルカ如キコト決シテアリ得ヘカラサルコトニ非スシテ斯ノ如キコトアラシカ時局ハ更ニ紛糾シ遂ニ收拾シ得ヘカラサルニ至ルヤ必セリ抑モ參戰軍ハ我國ヨリ供給セル武器及借款ニ依リ編成スルモノナルヲ以テ其ノ行動ニ就テハ我ニ一種ノ監視義務アルモノト云フヲ得ヘク從テ彼等ノ動靜ニ関シ十分ノ注意

ヲ払フノ要アリ且前記ノ場合發生スルヤ我ハ之ニ對シ如何ナル処置ニ出ツヘキヤヲ今日ヨリ考慮シ置クノ必要アリト認ム

今次締結セラレタル經濟借款前渡金ノ用途ニ就テモ特別ノ注意ヲ払ヒ前回同様之ヲ戰費ニ流用シ南北政争ヲ益々延長セシムルカ如キ弊害ナカラシメンコトヲ望ム

五八 十月十六日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北間紛争調停問題ニ對スル在中国米國公使及米本國政府ノ意向問合方訓令執行ノ願

末報告ノ件

第一四一五号 至急

貴電第九四七号ニ関シ從來南北妥協問題ニ関スル英國公使ト本官トノ會談ハ全然兩人限内密ノ話トシテ行ハレタルモノニシテ(往電第一二四七号末尾參照アリタシ)往電第一二六八号^(註一)德川同公使往訪ノ際モ同公使ヨリ本件ハ本官ニ斷ハラシテ何人トモ相談等ヲナサザルヘキ旨附言シタル等ノ次第ニモアリ旁同公使ニ渡リヲ附クルコトナク直ニ本件ニ関シ米國公使ト會談スルコトハ何分ニモ面白カラス殊ニ

英國公使モ調停ヲ可トスル意見ヲ抱持シ居ルヤニ認メラル

云々ト云フカ如キコトヲ英國公使ニ對シテ斷ナク米國公使ニ對シ申述フルハ背信ノ嫌アリテ頗ルデリケートト思考シタルニ付十月十六日先ツ德川ヲ英國公使ノ許ニ遣ハシ本官ノ言トシテ南北妥協問題ニ付前頭高見ヲ拝聴既ニ一ヶ月ニ垂ントシ而モ爾來本官病臥中ノ為本件ニ関シ更ニ親シク意見ヲ交換スルコトヲ得サルハ真ニ遺憾ナルガ當時本官ノ懷抱セル私見ハ今日尚渝ル所ナキ処一面帝國政府ヨリ承知セル所ニ抛レハ本件ニ関シ最近英國政府ヨリ帝國政府ニ開談ノ次第アリタル趣ニテ之ニ對スル帝國政府ノ応答振ハ貴公使ニ於テモ御了知ノコトト思料セラルルカ夫レ支那ノ時局ハ依然否愈々吾人ノ注視ヲ深クスルノ必要アルニ至リタルヤニ存セラレ從テ本件ニ関シ貴公使ト本官トノ間ニハ益々密接ナル接觸ヲ保ツノ必要アリト思料セラルルニ付テハ時局其後ノ發展ニ顧ミ何等(脱)アラハ差支ナキ限承リタシト述ヘシメタルニ對シ英國公使ハ別段此際申述フベキ纏リタル意見モナシト答ヘタルニ付德川ハ本官カ病臥中同官ニ洩ラシタル所ニ依レハ本官ノ考ニテハ米國公使ハ今回本國ヨリ帰任シタルコトニモアリ同公使ノ意見ハ大ニ吾人ノ參

考トナルヘシトナスモノノ如クナル処貴公使ハ同公使帰着後同公使ニ面會セラレタルコトト思考セラルルニ付若シ同公使ヨリ何等カ本件考量ノ參考トナルヘキ話ニテモアリシナラハ差支ナキ限リ拝聴ノ上本官ニ報告セハ本官ニ於テモ大ニ満足スヘシト考フル旨寧ロ余談的ニ申述ヘタル処英國公使ハ米國公使帰任後二回面會セリ其顛末ヲ尽ク話スヘシト冒頭シ去ル十三日第一回會見ノ際ハ單ニ挨拶ノ為メ来リシ次第ニモアリ支那ノ時局ニ付只困ツタモノナリト云フ位ノ話ハアリタルモ何等纏リタル点ニ亘リ論議セサリシ次第ナルカ今十六日朝再ヒ來訪シ只今仏國公使ヲ往訪シ来リタル所ニテ同公使モ全然同感ナリシトテ曹財政總長カ金券問題ニ関シ四國公使ノ回答ヲ曲解シ着々金券ノ發行其他ニ関スル準備ヲ進メツツアルハ不都合極マレル次第ニ付聯合國代表者協同シテ其免職ヲ支那政府ヘ勸告スルコトトシ度キ旨提議シ其内仏國公使モ來會シ同様ノ趣旨ヲ述ヘタルニ付自分(英國公使)ハ曹總長今回ノ遣リ口ノ甚タ不都合ナルハ全然同感ナルモ同總長ハ政府ノ一員ニ過キス同總長ノミヲ免職セシメントスルハ(脱)明カニセサルモノト云フヘシ(脱語不明)之カ免職ヲ求メ他總長不当ナレハ又直チニ

之ヲ斥ケントスルカ如キスル「ピースミール」ノ遣方ニハ賛成出来兼ヌル旨ヲ答ヘタル上種々論議ノ結果明後十八日聯合國代表者會議ヲ開キ Present situation in China in its relation to allied interests ナル問題ニ付討議スルコトニ決シ兩公使ハ退去セリ就テハ右會議ニ於テハ自然南北妥協問題ニモ論及スルコトナルヤ計リ難キモ是迄ノ処右以外何等米公使トノ間ニ意見ヲ交換シタルコト無シト述ヘ芳沢代理公使ニ於テハ右曹総長排斥ニ関スル支那政府ヘノ共同勸告ニ参加セラルベキヤト尋ネタルニ付徳川ハ右ハ自分ニ於テ全然本官ノ意向ヲ聞知シ居ラザル事柄ニ付何トモ申兼ヌルモ自分一己且即座ノ思附トシテハ貴公使反對ノ趣旨ハ誠ニ理由アル義ト思考セラルルノミナラズ日本トシテハ曹総長ハ最近數ヶ月間ニ於テ日本ノ諸銀行トノ間ニ成立セル幾多借款当面ノ相手方タルニ顧ミ殊ニ右借款中ニハ仮契約ヲ締結シタルニ過ギザルモノモアリ各借款個々ノ善惡ニ對スル批評ハ別トシ之カ実行又ハ確定ニ関シ日本側ニ於テ直接曹総長ト折衝スベキ事項モ尚多々之有ルベシト察セラレ旁々日本側トシテハ右事務の見地ヨリ曹ノ退職ヲ不便トスルガ如キ事情モ之有ルヤニ思ハル要スルニ事頗ル

重大ト思考スルニ付委細代理公使(本官)ヘ報告スヘシト答ヘ且前ニモ申ス如ク代理公使ハ妥協問題ニ関スル米国公使ノ意見ヲ知ランコトヲ望ミ居ラルルモノニ付恰モ同公使帰任後同公使ニ敬意ヲ表スル為代理公使ニ代リ今明日中位ニ同公使ヲ訪問スル様代理公使ヨリ命ヲ含メラレ居ルニ付其序ヲ以テ適當ノ機會アラハ夫レトナク米国公使ノ意見ヲ聴取スルコトトシテハ如何ト思考スル処右ニ對シテハ貴公使ニ於テ異議ナカルヘキヤト試問シタルニ英國公使ハ最初多少躊躇セル模様ナリシモ結局之ニ同意シ頃日来本官ト会谈ノ次第及本日徳川ト談話ノ事ニハ言及セサル様シタシト附言シ尚徳川ノ問ニ對シ只漠然自分(英國公使)モ妥協促進ニ同感ナルカ如シト云フ位ノコトハ申添ヘラルルモ差支ナシト述ヘタル趣ニテ徳川ハ一旦帰還ノ上右ノ通報告シタルニ付本官ハ之ヲ聞取リタル後同官ヲシテ直ニ米国公使ヲ訪問セシメ貴電第九四七号ノ趣旨ニ基キ可然開談セシメントシタル処同官米公使館ニ赴キタル間ニ之ト行違ヒニ米仏兩國公使同道來訪船津ニ對シ今回財政總長ハ幣制改革問題ニ関シ關係国公使ヨリ提出シタル公文ノ趣旨ヲ國務院ニ misrepresent シタルニ付(關係国公使ハ金券條例ニ同意シ

タル如ク報告シタルヲ意味スルモノナリ)關係国公使ハ大總統ニ親謁シ財政部長ニ對スル不信任ヲ通告シ度右ハ英國公使トモ相談ノ結果同公使モ異存之ナキ次第ナルカ同公使差支アルニ付我等兩人連立來リタル儀ナルヲ以テ之ニ関スル日本側ノ意向ヲ承知シタシト述ヘタルニ付船津ハ一応本官ヘ報告ノ上改メテ何分ノ義返答スヘシト答ヘタル処米国公使ハ然ラハ成ルヘク速ニ運ヒ度ニ付明朝迄ニ首席公使ヘ何分ノ義通報アリ度旨ヲ述ヘテ引取リタル由尚其際船津カ本官ニ正確ナル意味ヲ伝フル為ト称シ米国公使ニ其所言ヲ繰返サシメ書取リタルモノ別電^(註2)ノ通りナリ徳川ハ米国公使不在ノ趣ニ付立去ラントシタルニ恰モ同公使帰來シタルニ付引還シ面会ノ上徳川ヨリ先ツ同公使帰任ニ對スル本官ヨリノ伝言ヲ述ベ同公使ヨリ船津往訪ノ趣旨ヲ簡單ニ披露シタル後雜談ニ移リ同公使ヨリ今回日本通過ノ際ノ感想其他ヲ述ヘ談偶々十月六日大阪毎日新聞所載同公使談話ニ関スル記事ニ及ヒタルヲ以テ徳川ハ漸次話頭ヲ支那ニ於ケル英字新聞ノ論調ニ向ケ過般「フアー、イイスタン、レビュー」及「ノース、チャイナ、デーリー、ニュウス」兩新聞ニ掲ケラレタル社説ニ言及シ南北妥協問題ニ就テハ芳沢代理公

使モ病床ニテ種々考慮シ居ラルルヤニ見受ケラレ同官ニ於テ親シク貴公使ト意見ヲ交換シ得サルコトヲ深く遺憾トシ居ラルルカ如シトテ暗ニ同公使ノ本件ニ関スル意見ヲ求メタルニ同公使ハ今日ノ現状ニ於テハ支那人自身ノ為スカ佩ニ任セ置キテハ到底統一ノ実ヲ挙クル見込ナキニ付早晚利害關係深キ諸國ヨリ協同シテ何等カノ措置ヲ支那政府ニ對シテ執ルコト必要ト思考スル旨ヲ語リタルニ付徳川ハ自分ノ承知スル所ニテハ代理公使(本官)モ其ノ一己ノ私見トシテハ同感ナルモノノ如シト述ヘタル処米国公使ハ右ノ趣承知スルコトヲ得タルハ自分ノ満足スル所ナル旨ヲ述ヘタルニ付徳川ハ英國公使モ略々同様ノ意見ナルヤニ見受ケラルル処果シテ其ノ通ナルヘキヤト輕ク尋ネタルニ米国公使ハ英國公使過日來ノ談片ヲ綜合シ右様觀察シ居レリト述ヘ又徳川ヨリ貴公使ハ最近本國政府当局者ト会谈セラレタルコトニモアリ該政府ノ意嚮ハ疾クニ御承知ノ次第ト存スル処右貴公使ノ御意見ハ本國政府ニ於テモ是認セラルヘシト信セラルルヤト尋ネタルニ米国公使ハ簡單ニ然リト答ヘタル趣ナリ

以上ハ曹汝霖不信任ト南北妥協トノ二問題ニ亘リタルモ英

国公使ニ於テ兩者ヲ関聯セシメテ語りタル為一通ノ電報中ニ併記シタル次第ナルガ、(一)曹汝霖不信任ノ件ニ就テハ本官ハ原来同人ノ人格乃至其遺口ニ関シ意見ヲ有スルモ之ハ別問題トシ兎ニ角同人ハ我方ガ支那南北ヲ通ジテ利用スベキ幾多ノ人物中ノ一人タルニ相違ナキト徳川ガ英国公使ニ對シテ申述べタル事情等ノ理由ニ依リ到底米仏公使等ノ提議ニ同意スルコト能ハザルハ申ス迄モナク從ツテ斯ノ如キ提議ハ結局之ヲ拒絶スルノ決心ニ有之、旁篤ト考量ノ上兎ニ角此際ハ一先別電第二^(註3)ノ通明十七日朝英国公使ニ回答シ置キ十八日會議ノ際本件問題トナリタル場合ニモ右同様ノ趣旨ヲ披露シ置キ愈々最後ノ場合ニ至ラバ不同意ヲ表スル考ナリ、將又(二)南北妥協モ亦十八日會議ノ際何等カノ形式ニ於テ討議セラルルヤ測リ難シト思料セラルル処、其場合ニハ我方ハ之迄入手シタル帝國政府ヨリノ諸報道ヲ綜合考究シタル結果トシテ帝國政府ノ立場ハ斯ク有ルベキカト思料スト前置シテ貴電第九三三^(註4)号御来示ノ趣旨ニ基キ然ルベク應對シ置クコトトスル考ナリ、尚英国公使ヨリ米仏兩公使ヘ申聞ケノ次第モ有ルニ付十八日ノ會議ニ於テ若シ曹汝霖一人ニ限ラズ支那政府施政一般ニ関スル兎角ノ議論有リ

タル場合ニハ目下臨時國務總理任命後間モナキコトニモアリ謂ハバ過渡内閣ノ時代ニ付愈々新内閣確立ノ後其治績ヲ見タル上ニ非ザレバ何等断乎タル処置ヲ執ルヲ可ナリト信ズル能ハズトノ趣旨ニテ然ルベク応答スルコトニ取計フ所存ナリ、就テハ明後十八日ノ會議(午後三時開會)迄ニハ間ニ合ハズトモ本電所報全体ニ對シ何等御意見ノ次第モ有ラバ今後折衝上ノ參考トシテ至急何分ノ義御電訓ヲ請フ。

註1 九月二十三日芳沢臨時代理公使發外務大臣宛第一二六八号ヲ省略セリ

2 3 別電(一)及(二)ヲ省略ス

4 外務大臣發芳沢臨時代理公使宛第九三三号ニ就テハ同代理公使十月十四日發外務大臣宛第一三九八号(五四文書)末尾ノ註參照

五九 十月十七日 内田外務大臣ヨリ 在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

徐總統就任ニ當リ日本政府ガ祝詞ヲ差控ヘ居

ル理由ニ付徐總統ニ説明方訓令ノ件

第九五〇号 至急

貴官若クハ貴官代理者至急徐總統ニ会见ヲ求メラレ今同總統カ我隣邦元首ノ榮位ニ公選セラレタルハ帝國政府ノ衷

心歡喜スル所ニシテ即刻ニモ正式ノ祝詞ヲ呈スヘキ筈ナルモ實ハ此際余リニ目立チタル祝詞等ノ交換ハ却テ南方派ノ北方ニ對スル猜疑ヲ深クスルノ動機ヲ与ヘ偶々目下徐總統ノ苦心計畫中ノ趣ナル南北統一ノ事業ニ累ヲ及ホスナキヤヲ懸念シ姑ク右ノ如キ措置ヲ差控ヘ居ル次第ナル旨ヲ帝國政府内訓トシテ程ヨク先方ニ徹底セシメ置カレタシ因ニ米國大統領ハ徐總統就任ニ對シ長文ノ祝電ヲ送リタル由ナレハ旁帝國政府ニ於テ此際右ノ次第ヲ申入レ帝國ノ深意ヲ諒解セシメ置ク要アル次第ナリ

六〇 十月十七日 在英國珍田大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

徐總統ニ對スル南方派ノ態度、北方軍閥ノ外

國借款利用等中国内争ノ狀態ニ関スル北京發

タイムズ通信要領報告ノ件

第八七八号

北京發十月六日付「タイムズ」通信要領左ノ通り

廣東政府ハ徐世昌ニ對シ挑戰シタルカ右ハ徐カ内乱平定後ニアラサレハ大統領ニ就職セストノ最初ノ声明ヲ食言セルニ對シ反對ヲ表明セルナリ南方ハ徐個人ニ對シ反感ヲ有セ

一 中国南北調停一件 六〇

ス寧ロ國會ニ関スル論争解決セラレシナラハ徐ヲ大統領ニ選舉シタリシナルヘシ現在ノ内乱ハ聯合國ニ於テ無責任者ニ對スル借款ヲ差止メサレハ容易ニ解決シ難シ北方軍閥ハ全ク借款ニ依リ地位ヲ維持スルモノニシテ如斯借款ハ極東ノ平和ヲ害シ泰西諸國ノ利益ヲ侵害スルモノナリ既報ノ滿州及山東ニ関スル鐵道借款ハ日本公使館ニヨリ確認セラレタルカ右ノ外更ニ日支合辦製鋼所ニ関シ一億円借款ノ成立セル報アリ是又軍閥ノ用ニ供セラルルナリ長江沿岸ノ督軍ハ時局救済ノ為南京ニ各省代表者會議開催ヲ計畫中ニシテ該會議ニハ聯合國調停問題提議セルルヘシ段祺瑞ハ新大統領就職ト同時ニ首相ヲ辞スル旨声明セルカ彼ハ尚參戰督辦トシテ留リ自由手腕ヲ振ハントスルモノノ如シ參戰督辦所ハ聯合國ノ為未タ何等貢獻スル所ナシ彼等軍閥ハ歐洲大戰ヲ無視シ独探ノ取締及敵人ノ拘禁ニ對シ何等ノ処置ヲナサス今日ニ至リ漸ク内容空虚ナル敵國人拘禁規則ヲ制定セリ有識者階級ニハ英米兩國指導ノ下ニ聯合國ノ調停ニヨリ平和成立前ニ内乱平定ヲ望ムノ傾向増加シツツアリ云々

六一 十月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在米国石井大使宛（電報）

徐世昌ノ總統就任ニ対スル米国大統領祝電ノ
要領通報ノ件

第四七六号

往電第四六九号徐總統就任ニ対スル米国大統領ノ祝電要領
ハ先ツ其就任ニ対シ祝辞ヲ陳ヘタル後支那ハ聯合与国ト協
力セムトスルニ先チ宜シク自国内部ノ統一ヲ計ラサルヘカ
ラス徐ノ就任ハ各派間ニ交譲ノ精神ニヨリ支那ノ妥協統一
ヲ見ルニ至ルヘキ最好ノ機会ナリト云フニ在リ
右在英仏伊各大使ヘ転電アリタシ

註 十月十八日外務大臣発第四六九号省略

六二 十月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛（電報）

南北妥協ヲ中国政府ニ勧告スルコトニ日本反
対ストノ北京発電報ノ出所調査方訓令ノ件

第九六五号

近来貴地発新聞電報ハ頻リニ日本一國カ支那政府ニ対スル
妥協提議若クハ勧告ニ反对シ居ル旨ヲ伝ヘ甚シキニ至リテ

南北政局ノ当路者亦何レモ内心妥協ノ成立ヲ希フノ模様ア
ルニ際シ日英米仏伊各国ヨリ支那南北ニ対シ共同シテ單純
ナル友誼の勧告ヲ与フルハ固ヨリ事ニ害ナキノミナラス或
ハ好個ノ刺戟ト為リ妥協ノ氣運ヲ促進スルノ望ナキニ非ス
ト思考スル旨ヲ述ヘ別電第五八八号ノ通り任国政府ニ提議
セラレ度尚会谈ノ模様電報アリタシ

右訓令トシテ在英仏伊各大使ニ至急転電アリタク尤モ本電前
段英國政府提案及之ニ対スル意見ハ任国政府当局者トノ会
談中言及スルノ必要ナキ旨注意ヲ付言シ置カレタシ又在米
大使ニ対シテハ本大臣ヨリ直接本電ノ趣旨ニヨリ電訓セリ
尚以上貴官ヘ訓令ノ次第ハ在本邦英國大使初メ米仏伊各大
使ニモ内話シ置ケリ御含迄

註 外務大臣発在英大使宛第五七三号（十月十五日発電）ハ十
月十日在本邦英國大使ガ内田外務大臣ニ提出セル覚書全文
ナリ（前出十月十一日外務大臣発在英大使宛第五六四号電
報末段参照）

（別電） 十月二十二日内田外務大臣発珍田大使宛電報第五八
八号
任国政府ニ対スル提議文

第五八八号（極秘）

一 中国南北調停一件 六三

ハ之日本カ南北一致スルヲ好マサル為ナルカノ如キ臆説ヲ
サヘ生シ居ル模様ノ処帝國政府ノ内意ハ往電第九五五号ノ
通ニシテ前記ノ如キ報道ノ伝ハルハ甚面白カラサルニ付テ
ハ斯カル報道カ如何ナル根拠ニ因リ奈辺ヨリ生スルカ事情
可然御確メノ上結果電報アリタシ

六三 十月二十二日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛（電報）

日英米仏伊共同シテ中国南北ニ対シ妥協ヲ友
誼的ニ勧告スルコトヲ任国政府ニ提議方訓令
ノ件

別電 同日内田外務大臣発珍田大使宛第五八八
号

任国政府ニ対スル提議文
第五八七号 極秘
往電第五七三号ニ関シ

貴官ハ至急英國外務大臣ニ面会ノ上右英國政府提案ニ付テ
ハ帝國政府ニ於テ慎重考慮ヲ尽シタルカ同提案ノ如ク抑圧
の措置ニ出ツルコトハ支那国民ノ反感ヲ挑発スルノ虞アリ
結局永續スヘキ妥協成立ノ基礎ヲ成スモノト認メ難キ旨篤
ト説示セラルルト共ニ今ヤ支那一般ノ人心ハ既ニ乱ニ飽キ

The continued civil strife which has divided
China for the last two years has been a source of
grave concern to the Japanese Government. It is as
harmful to the interests of foreign Powers, as it is
disastrous to the welfare of China herself, while
the general atmosphere of unrest which prevails in
the country encourages the malign activities of the
enemy and hampers the effective co-operation of
China with the Allies at this crisis of the world's
history. Careful survey of the situation in China
has convinced the Japanese Government that a seri-
ous attempt should now be made by the Governments
of Japan, Great Britain, France, Italy and the United
States, in the form of joint representation to the
leaders both in the North and in the South, to im-
press upon them the urgent and supreme importance
of arriving at an amicable settlement of their dif-
ferences, and of securing to China peace and unity
within the borders of the country. Nor is it possible
to point to anything which insurmountably stands
in the way of the desired reconciliation, if the leaders
of both contending factions should approach the

problem from a higher plane of thought than that of mere considerations of personal sentiment or of legal technicality. It should be made clear to them that the five Governments take no interest in the particular terms of adjustment, which it remains exclusively for the Chinese themselves to arrange. Assurances should further be given that the joint representation now suggested is of an entirely friendly nature, and does not contemplate any ulterior plan of intervention.

If the foregoing proposals should meet with the approval of the Government (the Government to which you are accredited), it is hoped that their representatives at Peking and at Canton will be instructed to act in the sense indicated, in concert with their colleagues of the Powers interested.

It is the intention of the Japanese Government that the form and other particulars of such representation shall be left for the representatives of the five Powers at Peking to discuss and to decide, having regard to the importance of avoiding all appearance of recognition to the political organiza-

tion at Canton.

(右和文)

極秘

過去二ヶ年ニ亘リ支那南北ヲ乖離セル内訌ハ帝國政府ノ深ク憂慮セル所ニシテ右紛争カ支那自身ノ康寧ヲ害シ同時ニ列強ノ利益ヲ損フモノナルハ何等疑フノ余地ヲ存セス今ヤ同国全般ニ亘ル人心不安ノ氣運ハ敵国側力奸策ヲ施スニ便ナラシムルノ虞アルト共ニ今日ノ如キ世界ノ危機ニ際シ支那ヲシテ其ノ与国ト有効ニ協力スルコト能ハサラシムルニ至レリ帝國政府ハ支那ノ現状ニ関シ篤ト觀察熟慮ヲ遂ケタル結果此際日英仏米五国政府共同シテ支那南北ノ主腦者ニ勸告ヲ与ヘ其ノ確執ヲ穩便ニ解決シ支那国内ノ平和及統一ヲ樹立スルコトノ緊急且最大ノ要務ナル所以ヲ慫慂感得セシムルノ拳ニ出ツルノ必要ナルヲ確信ス將又兩派主腦者ニシテ個人的感情若ハ法理的枝節ニ拘泥セス一段崇高ナル見地ヨリ本件解決ノ途ヲ講センニハ所期ノ如キ妥協ノ絕對ニ行ハレ難キ理由アルヲ見ス尤モ右妥協ノ条件如何ハ五国政府ノ問フ所ニ非ス全然支那人自身ノ手ニ於テ協定セラルヘキモノナルコトハ明瞭ニ知悉セシメ置カサルヘカラス且

又前記共同勸告ハ全然友誼のノモノニシテ何等内政ニ干渉セントスルモノナラサル旨ノ保障ヲモ与フルコトヲ要ス貴任国政府ニ於テ前頭提議ニ同意ノ上ハ北京及広東ニ於ケル貴任国代表者ニ対シ關係列国ノ同僚ト協力シ前記ノ趣旨ニ依リ行動スル様訓令セラレンコトヲ希望ス尚帝國政府ハ前記勸告ハ広東ニ於ケル政治団体ニ承認ヲ与フルガ如キ形ニ陥ルコトヲ避クルノ必要ナルニ鑑ミ其ノ形式及ビ細目ハ在北京五国代表者ヲシテ審議決定セシメタキ考ナリ

六四 十月二十二日 内田外務大臣ヨリ
在米国石井大使宛(電報)

日英米仏伊共同シテ中国南北ニ対シ妥協ヲ友誼的ニ勸告スルコトヲ米國國務卿ニ提議方訓令ノ件

第四八〇号(極秘)

貴官ハ至急米國國務卿ニ面会ノ上支那南北ノ紛争ハ今尚止マス徐新大總統ノ就任ニ対シ南方側ニ於テハ更ニ否認ノ声明ヲ為スニ至リタルモ支那一般ノ人心ハ既ニ乱ニ飽キ政界ノ当路者ハ南北双方共ニ内実妥協成立ヲ希フノ模様アリ唯

自己ノ面目ヲ維持シテ局面ノ展開ヲ図ルニハ未タ適當ナル機會ヲ得サルモノノ如ク推測セラルルニ付此際日英米仏伊各国ヨリ支那南北ニ対シ共同シテ單純ナル友誼的勸告ヲ与フルニ於テハ好個ノ刺戟ト為リ妥協ノ氣運ヲ促進スルノ望ナキニ非スト思考スル旨ヲ述ヘ別電第四八一号ノ通り任国政府ニ提議セラレ度尚會談ノ模様電報アリタシ又在英仏伊各大使ニ於テモ本電同様措置スヘキ旨電訓シ置ケリ又在英大使ニ対シテハ本大臣発同大使宛往電第五七三号英國政府提案ニ付テハ帝國政府ニ於テ慎重考慮ヲ尽シタルカ同提案ノ如ク抑圧的措置ニ出ヅルコトハ支那国民ノ反感ヲ挑発スルノ虞アリ結局永続スヘキ妥協成立ノ基礎ヲ成スモノト認メ難キ旨英國外務大臣ニ篤ト説示スル様訓令シ置ケリ尚前段貴官ヘ訓令ノ次第ハ在本邦英米仏伊各大使ニモ内話シ置ケリ御含迄

註 別電第四八一号ハ珍田大使宛別電第五八八号ト同文ニ付省略ス

尚外務大臣発在英大使宛第五七三号ニ付テハ前掲外務大臣發珍田大使宛第五八七号末尾ノ註参照

六五 十月二十二日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

和平促進会ノ結成状況ニ付及友邦ヨリ中国政
府ニ対シ南北妥協ヲ勸告スルハ未ダ其時機ニ
非ザル旨周自齊ヨリ船津ヘノ談話報告ノ件

第一四四六号

十月二十一日船津ハ周自齊ニ面会ノ序ヲ以テ近來喧伝セラ
ルル和平促進会ニ関シ其現況ヲ尋ネタル処周ハ梁士詒、朱
啓鈴及自分等ノ主張ニ基キ和平促進会ナルモノヲ組織スル
コトニ決シ目下同志ヲ糾合中ナルガ今日迄ニ賛成ヲ表シタ
ル主要人物ハ張謇、熊希齡、梁啓超、蔡元培、王寵惠等ニ
シテ此外在野ノ有力ナル人物ヲ網羅シ居リ外間ニテハ馮國
璋、黎元洪等モ加入シ居ル如ク伝フルガ右ハ事実ニアラズ
本会ハ直接官職ニ在ルモノハ成ル可ク之ヲ除外スル方針ニ
テ現ニ梁士詒、朱啓鈴ノ如キモ参議院正副議長タル關係上
表面ニハ名義ヲ出サザル筈ナリ本会領袖トシテ張謇ヲ推薦
スル事ニ決シ目下同氏ニ交渉中ナルガ同氏ノ承諾アリ次第
本会ノ趣旨ヲ各省督軍省長ハ申ス迄モナク省議會商務總會
各新聞社其他教育界農會等苟モ公共団体タル向ヘハ広ク打
電スル筈其際ニハ無論西南各省ニ対シテモ同様打電ス可シ
今日迄ノ所本会ニハ平和促進ニ関スル何等方案無シ一応各

津)一己ノ思付トシテ然ルヘク勸告ヲ試ムヘシト答ヘ置キ
タル趣ナリ 二十二日

六六 十月二十二日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協ヲ中国政府ニ勸告スルコトニ日本反
対ストノ北京発新聞電報ノ出所ニ付回電ノ件

第一四五三号

貴電第九六五号ニ関シ

在当地日本通信員ヨリハ御来示ノ如キ通信ヲ発シタルモノ
之ナキ様ナルモ過日英字新聞タル京津「タイムス」通信ニ
日本ハ北方ニ於テハ所謂西原借款ニ依リテ軍閥派ヲ援助ス
ルト同時ニ南方ニ於テハ台灣銀行ヲシテ南方派ヲ援助セシ
メ以テ自ラ兩派ノ勢力ヲ減殺シテ漁夫ノ利ヲ占ムルニ汲々
タル旨例ノ「ジァイルス」一流ノ毒筆現ハレ居ル(脱)外
国人中ニハ右ノ如キ説ヲ信スルモノモ之アルヘク旁御来示
ノ如キ新聞電報ノ出所ハ多分外人側ナルヘク且邪推ヲ廻セ
ハ最近西原借款ニ由来シテ日本ノ不評判ナルニ乗シ我方ヲ
中傷セントシテ裏面ニ於テ煽動ヲ試ミツツアルモノ之アル
ヤモ計リ難ク要スルニ最近当国在留外国人側ノ日本ニ対ス

一 中国南北調停一件 六六 六七 六八

方面ノ意見ヲ徴シタル上ニテ具体的方案ヲ立ツル計画ナリ
近來各友邦ヨリ支那政府ニ向ツテ南北統一ニ関スル友誼的
勸告ヲ提出スルアラントノ説アルカ自分一己ノ私見トシテ
ハ只今ノ所右ノ如キ措置ハ不必要ニシテ支那側トシテモ之
ヲ歡迎セサルヘシト信ス如何トナレハ徐總統ハ就任ノ際平
和の統一ヲ実行セントスルノ意思ヲ中外ニ宣布シ今ヤ銳意
其実現ニ勉メツツアリ在野ノ有力者亦同一ノ方向ニ向ツテ
奔走尽力中ナルコト明白ナルニ拘ラス平和の統一ノ勸告ヲ
提出スルハ頗ル無意味ナリト思料ス尤モ他面今尚段總理当
時ノ武力統一ヲ続行セント焦慮シツツアル向モアル由ナル
ニ付外ヨリノ力ヲ借りテ之ヲ抵制セントスルニ外ナラス
ト説ヲ為スモノアルモ右ノ如キ手段ニ訴フルハ支那自身ニ
テ到底成功ノ見込ナク万謀尽キタル後ナラハイザ知ラス今
日ハ未タ其時機ニアラスト信スル旨ヲ述ヘタル由ニテ梁士
詒モ殆ント周ト同様ノ談話ヲ為シタル後更ニ友邦政府ノ正
式勸告ニ付今日時期尚早ナリト信スルモ徐樹錚等ヘ貴下
(船津)ヨリ平和ノ促進ヲ妨害スル如キ行動ヲ為ササル様
友誼的忠告ヲ与ヘラルルコトヲ得ハ至極好都合ナリトテ其
幹旋ヲ依頼シタル由ニ付船津ハ最近ノ機会ニ於テ自分(船

ル風潮ノ一端ニ外ナラスシテ之カ対応策トシテハ結局往電
第一四五二号電票ノ通り速ニ英字新聞ヲ発刊スルヲ以テ最
善ノ方法ト思考ス

六七 十月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

中国南北調停ニ関シ帝國政府ヨリ英米仏伊ニ
提案ノ次第ヲ在中国英國公使ニ内話シ置ク様
訓令ノ件

第九七四号 至急

往電第九七一号ニ関シ

支那南北調停問題ニ付テハ從來貴官ト英國公使トノ間ニ所
見交換ノ行懸アリ殊ニ貴電第一二一六号ノ通り同公使ニ於
テ南北調停ニ付「Japan taking the lead」云々ト述ヘタル
次第モアルニ付旁々貴官ハ右往電第九七一号帝國政府提案
ノ次第内密含迄トシテ至急英國公使ニ内話シ置カレ度シ
註 外務大臣十月二十二日發芳沢臨時代理公使宛第九七一号ハ
同日外務大臣發珍田大使宛電報第五八七号ノ転電ナリ

六八 十月二十四日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

北京及広東ニ於ケル妥協共同勸告ノ文句形式
時機ニ関スル日本政府ノ意嚮通報ノ件

第九八〇号 (極秘)

往電第九七一号ニ関シ

北京及広東ニ於ケル共同勸告ノ文句形式時機等ニ付テハ追テ本件帝國政府提案ニ関シ列国ニ於テ同意ヲ表シ關係外国公使ニ於テ夫々本國政府ヨリ電訓ニ接シタル上ニテ貴地ニ於テ貴官トノ間ニ協議ノ運ト相成ルヘキ処右細目ニ関スル帝國政府ノ意嚮ハ左ノ通りニ付右ニ御含ミノ上適宜御措置アリタシ又貴地ニ於テ協議決定ノ上ハ關係各國公使ヨリ至急夫々在広東各自國領事ニ訓令スル様取計ハレ度シ

(一) 文句ハ大体往電第九七二号ノ趣旨ニ準拠スヘク又南北双方ニ対シ同様ノ文句ヲ用フルコト

(二) 形式ニ付テハ北京ニ在リテハ五國公使ニ於テ徐大總統ニ広東ニ在リテハ五國領事ニ於テ広東軍政府首席總裁タル岑春煊ニ打揃ヒ面会ノ上各本國政府ノ訓令トシテ前頭ノ趣旨ヲ申入レ宛名ナキ覺書ヲ先方ニ手交スルコトト致度右ニ付テハ日本カ支那ニ対シ最モ緊密ノ利害關係ヲ感シ且本件提案者タル關係モアリ又先年袁世凱政府ニ対シ帝制延期ノ勸

告ヲ為セル際ニ於ケル小幡代理公使ノ先例ニモ顧ミ右申入ニ付テハ北京ニ於テモ広東ニ於テモ成ルヘク日本側代表者ニ於テ發言スルコトト致度尚広東軍政府ニ対スル共同勸告ニ付テハ其ノ申入ノ為メ事實同軍政府ヲ承認スルカ如キ結果トナラサル様特ニ注意ヲ要スヘク右ニ付テハ湖南地方其ノ他ニ於テ各國民ノ蒙リタル損害等ニ付各領事ニ於テ事實上ノ地方權力団体トシテ南方側責任者ニ対シ屢々面談ヲ為シタル通り非公式交渉方法ニ準スルコト然ルヘキカト思考ス

(三) 時機ハ可成速ナルヲ要スルモ右ハ貴官初メ關係國公使ノ見込ニ一任スヘシ尤モ本件申入ハ北京及広東同時ニ行フコトヲ必要トスルニ付予メ在広東關係國領事トモ打合ヲ遂クルコトト致度又右申入ノ日取略々定マリタル上ハ確定前ニ一應当方ニ請訓アリタシ

右含迄トシテ在広東總領事ニ電報アリタシ尚本件帝國政府提案ノ次第ハ往電第九三四号英國政府提議ノ件要領ト共ニ当方ヨリ直接同總領事ニ電報済ナリ為念

註 外務大臣芳沢臨時代理公使宛第九七一号、第九七二号ハ十月二十二日外務大臣芳沢田大使宛電報第五八七号、第五

八八号ノ電報ナリ 尚外務大臣芳沢臨時代理公使宛第九三四号 (十月十一日發) ハ十月十一日外務大臣芳沢田大使宛第五六四号 (前掲) ノ電報ナリ

六九 十月二十五日

内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛 (電報)

中国南北妥協勸告ノ我方提案ニ付在本邦英國大使及米國大使ニ内話セル処兩大使共賛意ヲ表シタル旨通報ノ件

第九八四号 (至急)

往電第九七一号ニ関シ

十月廿三日在本邦英國大使ニ対シ帝國政府提案ノ次第内話シタル処同大使ハ大ニ賛意ヲ表シ又同日浦塩ヨリ帰京ノ米國大使ニ対シテモ同様内話セル処之亦同感ノ意ヲ表シ何レ本國政府ヨリ電訓アランモ不取敢自分ヨリモ「ラインシユ」公使ノ含迄ニ電報シタシトテ本大臣ノ同意ヲ求メタルニ付承諾シ置ケリ就テハ貴官ニ於テモ右ニ御含ミ置ノ上可然御応酬相成度シ

註 外務大臣芳沢臨時代理公使宛第九七一号ハ外務大臣芳沢田大使宛第五八七号ノ電報ナリ

七〇 十月二十五日

内田外務大臣ヨリ
在広東太田總領事宛 (電報)

在中国日英米公使ヨリ北京政府ニ対シ南北妥協勸告ヲ為スコトヲ在本邦英國大使ヨリ提議アリタル経緯通報ノ件

第五二号 (極秘)

十月十日在本邦英國大使ヨリ本國政府ノ訓令ニヨリ覺書ヲ以テ英國政府ハ新大總統ノ選舉ハ正ニ好機會ト認ムルニ付在支日英米仏四國公使ヨリ北京政府ニ対シ内争中止ノ上双方妥協ニ付共同勸告セムコトヲ帝國政府ニ提議スヘキ旨竝右妥協成立ニ至ル迄ハ一面北京政府ニ対シテハ関稅及塩稅收入ノ剩余ヲ同政府ニ交付セサルコトヲ聲明シ又右勸告ハ南方援助ノ意味ト見エサル為他面広東軍政府ニ対シテモ右兩稅押収スヘカラサル旨聲明スルコトト致度旨竝英國政府ハ右ニ対シ帝國政府ヨリ全然同意ヲ得ル迄ハ米仏兩國ニハ本件ヲ提議セサルヘク尚帝國政府ニ於テ右英國政府提議ニ同意ノ場合ハ帝國政府ニ於テ主導ノ地位ニ立チ米仏兩國政府ニ提議セラルコトニ異存ナキ旨申出テアリタルニ付支那南北妥協問題ニ付テハ夙ニ帝國政府ニ於テ種々考量中ノ

次第アル処此ノ際右英国政府提議ノ如キ妥協勸告ヲ為スハ考慮ヲ要スル旨竝本件ニ付テハ何レ帝^(註)国政府ヨリ開議スヘキ旨答ヘ置キタル行掛アリ仍チ今回往電第四八号ノ通り帝^(註)国政府ヨリ提議スルニ当リ英国政府ニ対シ同政府考案ノ如キ抑圧の手段ハ支那国民ノ反感ヲ挑発スルノ虞アリ結局永続スヘキ妥協成立ノ基礎ヲ成スモノト認メ難キニ付右英国政府提議ニハ帝國政府ニ於テ同意シ兼ヌル旨ヲモ申入ルル様珍田大使ニ電訓シ置ケリ御含迄

註 十月二十二日内田外務大臣発在広東太田総領事宛第四八号ハ同日在米国石井大使宛往電第四八〇号(但シ後段「又在英大使ニ対シテハ」以下ヲ削除)ノ転電ナリ

七一 十月二十五日 在米国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ニ関スル我方提案ヲ國務卿ニ伝ヘタル旨及同卿ノ応答振報告ノ件

第六二〇号

十月二十五日國務卿ニ会見ノ際貴電第四八〇号ノ趣意ヲ敷衍シ貴電第四八一号ノ覚書ヲ手交シタルニ國務卿ハ自分モ支那南北ノ形勢ニ関シ出来得ベクンバ何等カノ措置ヲ採ル

ノ必要アル可シト考ヘ居リ又在支公使ヨリモ同様ノ電報ニ接シ居リタルコト故帝國政府ノ提議ハ興味ヲ以テ審議ス可シト述べ提議中支那人ノ自負心ヲ重ンジ友誼的勸告ニ止メントスルノ点ニ関シテハ特ニ満足セルモノノ如シ在欧各大使ヘ転電アリ

七二 十月二十七日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

唐紹儀ガ上海又ハ南京ニ南北ノ代表者会合スルコトガ時局收拾ノ捷徑ナリ等語レル旨通報ノ件

第九九六号

十月二十五日目下滯京中ノ唐紹儀米省本大臣ト会谈セルカ其際唐ハ劈頭其ノ極端主義者ニアラサル旨ヲ述ヘ暗ニ妥協ノ意見ヲ抱持スルモノナルコトヲ仄カシタル後同人ハ徐總統ヨリ近頃招電アリタルトコロ先般來徐總統ハ和議促進ヲ趣旨トセル布告ヲ發布スヘシトノ議アルヤニ聞キ及ヒタルヲ以テ右招電ニ対スル回答旁徐ニ対シ此際斯ル挙ニ出ツルトキハ却テ論議ノ種ヲ時ク次第ニ付之ヲ見合ハス方得策ナル旨電報ニテ勸告シ置キタリト語り此際上海若ハ南京ニ

貴電第九八〇号ニ関シ(註)
(一)貴電第九七二号ハ往電第一四六三号電稟ノ通り既ニ郵便ニテ御發送相成リタルヤ

(二)徐大總統ニ対スル申入ハ先年帝政延期方勸告ノ際トハ行懸リヲ異ニスルノミナラズ目下四囲ノ事情自ラ當時トハ異ナルモノ有リ殊ニ累次報告ノ通り最近当国在留外国人間ニハ排日の風潮ノ澎湃タルモノ有ルノミナラズ米国公使ノ如キ又々如何ナル手段ニ出ヅルヤモ測リ難キ懸念モ有之、本官ニ於テ帝國政府御希望ノ存スル所ヲ拝察シ之ガ貫徹方ニ関シ全力ヲ尽スベキコト勿論ナルモ以上ノ諸点ニ顧ミ徐總統ニ対スル發言ノ方法ニ関シテハ御希望貫徹上十全ヲ期シ難キ場合無之ヲ保シ難ク旁万一ノ場合ヲ慮リ此義予メ御了承置キヲ請フ、將又広東軍政府ニ対スル申入ノ際ニ関スル御注意ハ至極御尤ナルモ軍政府ヲ承認スルノ結果ニ陥ラザル様余リニ注意ヲ廻ラシ之ガ為万一ニモ新政府ノ感情ヲ害スルコト勿論面白カラズ旁本件ハ多少「デリケート」ト認メラルルニ付右申入ノ際必要ノ場合ニハ所謂事実上ニ於ケル南方側權力団体ノ責任者ト云フガ如キ稍々空漠ナル名称ヲ使用シ得ルコトトセララル方或ハ可然カト存ズ

(尚唐ハ天津ハ余リニ北京ニ接近シ居ルニ付断シテ同地ヲ選フコトハ避ケタキ旨附言セリ)南北双方ヨリ予メ何等妥協条件ヲ齎スコトナク代表者ヲ会合セシメ公平自由ニ討議ヲ尽サシムルコト時局收拾上最捷徑ノ考案ト思考スル処自分(唐)ハ元來南方派ニハ相違ナキモ広東軍政府成立以來何等奔走セルコトナキヲ以テ自然自由ノ發言權ヲ有スル次第ニテ右會議開催等ニ関シ南方ヲ纏メ之ヲ代表シ得ルノ自信アル旨ヲ述ヘ尚余談トシテ南北妥協促進ヲ阻碍スルカ如キ借款ハ日本ニ於テ之ヲ差控ヘラレムコトヲ希望スト述ヘ尚本大臣ノ忠告ニ対シ仮令南方派力ヲ得ルトモ勢ニ乗シ之ヲ濫用スルガ如キコトナキヲ誓ヘリ唐ハ一週間以内ニ当地発一応上海ニ向フ旨付言セリ

右上海、南京、広東ヘ転電アリタシ

七三 十月二十七日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北兩派ニ対スル妥協勸告ノ場合徐總統ニ対スル發言ノ方法及広東軍政府ニ申入ノ形式ニ付請訓ノ件

第一四八〇号

英、仏、伊、米四国政府ト御協議ノ次第ハ何レナリトモ纏リタル分ヨリ其都度直ニ御電報相煩ハシタク、尚序々ラ本官ノ健康ハ今日迄ノ経過ニ顧ミ本件ニ関シ関係各公使ト具体的商議ニ入ル頃ハ勿論差支ナキ程度ニ達スベキ見込ナリ御参考迄ニ

右含迄トシテ広東ニ転電セリ

註 十月二十二日外務大臣兼芳沢臨時代理公使宛第九七二号ハ

大臣兼珍田大使宛第五八八号（六三文書別電）ノ転電ナリ

七四 十月二十七日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国南北妥協勧告ニ関スル我方提議ヲ仏国外

相ニ申入レタル件

第五〇五号

在英大使宛貴電第五八七号提議十月二十七日「ピジョン」氏ニ交付シ然ルベク説明敷衍シタル処自分トシテハ帝國政府ノ御意見ニ全然同意ナルガ米國政府ハ果シテ同意ナリヤ例ノ内政不干渉論ナドモアリテ如何カト思ハルト問ハレタルニ付同政府ニテモ同意ナリト承知スト答ヘタル処各國政府ニテ同意ナレバ無論日本政府ノ提議ニ同意スベシト云ハ

レタリ（二十七日）

在英米伊各大使ヘ転電セリ

七五 十月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛（電報）

章士釗來訪シテ日本政府ガ北方派ニ対スル借款差控ヲ宣言スルコトヲ希望シタルニ対シ中国南北ノ妥協コソ最急務ナル旨説示ノ件

第一〇〇一号

十月廿七日章士釗來訪唐紹儀ト共ニ不日出発歸國ノ積リナルカ日本政府ニ於テハ從來ノ如キ北方ニ対スル借款ニ当分差控ヘラルル方針ノ様承知シ居ル処此際明カニ之ヲ宣言セラルルコト出来間敷キヤト申出タルニ付本大臣ハ帝國政府ガ支那南北ノ妥協ヲ希望スル結果苟モ支那ノ内乱ヲ助長スルガ如キ借款ハ一切之ヲ差控ヘシメ居レル次第ハ今ヤ南北双方共ニ充分諒解シ居ルコトト信ズ從テ今更之ニ関シ差當リ何等宣言ヲ發表スルノ必要モナシト思惟スルモ如斯自制的ノ政策ニモ自ラ際限アリ且右ハ日本以外ノ各國ガ今後支那ニ対シテ執ルベキ態度如何ニモ關係アリ殊ニ戦後ニハ独逸モ加ハリ支那ニ角逐スル状況トナルヤモ計ラレズ又現在

トテモ繼續セル借款問題ノ外ニ新借款問題ノ起ル事モ予期セザルベカラズ殊ニ幣制借款改革借款ノ如キモノハ各國共同ノ問題ナレバ他國ニ於テ何等カノ行動ノ執ルニ立至リタル場合日本丈ケ独リ差扣ヘ居ル事不可能ナル状況生ズルヤモ計リ難シ況ンヤ前記ノ如ク各國ノ角逐開始ノ曉ニハ日本政府ノミガ其ノ資本案ノ活動ヲ抑制シ得ヘキニアラズ故ニ此ノ点ヨリ見テモ南北妥協ヲ速ニスルコトハ最必要ナル事ナリト答ヘタル処章ハ更ニ南北ノ和平會議ガ開カルル事トモナレバ借款問題モ同會議ニ一応附議スル事トナスコトハ出来難キヤト反問シタリ依テ本大臣ハ之ニ対シ右ハ同會議ノ性質ニモ依ルベク從テ今ヨリ明言シ難シト答ヘタル処章ハ更ニ日本ノ所謂支那通ナルモノガ支那各方面ニ策動シ居ル結果却テ支那ニ攪乱ヲ起スノ虞アリ依テ將來此等策士ノ活動ハ之ヲ阻止セラレタキ希望ナリト云ヒシニ付本大臣ハ此レモ畢竟南北乖離ノ結果其累ヲ受クルコト多キ次第ニ付何レノ方面ヨリ見テモ南北妥協ヲ促進セシメザルベカラズト答ヘ終ニ臨ミ章ハ南方側モ徒ニ議論ヲ重ネ居ル次第第二非ス必ズヤ御忠告ノ趣旨ヲ体シテ速ニ妥協ヲ遂グル様努力スベシト云ヒ之ニ対シ本大臣ハ単ニ本大臣ノミナラズ我政府

ニ於テハ南北妥協促進ヲ以テ目下ノ最大急務ナリト認メ居ル旨反覆縷述シ永年ノ友人タル伍廷芳、岑春煊等ニ対シテモ能ク本大臣ノ趣旨ヲ徹底セシメラレタシト云ヒシニ章ハ帝國政府ノ公正ナル態度ニ対シ深ク謝意ヲ表スル旨ヲ述ヘテ引取りタリ

右上海、南京、広東ニ転電アリ度シ

七六 十月二十八日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国南北妥協勧告ノ際在広東協商五國領事ノ

広東政府首席岑春煊トノ会見方法ニ関シ請訓

ノ件

第一八三号

外務大臣兼在支公使宛電報第九八〇号ニ関シ当地ニ於テ協商各國ノ（不明）五國領事ニ於テ広東軍政府首席總裁岑春煊ニ打揃ヒ面会ノ上云々ト之アル処在當地伊國總領事ハ嘗テ香港ニ駐在セシ処或ル事情ノ下ニ同地英國官憲ヨリ退去ヲ（不明）ラレ駐在地ヲ当地ニ移シタル行懸リ等モアリ当地英國領事等ハ同人ノ当地駐在ヲ認メ居ラズ、從テ從來協同的行動ヲ執リシコトナク今回右五國打揃ヒ面会ノ義ハ個

々ニ面会ノ上御来示ノ如キ覚書ヲ手交スルコトトセバ如何ナル可キヤ何分ノ義御電訓ヲ請フ
在支公使へ電報セリ

七七 十月二十八日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

田中陸軍大臣ノ命ニ依リ多賀大佐ヨリ個人的
ニ李純督軍ニ対シ南北有力者が自発的ニ南北
妥協會議ヲ開ク様勧告ノ件

第九二号

田中陸軍大臣ハ十月二十六日多賀大佐ニ電命シテ大要左ノ
通李純ニ通達セシメタル趣同大佐ハ小官ニ対シテ内話セリ
列国ハ支那ノ紛争止マザルヲ以テ今ヤ共同勧告ヲナサント
欲シ大勢玆に至レバ帝国ニ於テモ傍觀スル能ハザル所ナル
ガ外国ガ支那ノ内争ニ干渉ノ弊ヲ来スモノナルニ依リ喜ブ
ベキ次第ニ非ザルニ付テハ此際妥協条件ト云フガ如キハ之
ヲ第二ノコトトシテ先ヅ南北ノ有力者ヲ一箇所ニ集メテ妥
協會議ヲ開キ以テ自發的統一ノ端緒ヲ得ベキコトニ尽力セ
ラレ度ク而モ右ハ事情殊ニ切迫シ居ルニ付数日内ニ之ヲ決
スルノ必要アリト思考ス予ハ貴督軍ガ従来調停ニ努力セラ

レタル行懸リヲ思ヒ又貴我從來ノ好誼ニ鑑ミ玆ニ個人トシ
テ此言ヲ致スモノナリ、御意見ヲ伺ヒ度シ云々
在支公使へ転電セリ在上海總領事へ郵報セリ

七八 十月二十九日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

田中陸相ハ南北妥協ニ付青木中将ヲヲシテ徐世
昌等へ申入方電命セル趣ノ処右ハ内田外相ノ
承諾ヲ經タルモノナルヤ对华政策ノ運用ハ外
交機關ニ統一セラレタキ旨稟申ノ件

第一四八六号 極秘

十月二十八日青木中将ノ語リタル所ニ依レハ同中将ハ此程
田中陸軍大臣ヨリ列国ハ支那ノ紛争止マサルカ為近ク共同
勧告ノ拳ニ出デントシツツアリ斯ノ如キハ大局ノ為甚タ面
白カラサルニ付速ニ支那自ラ收拾ノ途ヲ講セラレンコトヲ
希望スル旨ヲ徐世昌及馮国璋等へ轉達シ右ニ対スル各自ノ
意見ヲ報告スヘキ旨ノ電命ニ接シタルニ依リ同中将ハ十月
二十八日馮国璋ニ之ヲ伝ヘ次テ今二十九日午後更ニ徐世昌
ヘモ伝フヘシトノ趣ノ処本件ハ南京發閣下宛往電第九二号
ニ於テ御承知ノ通り同時ニ多賀大佐ヲシテ李純ヘモ伝ヘシ

メタルト同一筆法ナルヘク陸軍大臣ニ於テハ勿論國家ノ利
益ノ為深く考慮セラルル所アリテ右ノ如キ電訓ヲ發セラレ
タルモノナルヘキモ實ハ右ハ過般來帝國政府ヨリ英國其他
聯合与國ト内密協議中ナル対支勧告ノ趣旨ヲ事前ニ支那側
ニ洩ラスノ嫌アルノミナラス万一斯カル消息ガ支那側ヨリ
英國其他ノ与國ニ洩ルルガ如キコト有ルニ於テハ(二十九
日ノ京津「タイムス」ハ「ルーター」通信トシテ日本ハ遂
ニ南北調停方ニ関シ聯合与國ニ提議セル所アル旨ヲ報ゼ
リ)國際信義ニ顧ミ帝國ノ立場ハ甚ダ望マシカラザル所ト
相成ルベク旁々本件ハ時節柄今後ノ成行ニモ影響スル所鮮
カラザルヤニ思料セラルル処右ハ予メ閣下ノ御承諾ヲ經タ
ル次第ナリヤ本官限りノ心得ノ為御垂示ニ預リ置キ度將又
事ノ序ニ申進度ハ曩ニ徐大總統ノ就任ニ際シ青木中将ヨリ
轉達セル陸軍大臣ノ祝電ナルモノハ其後貴電第九四六号ヲ
以テ右ハ何等カノ行違ナルベシトノ次第御回示ニ接シ居レ
ル処其後同中将等ノ了解ニ依ルモ右ノ祝電ハ矢張り同大臣
ヨリ發シタルモノト認ムルノ外ナシトノコトナリ御参考迄
ニ申添フ要之対支政策ノ運用ニ就テハ曩ニ往電第一三六四
号末段ニ卑見申添置タル通り能フ限り外交機關ニ於テ統一

方御配慮アラシコトヲ切望ス尚申上クル迄モ無キ事ナガラ
本電ハ本省御当局以外ニ洩ルルコト無キ様御配慮ヲ請フ

七九 十月三十日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

日本ノ对中国態度ニ対スル中国側ノ不滿ニ関
スル曹汝霖ノ談話報告ノ件

支極秘第七〇四号 (十一月二日外務省接受)

曹汝霖ハ昨日我謀報者ニ語テ曰ク和平統一ニ就テハ北方ニ
於テハ今ヤ一人ノ異議ヲ唱フルモノナキモ唯南方ハ北方ニ
対シ益々猛烈ニ反対シアルヲ以テ外国ニシテ若シ和平ニ関
スル勧告ヲ為サントセハ南方ニ向テ之ヲ為ササルヘカラス
梁士詒ハ周自齊ヲシテ切りニ外国ニ運動セシメツツアルモ
是レ畢竟將來自己ノ地位ヲ獲ントスルニ外ナラス副總統選
挙モ近日中ニ行ハルヘキカ其目的ハ之ニヨリテ北方ヲ固メ
ントスルニアリ唯梁士詒ニシテ依然反対スルニ於テハ又復
タ成立セサルヘシ

徐總統ノ対外方針ハ日支親善ヲ以テ第一要義トナスコト勿
論ナルモ玆ニ特ニ日本人ノ反省ヲ求メタキ件アリ即チ支那
ハ日本ニ信頼セントスルモ日本ニ大ナル決心ナキカ為メ支

那モ自然日本ニ対シ不信任ヲ感セサルヲ得サルニ至ル最近実例ニ就テ謂フモ金券問題ハ日本ノ前内閣ト予メ商議セシ所ナルニ日本ハ四国銀行団ト共ニ抗議シ来ルアリ又烟酒公売税ニ就テハ曩ニ支那カ米國ヨリ借款セントストテ之ヲ妨害スルニ努メ自ラ此權利ヲ希望シ居リシカ故今回日本ニ向ヒ商議ヲ提議シタルニ日本ハ四国銀行団ノ抗議ヲ恐レテ手ヲ出サス兎角日本ハ他國カ為スコトニハ妨害シナカラ自ラ手ヲ出サスト云フ風ナリ、此ノ如ク日本カ他國ヲ恐レテ躊躇逡巡スルニ於テハ支那ハ單リ日本ト相談スルノ頼ナキヲ思ハサルヲ得ス爾來支那人間ニ於テハ力ナキ日本ヲ相手トナスヨリハ寧ロ直接強國ト接スヘシト反對ヲナスモノアルニ至レリ是實ニ已ムヲ得サル次第ナリトス云々

八〇 十月三十日 齊藤在中国日本公使館付陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

中国ニ干渉セントスル日本提案ヲ英米兩國拒否セリトノ流説及日本ノ对中国和平勸告提議

ニ関スル京津タイムス社説報告ノ件

支普第二二〇号 (十一月二日外務省接受)

当地外交團ヨリ出テタリト云フ説ニ依レハ日本ハ支那ニ干

ニセル際親シク意見ヲ交換セル結果嘗テ馮ノ言ヘル所ト略同様ノ内容ヲ物語リタルガ憲法制定ノ一段ニ至リテハ南方議會ハ近ク期限モ滿了スルコトナレバ天壇ノ草案ヲ基礎トシ特殊ノ機關ニ依リテ是ヲ議定シ西南省ヨリ新ニ議員ヲ選舉シテ是ヲ北京ノ新議會ニ合併セシメ此議會ニ依リ右ノ議定案ヲ決定セシムル積リナリト云ヒ此ノ点ハ馮ノ語リタル所ト相違アリタル趣ナリ次ニ陸軍大臣ノ希望スル南京ニ南北ノ代表者ヲ集メ妥協条件ヲ議セシムベシトノコトハ一応尤モノ方法ナレドモ南方ヨリ責任アル代表者ヲ出サシムルハ頗ル至難ニシテ殊ニ双方ノ代表者ガ直接会見スルコトハ万一意見ノ衝突ヲ見ルガ如キ場合ニ忽チ決裂ノ虞アリ依ツテ自分ノ考ニテハ、ヤハリ間接ニ双方ノ意向ヲ取次ギ徐ニ接近セシムルニ如カズトナシ李純ヲ仲介者トシ特使ヲ各方面ニ派遣シ夫レ夫意思疎通ヲ計リツツアリト言ヘル趣ナリ、十月三十日

八二 十月三十日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政府ヨリノ海關收入剩余二百五十万兩引渡方要求ニ対シ聯合側代表者會議ニ於テ中国

一 中国南北調停一件 八二

涉セントシテ英米兩國ニ提議シタルニ兩國ハ何レモ日本ノ提議ヲ拒絶セリト又本日ノ京津「タイムス」ハ日本カ目下外國ニ対シテ支那ニ和平勸告ヲ為スコトヲ商議シツツアルカ晩播ナカラモ此考ハ可ナリ世上或ハ英米ノミニテ勸告スヘシト説クモノアルモ矢張り日本モ尚加入セシムルコト必要ナリ其ハ日本カ借款等ニ関シ支那ニ關係大ナレハナリ然レトモ其加入ニハ条件ヲ附シ戰時中日本カ表面經濟借款ト稱ヘ其實北方ニ便宜ヲ与ヘテ國內ノ争鬭ニ使用セシメタル借款ニ就テハ此際始末セシムルコト必要ナリトノ意味ヲ掲載セリ

八一 十月三十日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国ノ和平統一ニ関シ青木中將徐世昌ニ対シ田中陸相ノ希望ヲ伝ヘタル際ノ徐ノ応答振報

告ノ件

第一四九五号

青木中將十月二十九日徐世昌ニ面会往電第一四八六号ト同様ニ陸軍大臣ノ希望ヲ伝ヘタルニ徐ハ深く感謝ノ意ヲ表シ、次デ時局ニ関シテハ十月二十八日馮國璋等ト午餐ヲ共

南北戰爭終了迄引渡ヲ見合スコトニ決定ノ件

第一五〇四号

今般支那政府ヨリ海關收入剩余二百五十万兩引渡シ方關係國公使ヘ要求シ來レル処三十日往電第一五〇三号聯合側代表者會議ニ於テ本件ヲ合併セテ討議ノ結果目下ノ時局ニ顧ミ暫ク引渡ヲ見合ス方然ル可クトノ事ニ一決シ支那政府ニ対シ南北兩派ノ戰爭行為完全ニ終熄スル迄ハ本件海關收入剩余ノ引渡ヲ応諾シ難キ旨同文回答ヲ発スルト同時ニ一方在廣東聯合側領事團ニ対シ若シ前記各公使ノ措置ガ南方側ヲシテ同派ニ「フェーヴァー」ヲ与ヘタルモノナルガ如キ感触ヲ与フルノ虞アルニ於テハ然ル可キ方法ニ依リ何等誤解ナキ樣聯合側ノ趣旨ヲ説明ス可キ旨ヲ電訓スルコトニ決定シ追ッテ首席公使ヨリ夫レ夫レ前記同文回答案及ビ廣東宛電訓案ニ付同僚ノ同意ヲ求メ來ルコトナリタル趣ナルガ右ハ目下ノ事態ニ顧ミ頗ル時宜ニ適シタル措置ナリト認メ我方ニ於テモ同意ヲ表シ置キタル次第ニ付御含ミ置キアリタシ尚海關收入ガ他諸國ニモ關係有シタルノ事實ニ顧ミ本來外交團全部ノ問題トシ他中立國ノ議ヲモ纏ムル必要アル可シトノ意見モアリタルモ已ニ聯合側ニ於テ不同意ヲ

表明セバ結局本件ハ關係諸国一致ノ同意ヲ得難キコトナリ聯合側ノ主張ヲ貫徹シ得ルコトトナル可キニ付他中立国側トノ間ニ予メ打合セテ遂グルノ必要ナカル可ク只前述聯合側ノ方針ハ首席公使ヨリ遲滞ナク關係中立国公使ニモ通知置クコトニ話シ合テ遂ゲタル趣ナリ

八三 十月三十日 在米國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ニ關スル我方提案及西比利亞借款ニ關スル我方提議ニ付大統領ハ考慮中ナル旨國務卿談話ノ件

第六四四号

往電第六二〇号ニ關シ國務卿ニ其後詮議ノ結果ヲ問ヒタルニ同側ハ貴國政府ノ提議ハ目下大統領ノ手中ニアリ大統領ハ非常ニ取達中ニ付自然遲延ヲ来ス可キモ自分ハ過日モ述ベタル通賛成シ居リ大統領ニ於テモ異議アル可シト思ハズト答ヘタリ次デ本使ヨリ支那新聞ニ依レハ南方代表者一名米國ニ来リ南方政府承認方運動中ナルモノノ如シ何等カノ交渉ヲ受ケタルヤト問ヒタルニ國務卿ハ然ル交渉ヲ受ケタル事ナシ將來受クル場合ニハ在米支那公使ノ紹介ニアラザ

八五 十月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在広東太田總領事宛(電報)

中国南北妥協勸告ノ際五國領事打揃ヒ広東政府側ヘ申入望マシキ旨回訓ノ件

第五三三号

貴電第一八三三号ニ關シ

可成ハ五國領事打揃ヒ支那側ニ申入ルコトト致度ニ付愈々勸告ノ運ト相成タル場合ハ一応右ニテ打合テ遂ケラルルコトト致尤モ事情已ムヲ得サル場合ニハ御来示通り個々ニ面会ノ上覚書手交ノコトニ取計ハレ差支ナシ
右含迄トシテ北京ニ転電アリタシ

八六 十月三十一日 在仏國松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ニ關スル我方提案ニ利害關係与国皆賛成ナラバ仏國モ之ニ同意スト仏国外相ヨリ回答越ノ件

第五二二二号

往電第五〇五号ニ關シ

仏国外務大臣ヨリ十月廿九日附ヲ以テ左記要領ノ回答ヲ送

一 中国南北調停一件 八五 八六 八七

レバ面会シ難シト答フルノ外ナシト語レリ(西比利亞借款ニ關シ帝國ノ提議モ等シク大統領ノ手ニアリ本件ト共ニ大統領ヲ催促シ可成早ク回答ス可シト語レリ)

八四 十月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

中国南北兩派ニ対スル妥協勸告ノ場合ノ発言方法其他ニ關スル件

第一〇一三三号

貴電第一四八〇号ニ關シ

(一)往電第九七二号提案英文ハ已ニ十月廿五日郵送セリ
(二)成ルヘク我方ヨリ發言スルコトト致度モ情勢万已ムヲ得サル場合ハ全然我希望通りノ運トナラストモ致方ナシ又広東軍政府申入ニ付注意ノ件ハ往電第九八〇号(二)ノ通り宛名ナキ覚書ヲ先方ニ交付スル次第ニ付何等御来示ノ如キ名稱ヲ用ユル必要モナカルヘシト思考ス(三)英仏伊米四國政府一応ノ回答ハ屢次ノ転電ニヨリ御承知ノ通りナリ尚各國政府ヨリ確答ニ接シタル上ハ直チニ電報スヘシ
右含迄トシテ広東ニ転電アリタシ

リ越セリ

仏國政府ハ南北調停成立スルニ於テハ現下ノ大動乱ニ対スル支那ノ協力ヲ更ニ有効ナラシメ又支那ヲ攪乱スル騷擾ノ終局ヲ告グ可キヲ信ジ利害關係与国ニシテ總テ参加スルニ於テハ日本政府ノ提議ニ係ル措置ニ加ハルニ異議ナシ
在英、米、伊各大使ヘ転電セリ

八七 十一月一日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

列國ノ中国南北妥協勸告ニ対スル広東政府ノ態度ニ關スル情報報告ノ件

第一八六号

軍政府内部ヨリ得タル情報ニ依レハ現在軍政府ニテハ列國ノ和議勸告ノ噂ニ關シ極メテ注目シツツアル由ニテ軍政府及總裁ノ意見ニテハ若シ外國ノ力ニ依リテ北方ト和議セハ南方各方面非難ノ的トナリ殊ニ民友社方面ヨリ激烈ニ攻撃セラルヘクサリトテ又和議ヲ捨テテ主戰ノ態度ヲ執ルトスルモ前敵將士ハ既ニ和ヲ主張シテ命ヲ聞カス(譚浩明等議和ノ主張ヲ指ス)且外國ニ信ヲ失スルニ至ルヘシト為シ目下進退極マルノ立場ニ在リト列國ノ和議勸告ニ關シテハ

一 中国南北調停一件 八八 八九

一、英米二国ノ共同勸告二、日本カ主導トナリテ列国共同勸告スルコトトノ二説当地ニ伝来シツツアルカ兎ニ角軍政府ニテハ早晚列国ノ勸告アルヘキコトヲ予期シ何事カ考究シツツアルモノト思ハル尚聞ク所ニ依レハ当方一部人士中（梁士詒系ノ人物及海軍側ノ一部ト称セラル）此際英米二国ニ南北調停ヲ依頼スヘシト為シ各方面ニ運動シツツアルモノアリト

北京、上海へ電報セリ

八八 十一月一日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
福田参謀次長宛（電報）

徐樹錚ノ日本陸軍大演習陪観ノ為ノ渡日ヲ中

止セシムルハ得策ニ非ザル旨稟申ノ件

支極秘第七〇五号 至急

三十一日發徐樹錚大演習参列ニ関スル貴電敬承「徐」ノ日本行ニ就テハ曩ニ田中次長ヨリ來電（第三一九号ノ次第）アリタルニ依リ今回ノ大演習陪観ニ関シテハ本職ヨリハ毫モ勸誘シタルコトナク段芝貴病氣ノ為徐總統ヨリ其ノ代リトシテ彼ヲ任命セシモノニテ其ノ趣ハ過日曹汝霖ヨリ内報シ又昨日「徐」ヨリ公式ニ通知シ來リタル次第ニテ今日之

ヲ中止セシムルコトハ左ナキダニ我國ノ態度ニ不安ヲ懷ケル總統始メ北京政府ヲシテ益々我國ヨリ背離セシメ面白カラサル結果ヲ生スヘシト思考ス彼カ渡日中ノ行動ニ就キ世人ノ疑惑ヲ去ル為ニハ別ニ方法モアルヘシト思考セラルルニ付殊ニ昨日アタリヨリ新聞ニモ発表セラレアレハ今回ハ此ノ俟彼ノ参列ヲ歡迎相成様致度出發期日モ切迫シ居レハ至急指示ヲ乞フ

八九 十一月二日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

広東国会ヨリ米国会宛ニテ南方派護法各省

ノ戦フ目的ヲ説明セル電報発信ノ件

第一八九号

往電第一八七号ニ電報ノ通り当地国会ヨリ米国々々會ニ宛テ護法ノ態度ヲ明カニスル電報ヲ發スルコトニ関シ十一月一日兩院聯合會ニ於テ之ヲ議決ノ上大要護法各省ノ戦フ所以ハ永久ノ平和ノ為ニシテ其目的ハ協約國ガ独逸ニ対スル戦ト同シ今日協約國ニ和平ノ機會アルニ拘ハラズ尚堅持シテ正当合理ノ和平ヲ求メントスルモノハ即チ永久ノ和平ヲ求ムル所以ニシテ支那ノ現状モ全ク同シキコト竝南方一年以

徐總統ハ各省軍隊整理ノ為米國資本家ヨリ一
大借款ヲ得ントスル計画ナル旨ノ諜報報告ノ
件

天電第一三九号

当地謀者ノ報ニ依レハ徐總統ハ今回督軍等ヲ召集シタル中央會議ニ於テ時局調和問題、内政及外交ノ刷新、中央ト地方トノ意思ノ疏通等ヲ討究セントスル由ナルカ尙軍隊整理案ヲ提出シテ贊同ヲ求メント欲シ其ノ案通過スレハ梁士詒、孫寶琦ヲシテ米國資本家ニ一大借款ヲ交渉セシメ其ノ資金ヲ以テ各省軍隊整理ヲ行ハントスル計画ヲ有ス而シテ此ノ借款ハ第三国ノ妨害ヲ避クヘク「梁」「孫」二名ニ全權ヲ与ヘ財政、外交部ヲシテ直接米國資本家ト折衝セシメントシ徐世昌ハ軍隊整理ニ就キテハ堅キ決心ヲ有セルモノノ如シト

（附箋）

本件貴方ヨリ北方ニ於テ梁孫等ニ夫レトナク實シテ防ノ手段ヲ講シ置カシメラルルノ要ナキカ、「ウイルソン」石井大使ノ談話ニ顧ミ必無ト断シ難シ（小生一個ノ私見ニ止マルコトヲ含マレタシ）

本庄生（印）

公使、上海へ電報セリ

註 十一月一日太田總領事發第一八七号ハ十月三十日広東ニ於ケル国会兩院議員聯合茶話會ニ於ケル南北妥協問題ニ就テノ話合ニ関スル報告電報ナリ省略セリ

九〇 十一月二日 石光天津軍司令官ヨリ
上原参謀總長宛（電報）

一 中国南北調停一件 九〇

小村大兄

(欄外註記) (註 外務省係官ノ記入セルモノ)

「之ハ無論政治借款ナリ然レトモ各国共内乱継続ノ虞アル借款ハ一時差控フルコトニ申合セテハ如何(西比利亞借款ノ例モアリ)」

九一 十一月二日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ中国南北妥協勸告ノ提案ニ応ジ同僚ト

協議スベキ旨在中国公使ヨリ申出ノ件

第一五一五号

貴電第一〇〇三号ニ関シ

十一月二日公使館二等書記官同公使ノ命ニ依リ来館同公使ハ本国政府ヨリ帝國政府ノ提議電示ニ接スルトトモニ何時ニテモ我方ノ提議ニ応シ同僚ト協議ヲ遂ゲ差支ナキ旨ヲ告ゲ唯同公使一個ノ意見トシテハ本件ハ往電一四七八号ノ件ニ関スル大總統謁見ト相關聯セルガ如キ誤解ヲ惹起サルタメ是カ支那側ヘノ申出実行ハ往電一五〇三号ノ次第モアリ今後ノ經過ニ依リ該問題一段落ヲ見タル上トスル方可能キヤニ思考セラルトノコトナル旨申添ヘタリ御参考迄ニ尚貴電一〇一三号末段(三)ニ関シ伊國政府一応ノ回答ハ未

タ転電ニ接シ居ラス念ノ為メ

(大正七年十一月三、前〇、一〇奉天經由)

註 十月二十九日内田外務大臣發第一〇〇三号ハ前掲在松井

大使來電第五〇五号ヲ転電セルモノナリ

尚芳沢代理公使發内田外務大臣宛電報第一四七八号及第一

五〇三号ハ日本外交文書大正七年第三冊中ニ採録セラレタリ

九二 十一月三日

内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

聯合側代表者會議ニ於テ海關收入剩余金ノ對

中国引渡ヲ見合スル旨ノ決定ヲ為スニ至レル

裏面ノ事情詳細電報方訓令ノ件

第一〇二七号

貴電第一五〇四号ニ関シ列國カ支那ニ對シテ有スル債權ノ担保ヲ保全スルノ見地ニ基カス別ニ政治上ノ目的ヲ理由トシテ海關收入剩余ノ引渡ヲ拒ムハ明ニ内政ノ干涉ニシテ列國ノ支那ニ對スル共同監督ノ端ヲ開クノ嫌ナキ能ハス元來英國政府ハ政機密送第一五四号往信添付實書中ニモアル通徐總統ノ就任ヲ機トシ圧迫ヲ加ヘ妥協ヲ促進セシムヘキ意向ヲ有シ海關及塩稅收入引渡見合セ方ヲモ提議シ来レル処

昨日孫文ニ面会其談ニ曰ク、

唐紹儀ハ人ヲ派シテ来ル廿日頃出發歸國ノ考ナル旨、及ビ其計畫トシテハ何等具體的条件ヲ定メズ各方面代表有力者ノ会合ヲ試ミ時局ヲ解決セントスルニ在ル等申越シタルモ、自分トシテハ此種会合ニ反對スル理由ハ毫モ之無キモ然カモ右会合ガ飽迄護法ノ精神ヲ尊重スルモノナラザル可カラズ即チ旧國會ヲシテ憲法ヲ制定シ終ラシメ、及ビ改メテ大總統ヲ選舉セシムルノ二条件ヲ以テ妥協ノ基礎トスルヲ要ス可ク、若シ然ラザルニ於テハ單ニ南北軍閥者間ノ妥協タルニ止マリ、永久ノ和平ハ望ミ得ベカラズ、故ニ日本トシテハ此際支那及ビ其自國ノ為、斷乎干涉マデノ決心ヲ以テ右二条件ヲ命令シテ解決セシメラレンコトヲ希望スト言ヒ、伍廷芳、岑春煊等ハ旧官僚ニシテ、岑ノ如キハ廣東ニ於テ毫モ實權ヲ有シ居ラザル結果旧國會ヲ犠牲トスル等如何ナル条件ニテモ妥協ヲ希望スルナルベク、唐紹儀ハ彼等ヨリ幾分事理ヲ解シ居レルモノト認ムルモ自分ハ彼ニ重キヲ置カズ偏ニ日本ニ重キヲ置クノミ、今次會議ノ成否ハ一ニ日本ノ態度ニ懸レリト為シ、尚廣東ニ於テハ北方側ハ頻ニ議員ノ買収ヲ試ミ居ル様子ニシテ右ハ到底成功ス間敷キ

帝國政府ハ往電第九七一号ノ通圧迫の態度ニ出テスシテ南

方双方ニ對シ妥協ノ勸告ヲナサンコトヲ希望シ目下聯合各國ニ協議シツツアル此際南北妥協ノ成立ニ至ル迄ハ關稅剩余引渡ノ見合セラ見ントスルニ至レルハ何トナク帝國政府ノ裏ヲ掻クカ如キ措置トモ解セラレサルニアラス將又支那參戰義務不履行ニ関シ貴電第一四七八号ノ如キ提議ヲ見殊ニ当初ハ同會議ニ於テ南北妥協問題ヲモ討議セントスルカ如キ形勢ニ在リ且又今回ノ列記事項中ニハ事實上過去ニ於ケル日本ノ態度ニ對スル非難トモ認メ得ヘキモノヲ含ムカ如キコトモアリ要スルニ如上ノ形勢ハ何レモ支那ニ於ケル帝國ノ立場上甚タ面白カラサル次第ト思考スル処右ハ如何ナル動機及成行ニテ茲ニ至レルヤ裏面ノ事情詳細電報アリ

註 日本外交文書大正七年第三冊ニ採録セラレタリ

九三 十一月四日

在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

孫文南北妥協ノ基礎タルベキ条件ニ付語り日

本ノ支持ヲ要望ノ件

第一五四号

一 中国南北調停一件 九三

ト考フルモ議員ニシテ遂ニ軟化スルニ至ラバ自分トシテモ止ムヲ得ザルコトト諦ムル外ナク、然モ議會ヲ無視シテ行動シ能ハザルヲ覺リ始メタルヲ喜ブノミト苦笑シ、戦後「アングロサクソン」ノ活動ヲ予期シ日支ノ提携ノ急務ナルヲ説キ切ニ日本ノ勇斷ヲ望ム旨ヲ繰返シ居タリ
北京、広東、南京へ電報セリ

九四 十一月四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内国外務大臣宛(電報)

列国ノ中国南北妥協勸告ハ其時機ニ非ザルモ
南方ヲ交戦団体ト認ムルコト無ケレバ差支ナ
シト梁士詒船津へ談話ノ件

第一五二五号

十一月四日梁士詒用談アリトテ船津ノ来訪ヲ需メ最近日本ニ於ケル有力ナル実業家(外交調査会委員ニモ常ニ接近シ居ルモノナリト附言シタル由)ヨリ接手シタル消息ニ依レバ日本ハ協約国ト聯合シテ支那政府ニ平和的南北統一ニ関シ勸告ヲ提出セント計畫シ居ラルル由同時ニ我が政府部内ヨリモ略々同様ノ消息ヲ仄聞シタルガ右果シテ事実ナリヤト問ヒタルニ付キ船津ハ全然否認スルハ却ッテ面白カラズ

テ効ヲ奏スルヤ否ヤハ自分ニ於テモ未ダ確信ナキモ六七分通りハ成功スルナラントモ期待シ居レリト述ベタル由ニ付船津ハ協約国聯合勸告囑ノ如ク実現セラレ仮ニ其効果ナシトスルモ其原因南方側ノ態度強硬ナルニ在リトスレハ列国ノ同情ハ中央政府ニ集マリ之ニ反シ南方側ハ列国ノ反感ヲ買フノ結果ヲ来スヘク結局北方ニ執リテハ利スル所アルモ何等損スル所ナカルヘシト述ヘタルニ梁ハ御説ハ至極尤モナルモ協約国ハ或ハ南方側ヲシテ交戦団体ト認メラレタリトノ觀念ヲ懷カシムルノ結果ヲ来ササルヤヲ恐ルト述ヘタルニ付船津ハ仮ニ協約国カ勸告ヲ提出スル場合アリトスルモ南方側ヲシテ右ノ如キ誤解ヲ起ササラム様相当ノ措置ヲ施スナラント信スル旨ヲ答ヘタルニ梁ハ夫レナラハ差支ナカルヘシ自分ハ決シテ列国ノ好意的勸告ヲ拒絶セントノ意思アル次第ニ非ズ唯其效果ナカリシ際各国ハ更ニ如何ナル第二ノ「ステップ」ヲ執ラルルヤヲ知ラント欲セシノミト述ヘタル趣ナリ尚昨三日平和期成会合ノ際熊希齡ハ其後引続キ内争ヲ繼續スルトキハ必ス列国ノ内政干渉ヲ招クノ虞アルニ付此際極力一日モ速ニ平和的統一ヲ実現セサルヘカラサルトノ趣意ヲ痛論セル由ナリ

ト考ヘ未ダ帝政府ヨリ如斯問題ニ関シテ的確ナル訓令無キ模様ナルモ新聞其他各方面ノ消息ヲ綜合スルニ帝政府ニ於テハ御話ノ如キ計畫アルヤニ推測セラルル節ナキニ非ズト極メテ曖昧ニ答ヘ若シ右果シテ事実ナリトスレバ是ニ対スル貴下ノ意見如何ト反問シタルニ梁ハ過日モ御話シタル如ク南北調停ニ関シ貴国ヨリ勸告ヲ提出セラルルハ未ダ其時期ニ非ズ如何トナレバ徐總統ヲ初メ官民拳ツテ今ヤ極力平和ヲ促進スルコトニ奔走中ナリ現ニ平和期成会ノ如キ昨日湖広会館ニ会合シ協議ノ結果熊希齡ヲ会長ニ蔡元培ヲ副会長ニ選舉シ今後着々平和促進ノ実ヲ挙クル筈ナリ今日正副会長ヲ始メ同会ノ有力者タル莊鑑寬、汪有齡、張一鶚、王克敏、谷鍾秀等七人徐總統ニ会見シ同会今日迄ノ経過ヲ報告スルト同時ニ今後ノ行動ニ関シテモ打合ヲナス筈ニテ同会ニハ自分モ裏面ニ在リテ極力援助ヲ与ヘ居レリ。斯ノ如ク我官民折角平和ノ促進ニ尽力中ナルヲ以テ各国ハ今暫ク其成行ヲ觀望セラルル方然ル可クト存ス尤モ南方側ニハ御承知ノ通り徐總統討伐令發布ヲ主張シ或ハ海南島ノ如キ今猶銳意戦闘ヲ繼續シ北方側ノ平和的態度ヲ全然無視セル如キ過激ノ分子モ之レ有リ右平和期成会ノ運動が果シ

九五 十一月五日 内田外務大臣ヨリ
在米国石井大使宛(電報)

広東国会ヨリ米国会宛ニテ南方派ノ対北方
派戦争目的ヲ米国ニ懇ヘタル電報発信ノ趣意
通報ノ件

第五〇七号

十月三十日広東ニ於テ国会両院議員聯合茶話会開催セラレ永久ノ合法的和平徐總統ノ退位北京国会ノ解散昨年六月ノ旧国会解散命令ノ取消等ヲ議シタル際米国会ニ対シ永久の平和ヲ希望スル旨ノ電報ヲ発スルコトヲモ決議シタル処更ニ本月一日ノ聯合会ニ於テ討議ノ結果支那ノ現状ハ協約国カ独逸ニ対シ合法永久ノ平和ヲ求メンカ為戦争ヲ繼續スルト同様ニシテ約法及国会ノ効力ヲ恢復スルコト支那ノ時局解決ノ唯一ノ弁法タルコトヲ述ヘ以テ米国ニ訴フル旨ノ電報ヲ發シタルカ右ハ南方カ米国ニ対シ南北問題ノ解決ヲ依頼スルトカ又ハ米国ト結ハントノ意アルニハ非スシテ米國大統領ノ対独回答中ニ世界永久ノ平和ヲ云々シ居ルニ関聯シ支那ニ於ケル永久平和ヲ希望スル点ヨリ南方ノ立場ヲ訴ヘタル迄ニ過キサル趣ナリ御参考迄

九六 十一月五日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

海關收入剩余金二百五十万兩ノ中国側へ引渡
拒絶ニ関スル聯合側各国公使ヨリ中国政府へ

ノ同文回答報告ノ件

附屬書一 在中国英国公使ヨリ供覧ノ右同文回答案

二 十一月四日付在中国芳沢臨時代理公使ヨリ陸

外交総長宛書翰写

海關收入剩余金引渡応諾シ難キ旨回答ノ件

機密第四三二号

(十一月十二日接受)

大正七年十一月五日

在支那

臨時代理公使 芳沢謙吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

今般支那政府ヨリ申出有之候海關收入剩余貳百五十万兩引渡方ニ対シ聯合側使臣會議ニ於テ討議ノ結果之ヲ拒絶スルコトニ決定シタル次第ハ往電第一五〇四号具報ノ通ニシテ又右申合ニ基キ外交総長ニ対シ聯合側各国公使ヨリ同文回答ヲ發シタル次第ハ是亦往電第一五二七号既電ノ通ニ有之

候処本件ニ関シ英国公使ヨリ供覧シ来レル同文回答案ハ別紙甲号写ノ通ニシテ又右ニ基キ本官ヨリ外交総長ニ送致シタル公文ハ別紙乙号写ノ通ニ有之候間御査閱相成度此段及報告候也

註 十一月五日芳沢臨時代理公使發第一五二七号省略

(附屬書一)

甲号写

在中国英国公使ヨリ供覧ノ对中国政府同文回答案

November 1918.

Sir,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note of the 24th ultimo in which you request the consent of the Diplomatic Body to the proposal of the Ministry of Finance to transfer a sum of Shanghai Taels 2,500,000 from the surplus Customs revenues to meet its own requirements.

The Allied Representatives have given careful consideration to this communication and desire to offer the following observations in reply.

The armed conflicts which have continued for more than a year between the forces of the North

(附屬書二)

乙号写

十一月四日附在中国芳沢臨時代理公使ヨリ陸外交総長宛書翰

翰

海關收入剩余金引渡応諾シ難キ旨回答ノ件

第二七七号

以書翰致啓上候陳者海關收入剩余ノ内二百五十万兩引渡方ニ関スル財政部ノ申出ニ対シ關係各国公使ノ同意ヲ得度旨客月二十四日附貴翰ヲ以テ御來照ノ趣致聞悉候

本件ニ関シ聯合各国公使ハ慎重ナル考量ヲ遂ケタル結果左ノ通其所見ヲ開陳致度候

過去引統一箇年以上ニ迫ヘル南北両軍ノ兵戦ハ国内ノ大部分ニ亘リ外国人ノ旅行ヲ不安ナラシメ諸地方ニ於ケル事態ハ外国人ノ生命及財産ヲシテ極メテ危殆ニ陥ラシムルニ至リ一方數省ニ於ケル貴國住民ニ於テモ亦内争ニ伴ヒ有ラニル惨苦ヲ被リ貴國人民竝ニ一般外国人ニシテ殆ト忍ビ難キニ至レル此事態ヨリ救済セラレムコトヲ求ムルモノ少ナカラサル有様ニ有之候

I feel confident that Chinese Government will appreciate the friendly motives which have led my Allied Colleagues and myself to come to a decision which is, we believe, conceived in the true interests of China.

為メ其ノ最善ノ努力ヲ竭ササルヘカラサル道德的義務ヲ負フモノト思惟スル次第ニシテ隨テ右ノ見地ニ基キ各自国民ノミナラス等シク貴国人民ノ利益ノ為メ双方ノ敵對行為全ク終熄スルニ至ル迄ハ海關收入剩余ノ引渡ニ応スルカ如キハ乍遺憾妥當ノ措置ナリト思料難致次第ニ有之候本官ハ貴国政府カ他聯合國各同僚並ニ本官ヲシテ本官等ノ確信シテ以テ貴國ノ為メ真正ノ利益ト認ムル上記ノ如キ決議ヲ為サシムルニ至レル友好的動機ハ之ヲ諒トセラルヘキヲ信シテ疑ハサル者ニ有之候

此段照覆得貴意候 敬具

大正七年十一月四日

芳沢臨時代理公使

陸外交総長宛

九七 十一月五日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政府ヨリノ海關收入剩余金引渡要求ノ拒

絶ニ関シ南方側ヘ説明方在広東總領事ヘ電訓

ノ件

第一五二九号

ニ不快ヲ与フルト同時ニ南方ノ氣勢ヲ揚クルノ結果ヲ来スヘキニ付此点大ニ注意ヲ要スト述ヘタリ本使ハ我提案ニモ此点ニ注意シ南方団体承認ニ亘ルヘキ一切ノ措置ヲ避クヘキ点ニ重キヲ措キアルコトヲ指摘シタルニ國務卿ハ南北双方ニ勧告ヲ与フルコト自体既ニ此嫌アレハ勧告ハ北京政府ニ對シ行ヒ其寫ヲ南方ニ与ヘルコトト為ス方然ルヘキカト云ヒタルニ付本使曰ク斯クテハ南北調停ノ体ヲ為サス却テ誤解ヲ来スヲ恐ルト國務卿曰ク北京政府ニ与フル勧告文ノ書キ様ニ依リテハ同時ニ南方ニモ勧告ヲ加味セシムルコト不可能ニアラサルヘシ要ハ書キ様如何ニアリ就テハ右ハ重要ニシテ出先キ代表者ニ一任スルコト好マシカラサルニ付貴大使ト自分トノ間ニ各政府ヲ羈束スルコトナク私的關係ニ於テ試ミニ其文案ヲ作りタシ先ツ貴大使ヨリ其案ヲ起サレタシト本使ハ之ニ對シ南北双方ニ勧告ヲ与フルトスルモ書キ様如何ニ依リテハ御心配ノ点ヲ除キ得ヘシト思考スモ兎モ角自分ニ於テ斯卡ル案ヲ起シ得ルヤ否ヤ熟考スヘシト述ヘ引取レリ就テハ本使ノ私案トシテ示ヘキ文案御電示アリタシ

註 十一月一日石井大使宛外務大臣宛第六五二二号ハシベリア出

一 中国南北調停一件 九九

本官發広東領事宛十一月五日第八七号
往電第八〇号ニ関シ

外交総長ヘハ十一月四日附ヲ以テ同電所載ノ趣旨ニ依リ同文回答ヲ送致シタルガ尚当初ノ申合せニ基キ別電第八八号ノ如キ電訓ヲ同地各自國領事ニ發スルコトナレリ委細別電ニテ御承知ノ上他聯合側領事ト御打合せノ上然ル可ク御措置相成タシ

別電ト共ニ大臣ヘ転電セリ

註 別電ヲ省略ス後出十一月八日太田總領事發内田外務大臣宛
機密第五二号参照

九八 十一月五日

在米國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勧告ノ我方提案ニ関シ國務卿ヨ

リ勧告文案ヲ協力シテ試作セントノ提案アリ

タルニ付其文案請訓ノ件

第六六二号

支那南北調停ノ件ニ関シ往電第六五二号(註)大統領ノ言モアルニ付十一月五日國務卿ニ面談シタルニ同卿ハ北方ヲ援助ストハ云ハサルモ南方ニ重キヲ措クノ感ヲ与フルトキハ北方

兵關係一件ノ項ニ採録シアリ

九九 十一月七日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

聯合國代表會議ニ於テ海關收入剩余对中国引

渡拒否ノ決定ヲ為シタル事情ニ関シ回報ノ件

第一五三三号

貴電第一〇二七号ニ関シ之レ迄本官ノ引籠リ中聞知セル所ニテハ必ズシモ御来示ノ如ク憂慮スベキ事情ノ本件裏面ニ伏在セルモノトハ想像セラレザルモ為念十一月五日露國公使ヲ訪問シテ(同公使ハ此種ノ情報ヲ探ルタメニハ便利ノ人物ナルガ故)夫レトナク種々問答ヲ重ネタル処其語リタル要領ニ依レバ過般米國公使本國ヨリ帰任シタル際支那政府ガ聯合与國ノ一員トシテ取りツツアル態度ガ何等同公使帰國前ト異ル所ナキノ(脱)其結果例ノ支那現下ノ時局云々ナル議題ノ提出ヲ見タル次第ニシテ又英國公使ガ海關收入剩余ノ引渡拒絶方ヲ提議シタルハ之ヨリ先キ在福州英國領事ヨリ同地方面ニ於ケル南北戰鬭ノ影響トシテ英國商人ノ受ケツツアル困難ニ関スル報告ニ接到シタルタメ思付キタル結果ナリ將又英國公使ノ提議ニ関聯シテ在広東聯合側

各領事ニ電訓ヲ発スルコトナリタルハ仏国公使ノ注意ニ基クモノナリトノコトナリ

右ハ露国公使ノ談ナルガ実ハ海關收入等ヨリ生ズル收入ノ国内党派の目的等ノ為メ消費セラレタルコトヲ支那政府ニ指摘セントスル次第ハ十月二十六日ノ會議ニ於テ決定セラレタルモノニテ(往電第一四七九号列記事項ノ(一))其ノ後間モ無ク偶々支那政府ヨリ海關收入剰余金ノ引渡方ノ請求アリタル為メ三十日ノ會議ニ於テ英國公使ヨリ直ニ右請求拒絶方ヲ發議シタルモノナル可ク而シテ其ノ動機ハ多分前記露公使ノ談話ノ如キ事情ナランカト推察セラル徳川ノ談ニ依レバ三十日ノ會議席上英國公使ハ過日財政部員同公使來訪本件金額ハ全部借款償却ニ充当スルモノナル旨ヲ述ベテ引渡承認方ヲ懇請シタルニ對シ同公使ハ該金額ハ右ノ目的ニ用ヒラルトスルモ結局引渡ヲナサル場合ニ右目的ニ使用セラル可カリシ金額ハ浮クコトナル可ク斯クシテ浮キタル金額ガ内乱ノ為使用セラルルニ於テハ畢竟同様ノ結果トナル可キ旨申聞ケ置キタル旨語リタル趣ニテ同公使平素ノ性格ニ顧ミ飽ク迄海關收入剰余金ノ引渡ヲ以テ内乱継続ノ有力ナル原因ノ一ナリト一途ニ信ジ居タル為メ帝国

ナル処右ハ如何ナル点ヲ意味セラルルヤ明カナラザルモ或ハ參戰警辦処ニ於ケル我方ノ關係ヲ指稱セラルルニ非ズヤトモ推察セラルルモ此方面ニ於ケル支那側從來ノ施設ハ聯合國側ヨリ公平ニ見テ懸念ノ余地之アルハ勿論ニシテ他ノ諸点ト共ニ之ヲ聯合國全体ヨリノ申入レ事項中ニ加ヘタルハ不得已次第ト云フベク之ヲ以テ直ニ我ニ對スル何等特殊ノ意味ヲ藏スルモノトハ即斷シ難ク存ズ

以上ハ貴電末段裏面ノ事情ニ関スル御訓示ニ對シ一応ノ觀察ヲ具報ニ及ブ次第ナルガ唯海關收入剰余引渡拒絶ノ件ニ関シテハ關稅收入ノ党派的目的等ノ為消費セラレタルコトヲ支那政府ニ指摘セントスル次第ハ十月二十六日ノ會議ニ於テ決定セラレ居タルタメ三十日ノ會議ニ於テ支那政府ヨリノ該收入引渡方ニ関スル要求ヲ自然拒絶スルコトニ容易ニ協議纏リタル次第ニシテ唯其結果帝國政府ニ於テ目下關係各國ヘ御交渉ノ趣旨ト精神ニ於テ相背馳スルヤノ觀ヲ呈シタルノ嫌アルハ遺憾ナルモ其ノ由來蓋シ右ノ通ナルト且他ノ關係公使ニ於テモ悉ク之ニ同意シタル等四囲ノ事情ニ鑒ミ大体ニ於テ各公使ト同一歩調ヲ取ルヲ得策ナリト認メラレタルノミナラズ(第一)本件ハ支那政府ヨリ請求シ來

政府御提案ノ次第ハ是ヲ承知シ居タル筈ナルニ拘ラス新政府ニ對シ引渡拒絶方ヲ發議シタルモノノ如ク從ツテ必ズシモ帝國政府ヲ裏切りタルノ底意アリシニ依ルモノトモ認メ難キヤニ思考ス

將又支那參戰義務不履行ニ関シ支那政府ヘ申入レノ件ニ付テハ貴電中当初ハ該件ニ関スル會議ニ於テ南北妥協問題ヲモ討議セントスルガ如キ形勢ナリシ趣御來示相成タル処支那現下ノ時局云々ノ議題ハ米國公使ノ發案ニ基キタルモノナルコト御承知ノ通ナルガ十月十六日徳川英國公使往訪ノ節ハ同公使ニ於テモ其内容ヲ知悉セズ唯右字句ノ上ヨリ自然南北妥協問題ニモ論及スルコトナルヤ計リ難キ旨ヲ述ベタル次第ニシテ(往電第一四一五号ノ五、冒頭參照)本官ニ於テモ右ノ字句竝英國公使ノ所言ニ顧ミ十八日ノ會議ニ於テハ妥協問題モ亦何等カノ形式ニ於テ討議セラルルニ至ル場合ヲ慮リ右往電ノ^(註)末段ノ通申進ジタルニ過ギズ往電第一四二一号十七日徳川英國公使往訪ノ際徳川ヨリ更ニ該議題ノ内容ニ付質問シタルニ英國公使ハ前日同様ノ答ヲナシタル趣ニテ右議題ハ單ニ支那ノ聯合國トシテノ義務履行ニ関スル現下ノ時局ト云フ意ナリシコトハ十八日會議ノ

リタル事件ニ對シ拒絶シタルマデニテ南北兩者ニ對シ妥協ヲ勸告シ兩者之ヲ容レザル場合ニ海關收入剰余引渡ヲ中止スベシト云フガ如キ積極的ニ内乱ヲ鎮定セシメントシテ条件ヲ「インポーズ」スルモノトハ其種類ヲ異ニシ(第二)南北爭乱助長ノ用ニ供セラルル虞有ルガ為メ海關收入剰余引渡ヲ拒絶セントス(脱)ニ對シ内政干涉トシテ御懸念ノ次第之アルハ至極御尤ナルモ實ハ南北爭乱ヲ助長スルノ用ニ供セラルルガ如キ借款及資金ノ交付方中止ノ御方針ハ予テ承リ及ビ居ルガ故本件モ右御方針ニ適応スル様措置スルコトハ差支ナシト存ズ(第三)本件海關收入剰余ノ引渡シ方拒絶ハ外國側ガ進ンデ主動者ノ立場ニ於テ支那ノ内爭ニ干涉スルト云フヨリモ寧ロ受動者ノ立場ニ於テ商業上其他外國側ノ利益ヲ保護セントスル所謂正當防衛ト見做スヲ至當ト思考シタルモノニ之アリ旁々以上列挙ノ各理由ニ基キ南北妥協ニ関スル帝國政府ノ態度ト海關收入剰余ノ引渡シ方要求ニ對スル拒絶トハ何等扞格スル所ナシトノ見解ヲ御採択相成ル様希望ニ堪ヘズ

註 芳沢代理公使發第一四一五号ノ五ハ同電(前出)中段ノ部分ニシテ同電十ハ其末段ノ部分ナリ

一 中国南北調停一件 一〇〇 一〇一

一〇〇 十一月八日 内田外務大臣ヨリ
在米國石井大使宛(電報)

中国南北両派ニ対スル妥協勧告ノ場合徐總統
ニ対スル發言ノ方法及広東軍政府ニ申入ノ形
式ニ付芳沢代理公使ノ請訓ニ対スル回訓通報
ノ件

第五一二号

本大臣発在英大使宛往電第六〇三号ニ関シ

在支芳沢代理公使ヨリ別電第五一三号ノ通請訓アリタルニ

付左ノ通回訓シ置キタリ御参考迄

「本件提議ハ成ルヘク我方ヨリ發言スルコトト致度モ情勢
万已ムヲ得サル場合ハ全然我希望通りノ運トナラストモ
致方ナシ又広東軍政府申入ニ付注意ノ件ハ往電第九八〇
号(二)ノ通り宛名ナキ覺書ヲ先方ニ交付スル次第ニ付何等
御来示ノ如キ名称ヲ用ユル必要モナカルヘシト思考ス」
右別電ト共ニ在英仏伊各大使ニ転電アリタシ

註1 十月二十六日外務大臣発珍田大使宛第六〇三号ハ十月二
十四日外務大臣発在中國芳沢臨時代理公使宛第九八〇号
全文ノ転電ナリ

2 十一月八日発石井大使宛別電第五一三号ハ前出芳沢代理

右在英仏伊各大使ニ転電アリ度シ

一〇二 十一月八日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛

中国政府ヨリノ海關收入剰余金引渡要求ノ拒
絶ニ付南方側ニ対シ弁明ノ件

附屬書 同日附在広東太田総領事ヨリ在中國林公使宛機
密第二七号信写
海關收入剰余金引渡拒絕ニ関シ南方側ニ弁明ノ
件

機密第五二号 (十一月二十五日接受)

大正七年十一月八日

在広東

総領事 太田喜平(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

大正七年十一月八日附在支公使宛機密第二七号信写送付
北京ニ於ケル海關收入剰余金引渡拒絕ニ関シ南方側ニ対
スル弁明ニ関スル件

(附屬書)

(写)

機密第二七号

一 中国南北調停一件 一〇二

八八

公使来電第一四八〇号(七三文書)ノ(イ)ノ部分ナリ

一〇一 十一月八日 内田外務大臣ヨリ
在米國石井大使宛(電報)

中国南北妥協勧告ノ際在広東協商五國領事広
東政府首席ト会见ノ方法ニ関シ在広東総領事
ヨリノ請訓ニ対スル回訓通報ノ件

第五一四号

往電第五一二号ニ関シ

在広東総領事ヨリ当地伊國総領事ハ嘗テ香港ニ駐在セシ際
或ル事情ノ下ニ同地英國官憲ヨリ退去ヲ余儀ナクセラレ駐
在地ヲ当地ニ移シタル行懸等モアリ当地英國総領事等ハ同
人ノ当地駐在ヲ認メ居ラス從テ從來協同的行動ヲ執リシコ
トナキヲ以テ今回妥協勧告ニ付テモ五國領事個々ニ岑ニ面
会シ覺書ヲ手交スルコトトシテハ如何アルヘキヤト請訓シ
来リタルニ付本件提議ハ可成ハ五國領事打揃ヒ支那側ニ申
入ルルコトト致度ニ付愈々勧告ノ運ト相成リタル場合ハ一
応右ニテ打合ヲ遂クルコトト致尤モ事情已ムヲ得サル場合
ニハ右請訓通り個々ニ面会ノ上覺書手交ノコトニ取計ヒ差
支ナキ旨回電シ置ケリ御参考迄

大正七年十一月八日

在広東

総領事 太田喜平

在北京

特命全權公使男爵 林權助殿

北京ニ於ケル海關收入剰余金引渡拒絕ニ関シ南方側ニ
対スル弁明ニ関スル件

本件ニ関シ貴電第八〇、八七、八九号ノ趣敬承致シ候御来
示ニ從ヒ本月七日付ヲ以テ伍廷芳ニ対シ別紙ノ通り及通告
置候尚当地英國領事ヨリ連合側各領事宛回章ヲ以テ前記通
告同様ノ意義ナル一文案ヲ添付シ伍廷芳ニ対シ通告方ニ関
シ意見ヲ求メ来リ各領事ニ於テ之ニ賛同シ候ニ付右各領事
ヨリモ同様通告有之候事ト思考致シ候
右報告申進候 敬具

本信写送附先 外務大臣

(別紙)

(写)

大正七年十一月七日

太田喜平

八九

伍 廷 芳 殿

拜啓陳者近時北京政府ガ海関収入預入銀行団ノ監督者トシテノ資格ニ於ケル連合側諸国公使ニ対シ海関収入剰余金ノ引渡シヲ請求シタルニ対シ連合側公使ニ於テ之ニ承諾ヲ与ヘザリシ事實ハ既ニ御承知ノ事ト信シ候之ニ関シ本官ハ在北京帝国公使ノ訓令ニ基キ右引渡シ拒絶ハ貴国民ノ利益並連合側各自国民ノ利益ヲ考慮シタル結果貴国南北ノ争闘ガ全然終止スル迄ハ之ガ引渡シヲ拒ムベキモノト思料シタルニ依ルモノニシテ決シテ南方派ノ争闘行為繼續ニ資セントスルモノニ非ルコトヲ言明シ何等誤解ヲ防ギ度ク將又南方派ニ於テモ海関収入ニ対シ何等干涉ヲ加フベカラザルモノナルコトヲ言明致シ度此段得貴意候

敬 具

一〇三 十一月九日 内田外務大臣ヨリ
在米国石井大使宛(電報)

中国南北妥協勸告ノ我提案ニ対スル國務卿ノ

意見ニ付我方ノ立場説明方訓令ノ件

第五一九号

貴電第六六二号及第六五二号中南北妥協ノ件ニ関シ

形式問題ニ関シ各国間ノ意見交換ニ幾多ノ日子ヲ費シ折角南北妥協ノ氣運熾烈ナル此ノ好機ヲ逸スルニ於テハ又々支那政局ニ如何ナル變調ヲ生スルニ至ルヤモ計リ難キ次第ニ付本件勸告ハ可成速ナルヲ必要トス旁々勸告文案ノ如キハ往電第四八一号帝国政府提議ノ趣旨ノ範圍内ニテ出先ニ一任シ時ノ狀勢ニ応シ適當ノ文句ヲ選フコトト致度シ就テハ貴官ハ至急國務卿ニ面会セラレ以上ノ次第篤ト説明シ米國政府ニ於テ往電第四八一号帝国政府提議通り速ニ米國当該出先官憲ニ訓令ノ運ニ至ル様致度旨篤ト申入相成度シ尚米國大統領及國務卿ハ斯ク頻リニ北方ニ氣兼ねシ居レルニ反シ「ラインシュ」公使ハ往電第四七二号ノ曹汝霖不信任問題ト云ヒ往電第四九三号支那政府警告問題ト云ヒ兎角北京政府側ニ対シ同情ナキ態度ニ出テ居リ中央ト出先トノ間ニ統一ヲ失シ居レルヤニ感セラル御含迄申添ユ右為参考貴電第六六二号ト共ニ在英伊仏各大使ニ転電アリタシ

一〇四 十一月九日 在中国林公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ノ北方ト南方ヘノ申入振ニ

一 中国南北調停一件 一〇四 一〇五

米國國務卿所見ノ如ク勸告ハ北京政府ノミニ対シ行ヒ南方ヘハ其写ヲ与フルニ止マルトキハ南方側ニ於テハ単ニ一ノ報道トシテ之ヲ聞キ流スコトアルヘク妥協勸告ノ目的ヲ徹底セシムルニ足ラサルノ懸念ナキ能ハス固ヨリ今回広東軍政府側ニ対スル勸告ニ付テハ同団体ニ承認ヲ与ヘタルカ如キ感ヲ避クル為メ慎重ノ注意ヲ加フルノ必要アルハ帝國政府ニ於テモ全然同感ヲ抱キ提議中ニモ明記シアル通ニシテ右勸告ハ外部ニ發表シ差支ナキ「コンミュニケー」式ノ通告的ノモノトシ本大臣發在英大使宛往電第六〇三号ノ通り宛名ナキ覺書トシテ先方ニ手交セシムル次第ニ付何等承認問題ヲ惹起スル余地ナシト思考スルモ若シ尚其慮アリトセハ領事団ヨリ本件南方側ニ申入ノ際右勸告ハ之ヲ以テ列國カ南方団体ノ地位ヲ承認シ又ハ何等同団体ニ対スル從來ノ態度ヲ變更シタルモノト誤解スヘカラサルコトヲ口頭ニテ明白ニ説明セシムルコトトナスモ可ナルヘシ將又貴官ハ國務長官トノ間ニ於テ勸告ノ文案ヲ作成スルノ件ハ在北京列國代表者ヲシテ之ヲ作成セシムトスル帝國政府ノ提案ニ變更ヲ加フルノ結果トナリ既ニ該提案ニ全然同意ヲ与ヘタル他國政府ニ対シ帝國政府ハ困難ノ立場ニ陥ルヘク斯ノ如キ

関シ英國公使トノ内談ニ付報告ノ件

第一五四六号

十一月八日英國公使本使婦任挨拶答礼ノ為來訪ノ際、談南北妥協勸告問題ニ及ヒタルヲ以テ本使ハ婦任以來得タル感想ニ基キ北方側カ現ニ真摯ニ妥協計畫ニ取掛リタリト認ムヘキ此ノ際ニ付愈支那政府ニ対シ帝國政府提議ノ申入ヲナス場合ニハ北方側ニ対シテハ彼等ニ於テ右計畫ノ歩ヲ進メントシツツアルハ誠ニ喜ハシキ所ニシテ尚一層其方面ニ向ッテ尽瘁セラレン事ヲ望ムトノ趣旨ニ改メ從テ南方ニ対シテハ北方ニ対スルトハ少シク申入振リヲ異ニスルノ必要有之ヘキカト思量スル旨内話セリ
在上海及広東総領事ヘ転電セリ

一〇五 十一月九日 在中国林公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協問題ニ関シ徐大總統、錢代理總

理及陸外交総長トノ會談報告ノ件

第一五五〇号

本使婦任挨拶ノ為十一月七日陸外交総長ヲ、十一月八日錢代理總理ヲ訪問セル際本使ヨリ歐洲戦乱モ漸ク講和ノ氣

運ニ近カントスル今日貴國ノ状態ハ依然タル有様ニテ此ノ上主戰主義ヲ繼續スルトモ已往ノ成行ニ顧ミ容易ニ南北ノ紛争ヲ杜絶セシメ統一ノ実ヲ掌グルコト至難ナリト認メラレタルニ依リ速ニ平和的手段ニ依リ迅速解決ノ方法ヲ講ズルコト貴國ノ為急務ナリト考ヘ先ニ帰朝ノ砌右ノ感想ヲ吾当局ヘモ伝ヘタルニ何レモ至極同感ニテ速ニ貴國ノ統一セラレンコトヲ希望セル次第ノ処近頃聞ク所ニ依レバ貴國政府ハ其ノ從來ノ方針ヲ改メ専ラ平和的手段ニ依リ時局解決ノ歩ヲ進メツツアリトノ趣ニテ至極喜バシキ次第ナリト述ベタルニ陸ハ右ノ方針ハ已ニ最近ノ國務院會議ニ於テ決定セラレタル次第ニテ極力進行中ナリト答ヘ錢モ亦同様ノ方針ヲ語リタル後目下江蘇督軍李純ヲ北京政府ノ代表タル資格ニ於テ仲介者タラシメ南方側ノ首腦者タル陸榮廷ト内密交渉ヲ重ネツツアリ現在ノ模様ニテハ今後二ヶ月位ノ間ニ略々解決ヲツケ得可キ見込ナリト言ヒ次デ十一月八日徐大總統ニ謁見セル際本使ヨリ重ネテ前段ト同様ノ趣旨ヲ述ベタル後閣下ニ於テハ今後一兩月間ニ妥協成立シ得可シトノ見込ナリヤト問ヒタルニ大總統ハ平和主義ノ方針ハ既ニ確立シ西南五省ヲ除キタル各省督軍及特殊区域ノ各長官等

ニ於テモ総テ右ノ方針ニ異議ナク北方ノ態度ハ決定セル次第ナルモ西南各省ニ至テハ内部ノ關係極メテ複雑シ居リ毫モ歩調整ハズ例セバ陸榮廷、唐繼堯ノ如キ良ク北方ノ意圖ヲ了解シ居ルモノト雖モ陸ノ所在地タル広西省ハ財政極メテ困難ナルガ為部下ノ軍隊ハ之ヲ廣東ニ置キテ其供与ヲ受ケ唐モ亦雲南ノ情況広西ト同様ナルガ為所屬軍隊ノ大部分ハ之ヲ四川ニ置キテ援助ヲ求メツツアル有様ナレバ兩者共ニ何事モ自由ナラザル次第ニテ殊ニ廣東方面竝四川省内ニ於ケル各派ノ勢力ハ互ニ犬齒錯綜シ容易ニ端緒ヲ求メ難ク從テ北方ヨリスル協議ノ如キモ容易ク徹底セシムルコト能ハズ加フルニ通信交通共ニ多大ノ時日ヲ費シ諸事意ノ如クナラザル有様ナレバ解決ノ日限ノ如キ差当リ見込立タズ昨去南方ニシテ能ク内外ノ形勢ヲ達觀シ誠意ヲ以テ平和ヲ望ムニ於テハ事ハ極メテ容易ナルモ事實ハ之ニ反シ猥リニ私心ヲ挾ミ進行ヲ阻害セントスルモノアルハ遺憾ナリ余ノ妥協方針ハ護法問題ト事實問題ノ二者ヲ竝ヒ行ハントスルモノニシテ前者ハ之ヲ法律家ノ研究ニ委ネ後者ハ南方ノ希望ヲモ容レ公平ニ処決セントスルニアリテ極メテ妥当ノ方法ナリト信シ居レリ云々

大要如上ノ次第二ニテ北方政府ニ於テハ兎モ角平和的手段ニ依リ妥協ノ成立ニ勉メツツアルコトナレハ往電第一五四六号英國公使トノ談話中ニモ申述ベタル通り近ク聯合与國ヲ誘ヒテ提議セラルヘキ勸告ハ南北共ニ状況ノ實際ニ適応スル様必要ノ修正ヲ加ヘラルルコト然ルヘント存ス

一〇六 十一月九日 内田外務大臣ヨリ 在雲南ニ瓶領事宛 (電報)

帝國政府ハ中国南北妥協促進ノ政策ヲ執リ居ル旨及唐繼堯ヘモ南北妥協ニ尽力センコトヲ切望スル旨ヲ伝ヘタル旨通報ノ件

第一〇号

貴電第三号ニ関シ政府ノ対支方針ハ支那ノ統一ヲ希望シ從テ南北ノ妥協ヲ促進スルニ在リテ其大要ハ在廣東總領事ヨリ貴官ニ御含迄ニ転電スヘキ本大臣発在支公使宛往電第九六号第一〇〇一号第一〇〇六号ニ就キ御承知相成度尚目下滯京中ナル唐繼堯顧問大佐理三郎ハ支那ノ政局新氣運ニ向ヘルニヨリ近々雲南ニ帰還スルコトナリ本大臣モ十一月七日同人ニ面会シタルカ其節本大臣ヨリ同人ニ対シ唐繼堯ハ難攻不落ノ地ニ抛レル支那南部ノ重鎮ニシテ其地位ハ

之ヲ善用スルコトヲモ將タ惡用スルコトヲモ得ル次第ナルヲ以テ此際大局ノ為メ南北妥協ニ尽力センコトヲ切望スル旨ヲ唐繼堯ニ伝フル様申聞ケ置タルニヨリ御含置アリ度シ右北京及廣東ニ転電アリタシ別電ハ転電ニ及バズ

一〇七 十一月九日 在中国林公使ヨリ 内田外務大臣宛 (電報)

段祺瑞ニ対シ徐大總統ヲ援助シ中国ノ和平統一ヲ遂ゲラレ度旨談話ノ件

第一五五号

十一月九日段祺瑞ヲ訪問シタル節本官ヨリ曩ニ帰朝ノ砌ハ恰モ新旧大總統更迭ノ事ニ決シタル際ニモアリ從來ノ方針ニテハ容易ニ時局解決ノ効ヲ奏スルコト覺束ナキヤニ認メラレタル上ニ新大總統ノ方針モ略々推測ニ難カラザリシヲ以テ貴下ニ於テハ其從來ノ行懸上聲口総理ノ地位ヲ退キ平和ノ進行ヲ促スト共ニ時局拾収後ニ於ケル軍制整理ノ見地ヨリスルモ此際主トシテ軍隊ノ指導教育ニ身ヲ委ネラルル方得策ナリト考フル旨間接ニ貴聞ニ達シ置キタル次第ノ処昨今ノ形勢ヲ見ルニ大總統竝政府当局ニ於テハ努メテ平和的手段ニ依リ妥協ノ成立ヲ企圖セラレツツアル模様ニテ誠

ニ喜ハシキ次第ナルニ依リ貴下ニ於テモ歐洲戦乱ノ近情等ニ顯ミ現在ノ方針ニ基キテ大總統ヲ援助セラレ一日モ速ニ統一ノ実ヲ拳ケラレンコトヲ希望シテ已マス次ニ本官ニ於テモ世上兎角ノ批評ヲ受ケツツアルコトトテ寧ロ此際現地位ヲ退キ余人ヲ以テ其局ニ当ラシムルコト然ルヘント思考シ近ク交代ノ運ビニ至ル次第ナリト述ヘタルニ段ハ本官ノ忠言ハ疾ク承リタル所至極同感ナリト感謝ノ意ヲ表シ次テ西南各省ノ状況ハ容易ニ妥協ノ成立ヲ見ルコト困難ナリトテ往電第一五五〇号總統ノ語リタルト略々同様ノ事情ヲ訴ヘ最後ニ近頃英米人等ガ頻ニ時局收拾ノ急ヲ説キ且是ニ関聯シテ自分ノ親日主義ヲ非難スルモノアレトモ支那時局ノカクモ複雑難解ノ始末トナリタル動機ハ客年中頃参戦加入ノ勧誘ニ原因シテ議會解散ノ拳ニ出テタルカ為ニシテ予ノ親日主義ニ至リテハ素ヨリ当然ノ結果ノミト答ヘツツアル次第ナリト云ヘリ

一〇八 十一月十日 在中国林公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

北方派ノ步調整ハザルコト南方派ノ代表者ガ
何人ナルカ不明ナルコトガ中国南北妥協ノ二

一〇九 十一月十日 在中国林公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北平和的解決ノ徐大總統ノ方策、北方
側内部ノ不一致、南方側ニ統一的首腦者無キ
コトニ関シ梁士詒ノ談話報告ノ件

第一五五七号

時局ノ成行ニ関シ十一月九日梁士詒ガ本使ニ語リタル要領
左ノ通御参考迄ニ電報ス

時局解決ノ方針ニ就テハ既ニ大總統及政府当局ニ於テ平和
手段ニ依ルヘキコトニ決定シ専ラ江蘇督軍李純等ヲ介シ交
渉ヲ進メツツアル次第ノ処具体的方法トシテハ先ツ第一ニ
停戦命令ヲ發シ次テ軍隊ノ撤退ヲ行ヒ更ニ進ンデ法律問題
ヲ協議スヘキ方針ニテ是カ為メ大總統ニ於テハ疾クニ北方
各督軍ノ上京ヲ命シ直接意見ヲモ徵スルト共ニ現在ニ於ケ
ル軍隊ノ配置其他ノ状況等諮問中ナルカ停戦ノ一段ニ至リ
テハ督軍中ニハ表面大總統ノ命令ニ服従スヘント称スルモ
暗ニ反対ノ意見ヲ有スルモノアリ又可否共ニ何等ノ意見ヲ
モ述ヘサルモノアリテ目下ノ所政府ノ方針ト督軍團ノ態度
一致セサルヤノ嫌アルノミナラス北京議會ノ一部議員中ニ

一 中国南北調停一件 一〇九

障礙ナルコトニ付在中國米国公使ト談話ノ件
第一五五三号

十一月九日米国公使來訪ノ節支那時局問題ニ談及シタル折
本使ハ此度帰任後大總統始メ要路ノ向ヘ面会ノ際聴取セル
諸般ノ状況ヲ綜合スルニ目下北京政府ニ於テハ兎角和平
解決ノ方針ヲ定メ南方側ト妥協ノ促進ニ努メツツアル模様
ナルモ之ヲ成立セシムルニ付テハ茲ニ二種ノ障礙アルモノ
ノ如シ即チ其ノ一ハ目下滯京中ノ北方督軍等ノ態度ニシテ
大總統始メ政府当局ニ於テハ其ノ(不明)方針ニ決シ夫々
進行中ナルニ拘ラス督軍中ニハ今尚暗ニ武力解決ヲ主張ス
ルモノ若ハ和戰共ニ何等ノ意見ヲ吐カサルモノアリテ北方
ノ步調未タ十分整ヘリトハ認メ難キコト第二ニハ南方ノ状
況ニシテ岑春煊陸榮廷唐繼堯等ノ主要人物間ニ何等統一セ
ル脈絡ヲ有セサル上ニ旧国会ノ如キ人々各別ノ態度ヲ支持
シ北方政府ヨリセバ孰レガ西南各省ヲ代表スル意味ニテ其
ノ責任者タルヤヲ知ルニ苦シム模様ナルカ故ニ妥協ノ成立
ニハ如上ノ二点ニ注意スルノ要アリト語リタル処同公使モ
至極同感ナリト首肯セリ御参考迄申進ス

ハ今猶副總統ノ選挙ト憲法ノ制定ヲ急クヘント主張スルモ
ノアリテ万一ニモ多数決ニヨリ右様ノ運ビトナルニ於テハ
督軍團ノ態度ト相俟テ愈々南方側ノ反抗ヲ招キ妥協ハ容易
ニ望ミカタキコトトナルヘキ昨今ノ場合右ノ二障礙ヲ除去
スルコトガ北方側トシテハ最大ノ急務トナリ居レリ翻テ南
方側ノ状況ヲ見ルニ陸榮廷唐繼堯ノ兩者ハ比較的北方ニ接
近シ互ニ脈絡ヲ通ジ居レルモ広東省軍政府及国会ニ至リテ
ハ実ニ手モ附ケラレズ論者ハ北方政府トシテハ先ツ南方側
ニ実力ヲ有スル陸唐ノ兩名ト妥協ヲ遂ゲ兩者ヲシテ広東側
ヲ説カ(脱)進行容易ナラント為スモノアリ至極同感ニテ
折角右ノ方針ニテ進ミツツアル次第ナルモ由来陸唐ノ關係
ハ必ズシモ一致セリトハ認ムベカラザル上ニ陸ノ広東ニ於
ケル勢力ハ唐ニ及バズ殊ニ陸ノ態度ヲ見ルニ昨今極メテ消
極主義ニ傾キ広東方面ヨリスル相談等モ兎角之ヲ五月緋ガ
リ電報及書類ノ如キ多ク眼ヲ通サザル位ノ由ナレバ自ラ進
ンデ之ヲ説カシムル如キ容易ニ望ムベカラズ唐以下ニ在リ
テハ之亦差当リ物ニ成ラズ仮ニ陸唐兩者ガ広東ヲ説クノ態
度ニ出ヅルトスルモ更ニ上海ニ於ケル孫逸仙孫洪伊等ノ強
硬の意見ハ之ヲ度外視ス可カラズ斯ク觀シ来リテハ所謂西

南省省ニハ毫モ統一的首腦者ナク四分五裂ノ状態ニ在リト謂フモ不可ナキ有様ナルガ故ニ北京政府トシテハ此際速ニ停戦命令ヲ發布シテ和平促進ノ主旨ヲ明カニシ誠意時局ノ収拾ヲ計ルノ態度ヲ以テ進ミ若シ事成ラズンバ統一不可能ノ責ハ全然南方ニ在ルコトヲ中外ニ知ラシメ更ニ善後ノ策ヲ講ズルノ外ナシト考ヘ居レリト述べ終リニ世上伝フル所ニ依レバ日本及聯合諸国ハ近ク支那ノ南北ニ対シ何等カ勸告ノ措置ニ出テラルベシトノ趣ナル処此際南方ニ対シ北方同様ノ措置ヲ取ラルルニ於テハ或ハ交戦団体トシテ承認セラレタルヤノ誤解ヲ惹起シ妥協ノ進捗ヲ妨グルナキヤヲ惧ルト云ヘリ

尚序ナガラ梁啓超一派ノ策士トシテ是迄南北妥協ニ奔走セル林長民ガ本使帰任後來訪シテ語ル所ニ依レバ自分等ハ当分政治問題ニ関係スルコトヲ避ケ居レリ其故ハ若シ自分等ニシテ此際行動スルニ於テハ徒ラニ南方側ノ猜疑ヲ招キ大局ノタメ却テ不利益ナリト信ズルニ因ルト云ヘリ右ニ依リ梁啓超一派ノ進歩党ガ近頃屏息シツツアル事情ヲ窺知スルニ難カラズ

~~~~~

# 第一五六号

時局ニ関シ孫洪伊ハ極メテ強硬ナル主張ヲ持シ曖昧ナル妥協ヨリモ寧ロ自然ノ帰着ヲ俟ツヲ可ナリトスルモノノ如キモ大勢平和ヲ希望シ妥協氣運大ニ進ミツツアルハ之ヲ感得シ南京ノ李純ト通シテ種々運動スル所アリ以テ将来ノ地歩ヲ占メント計畫シ居ルモノト認メラレ彼ハ陸榮廷ニ対シテハ甚タ不安ヲ懷キ其常ニ北方ト握手スルニ至ルヘキヲ恐レ居ルモ唐繼堯ニ至リテハ年少氣鋭尚頼ムニ足ルト觀測シ居レリ張繼ハ目下何レノ方面ニモ不即不離ノ態度ヲ持シ唐紹儀ノ帰滬ヲ俟チツツアリ彼ハ陸榮廷ト雖モ周囲ノ事情到底旧国会ヲ無視シテ妥協ニ進ミ能ハサルモノト觀測シ妥協ノ条件トシテハ孫文ト同シク旧国会ノ尊重即チ同国会ニ於テ大總統ノ選舉憲法ノ議了ハ之ヲ遂行スルヲ要スト為シ徐世昌ト雖モ必ス旧国会ニ於テ承認ヲ得ヘキ見込アラハ決シテ不同意ヲ唱ヘサルノミナラス寧ロ其希望スル所ナルヘシト為シ日本トシテハ少クモ旧国会尊重ノ点ニ就テハ若干ノ口入レヲ要スト云ヒ過去ノ歴史ニ見テ英國ハ北京政府本位ニ終始シ南方側ヲ目シテ殆ント匪徒同様ト為シ居レル關係上縱令妥協ヲ望ムトスルモ其北方ヲ中心トスルモノタルヤ想

## 一一〇 十一月十一日 内田外務大臣ヨリ 在中国林公使宛(電報)

### 中国南北妥協ノ勸告文ノ字句ハ南北ニ対シ同文ニスル様訓令ノ件

第一〇四九号  
貴電第一五五〇号末段ニ関シ本件勸告ハ元來支那国民全体ニ徹底セシムルヲ趣旨トスルモノナルヲ以テ勸告文ノ字句ヲ南北ニ依リ異ニスルカ如キハ其ノ本旨ニ反スルノミナラス為ニ或ハ一方ニ厚ク他方ニ薄シトノ批難ヲ惹起スルノ虞アルニ大体往電第九七二号ノ趣旨ニ依リ南北ニ対シ共通ノ勸告文ヲ作製セラルル様致シタシ尤モ右勸告提出ノ際ニ於ケル口上ノ説明中ニ状況ノ實際ニ適應スル言辞ヲ用ユルハ差支ナシ

在上海及廣東總領事ヘ参考トシテ転電アレ

一一一 十一月十一日 在上海有吉總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

上海ニ於ケル孫洪伊、張繼等南方政客ノ南北妥協問題ニ対スル態度、妥協条件ニ関スル南北ノ意思ノ扞格等ニ関シ報告ノ件

像ニ難カラス從テ此点ニ就テハ特ニ日本ノ好意ニ依頼セサルヲ得ストシ居レリ張耀曾ハ和平期成同盟会ニ尽力シ妥協ノ氣勢ヲ添ヘントシツツアルモ同会ハ未タ何等具体的ノ案ヲ示サス要スルニ妥協ノ氣運ハ大ニ進捗セルモノト認ムヘキモ南北双方ノ間ニハ尚少カラス意思ノ扞格アルモノト認メラレ而シテ南方ニ於テモ各人各個其間意見ノ相違アルモ北方カ日本ノ援助ニ難ルルニ於テハ結局南方ノ条件ハ或ル程度迄之ヲ容ルルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキモノト觀測シ妥協ハ時日ノ問題トナス点ハ略々一致シ何レモ多クヲ我政府ノ態度ニ期待シ居ルモノト認メラル尚英人側カ南方派特ニ孫文唐紹儀等ニ反感ヲ有シ居ルコトハ御承知ノ如クニシテ唐紹儀ノ如キハ当地ニ住居中各国居留地警察ヨリ密偵ヲ附シツツアリタルコトモ之アル位ニ付彼等ノ運動ハ何レニスルモ英人側ノ歡迎ヲ受ケサルコトハ想像ニ難カラサルカ如シ

一二 十一月十一日 在中国林公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

南北妥協ニ反対スル督軍ヲ説得シ南北和平実現ニ進ムベキコトニ関シ曹汝霖ニ談話ノ件

第一五五九号

南北妥協ノ促進ニ関シ滯京中一部督軍ノ中ニ異議ヲ唱フル者アル事ハ往電第一五五七号梁士詒ノ話等ニ依リ御承知ノ通りナル処斯クテハ今後ノ成行モ氣遣ハルル次第ニ付拾壹月十日曹汝霖來訪ノ節本使ハ時局ニ就テハ既ニ政府側ニ於テ平和ノ方針ニ議ヲ纏メ折角尽力中ノ由ナル処督軍中張作霖ノ如キハ今尚強硬ノ意見ヲ抱キ居ルガタメ停戰命令發布等モ行惱ミ居ルヤニ聞キ及ベリ果シテ事實ナルニ於テハ甚ダ好マシカラザル次第ニシテ本使等ノ考ニテハ張氏ノ如キ湖南方面ニ迄出兵シ居ル有力ノ人物ニ在リテハ宜シク自ラ率先シテ撤兵ヲ行ヒ範ヲ爾余ノ督軍等ニ示シテコソ時局收拾ヲ速ナラシムル所以ニテ然ラサルニ於テハ今後ノ障礙モ尠カラサル儀ト信ズ、惟フニ張氏ト雖モ這般ノ道理ヲ辨ヘサル筈ハ無カルヘキニ依リ或ハ大總統及段祺瑞氏等ヨリ篤ト内外ノ形勢ヨリ一般ノ輿論及財政ノ狀態等ヲ説明シ此上紛争ヲ続クルニ於テハ遂ニ国家滅亡ノ外無カルヘキ旨ヲ懇切ニ説示スルコト然ルヘク斯クシテ先ツ北方全体ノ態度方針ヲ統一シ速ニ停戰令ヲ發布シ着々実行ニ取掛リ飽ク迄公平ノ手段ニ依リ進ムニ於テハ妥協モ案外容易ナルヤモ知ル

シ尚同時ニ在広東領事ニモ訓電ヲ発シタリ  
右各大使ニ転電アリ度シ

一一四 十一月十三日 在広東太田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛

関稅收入剩余金中国政府ヘノ引渡拒絶ニ関スル  
ル広東軍政府回答写送付ノ件

附屬書 同日附在広東太田総領事ヨリ在中国林公使宛機密第二八号信写  
関稅收入剩余金引渡拒絶ニ関スル広東軍政府ヨリノ回答写送付ノ件

機密第五四号 (十一月二十五日接受)

大正七年十一月十三日

在広東  
総領事 太田喜平 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

大正七年十一月十三日附在支公使宛機密第二八号信写送付  
関稅收入剩余金引渡拒絶ニ関スル軍政府回答写送付ノ件

(附屬書)

(写)

可カラス不幸ニシテ南方ノ同意ヲ得ス依然解決ヲ告ケ難キトキハ内外共ニ其責任ハ全然南方ニ在ルコトヲ了解シ一般ノ同情ハ北方ニ傾キテ從來ノ誤解ヲ一掃スルノ利益アルヘシト述ヘ置ケリ御参考迄ニ申進ス

一一三 十一月十三日 内田外務大臣ヨリ  
在英國珍田大使宛 (電報)

中国政府ヨリノ海關收入剩余金二百五十万兩  
引渡ノ要求ニ対シ聯合側各公使ヨリ中国南北  
和平實現迄引渡ニ応ゼザル趣回答セル旨通報  
ノ件

第六三二号

今般支那政府ヨリ海關收入剩余金二百五十万兩引渡方關係国公使ヘ要求シ來レル処客月三十日聯合側代表者會議ニ於テ目下ノ時局ニ顧ミ暫ク引渡ヲ見合セ支那政府ニ対シ南北兩派ニ於テ全然戰爭行為ヲ終止スル迄ハ右海關收入剩余ノ引渡ヲ応諾シ難キ旨同文回答ヲ發スルト同時ニ在広東聯合側領事團ニ対シ前記ノ措置ガ特ニ南方側ニ好意ヲ表スル意味ニアラサルコトヲ説明スヘキ旨ヲ電訓スルコトニ決定シ十一月四日關係各公使ヨリ外交總長ニ対シ同文回答ヲ送致

機密第二八号

大正七年十一月十三日

在広東  
総領事 太田喜平

在北京

特命全權公使男爵 林權助殿

関稅收入剩余金引渡拒絶ニ関スル軍政府回答写送付ノ件  
北京ニ於ケル海關收入剩余金引渡拒絶ニ関シ南方ニ説明シ置キ候件ニ関シテハ機密第二七号往信ヲ以テ及報告置候処今般軍政府ヨリ伍廷芳ノ名ヲ以テ別紙ノ通リ來信有之候ニ付不取敢及報告候条御査閱相成度此段申進候 敬具  
本信写送付先 外務大臣

(別紙)

(写)

逕復者昨接

大函転述

貴国駐北京公使訓令備悉一切協約国各公使決定不允北京政府請求提用関稅余款実足証明其不再贊助北方繼續戰爭之盛意且見其為中国人民之利益計与為其本国民之利益計無異

殊為欽佩查軍政府本不願國內延長戰爭惟切望中国得早日回復合法之統一政府而已尤有進者海關關稅因有償還外債之關係本軍政府從未有為不合理之干涉今承協約國各公使拒却北方政府提用關稅余款則軍政府之態度尤屬始終如一惟正式国会被解散盡人皆知北京政府曾提關稅余款甚鉅今使護法各省亦得提用關稅余款照北方之數相等或至少依照比例之數以作地方行政之用方覺合於公理相應函復請將此意轉達貴國駐京公使為荷順頌  
日祺

伍 廷 芳 (印)

(右訳文)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者昨日貴翰ニ接シテ在北京貴國公使ヨリ訓令ノ趣一切拝承セリ協約國側各公使カ北京政府ノ關稅剩余金ノ使用請求ヲ許ササル旨決定シタルコトハ其再ヒ北方ヲ贊助シテ戰爭ヲ繼續セシメサルノ盛意ヲ証明シ且其中国人民ノ利益ノ為メニ計ルト其本國人民ノ利益ノ為メニ計ルト同一ナルコトヲ見ルニ足リ殊ニ感佩セリ按スルニ軍政府ハ本ヨリ國內ノ戰爭延長ヲ望マス唯中国力速ニ合法的統一政府ニ回復シ得ンコトヲ切望スルノミ特ニ進言シタキ

ヨリ本件帝國政府ノ提議ニ對シ伊國政府ノ意見ハ追テ可成速ニ開示スヘシトノ旨回答シ越セリ伊國外相ハ本件ニ關スル米國政府ノ意嚮ヲ承知シ居ルタメ斯克返答ヲ躊躇シ居ルニ非ズヤト推察セラル尚「ソンニノ」男巴里ヘ急行スルニ付本件伊國政府回答ハ多少ノ遲延ヲ免レザルベシ

註 十月二十八日伊集院大使発第一七五号ハ伊國外相巴里へ出張中ニ付本件帝國政府提議ノ書類ヲ伊國外務省ニ送り回答ヲ求メタル旨内田外務大臣ニ報告セル電報ナリ

一一六 十一月十六日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

章士釗及章宗祥公使ニ對シ中国南北妥協促進  
ノ必要ヲ説示セル旨通報ノ件

第一〇六〇号

十一月三日章士釗來訪南方派ニ於テハ必スシモ旧国会ノ回復若ハ護法ノ如キ法律上ノ問題ヲ固執スルモノニ非ス実ハ南北對等ノ立場ニ於テ無条件ノニ和平會議ノ開カルル事トモナラハ同會議ニ於テ南方側ノ最重キヲ置クハ支那ノ将来ヲ定ムヘキ根本問題即チ軍民分治並中央地方ノ關係財政ノ問題ナリト稱シ詳細論述スル所アリタルカ右對等ノ立場云

ハ關稅ハ外債償還ノ關係アルニ因テ軍政府ハ從來未タ不合理ノ干涉ヲナスノ意思ヲ有セサリシ今協約國側各公使ヨリ北方政府カ關稅剩余金ヲ使用スルコトヲ拒絶セラレ則チ軍政府ノ態度ハ殊ニ終始同一ナリ但シ正式ノ国会カ解散セラレシコトハ人皆之ヲ知レリ然ルニ北京政府ノ使用シタル關稅剩余金ハ甚タ巨額ナリ今護法各省ヲシテ亦關稅剩余金ヲ使用スルコト北方ノ金額ト同額ナラシムルカ或ハ少クモ其ニ比例セル金額ニ照シ以テ地方行政ノ用ニ供スルコトヲ得セシメハ公理ニ適合スルモノト相覺エ候依テ此意旨ヲ在北京貴國公使ニ御轉申アラントヲ希望致候此段回答申進候

敬具

伍 廷 芳

一一五 十一月十四日 在伊國伊集院大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協ノ勸告ニ關スル我方提案ニ對ス  
ル伊國政府ノ回答ハ多少遲延ノ見込ナル旨報  
告ノ件

第一九八号

往電第一七五号ニ關シ十一月十三日附書面ヲ以テ外務大臣

々ニ關シテハ前兩回ノ會見ニ於テ章ヨリ力説スル所アリタルモ或ハ南方承認ヲ求ムルノ意トモ思ハレタルニ付態ト反問セサリシニ今回モ同様言及シタルニ付本大臣ヨリ對等ノ立場ヲ要求スルコトカ既ニ無条件ノ主張ニ背反スルニアラサルヤト反問セシニ右ハ北方カ徐總統ノ承認ヲ南方ニ強ユルニ付之ヲ避ケテ對等ノ位置ヲ保チタキ趣旨ナリト弁明シタルニヨリ本大臣ハ右ハ枝葉ノ問題ニシテ國家一日モ元首ナカルヘカラス徐氏ノ總統タルハ對外關係上爭フヘカラサル事實ニシテ南方ニ於テモ強テ之ヲ否認スルニ及ハサルヘク又北方派カ南方派ニ對シ強テ徐總統ノ承認ヲ要求セントスル次第ニモ非サレハ差当リ徐總統ノ問題ノ如キハ其促トシ速ニ南北和平ノ會議ヲ遂クルコト最モ機宜ヲ得タルモノナリト答ヘタル処章ハ之ヲ諒トシ更ニ福建省借款ニ言及シタルヲ以テ本大臣ハ目下帝國政府カ南北ノ妥協ヲ希望スルノ余リ本借款モ亦之ヲ差扣ヘシメ居ル次第ナルカ本借款ノ如キハ既ニ其成立ヲ見タルモノニテモアリ此種借款ハ長ク之ヲ見合サシムルコトハ随分困難ノ次第ナレハ此点ヨリスルモ南北妥協ノ促進ヲ期スルコト緊切ナリト答ヘタルカ章ハ深く謝意ヲ表シテ引取レリ越エテ四日章公使ノ招待ニ係

ル午餐會ノ際本大臣ヨリ南北妥協ノ問題ニ付篤ト章公使ノ注意ヲ喚起スル所アリタルカ同公使ハ本大臣ニ対シ実ハ章士釗トモ数回会谈ヲ遂ケ意見ノ交換ヲナセリ又中央政府ニ於テモ孫逸仙一派ハ兎モ角陸榮廷岑春煊唐繼堯等ノ南方派トハ或程度ニ於テ既ニ意思ノ疏通ヲ見居ル次第ナルカ目下困難ナルハ全ク南方ノ徐總統承認問題ニ外ナラスト述ヘタルニヨリ本大臣ハ徐總統ハ列国ニ於テ承認シ居レル所ナレハカカル点ニ拘泥セス今日中央ノ政權ヲ把握セル北方政府ハ国家統一ノ大局ヨリ特ニ南北妥協ヲ促進スルノ責務アリ此際殊更南方派ニ対シ徐總統ノ承認ヲ強要スルノ必要モナカルヘク本問題ハ予メ何等論議スル所ナク速ニ和平會議ノ成立ニ努力戮心スルヲ急務トスヘキ旨力説シタルニ章公使モ亦之ヲ諒トセリ

尚章士釗竝唐紹儀ハ帝國政府ノ公正ナル態度ニ深ク満足ノ意ヲ表シ已ニ帰国シタルカ往電第一〇五六号章公使来省ノ砌本大臣ハ再ヒ本問題ニ論及シ現下近ク独塊側トノ講和會議開催セラレントスル機運ニ際セルヲ以テ益南北妥協ノ促進ヲ計ラサルヘカラサル旨ヲ縷述シタルニ章公使ハ最早北方側ニ付テハ何等懸念スル所ナキ見込ナルモ南方派ノ内

六日附書面ヲ以テ別電七三二号ノ通り十八日回答ニ接セリ  
別電ト共ニ在欧大使ヘ転電セリ

註 石井大使発第七一四号ハ大臣発石井大使宛第五一九号(前掲)ノ訓令執行ヲ報告セル電報ナリ省略セリ

(別電) 十一月十八日石井大使発内田外務大臣宛電報第七三二号  
米國政府ノ回答

731.

United States Government is in full accord with views of Japanese Government, as set forth in memorandum handed to secretary of state on 25th October both as regards seriousness of the situation in China, and as to desirability of urging upon leaders of China primary necessity of reconciling their differences and of putting an end to internal strife which is injurious alike to their own interests and to those of other. It is therefore instructing its representatives at Peking and Canton to co-operate with their colleagues if similarly instructed along the lines of the above-mentioned memorandum.

It is opinion of United States Government that

部一致ヲ欠ケル点ニ困難アリ殊ニ孫逸仙一派ハ南北和平會議ヨリ除外セラルコトト相成ルヘシ尚近ク独塊側トノ講和問題ノ討議セラルヘキ際ナレハ一層南北妥協ノ緊要ナルコトヲ力説セラレタルハ至極御尤モノ次第ニテ元來參戰問題ハ南北兩派ノ乖離ヲ見ルニ至リタル最大動機ナルヲ以テ歐洲戦争ノ終結ハ則チ兩派軋轢ノ源泉ヲ消滅セシムヘキ結果トナリ從テ兩派自ラ此機會ニ於テ融合妥協ヲ見ルニ至ルヘキ筋合ナリト答ヘタリ御含迄

註 十一月十五日外務大臣発電第一〇五六号ハ十一月十四日章公使来省内田外務大臣ト対独塊講和會議ヘ参列ニ関スル会谈ノ模様ヲ通報セルモノナリ

一一七 十一月十八日 在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ノ我提案ニ対スル米國政府  
ノ回答報告ノ件

別電 同日石井大使発内田外務大臣宛電報第七三二号  
右米國政府回答

第七三〇号  
往電第七一四号ニ関シ当方ノ提議ニ同意スルノ趣旨ニテ十

proposed representation would be greatly strengthened if at the same time, assurances were given that interested powers were prepared to render reunited government of China necessary financial aid, provided satisfactory guarantee was given that funds would be properly used and that meanwhile no funds would be advanced to either side for any purpose without such guarantees. United States Government is ready for its part to give such assurances and it is hoped that other interested powers will concur.

Ishii

一一八 十一月十九日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

徐總統四川ヘ派遣ノ使節胡鄂公ニ対シ通信其

他ニ関シ便宜供与方訓令ノ件

第一五九五号

本官発重慶宛電報第三一十号

胡鄂公ナル者徐總統ノ内命ヲ帶ビ時局問題ニ関シ熊克武ト懇談ヲ遂グル為不日当地出發四川省ニ赴クニ付テハ同地方ガ現ニ全然南軍ノ勢力圈内ニアル關係上中央政府トノ通信

其他ニ関シ自然貴官へ種々便宜供与方願出ヅルヤモ計リ難キニ付本使ニ於テ同意ノ上ハ予メ然ル可ク貴官へ訓令置ヲ得度キ旨當局ヨリ申出タルニ依リ本使ニ於テ異存ナキ旨ヲ答ヘ本人ニ対シ貴官宛紹介状ヲ附与シ置キタルニ付右御合ノ上本人貴地到着後何等願出ノ次第アリタル節ハ諸事出来得ル限り便宜供与方然ル可ク御配慮アリタシ  
右本使ノ訓令トシテ成都へ転電アリタシ  
外務大臣へ電報セリ

一一九 十一月十九日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国外交ヲ外交機關ニ於テ統一スルノ必要

二 関スル件

第一五九九号

対支政策ノ運用ヲ外交機關ニ於テ統一スルノ必要ニ付テハ是迄本使又ハ代理者ヨリ電票ノ上御考量ヲ迎ヘタルコト一再ニ止マラス政府ニ於テモ主義上勿論御異存無之ト拝察セラルル処南京閣下宛電報第九六号ニ依レハ參謀次長ヨリ多賀大佐ニ対シ錢總理カ李純ヲ代表者トシテ陸榮廷ト妥協ノ交渉ヲナサシメ居ル旨本使ニ語リタル事実確メ方ヲ電訓

ノ会談内容報告ノ件

坂西極秘二九七

本日大總統ト会谈過日帰朝ノ際起草シ同意ヲ得タル支那時局調停案ノ趣旨ニ基キ帝國政府當局者希望ノ点概ネ斯ノ如キモノナルコトヲ詳細説明シタルニ大總統ヨリ左ノ伝言ヲ依頼セラレタリ

予カ就職以來支那時局ヲ和衷互讓的ニ解決シ民国ノ統一ヲ図ランコトヲ力メツツアルハ已ニ貴官出発ノ際詳シク述ヘタル如ク今之ヲ事実ニ現シ居ルヲ以テ恐ラク貴國人モ了知セラルルナラン然レドモ予ハ元首トシテ最高地位ニアル關係上直接其衝ニ当ラス専ラ政府即國務總理ヲシテ直接其事ニ当ラシメ南京ノ李純主トシテ南方殊ニ陸榮廷唐繼堯等ト連絡ヲ取り今貴官ノ述ヘタル如ク先南北齊シク作戦行為ヲ止メ憲法速定ヲ主眼トシ各省軍民長官ノ地位ヲ認メ南北抗争ノ為増募セル軍隊ノ処分及海軍ノ処置等ヲ定ムル為メ不取敢無条件ニテ会議ヲ開クヘキ相談ヲナス迄ニ立チ至リ結局貴國政府當局ノ希望ニ接近シツツアリ云々

依テ小官ハ一旦會議開カレ各其主張ヲ述ヘ北方ニ不利ナラントスル形勢到来スルニ至ラハ北方派督軍ハ之ニ容喙シ威

シタル趣ニシテ病氣中ノ多賀大佐ヨリ(脱)貴方へ申出テノ上貴方ニ於テ御同感ノ節ハ領事ヲシテ内探ヲ遂ケシメラルコト正当ノ手續ト申ス可ク帝國政府ノ代表者ヨリ帝國政府ニ対スル報告ノ実否ヲ對外機關ニ非サル一部當局ニ於テ内探スルカ如キハ実ハ感服シ難キ事柄ニ付此際從來屢見聞スル此種弊害ヲ一新スルコト然ルヘク御考慮ヲ煩ハシ度シ、尚「モリソン」カ最近確ナル或日本人ニ対シ在支英米人間ニ於ケル日本帝國軍人ノ不評判ニ関スル三四ノ実例ヲ漏シタル際先頃同人李純ヲ訪問シ時局ニ関スル談話ヲナシタル後間モ無ク漢口日本派遣隊司令官(ト「モリソン」カ言ヒタル由ナルモ或ハ多賀大佐ナルヤニ思考セラル)李純ヲ訪ヒ帝國政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ「モ」ヨリ如何ナル話アリタルヤヲ尋ネタル旨内話セリト語り自分ノ如キモノニ対シテ斯クノ如キ密偵シキ行動ニ出ツルハ解シ難シトテ不快ノ語氣ヲ漏シ居タル趣ナルカ我出先軍憲從來ノ遣口ニ鑑ミ之又強チ虚報トモ思考セラレサルニ付乍序申添フ

一二〇 十一月二十一日 在北京坂西陸軍少將ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

中国南北和平ニ関スル坂西少將ト徐大總統ト

嚇の手段ヲ採リ會議ヲ妨ゲ不成立ニ終ラシムベキヲ怕ルト述ヘタルニ之ニ対シ大總統ハ固ヨリ其事柄ト南方ノ態度トニ依リテ異ルヘキモ過日来督軍ヲ北京ニ会シ自ラ時局解決ニ対スル意見ヲ説明シタルニ中ニハ随分無暴ナル意見ヲ吐クモノアリシモ結局予ノ政見ニ服從スヘキヲ誓ヒタルニ依リ数日前停戦命令ヲ発スルニ至リタル次第ナルヲ以テ少クトモ馮總統時代ニ比シテハ遙ニ從順ナルヘク而モ予ト段祺瑞ト心ヲ合セテ事ニ当レハ再び貴官ノ杞憂スルガ如キコト無キヲ保証スヘシト頗ル真面目ニ語り要ハ西南五省ノ態度如何ニアリト附言セリ

一二一 十一月二十二日 内田外務大臣ヨリ  
在伊國伊集院大使宛(電報)

中国南北妥協勸告ニ関スル我方提議ニ対シ速

ニ伊國政府ノ同意ヲ取付クル様訓令ノ件

第九四号

貴電第一九八号ニ関シ

英米仏三国政府ハ御承知ノ通り已ニ帝國政府提案ニ対シ同意ヲ表シ残ルハ唯伊國政府ノミナル処此ノ上伊國政府ノ回答遷延ノ為今ヤ折角支那南北妥協ノ氣運熾烈ナル好機ヲ逸

スルニ於テハ又々支那政局ニ如何ナル變調ヲ生スルニ至ルヤモ計リ難キ次第ニ付貴官ハ至急伊国当局ニ面会ノ上右ノ次第篤ト説示セラレ速ニ其ノ同意ヲ取付タル様御配慮アリタシ

右為参考英仏米各大使ニ転電アリタシ

一二二 十一月二十二日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ノ我方提議ニ関シ在中国日

英米仏伊代表者会議シ勸告文ノ起草ヲ米国公

使ニ依頼ノ件

第一六一四号

南北妥協勸告問題ニ関シ英仏兩國公使ハ疾クニ本国政府ノ訓令ニ接シ居リタル処米国公使ハ十一月二十一日日本政府ヨリ本件遂行方電訓ニ接シタル趣ニテ其ノ結果首席公使ヨリ二十二日日英米仏伊五国代表者會議ヲ召集シ最初首席公使ヨリ在英大使宛電第五八八号全文ヲ讀ミ上ゲタル後一応意見ヲ交換シタルガ何レモ最初帝國政府提議ノ当時ニ比シ和平ノ機運漸ク進ミツツアル今日ノ方高压的ノ嫌モ薄ラギ一層本件実行ニ適當ナル可ク又右和平ノ氣運進行ノ事態

ニ顧ミ勸告文ハ南北同文トナシ得ル範圍内ニ於テ適宜右事態ニ相応スル様作製スルコト必要ナリト云フニ一致シ、本使ヨリ首席公使ニ該案文起草方ヲ求メタルモ同公使ハ昨今甚ダシク多忙ナリト申述ベタルヲ以テ首席公使ノ同意ヲ得テ更ニ米国公使ニ依頼シタル処同公使ハ多少躊躇ノ末之ヲ承諾シ右案文ハ出来次第各關係公使ノ回覽ニ附シ来ルコトトナレリ、尚伊国代理公使ハ未ダ本国ヨリノ訓令ニ接シ居ラザルモ右決定実行ニ異存ナク尚早速本国政府ニ申進ス可キ旨ヲ述ベタリ

在上海、広東総領事へ転電セリ

一二三 十一月二十三日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在中国米国公使起草ノ中国南北妥協勸告案文

ニ關係国同意ノ件

別電 同日在中国林公使宛内田外務大臣宛電報第一六

二三号右勸告案文

第一六二二号 至急

往電第一六一四号ニ関シ

十一月二十三日首席公使ヨリ米国公使起草案文別電第一六

二三号ノ通り廻章ニ附シ来リタルニ付同意ヲ与ヘ置ケリ仏伊兩國公使モ亦同意ノ旨記入シ居レリ依テ在広東総領事ニ對シ右ノ次第並別電ヲ電報スルト共ニ關係各領事ト協議シ当地ト同日ニ南方ニ對スル申入ヲ為シ得ル様準備方電訓セリ申入日取ハ首席公使ヨリ大總統ノ都合問合セノ結果ニ依リ電報致スヘシ

別電ヲ共ニ上海ニ転電ヤリ

(別電) 十一月二十三日在中国林公使宛内田外務大臣宛電報

第一六二三号

中国南北妥協勸告案文

No. 1623. Urgent.

Aide-Mémoire

It is with grave concern that the Governments of France, Great Britain, Italy, Japan and the United States have witnessed the continued civil strife which, during the past two years, has divided this country. This unhappy division has proved no less harmful to foreign interests than disastrous to the welfare of China itself. The consequent unrest has been an encouragement to the enemy, and during the supreme crisis of the war, has hampered the

co-operation of China with the Allies: and now that that crisis is past and the nations look forward to the hope of effecting some organization of the world, for the realization of peace and justice among all peoples, the disunion still prevailing in China makes their task more difficult.

Associated Governments of France, Great Britain, Italy, Japan and the United States have observed with hopefulness the steps already taken by the President of the Republic, with a view to the settlement of the civil strife, and have been happy to believe that the attitude of the southern leaders indicated no less a desire, on their part, to arrive at an amicable adjustment of differences. These Governments have therefore taken occasion to express the sympathy and the hopefulness with which they regard these indications of a desire, on the part of both the Peking Government and the leaders of the southern party, to set aside all considerations of merely personal sentiment and of legal technicality, and to seek, without delay, by frank conference, some means of attaining a reconciliation, upon a

basis of law and of devotion to the interest of the Chinese nation, such as is necessary to assure to China peace and unity within its borders.

In taking occasion to express their earnest sympathy with the efforts of both sides to achieve a solution of the difficulties that have hitherto divided them, the Governments of France, Great Britain, Italy, Japan and the United States desire to make clear that in so doing, they have in contemplation no ulterior plan of intervention, and no desire to control or influence the particular terms of adjustment, which must remain for the Chinese themselves to arrange. They desire only to lend what encouragement they can to the aspiration and efforts of both parties, for a reconciliation and a reunion which will enable Chinese nation to bear, the more worthily of its own tradition, its part in the reconstruction which the nations of the world are now hoping to attain.

Hayashi

一二四 十一月二十四日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

中国南北妥協勸告文中ニ於テ關係列国ハ統一  
中国政府ニ財政的援助ヲ与フル用意アルコト  
ヲ保証セントスル米國ノ新提案ニ日本政府ハ  
異存無キ件

第一〇八六号

往電第一〇七七号<sup>(註)</sup>妥協勸告ニ関スル米國政府回答後段財政  
援助ニ関スル同政府新提案ノ趣旨ハ畢竟帝國政府ノ方針ト  
合致スルモノト認メラルルニヨリ關係各國政府ニ於テ同意  
ナルニ於テハ帝國政府ニ於テモ別段異存ナキニ付右ノ御意  
ヲ以テ可然御措置アリタシ  
右為參考往電第一〇七六号及第一〇七七号ト共ニ広東及上  
海ニ転電アリタシ

註 十一月二十一日外務大臣發往電第一〇七六号及第一〇七七  
号ハ在米國石井大使ヨリ外務大臣宛電報第七三〇号及七三  
一号(前掲)ノ転電ナリ

一二五 十一月二十四日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和議實現ノ場合中国政府ノ必要トス  
ル外国借款ニ関シ船津ヲシテ曹財政總長ニ尋

# ネシメタル件

第一六二四号

十一月二十三日当地漢字新聞ニ政府筋ノ消息ナリトテ南北  
議和實現ノ場合ニハ莫大ナル善後經費ヲ要スル見込ナルニ  
付曩ニ米國公使ニ相談シタル処同公使ハ単ニ賛意ヲ表シタ  
ルノミニテ今尚明確ナル挨拶ナキヲ以テ某々ヲ遣シ更ニ米  
國公使ニ尋ネシメタルニ已ニ本國政府ヨリ協議開始差支ナ  
キモ先ツ支那政府力断シテ他ノ目的ニ流用セサルコトヲ表  
明スルヲ要スル旨訓令アリタル趣答ヘタル由云々ノ記事ア  
リ如何ニモ貴電第一〇七七号米國政府ヨリ石井大使宛回答  
末段ノ趣旨ニ類似セル所有ルニ付船津ヲシテ為念曹財政總  
長ニ右記事ノ真偽ヲ確メシメタル処政府トシテハ未タ米國  
公使ニ対シ何等借款談ヲ提議シタルコトナキモ或方面トノ  
間ニ右類似ノ談話ヲ交換シタルコトアルヤ否ヤ承知セス尤  
モ南北ノ和議カ都合ヨク進行スルヤ否ヤハ別問題ニシテ政  
府トシテハ早晚外国ニ向ッテ借款ヲ提議スヘキ必要起ルニ  
至ルヘキヲ以テ自分ハ遠カラス財政總長ヲ辞スル筈ナルモ  
若シ自分ノ在任中其必要ニ迫ラルレハ必ス先ツ本使ニ向テ  
相談スル積リナル旨伝言方ヲ船津ニ依頼シタル趣ナリ御参

一 中国南北調停一件 一二六

# 考迄ニ

一二六 十一月二十五日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

在中国米國公使起草ノ中国南北妥協勸告案文  
ニ異存ナキ旨並勸告後該勸告文及帝國政府ノ  
对中国借款ノ方針、手續ノ公表ヲ為ス旨通報  
ノ件

別電 十一月三十日内田外務大臣發林公使宛第  
一〇九〇号

帝國政府ノ对中国借款ノ方針ニ関スル公表文

第一〇八九号

貴電第一六二二号ニ関シ

御電示ノ米國公使起草案当方ニ於テ異存ナシ尚本件勸告実  
行ノ上ハ直チニ右勸告文ニ簡單ナル説明書ヲ附シ公表ノ筈  
ナリ(右説明書ハ追テ電報スヘシ)尚右公表ト同時ニ往電  
第一〇〇六号<sup>(註)</sup>帝國政府対支借款ノ方針ニ付テモ別電第一〇  
九〇号ノ通り又往電第一〇七九号<sup>(註)</sup>借款手續ニ関スル件モ追  
テ電報スヘキ通り夫々發表ノ筈ナリ不取敢御含迄申添フ  
右上海及広東ニ転電アリタシ尚当方ヨリ右三件發表ノ次第

一〇九

註 外務大臣發往電第一〇〇六号ハ对中国借款善後策ニ関スル

(別電) 十一月三十日内田外務大臣發林公使宛電報第一〇九

○号

帝國政府ノ对中国借款ノ方針ニ関スル公表文

## 号

碍スルコトアルヘク從テ政府ハ支那国内ノ政局

ニ紛糾ヲ加フルノ虞アリト認メタル借款其他財政上ノ援助ハ之ヲ差控フルコトニ決定シタリ此ノ方針ハ支那ニ利害關係ヲ有スル諸列強ノ切實賛同スル所ナルヘキヲ信ス

Mischievous reports of Japanese activities in China, more particularly with regard to the granting of loans, have for some time past been in circulation and have imputed to the Japanese Government intentions which are entirely foreign to them. For obvious reasons, the Japanese Government cannot undertake to discourage financial and economic enterprises of their nationals in China, so long as those enterprises are the natural and legitimate outgrowth of special relations between the two neighbouring and friendly nations. Nor are the Japanese Government at all receding from their readiness to render needed financial assistance to China, consistently with the terms of all the declarations and engagements to which they are a party, should the general security and welfare of China call for such assistance. At the same time, they fully realize that loans supplied to China, under the existing conditions of domestic strife in that country, are liable

d in by all the Powers interested in China.

二月二十五日

内田外務大臣宛（電報）

政総長ヨリ芳沢ニ対シ軍隊解散ノ為約一

ノ借款ヲ四國銀行團ニ申込ミ度キ意向ナ

談話ノ件

号

日芳沢曹汝霖ニ会見ノ際曹ハ財政ノ窮迫ヲ訴ヘ  
行政費ハ塩税剩余等ヨリ兎ニ角支弁ノ道ナキニ  
軍事費ノ調達ニ付テハ甚タ困難ヲ感スル次第ナ  
ニ停戦命令ノ公布ヲ見タルモ停戦ニ次クニ撤兵  
兵ニ次クニ解散ヲ以テスルニ非ザレハ所期ノ目

国南北調停一件 一二七

のタル南北和平統一ノ実ヲ挙げ難ク軍事實費ノ減額亦望ム可  
 カラス而シテ差向キ軍隊ノ解散ニ要スル費用トシテハ兵卒  
 一人ニ付二〇元乃至二四元ト見積リ其他必要ノ經費ヲ込メ  
 總額約一億元ヲ要スル見込ニテ右金額調達方四国銀行団ニ  
 向テ提議シ度キ意嚮ナルカ若シ列強ニ於テ南北ノ統一実行  
 セラレタル後ニ非ザレハ其種類ノ如何ヲ問ハス一切借款ニ  
 応セラレサルカ如キ態度ヲ執ラルルニ於テハ支那ハ逆ニ南  
 北ノ統一ヲモ実行スルコトヲ得サル次第ナルカ故統一ノ事  
 業全部完成ヲ見サル以前ト雖モ解散費ノ借款ニ応スルコト  
 トセラレ度ク現ニ龍濟光ノ軍隊ノ如キハ第一着ニ解散ノ必  
 要アルヘク引続テ順次他ノ軍隊ヲ解散スルコトトナル可キ  
 旨並一ヶ月約百萬元ヲ要スル見込ナル旨述ヘタルニ付芳沢  
 ヨリ全然一己ノ私見トシテ借款団ニシテ主義上外国側ノ承  
 諾ヲ得ルニ於テハ焦眉ノ費用ハ或ハ前貸等ノ形式ニ依リ調  
 達ヲ求ムルコト左シテ困難ニアラサルヘキ旨答ヘ置キタル  
 趣ナリ尚其節曹ハ実ハ米國筋ヨリ軍隊解散等ニ伴フ費用調  
 達方ヲ申込ミ梁士詒カ周自齊ヨリ大總統ニ之ヲ取次キ居ル  
 モノノ如キモ（曹ハ金額其他ノ細目ニ付テハ言明ヲ避ケタ  
 ル由）自分ニ於テハ本件費用ノ如キハ正式ニ四国団ニ向テ

提議スルコト至当ナリト信シ居レル旨ヲモ内話セル趣ナル  
カ米國側ニ於テ内密スノ如キ運動ヲ試ミツアル事案ナ  
リトスルモ米國官辺ニ於テ進テ之ヲ指導シ及承認シツア  
リトハ認メ難ク旁々若シ御同感ナルニ於テハ然ルヘキ方法  
ニ依リ米國政府ニ内談ヲ遂ケラルル様致シ度ク若シ米國官  
辺ノ承諾ニ基キスノ如キ運動行ハレ居ルモノナルニ於テハ  
他ノ四國団側ニモ通知ノ必要有之ヤニ思考ス

一二八 十一月二十五日 在北京坂西陸軍少將ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

中国南北妥協ノ實現ハ不可能ナリトノ段祺瑞  
ノ意見報告ノ件

坂極秘第三〇〇号

(十一月三十日參謀本部ヨリ外務省接受)

昨日段祺瑞ト会见親シク彼ノ南北調停案ノ私信ニ基キ意見  
ヲ交換セリ彼ノ所見左ノ如シ目下李純ヲ介シテ陸榮廷、唐  
繼堯等ト意見ノ疏通ヲ計リツツアリト謂フモ彼等西南ノ各  
首領ハ結局尚多クノ土地ト金トヲ得シカ為ニ恰モ妥協ノ誠  
意アルカ如キ言ヲ吐クモ金ト土地トヲ得レハ仮令一時妥協  
成立スルトモ必スヤ再ヒ曩ノ擾乱ヲ繰返スニ相違ナシ依テ

ラス然リトテ根本的解決ハ昨今ノ情況ニテハ恐ラク不可能  
ナリト觀察シツツアルモノノ如シ尚彼ハ參戰軍編成ニ関シ  
其資金到着遅延ノ理由ヲ反覆詰問シタルニ依リ相応ノ弁明  
ヲ与ヘ置キタルモ尚若干疑惑ノ念ヲ有スルヤニ察セラル  
又彼ハ督辦トシテ近時東清、西伯利鐵道一帯米國人ノ活動  
ヲ杞憂シ東清鐵道ハ支露兩國間ニ条約存立スルモノナル故  
貴國トシテハ兎ニ角支那ノ主權ヲ尊重シ支那國民ヲシテ東  
清鐵道ハ米國若クハ貴國ノ有ニ歸スルノ虞ヲ懷カシメサル  
様貴國当局ニテ御配慮アラントヲ望ム云々ト附言セリ

一二九 十一月二十六日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

孫文ヨリ日本ノ援助ヲ得バ日中ノ連盟ニ依リ  
英米ノ跋扈ヲ牽制シタシトノ意見ヲ日本政府  
ニ伝達セラレタキ旨申出ノ件

第一六四号

本日孫文ヨリ会见ヲ求メ来リタルニ付往訪セル処彼曰ク広  
東ヨリノ確報ニ依レバ軍政府ガ停戰命令ヲ発スルニ至リタ  
ルハ全ク米國總領事ガ本國政府ノ訓令ニ依リ伍廷芳其ノ他  
軍政府ノ要路ニ勸告ヲナセル結果ニシテ気骨ナキ彼等ハ米

予ノ所見モ全ク貴官ノ言ノ如ク國家ノ根本道タル憲法ノ確  
定ヲ以テ先決問題トスルニアリト雖モ北方カ和平ノ希望ヲ  
示サハ南方ハ愈々益々附ケ上リテ暴言ヲ吐キ嘗ニ政府ヲ認  
メサルノミナラス徐世昌ノ退位ヲモ計ルニ至ルヘシ此点ハ  
貴國人並ニ歐米人ノ多クカ恐ラク了解シ得サル点ナルヘク  
抑モ予カ總理ヲ辭シタルハ徐世昌ノ就任ト共ニ時局ヲ和平  
的ニ解決センコトヲ希望セルカ為ナリト雖モ其後ノ情況ハ  
予トシテ寧ロ悲觀ナリ唯予ハ猥リニ容喙スヘキ位置ニアラ  
サルヲ以テ徐ニ其情勢ヲ觀測シ得ルニ過キス速ニ憲法ヲ定  
ムヘキ議論ハ誠ニ可ナルモ貴官ノ所説ノ如ク北方ヲシテ新  
國會ヲ主張セシメス南方ヲシテ旧國會ヲ主張セシメス互讓  
ノ精神ヲ以テ憲法議會ヲ組織シ新紀元ヲ開クト云フ感念ハ  
恐ラク南方暴論派ニ對シテハ到底望ミ難カルヘシト述ヘタ  
ルニ依リ小官ハ然ラハ北方ハ如何ト反問シタルニ北方モ亦  
「モンロー」派内ニ此感念ヲ求ムルコト或ハ不可能ナルヘ  
キモ督軍連カ之ニ因リテ更ニ徐世昌ノ意圖ニ背キ反抗擾乱  
ヲ惹起スルカ如キコト万之無ルヘシト答ヘタリ要スルニ段  
ハ無責任ノ位置ニアル為徐世昌ノ言ノ如ク具体的ナラサル  
モ所謂南北妥協ハ一時的ノモノニシテ余リ宜シキモノニア

國政府ノ歛心ヲ失ハンコトヲ恐レ之ニ服從セルニ外ナラズ  
而シテ他方北京政府ノ停戰命令モ亦米國公使ノ勸告ニ出デ  
タリトノコトナルカ今ヤ支那ハ南北ヲ挙ゲテ米國ノ指導ノ  
下ニ動カントシ日本ノ勢力全ク一掃セラレントス素ヨリ確  
証ノ存スルナキモ当初英國モ亦米國ト歩調ヲ共ニセン計畫  
ナリシモ日本ノ参加ヲ恐レテ米國ヲシテ单独ニ行動セシメ  
タルモノニシテ英米間ニモ若干ノ連絡アルモノト解ス可ク  
聞ク所ニ依レバ日本ガ列國ト共ニ支那ニ勸告ヲ与ヘントス  
ル計畫ニ對シテモ米國ガ主義ヲ贊同シツツ尚躊躇ノ色アリ  
トノ説アルガ如キ亦米國ノ真意ヲ忖度スルニ足ル可シトナ  
シ此形勢ヲシテ(脱?)南北ノ妥協假令成功スルトシテモ  
果シテ日本及東亞ニ何程ノ利益ヲ齎ス可キカ蓋シ其政府ノ  
派遣スル全權委員ハ講和會議ニ於テハ英米ノ機關トナリ日  
支協約ノ如キハ全然破毀ノ運命ヲ招クモ亦知ル可カラズ即  
結局東亞ニ於ケル日本ノ勢力驅逐トナリ英米是ニ代ルノ結  
果ヲ招致ス可ク真ニ亞細亞民衆ノ不幸ナリト断ジ幸ヒ自分  
己ノ支配ニ歸シツツアリ而モ軍政府ノ停戰命令ニ服從セザ  
ル限ハ武器彈藥軍事費等ノ供給ヲ断タル可ク今ヤ是ニ從フ

ノ外ナキモ若シ日本ニシテ適當ナル援助ヲ与ヘラルルニ於テハ即チ立チテ福建ヲ基礎トシテ浙江ヲ衝キ広東ヲ従フ可ク雲南ハ目下日和見ノ姿ニ付直チニ我ニ帰ス可ク四川ハ勿論吾勢力範圍ナルノミナラズ長江一帯ノ督軍亦是ニ加ハル可ク李純ノ如キ事実和平ヲ希望シツツアルニ非ザルハ確タル消息アリト云ヒ山東ニ於ケル自己ノ勢力ヲ説キ斯ノ如クニシテ勢クモ支那ノ過半ヲ徇ヘンカ以テ日本ト提携シテ英米ノ跋扈ヲ牽制シ得可シト云ヒ本官ガ仮令其理想トスル所ノ実行セラレタリト假定スルモ畢竟支那ノ内乱ヲ長カラシムルノミナラズ列國ノ干渉ヲ招クノ因タル可キヲ指摘セルニ對シ彼ハ曰ク英米特ニ米國ノ徹頭徹尾「デモクラシー」ヲロニシタルニ顧ミ彼等ハ「デモクラシー」ヲ主張シテ立ツ吾人ノ運動ヲ阻止スルノ理由ナカル可キヲ断定シ日本ガ座シテ英米ノ跋扈ニ默從センヨリ今ニ於テ果斷ノ措置ニ出デ飽ク迄東亞ノ聯盟ヲ理想トスル自分ニ援助シテ以テ將來ノ大計ニ資センコトヲ望ムト云ヒ右ノ趣旨ヲ至急政府ニ傳達セラレンコトヲ希望スル旨纏陳セルニ付本官ハ吾政府ノ方針トスル所一意支那ノ和平ヲ達成セントスルニアル以上一部ニ對シ武器軍資等ノ供給ハ今更到底考慮ニ上ラザルコ

## 第一六五号

本日唐紹儀ニ面談セル処彼ハ和平會議ニ付大ニ徐世昌ノ真意ヲ疑フト云ヒ自分ガ發セル電報ニ對シ一昨日徐ハ一切ヲ拳ゲテ李純ニ委ネ以テ全權ヲ弁理セシムル旨回電シ来リ敢テ自分ノ意見ニ反對セザルモ又之ヲ容レタル形跡ナク然カモ和平會議ノ文字ヲ使用セズ善後ナル文字ヲ以テセル既ニ誠意ナキ証左ナリトナシ善後ナル文字ハ反乱等ノ跡始末ヲ付クル際ニ使用セラルベキモノニシテ既ニ南方ハ數歩ヲ譲リテ不正當ナル大統領又ハ北方政府ト對等ニ會議ヲ開クトスル迄ニ折合タルニ至リ尚且吾人ヲ反乱者扱ニ為サントスルガ如キハ以テノ外ナリト為シ曩ニ徐ガ李純ニ宛テ和議ノ條件トシテ陸榮廷、唐繼堯ノ地位ヲ確認シ兩広、雲南以外ノ地ニ於テ各々其所屬ノ軍區ニ退カシムルコト等六箇条ノ條件ヲ提示セルモ李ハ幸ニ公然之ヲ南方ニ示サズ單ニ其内意ヲ探リタル末其行ハルベカラザルヲ認メ之ヲ徐ニ返送シタルヲ以テ直ニ乖離ニ至ラザリシモノナルモ徐ノ抱懷スル意見ノ一端ヲ認ムベク予ハ飽ク迄モ徐ノ名前ヲ出サズ且無條件ニテ双方ノ会合ヲ為スノ外時局解決ノ途ナキヲ(脱)最初徐ニ電報セルモ毫モ其容ルル所トナラザル而已ナラズ停

ト考フルモ貴見ノ概要ハ取次キ置ク旨答ヘ置ケリ尚同人ハ數日前「ウィルソン」宛發送セル電報ニ関シ右ハ到底其反省ニ資スルニ至ラザル迄モ一部輿論ヲ刺戟スルノ効果アル可シト為シ唐紹儀等ノ會議ノ計画ハ到底成功セザル可シト觀測シ居レリ別電第一六五号唐紹儀ノ談話ニ照シ停戰命令ガ米國總領事ノ勸告ニ基ケリトノ談ハ或ハ畢竟吾方ノ援助ヲ求ムル為ニ利用セントスルモノトモ考ヘラレ元來理想家タル同人ノ所説ニ余リニ重キヲ置キ能ハザル可キモ而モ東亞ノ將來ヨリ打算シテ日支聯盟ヲ必要トスル信念ヲ有スルコト同人ノ如キハ支那政治家中稀ニ見ル所ト考ヘラレ中外ニ對シ同人ヲ利用スルヲ得策トスル機會尠カラザル可シト思考セラルルニ就テハ其ノ御含ミヲ以テ然ル可ク御考慮ヲ加ヘラルル様致シ度シ

一三〇 十一月二十六日

在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

徐世昌ハ南北和平ニ誠意ナキニ付日本ガ南北  
和平ニ関シテ若干ノ勸告ヲ徐ニ与フルコトヲ  
希望スル旨唐紹儀談話ノ件

戰命令ト共ニ尚福建ニ兵ヲ送り山西ニ増兵スル等其為ス所第一革命後ノ袁世凱ニ異ナラズ日本出發前首相外相等ニ面談ノ結果ノ感想ニ依レバ日本ハ非公式ノ妥協方法ニ付若干ノ勸告ヲ徐世昌ニ与ヘラルル考ナルヤニ認メラレタルモ右ハ尚未ダ実行セラレザルモノト見ユル処右ハ今ニ於テモ必ズヤ多大ノ效果アリト信ズルヲ以テ是非其取計ニ出テラレンコトヲ望ムト云ヒ南方ハ終始和平ノ解決ヲ希望スル以上之ガ取纏メハ自分ノ責任ナルモ北方ニ至リテハ如何トモ為スベカラザルハ之ヲ認メ置カレタシト尚徐ハ今尚段祺瑞軍閥ニ制セラレ且然カモ自ラ責任ヲ帶ビテ國家ヲ処理スル覺悟ナキモノト認メザルヲ得ズ勿論友人トシテ飽ク迄之ヲ勸告シテ吾人ノ主張ヲ容レシムルニ努ムベキモ彼ニシテ聴カザレバ已ムヲ得ズ現状ヲ維持シ少クモ海軍ヲ使用シテ福州ヲ陥レ湖南省良兵ヲ用フル等ノ必要アルベク之ヨリ北方ニ資金ノ供給ナキ以上如斯シテ南方ガ益々有利トナリ徐世昌モ結局自分ノ説ヲ容ルルノ外他ニ途ナキニ至ルヘク要ハ時日ノ問題ニシテ敢テ悲觀シ居ルモノナラストナシ尚李純ガ極メテ樂觀説ヲ有セリトノ説ニ對シテハ唐曰ク彼ハ或ハ其周圍ニ誤ラレ居ルカ又ハ為メニスル所アリテノ事ナルヘク

陸榮廷唐繼堯等モ今迄妥協条件等ニ何等「コンミット」セルコト更ニ無之ハ各方面ノ消息ニ依リ明カナリト断シ傍ニアリタル章行敵ニモ顧ミ問ヒ同人モ亦全ク之ヲ首肯シ居タリ尚孫文談話ノ南方ノ停戦命令ガ米國ノ勸告ニ基ケリトノ説ヲ其レトナク確メタル処彼ハ全然之ヲ否定シ同命令ハ畢竟南方ガ和平ヲ希望スル誠意ヲ示セルモノニ外ナラズ若シ他方ヨリ勸告セルモノアリトセバ自分及章行敵ノ二人者ニ止マルベシト云ヘリ唐ハ帰來漸次強硬論トナリツツアリトハ張繼等ノ内話ナリシ処本日会見ノ感想ニ依レバ益々然カアルモノノ如ク当分当地ニ滞在徐ト電報往復ヲ以テ真意ヲ確メタル後何レカニ行動スル筈ナリト申居タリ尚章行敵張繼ハ最近便ニテ広東ニ先発ノ希望ナリトノ事ナリ在支公使広東総領事ヘ電報セリ南京領事ヘ暗号ノママ郵送セリ

一三一 十一月二十六日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

王芝祥南北和平斡旋ノ為広東訪問ニ付同日

本領事ヘノ紹介状ヲ得度キ旨船津ヘ申出ノ件

第一六四三号

十一月廿五日王芝祥船津ヲ來訪シ北方ニテハ御承知ノ通り同志ノ士平和期成会ナルモノヲ組織シ極力南北ノ統一ヲ實現セシメント奔走シ居ルモ広東方面ニテハ今猶議論区々ニシテ北(脱)共鳴スル模様ナキニ依リ期成会同志ヨリ自分ガ広東広西方面ニ陸榮廷ヲ始メトシ旧知及ビ旧部下勲カラザルヲ以テ此際同会ヲ代表シ広東ニ赴キ同方面ノ有力者ヲ誘説シ時宜ニ依リテハ南方ニモ平和期成会同様ノ機關ヲ組織シ南北相呼応シテ時局解決ノ促進ニ資セラレタキ旨懇頼有リタルニ付キ不日当地出發ノ心算ナルガ広東著ノ上或ハ日本領事ノ援助ヲ仰グノ必要生ズルヤモ計リ難シト思料スルニ依リ紹介状ヲ得タシト申出タルニ付船津ハ全然個人ノ資格ニテ紹介状ヲ交付スベキ旨答ヘ置キタリ上海及ビ広東ヘ電報セリ

一三二 十一月二十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

中国政府ノ借款申出ニ関シ南北和平阻碍ノ虞

アルニ付之ニ応ジ難キ旨中国側ニ懇説方訓令

ノ件

第一〇九四号

貴電第一六二〇号ニ関シ

近來支那側ヨリ正金側ヘ頻リニ借款申出アル処支那財政ノ窮乏ハ帝國政府ノ極メテ同情スル所ナルモ此際斯ル行政費ノ類ヲ日本ヨリ融通スルハ再ヒ我公正ノ態度ニ付問題ヲ醸スノ虞アルノミナラス今ヤ南北兩派トモ停戦命令ヲ出シ支那全土ニ亘リ折角平和ノ氣運頗ル熱セルニ際シ日本ニ於テ北京政府ノ此種借款申出ニ応スルトキハ直チニ南方派ノ誤解疑惑ヲ招キ和局ノ進展ヲ阻碍スルニ至ラムコトヲ虞ルルニ付帝國政府ニ於テハ乍遺憾此際支那側申出ノ借款ニ応スルコトハ承諾シ難シ然レトモ支那財政ノ窮境ニ陥ルハ日本トシテモ最モ苦痛トスル所ナルカ之ヲ救済スル唯一ノ方法ハ支那力速ニ内訌ヲ熄メ其統一ノ實現ヲ図ルニ在リ支那ノ統一ニシテ一度成ラハ日本ハ喜テ支那政府ノ為メ自ラモ出來得ル限り財政上必要ノ援助ヲ与ヘ又列國ニモ十分斡旋ノ勞ヲ辞スルモノニアラス就テハ貴官ヨリモ右ノ次第夫々支那当局ニ篤ト説示シ十分日本ノ真意ヲ諒解セシメラレタシ尚右支那当局ニ申入ノ機會ニ於テ貴官ハ上記ノ我方針ハ素ヨリ毫モ北方若ハ其ノ一部ヲ排斥シ或ハ南方ヲ援ケ又ハ漫ニ反動的政策ヲ執ラムトスルノ趣意ヲ含ムモノニ非ス若シ

一 中国南北調停一件 一三三

之カ為メ北京当局特ニ曹汝霖ノ如キ從來日本ニ対シ特別ノ厚誼ヲ有スル人士ニ対シ不便ヲ与フルカ如キ結果ヲ齎ラスコトアリトセハ誠ニ帝國政府ノ情誼上忍ビ難キ所ナルモ支那全国民永遠ノ幸福ト世界時局ノ大勢トニ顧ミ之亦已ムヲ得サル次第ナルニ付北京当局ニ於テモ能ク帝國ノ本旨ヲ諒解シ日本並ニ列強ノ希望通り一大決断ヲ以テ支那ノ妥協統一ノ促進ニ努力セムコト切望ニ堪ヘサル所ナル旨懇篤ニ申聞ケ置カレ度シ

註 後出二二八文書

一三三 十一月二十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

在中国米國公使起草ノ南北妥協勸告文中米國

國務卿ノ对中国財政援助ノ提議ニ言及シ居ラ

ザル事情問合ノ件

第一〇九五号

貴電第一六二三号ニ関シ

右米國公使起草勸告文案ニハ往電第一〇七七号末段米國政府提議ノ件何等言及シナキ処右ニ付テハ「ラインシュ」公使ヨリ何等申出ナカリシヤ又同公使ハ此ノ点ニ関シ本國政

府ヨリ訓令ヲ受ケ居ラサル模様ナルヤ右何分ノ義回電アリ度シ

註 十一月二十一日内田外務大臣宛在中国林公使宛第一〇七七号ハ在米国石井大使ヨリノ電報第七三一号ノ転電ナリ

一三四 十一月二十九日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告文及同説明書並对中国借款  
方針ニ関スル公表文電報方稟請ノ件

第一六五七号 至急

貴電第一〇八九号公表ハ何レモ当地ニテ同時ニ実行スヘキ御趣意ト存セラレ又其ノ方然ルヘシト思考セラルル処其ノ場合ニハ勸告ニ関スル公表ノ義ハ予メ一応関係公使ヘ断リ置ク方然ルヘシト存スルニ付説明書ハ成ルヘク早目ニ電報ヲ請フ又右説明書及借款方針ニ関スル公表文ハ日英両文共御作製ノ上電報アリタク勸告文ハ和訳ノ分折返シ電報アリタシ尚貴電第一〇九〇号ハ未タ接到セサル処ハ亦英訳電報アリタシ

一三五 十一月二十九日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

回ノ勸告ノ際口頭ニテ申添フルコトスルナリ何レニテモ差支ナキカト思考シ居レリト述ヘタル処同公使ハ同感ノ旨ヲ述ヘ且米国政府ノ提議ニ対スル帝國政府ノ意嚮ニ対シ満足ノ意ヲ表シ居タリ

註 林公使ノ外務大臣宛電報第一六四一号ヲ省略セルガ該電ハ中国南北妥協勸告ニ関スル関係国公使會議ニ於テ米国公使ガ米国政府ノ对中国政府財政援助ノ提議ニ言及セザリシコトニ関シ徳川書記官ガ米国公使館参事官ヲ往訪質問セル顚末ヲ報告セルモノナリ

一三六 十一月二十九日 在上海有吉総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

孫文ガ再び日本ノ援助ヲ要請セルニ付之ニ対  
スル回答振請訓ノ件

第一六八号

昨夜孫文来訪昨朝会見ノ節其縷陳セル意見ヲ敷衍シ現状ニ於ケル妥協ニ依ル統一カ支那ハ勿論日本ニ大ナル不利益ヲ齎スヘキヲ切論シ尚其後唐紹儀ニ面会唐モ今ヤ益々自説ニ接近シ姑息ナル妥協ヲ試ムルノ不得策ナルヲ自覺シ来レリト述ヘ往年唐ヲ説キテ其親米説ヲ捨テテ親日論者タラシメシモノハ自己ナリトシ唯彼カ外界ノ勢力ヲ排シテモ尚親日論ヲ支持シ得ルヤヲ疑フト云ヒ日本トシテ誠心誠意ノ日本

在中国米国公使ヨリ南北妥協勸告文中ニ訂正ヲ加ヘ度キ旨申出並米国政府ノ对中国政府財政援助ノ提議ニ対スル我方ノ意向ヲ同公使ヘ談話ノ件

第一六五八号

十一月二十九日米国公使来訪妥協勸告ニ対シ南方側ニ於テ例ヘハ徐世昌ノ大總統タルヲ認メストカ又ハ別ニ大總統ヲ選フトカ云フカ如キ實際的ナラサルコトヲ言出サンコトヲ防ク為メ往電第一六二三号勸告文中 (legal technicality and) ト (to seek) トノ間ニ (while carefully refraining from taking any step which might be on obstacle to peace) ナル一句ヲ加フル方然ルヘシト思考スル旨申出テタルニ付本使ハ之ニ同意シ置キタリ

尚貴電第一〇九五号ノ次第モアリタルニ付(同電ハ往電第一六四一号<sup>(註)</sup>ト行違ヒタルモノト存ス) 右談話ノ際本使ヨリ貴電第一〇七七号末段ノ件ニ言及シタル処同公使ハ之ヲ承知シ居ル模様ナリシニ付本使ヨリ貴電第一〇八六号ニ基キ右ハ帝國政府ニ於テモ全然異存ナキ次第ナルモ現ニ勸告文モ出来居ル此際ナレハ此点ハ後ニ別ニ処置スルナリ又ハ今

党ヲ支那ニ有スルノ必要ヲ力説シ彼カ東亜ノ将来ヲ慮リテ日本ト離ルル能ハサル所以ヲ説キ更ニ段祺瑞ハ或ハ親日論者タルヘン若シ果シテ真実爾カアル証左モアルニ於テハ自分ハ直ニ彼ト握手スルヲ厭ハス唯其過去ノ経歴ニ見テ甚タ之ヲ疑フノミト云ヒ更ニ南北ノ妥協ハ段ト自分トノ間ニアラサレハ成立スルノ理由ナク北方ヲ纏メ得ルモノハ段ニシテ南方ノ主力ハ自己ナリトシ此兩者ヲ除キテノ妥協ノ成立セサルヘキヲ過去ニ於ケル歴史ヲ挙ケテ説明シ福建ニ於ケル自己ノ勢力及浙江、四川等ニ於ケル立場ヲ説キテ熱心ニ日本ノ援助ヲ請ヘリ本官ハ現内閣力若干ノ借款ニ基ク前内閣ニ対スル誤解スラ之ヲ排除シ一意支那ノ和平ヲ希望スル不偏ノ政策ヲ執レルニ見テ斯カル希望ノ到底容レラレサルヘキヲ虞ルルモ貴見ノ趣旨ハ其假取次置ケル旨程ヨク申伝置ケルモ同人ハ尚何等カノ回答ヲ望ミ居ルモノト認メラルニ付テハ往電第一六四号末段申添ヘタル如ク今後同人ニ俟ツヘキモノ多々之アルヘキニ付同人ニ対スル何等然ルヘキ回答振御回訓ヲ請フ

在支公使ヘ電報セリ

一三七 十一月三十日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

南北妥協勧告並对中国借款ニ関スル方針及手  
続ノ北京ニ於ケル発表ニ付指示ノ件

別 電

同日内田外務大臣兼林公使宛第一一〇六号  
中国及西比利亜ニ対スル借款ノ手続ニ関ス  
ル日本政府公表文

第一一〇四号

貴電第一六五七号ニ関シ

公表文ハ三件共当地ト同時ニ貴地ニ於テモ発表セラレ差支  
ナシ尚貴電第一六二三号勧告文訳文ハ別電第一一〇五号ノ  
通り又往電第一〇八九号所載往電第一〇七九号借款手続ニ  
関スル公表文ハ別電第一一〇六号ノ通りナリ又勧告文ノ説  
明書日英文ハ可成速ニ追電スヘシ

註 別電第一一〇五号(勧告文ノ和訳文)ヲ省略ス後出十二月

二日外務省公表参照

(別 電)

十一月三十日内田外務大臣兼在中国林公使宛電報第  
一一〇六号

中国及西比利亜ニ対スル借款ノ手続ニ関スル日本政  
府公表文

第一一〇六号

時局ノ進運ニ伴ヒ本邦資本家ノ支那及西比利亜ニ対スル投  
資ハ外交上將又国家ノ財政並經濟上影響スル所歟カラサル  
ニ鑑ミ今般政府ニ於テハ左記ノ方針ヲ決定シ蔽ニ之ヲ励行  
スルコトト成レリ

一、爾今本邦資本家ニ於テ支那及西比利亜方面ニ対シ其ノ  
中央地方何レノ官憲タルヲ問ハス苟モ之ニ政費ヲ融通ス  
ルコトトナル虞アル借款又ハ類似ノ交渉ヲ開始サレント  
スルニ当リテハ必ス先ツ之ヲ外務省若ハ在外帝国大公使  
館又ハ領事館ニ申報ノ上指示ヲ受ケ尚隨時交渉ノ經過ヲ  
申報セラルルコトヲ要ス外務省ニ於テハ速ニ大藏省及其  
他ノ關係官庁ト協議ノ上關係資本家ニ対シ隨時指示スヘ  
シ

二、關係資本家ニ於テ前項ノ指示ヲ待タス又ハ指示ニ反シ  
テ交渉ヲ進行サルルトキハ政府ニ於テ保護ヲ供与セサル  
コトアルヘシ

三、問題ノ性質又ハ交渉進行ノ程度ニ依リテハ關係資本家  
ニ対シ直接ニ大藏省又ハ其他ノ關係官庁ヨリ指示スルコ  
トニ取計フコトアルヘシ

一三八 十一月三十日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

曹財政総長ノ借款申出ニ対スル我方意向補足

説明ノ件

第一一〇七号

貴電第一六三五号ニ関シ

右ハ往電第一〇九四号ト行違ヒニ接到シタル処近来支那側  
申出ノ借款ニ対スル帝國政府ノ意嚮ハ大体右往電第一〇九  
四号ニテ御承知ノ通りナルカ曹汝霖ノ云フカ如ク本件借款  
ノ成立ヲ見ルニアラサレハ南北妥協統一ノ実現ヲ期スルヲ  
得スト云フハ首肯シ難シ却テ此際南北双方ニ対シ此種名義  
ノ資金ヲ供給セサルハ即チ和局ノ進展ニ資スル所以ナリト  
信ス尤モ一旦妥協成立ノ上ニ於テ其ノ実行ニ必要ナル財政  
援助ニ付テハ帝國政府ハ關係列国ニ協議シテ及フ限り之ニ  
努力スルノ決心ヲ有スルモノナルカ故ニ曹汝霖ニシテ単ニ  
右予約ノ性質ヲ有スル保障ヲ帝國政府ニ求ムトスルノ意  
ナリトセハ其ノ保障ノ問題ハ今ヨリ詮議ノ途ナキニ非ス其  
ノ辺可然曹等ヲシテ諒得セシメラレタシ右前電補足旁申進  
ス

註1 林公使発米電第一六三五号ハ前掲一二七文書  
2 前掲一三二文書

一三九 十一月三十日 内田外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛(電報)

中国南北妥協勧告ノ際財政援助ヲ口頭ニテ申  
入ルルコトニ決定ノ場合ニハ至急電報方訓令  
ノ件

第一一〇八号

貴電第一六五八号ニ関シ

往電第一〇七七号米國政府提案ノ次第ヲ妥協勧告ノ際支那  
側ニ口頭ヲ以テ申入ルルコトト相成リタル場合ハ本件発表  
ノ關係モアレハ至急電報アリタシ

貴電第一六五八号至急上海及広東ニ転電アリタシ

一四〇 十一月三十日 内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛(電報)

中国政府要望ノ軍隊解散資金融通方ニ関連シ  
米國資本家ノ对中国借款運動説アルニ付米國  
当局ニ確メ方訓令ノ件

第五八一号

最近北京政府財政当局ハ我方ニ対シ頻リニ軍隊解散ニ要スル資金融通斡旋ノ希望ヲ漏ラシ且此際右資金ノ融通ヲ受クルニアラサレハ南北妥協統一ノ実現困難ナル旨説明シ居リ又支那当局ハ米國側ハ支那側ニ対シ右費用調達ノ申込ヲ為シタル旨内話シタル趣ナル処对支借款ニ関スル帝國ノ方針ハ在英大使宛往電第六一(註)号ノ通りナルカ南北妥協成立ノ上ハ素ヨリ必要ナル財政上ノ援助ヲ与フル覚悟ナルモ此際前記北京政府申出ノ借款ニ応スルトキハ直チニ南方側ノ誤解疑念ヲ招クノミナラス其使途モ疑ハシク結局却テ支那妥協統一ノ氣運ヲ阻碍スルモノト認メ之ヲ拒絶シ居レル次第ニテ米國政府ニ於テモ貴電第七三一号妥協勧告ニ関スル同政府提案ノ次第二鑑ミルモ素ヨリ帝國政府ト所見ヲ一ニスルモノト認メラルルニ付前記米國側借款運動說ノ如キモ或ハ支那当局ノ我ヨリ資金ヲ得ムトスル懸引ニ外ナラサルヘキカト思考セラルルモ万一米國資本家ニ於テ米國政府ノ方針ヲ知ラス斯ル挙ニ出ツルモノアラハ甚タ面白カラサル次第ニ付為念右米國当局ニ就キ確メラレ結果電報アリ度シ

註 十月二十九日外務大臣宛在英大使宛第六一(註)号ハ在中国臨時代理公使宛第一〇〇六号(九一九文書)ト同文ナリ但シ

仏、英、伊、米諸國政府ト共ニ支那南北首腦者ニ対シ全然友好的ノ勧告ヲ為スノ機宜ニ適スル措置タルヘキヲ念ビ之ヲ前掲列國政府ニ提議シタリ爾來本件帝國政府ノ所見ハ全然其ノ贊同ヲ得タルヲ以テ北京ニ於ケル日仏英伊米五國代表者ハ十二月 日徐世昌閣下ニ面謁シテ左記覚書ヲ呈出シ同時ニ広東ニ於ケル關係列國領事官ハ同日 氏ニ対シ同文ノ勧告ヲ与ヘタリ帝國政府ハ支那國民カ其ノ階級又ハ政派ノ如何ヲ問ハス挙ケテ今回勧告ノ公正無私ナル衷情ニ出テタルヲ諒トシ其ノ愛國的協同努力ニ依リ速ニ支那國內ニ平和及統一ノ樹立スルニ至ラムコトヲ切望スルモノナリ(別電11) 十二月一日内田外務大臣宛在中国林公使宛電報第一一二二号

中国南北妥協勧告覚書ノ説明書英文

別電 第1112号

The Japanese Government have observed with grave concern the protracted civil strife in China which has proved disastrous alike to her own welfare and to the interests of foreign Powers. They have accordingly suggested to the Governments of France, Great Britain, Italy and the United States that a joint representation of an entirely friendly

「右在上海、広東」云々以下「御含迄申添フ」迄全部削除ス  
一四一 十二月一日 内田外務大臣ヨリ 在中国林公使宛(電報)

中国南北妥協勧告覚書ノ説明書電報ノ件

別電一 同日内田外務大臣ヨリ在中国林公使宛

電報第一一二二号

右説明書

二 同右電報第一一二二号

右説明書英文

第一一二〇号

往電第一〇八九号ニ関シ

追テ公表スヘキ妥協勧告覚書説明書日英文別電第一一二一号及ビ第一一二二号ノ通り決定セリ不取敢

右広東上海ニ転電アリタシ

(別電一) 十二月一日内田外務大臣宛在中国林公使宛電報第一一二二号

中国南北妥協勧告覚書ノ説明書

別電第一一二一号

帝國政府ハ支那ノ内訌久シキニ亘リテ解ケス為ニ同國自身ノ康寧ト列國ノ利益トヲ損傷スルノ甚シキモノアルヲ見テ夙ニ憂慮ニ勝ヘス此際紛争妥結ノ促進運動ニ資セムカ為

nature might usefully be made by the five Governments to the leaders of both contending factions in China with a view to encouraging movements for a speedy solution of those differences. The associated Governments having expressed their full concurrence in the suggestion, the representatives of the five powers at Peking were received in audience by His Excellency Hsu Shi-Chang on December , and left with him the following Aide-Memoire which will explain itself. An identic representation was made to Mr. on the same day by the Consular agents of the associated Governments at Canton. The Japanese Government confidently hope that the Chinese people of all classes and political affiliations will justly appreciate the singleness of purpose by which this measure has been actuated, and through their combined and patriotic efforts in the same direction, peace and unity will soon be re-established within the borders of the country.

一四二 十二月一日 在中国林公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勧告実行ノ日取決定ノ件

第一六六号大至急

往電第一六六号<sup>(註)</sup>ニ関シ

大總統謁見ハ明日二日午後四時ト決定同日午前十一時關係公使會議開催一応打合ヲ為ス筈上海及広東へ電報セリ

註 林公使十二月一日発第一六六号省略セルガ該電ハ对中国勸告実行日取ノ予想ニ関スルモノナリ

一四三 十二月一日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協勸告ノ際財政援助ニ言及セザルコト

ニ決定ノ件

第一六六八号(大至急)

貴電第一一〇八号ニ関シ

此際ハ財政援助ノ件ニハ一切言及セザルコトニ決定セリ委細後電

以上ノ趣旨上海広東へ転電セリ

一四四 十二月二日 内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛(電報)

十二月二日徐總統ニ南北妥協勸告ヲ行フコト

ニ決定セル旨通報ノ件

第五八九号 至急

往電第五八三号<sup>(註)</sup>ニ関シ

北京ニ於テハ十二月二日午後四時徐總統ニ面謁ノ上予定ノ通り妥協勸告ヲ行フコトニ決定セリ又広東ニ於テモ同時ニ勸告申入ノ予定ナリ尚在支公使來電ニヨレハ本件勸告ノ際貴電第七三一号末段米國政府提案ノ件ニハ一切言及セザルコトニ決定セル趣ナリ不取敢御含迄右在英、仏、伊各大使ニ転電アリタシ

註 十二月一日内田外務大臣発石井大使宛第五八三号ヲ省略セルガ該電ハ中国側ニ南北妥協勸告実行ノ上ハ勸告覚書ヲ公表スル旨通報セルモノナリ

一四五 十二月二日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

關係公使會議ニ於テ南北妥協勸告後直ニ勸告

覚書発表ノコトニ打合セタル旨報告ノ件

第一六七三号(大至急)

往電第一六六六号ノ通り今二日關係公使會議ヲ開キタルガ其際公表ノ事モ話シ置ク方可然ト思考シ右様取計ヒタル処一同之ニ同意スルト同時ニ尚本日五國公使打揃ヒ謁見スル

### コトニ決定セル経緯詳報ノ件

第一六七五号

往電第一六六八号ニ関シ

十二月一日貴電第一一〇八号接到シタルニ付早速徳川ヲ米國公使ノ許ニ遣ハシ往電第一六五八号後段同公使トノ談話ニ關聯シ本件財政援助ノ事ハ別個ノ問題トシテ取扱フ方然ルベキ旨申入レンメタル処同公使ハ同感ヲ表シ本件ハ未ダ本國政府ヨリ日本政府以外へハ提議シアラズト思考スルノミナラズ伊太利ヲモ加ヘタル協同勸告中ニ財政援助ノ件ニ言及スルハ面白カラズ同國トシテモ之ヲ好マザル義ト思料スルニ付旁此ノ点ハ後日別個ノ問題トシテ処置スル方然ルベキ旨附言シタル趣ナリ越エテ二日五國公使會議ノ節本使ヨリ本件ニ言及シ米國公使ノ同意ヲ得テ本件米國ノ提議ヲ披露シ帝國政府ニ於テハ何時ニテモ本件申入レヲ実行スル事ニ異存ナク米國ハ曩ニ我國ヨリ対支借款團ニ復帰方ヲ勸告シ米國自身ニ於テモ既ニ新借款團組織ニ関スル意嚮ヲ表明セラレタル様ノ次第ナル一方伊國ハ対支借款團ニ關係ナキ次第ナルニ付本件ハ日英米仏四國ニテ処理スルコトトシ然ルベシト思考スル旨申出タル処一同異議ナキ旨ヲ述べタ

トキハ自然世間ノ評判ニ上ルベク兎角ノ誤報喧伝セラルルガ如キ事トナリテハ甚タ面白カラザルニ付本日謁見済次第不取敢勸告文丈ケ当地ニ於テ発表スル方可然トノ事ニテ本使ニ於テモ之ニ同意シ右様取計フ筈ナリ就テハ貴地ニ於テモ可成速ニ発表セラレタク本件及借款ニ関スル他ノ公表文二通貴地発表ノ日時決定次第電報ヲ請フ

上海、広東へ電報セリ

一四六 十二月二日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告実行済ノ件

第一六七四号

往電第一六七三号及貴電第一一四号<sup>(註)</sup>ニ関シ二日午后四時実行済

上海、広東へ電報セリ

註 十二月二日内田外務大臣発第一一四号ハ妥協勸告実行済ノ上ハ其旨大至急電報スベキ旨訓令セルモノナリ省略セリ

一四七 十二月二日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ノ際財政援助ニ言及セザル

一 中国南北調停一件 一四六 一四七

リ就テハ早速英仏両政府へ米國ノ提案御通知相成度ク当地英仏両公使ニ於テハ本國政府ノ訓令接到次第支那政府へ申入方取計フベシ米國政府ヨリモ本國政府ニ対シ本件英仏兩國政府へ提議方稟請スルコトナレリ

上海広東総領事へ電報セリ

一四八 十二月二日 在南京清野領事館事務代理ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

李純ノ松井、多賀両大佐ニ対スル南北和平会

議開催幹旋ノ模様ニ関スル談話報告ノ件

第九九号

十二月二日上海駐在ノ松井大佐当地ニ来リ多賀大佐ト共ニ李純ヲ住訪シ兩人ニ対シ李純ガナシタル談話ナリトテ小官ニ話ス所ニ依レバ李純ハ今日迄岑春煊、伍廷芳、陸榮廷、譚詠明、唐繼堯、劉顯世、熊克武等ノ南方領袖連ト意思ノ疏通ヲ計リシ結果已ニ(一)速ニ全國ノ統一ヲ計ルコト(二)南北互ニ撤兵スルコト(三)南北両方面ヨリ各十名ノ代表者ヲ派シテ無条件ニテ和平會議ヲ開クコト、ニ於テ意見ノ一致ヲ見タリ在野政客ニ対シテハ其代表的人物ヲ捕ヘ難キ為メ交渉意ノ如ク進マザルモ現ニ唐紹儀ニハ人ヲ派シ意思ノ疏通ヲ

計リ居ルガ如キ次第ナルニ付決シテ軍閥派間ノミニ於テ妥協シ他ヲ武力ヲ以テ圧セントスル考ニ非ズト云ヒ尚今回調停ノ裏面ノ事実ハ外部ニ多ク知レザルガ為英米仏等ノ外人ハ依然妥協ノ成立ヲ疑フ者ノ如ク又南北共ニ多少ノ異論アリ、唐紹儀ノ如キモ久シク外遊シ居リタル為今日ノ事情ヲ知ラズシテ若干ノ疑惑ヲ抱キ居ルニ似タルモ要スルニ和平會議ノ成立ハ単ニ時日ノ問題ニ過ギズト例ノ如ク樂觀的ニ語リタルニ付松井ハ唐紹儀ハ會議ハ其開催以前ニ双方ヨリ何等ノ条件ヲ提出スルコトナクシテ是ヲ非公式ニ(大總統ノ命ニ依ルト云フガ如キ形式ヲ避ケ南北有志ノ代表者會合ト云フガ如キ形式ニスルコト)開キ又本會議ノ決議ニハ双方共異議ナク從フ可シトノ保障アルヲ要スル旨徐大總統ニ再三電報シタルモ徐ヨリハ是ニ対シ一切ヲ李純ニ委ネタリト回答シ来リタルノミナレバ唐ハ自ラ広東ニ赴キテ該會議ノ決議ニハ異議ナク從フ可キコトヲ条件トシテ代表者ヲ派ス可ク南方側ヲ纏メントスルニ反シ徐ハ北方側ヲ纏ムル責任ヲ避ケントスルモノノ如ク旁以テ其誠意ヲ認ムル能ハズトシテ執ルベキ行動ヲ見合セ居ル次第ナル処徐ニハ果シテ責任ヲ負テ北方側ヲ纏ムル誠意アリヤト尋ネタルニ李純ハ

上海総領事へ暗号ノママ郵送セリ

一四九 十二月二日 在広東太田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協勸告ヲ英仏伊日米五國領事ヨリ

伍廷芳ニ手交ニ関シ報告ノ件

第二〇九号大至急

徐ガ余ニ委ネタリト云フハ単ニ和平會議開催ノ幹旋ニ止マリ其會議ハ南京ニ於テ開カルル場合ニ於テモ余ハ依然調停ノ地位ニ立チテ妥協ノ成立ニ尽力スルニ過ギズ北方ノ代表者トナリテ南方ノ代表者ト交渉スルモノニ非ザレバ徐ハ勿論責任アル代表者ヲ出ダスベク徐ガ唐ニ対シテ右ノ如ク返電シタルハ會議開催ノ一切ヲ余ニ委ネタル行懸リ上并ニ自己ノ立場ニ多少ノ余裕ヲ残シ置カン考ヨリ出デタル事ナルベクシテ會議ニ関シテ北方ヲ纏ムルノ責任ヲ避ケントスル意ニハ非ズト信ゼラル現ニ唐ヘノ徐ノ返電ニハ唐ノ申越ハ全部賛成ナリト申居ル趣ニテモアレバ尚余ヨリモ人ヲ派シテ徐ニ対スル唐ノ誤解ヲ解クコトニ努ムベシト答ヘタル趣ナリ

因ニ松井大佐ハ小官ニ対シ唐ハ徐ノ誠意ヲ確認セザル限り動カザルベキヲ以テ青木中將ヲ通ジテ唐ノ申出ニ対スル徐ノ明答ヲ得テ之ヲ唐ニ示スニ於テハ只ニ唐ガ安心シテ活動スベキノミナラズ又我國ガ隣國ノ妥協成立ニ関与スル端緒トモナルベキニ付此ノ方法ヲ講ゼンカトモ考ヘ居レル旨ヲ語レリ

在支公使へ電報セリ

十二月二日午後四時半五國領事同道軍政府ヲ訪問セル処岑ハ病氣ノ故ヲ以テ出席セズ伍廷芳徐謙外数名ヲ從ヒテ応接セリ首席領事タル英國総領事ハ首席公使ヨリ電報シ来レル英文覚書並支那語訳文ニ同首席領事ノ署名セル宛名ナキ文書ヲ添ヘテ之ヲ朗読ノ上伍廷芳ニ手交セリ右首席領事ノ文書ハ首席公使ノ訓令ニ基キ同僚領事同伴同日五國公使ヨリ大總統ニ手交セラルベキ覚書ノ本文ヲ手交スベキ旨並ニ右行為ハ各關係國政府カ南方政府ヲ公認スルノ意味ヲ包含スルモノナラザル事ヲ明カニセルモノナリ右ニ対シ伍ハ各關係國ガ支那ノ和平ニ留意セルヲ感謝シ南方ノ立場ヲ説明シ且速ニ和平ノ會議ヲ開キ度キ希望ナル旨ヲ述ヘタル覚書ヲ朗読ノ上首席領事ニ之ヲ手交セリ右覚書ノ内容ハ追テ入手ノ上詳細電報スベシ尚上述ノ如ク伍等ハ主トシテ首席領事

ヲ(脱)態度ヲ取り從テ御電訓ノ御趣旨ニ副フコトヲ得ザリシ点アルハ本官ノ遺憾トスル所ナルモ首席公使ヨリノ訓令ノ結果ニ出テ本官ニ於テ如何トモ為シ難カリシ次第ニ付御諒知相成様致シ度シ

一五〇 十二月三日 内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛(電報)

中国南北妥協勸告ヲ徐總統ニ申入済ノ旨通報ノ件

第五九四号

往電第五八九号ニ関シ

十二月二日予定ノ通り五國代表者ヨリ徐總統ニ妥協勸告ヲ申入レタリ就テハ往電第五八三号ニテ申進セル通り妥協勸告及対支借款方針ニ関スル二公表文十二月三日發表セリ尚往電第五八四号説明書余白ノ箇所ニハthe southern lead-ersト挿入セリ

右英仏伊各大使へ転電アリ度シ

一五一 十二月三日 在中国林公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協勸告覚書ヲ五國代表者ヨリ徐大總統

總統ヨリ更ニ人ヲ以テ只今御申入レノ義ハ事甚ダ重要ナルヲ以テ早速明三日朝各総長及段祺瑞ヲ初メ在京各督軍ニ伝達ノ上慎重考量ヲ加ヘシムル事シタル旨申添ヘ来レリ上海広東總領事へ電報セリ

一五二 十二月三日 外務省公表

中国南北妥協ヲ日仏英伊米五國ヨリ中国側ニ

勸告ニ関スル覚書等公表ノ件

覚書(訳文)

過去二箇年ニ亘リ支那南北ヲ乖離セル内訌ハ日、仏、英、伊、米各國政府ノ寔ニ憂慮ニ勝ヘサル所ナリ此不祥ナル紛争ハ支那自身ノ康寧ヲ壊敗シ併テ諸外國ノ利益ヲモ損傷シタルノミナラス延テ一般人心ノ動搖ヲ来タシ為ニ敵國側ヲシテ之ニ乘スルノ機會ヲ得セシメ今次戦争ノ最大難局ニ際シテ支那ノ聯合側トノ協力ヲ阻害スルニ至レリ、今ヤ危機漸ク過キ列國共ニ各国民間ニ平和及正義ノ實現ヲ目的トスル世界の組織ノ成立ヲ希図スルノ秋ニ方リ支那ニ於ケル内訌ノ尚熄マサルハ此ノ大業ヲ一層困難ナラシムヘシ

日、仏、英、伊、米聯盟政府ハ支那共和国大總統カ内訌妥

二提出ニ関シ報告ノ件

第一六八一号

往電第一六七四号ニ関シ十二月二日午后四時予定ノ通り日英米仏伊五國代表者打揃ヒ徐大總統ニ謁見ノ上英國公使ヨリ簡單ニ本件覚書提出ノ趣旨ヲ述べ委細ハ該覚書ニテ承知アリ度ク尚広東ニ於テ五國領事官ヨリ南方代表者ニ対シ同日若ハ成ル可ク後レズニ同一ノ申入レヲナスト同時ニ右措置ハ毫モ南方政府ヲ承認スルノ趣旨ニ非ザル旨ヲ口頭ヲ以テ附言スル筈ナル趣陳述シタル上覚書及其漢訳ヲ手交シタル処徐總統ハ右漢訳一読ノ後該覚書ノ趣旨ハ自分ニ於テモ全然同感ニシテ大總統就任以來之ノ趣旨ヲ以テ専心努力シ居ル次第ナルガ所謂北方側ノ各省ハ何レモ自分ノ趣旨ヲ体シ和平統一ノ意志ヲ表示シ居リ只西南五省ニ於テ未ダ十分ノ融和ヲ見ザルモ之又遠カラズ適當ノ解決ヲ得ルコトト信シ折角苦心シ居ル次第ナリ就テハ御申入レノ趣ハ早速國務院及各督軍等ニモ申聞ケ貴意ニ背カザル様一層努力致スベシトノ趣旨ヲ述べ申入レノ内容十分徹底シタル様見受ケラレタリ

尚右謁見ヲ終リ退出ノ際一同乗物ノ用意ヲ待チ居ル処へ大

結ノ為メ既ニ執ラレタル措置ヲ諒トシテ多大ノ希望ヲ囑スルト同時ニ南方首腦者諸氏ノ態度モ亦同様穩便ニ紛議ヲ解決セムトスルノ意ヲ示スヲ認メ深く之ヲ欣幸トス、依テ前記五國政府ハ北京政府及ヒ南方首腦者諸氏カ些々タル個人ノ感情若ハ法規ノ技節ニ関スル見地ヲ排シ且細心以テ平和樹立ノ障礙タルヘキ一切ノ举措ヲ避ケ速ニ隔意ナキ協議ヲ擬シ以テ理法ノ大則ト支那民福ヲ顧念スルノ衷情トニ基キ支那国内ニ平和統一ノ實ヲ挙クルニ必要ナル妥協成就ノ手段ヲ案出セムトスルノ徵候ニ対シ同情ト期待トヲ以テ之ヲ迎フルモノトナルコトヲ玆ニ言明ス

日、仏、英、伊、米ノ各國政府ハ南北双方ニ於テ從來其ノ乖離ヲ招キタル各種難件ノ解決ヲ図ラムトスル努力ニ深厚ナル同情ヲ表スルニ当リ五國政府ハ何等干渉ノ企圖ヲ有セス又何等妥協ノ特殊条件ヲ指示シ或ハ之ヲ左右セムトスルノ意志ナク此等妥協ノ条件ハ支那人土自ラ協定スヘキモノト認ムルコトヲ明ニセムト欲ス、五國政府ハ妥協統一ノ實現ヲ計ラムトスル南北双方ノ熱望努力ニ及フ限りノ声援ヲ与ヘ以テ支那国民カ列國ノ現ニ希図スル世界改造ノ偉業ニ参与シテ伝来ノ國威ヲ發揚スルニ至ラムコトヲ望ムニ過キ

サルナリ

註 此ノ覚書ハ其前文タル説明書ト共ニ公表セラレタルモノナルモ該説明書ハ前掲十二月一日内田外務大臣発林公使宛別電第一一一一号ト同文ナルニ付省略セリ、尤右公表セラレタル説明書ニ於テハ右別電ノ電文中空白トセル「十二月日」ヲ「十二月二日」トシ又「同日 氏ニ対シ」ヲ「同日南方首脳者ニ対シ」トシタリ  
尚本覚書及説明書ノ英文並前掲十一月三十日内田外務大臣発林公使宛第一〇九号及第一一一〇六号ノ对中国借款方針ニ関スル公表文及借款手續ニ関スル公表文モ同時ニ発表セラレタリ

一五三 十二月三日 内田外務大臣ヨリ  
在奉天赤塚総領事宛（電報）

張作霖ノ南北妥協妨害運動中止方説得ニ関シ

訓令ノ件

第一六八号

新聞電報ニ拠レハ最近張作霖ハ倪嗣冲曹錕等ト相応シ折角其ノ歩ヲ進メツツアル南北妥協成立ノ妨害運動ヲ試ミ居レル模様ナル処在支公使ヨリ貴官ヘ転電ノ通り帝國政府ニ於テハ大局ニ顧念シ此ノ際支那紛争妥結ノ促進ニ資センカ為英米仏伊諸國政府ト共ニ南北双方ニ対シ妥協ノ勧告ヲ与フ

第二一〇号別電

在広東軍政府ノ回答文

十一月三日

第二一〇号別電

The reply of the Military Government to Aide-mémoire handed on Dec. 2. 4:30 p.m.:—The Military Government sincerely deprecates the existence, during the past two years, of civil war in China, which has been prejudicial to the China's welfare as well as the foreign interests, the source of discouraging an efficient co-operation of China with the allied Powers in their struggling for the cause of justice and truth. The Military Government has been the most anxious for this co-operation, on account of the identity of the principles for which it is and those for which the associated Governments of France, Great Britain, Italy, Japan and the United States have been fighting.

The constitutionalists have fought not for personal sentiments or legal technicality, but to oppose militarism and to make China safe for democracy. Dissolution without a vestige of right of Parliament

ルニ至リタル次第ニテ張作霖昨今ノ行動ハ時勢ノ帰向ニ戻リ帝國政府ノ方針ト相容レサルモノニ付貴官ハ張作霖ニ対シ貴官ノ意見トシテ前顯ノ次第ヲ説示シ張作霖ニ於テ果シテ世上伝フルカ如キ運動ニ参与シ居レルコト事実トセハ速ニ之ヲ中止シ妥協ノ促進ニ力ヲ致スコト可然旨懇篤ニ申入レラレ度シ

右為参考北京上海広東ニ転電アリ度シ

一五四 十二月三日 在広東太田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

中国南北妥協勧告ニ対スル在広東軍政府ノ回

答報告ノ件

別電

同日在広東太田総領事発内田外務大臣宛  
電報第二一〇号別電

右回答文

第二一〇号

往電第二〇九号ニ関シ

伍廷芳ヨリ手交セル軍政府ノ回答別電ノ通り

北京上海ヘ転電セリ

（別電） 十二月三日在広東太田総領事発内田外務大臣宛電報

which happily is again met in regretting that (一語不明) in regular session of (不明) the treaties of the constitution as a mere scrap of paper, the arrogant behaviour and continual misgovernment of militants have compelled the constitutionalists out of sheer necessity to resort to force on a footing of (脱).

This Government observes with gratification the realization by the Governments of the friendly Powers that the very effective manner for shortening civil war and restoring peace in China is the stoppage of financial supplies to the militants. Crediting militants with a desire now for peace, this Government has ordered forces at its command to cease advancing and has made an offer to the elected leader of militants to open direct negotiations of peace at a suitable locality.

The peace that is to be made must not be patched-up peace without adequate safeguard and leaving in existence force which can and at any moment again disturb the peace of the country.

Administrative directors are in hearty agree-

ment with the sentiments of the Associated Governments of France, Great Britain, Italy, Japan & United States that the reconciliation should be on a basis of law and devotion to the interest of the Chinese nation. The peace, therefore, must be a just peace and a lasting peace which will enable China to set up an efficient and progressive Government, to develop along lines of true republicanism and democracy and assume her rightful place in the council of nations.

Administrative directors appreciate the kindly interest which the Associated Governments of France, Great Britain, Italy, Japan & United States take in the welfare of China and thank them particularly for the solicitude which they display that China should bear its part in reconstruction which the nations of world are now hoping to attain.

北京上海へ転電セリ

一五五 十二月三日

在上海有吉総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

徐總統ノ現在ノ態度ニテハ南北妥協ノ前途遠  
遠ナリ等唐紹儀来談ノ件

ナル「ラヂカル」派ト雖モ之ヲ統一シ和平ニ一致セシムルコト容易ナルモ北方ニ至リテハ全ク事情ヲ異ニシ居ルモノト認メラレ從ツテ妥協ノ成否ハ懸リテ一ニ北方ノ態度如何ニ在リトシ列強ノ勸告ガ北方特ニ段派ノ反省ニ効果アラシトヲ望ミ且徐世昌ガ和平解決ヲ望ミツツアル誠意ハ友人トシテ之ヲ疑フヲ欲セズ事突然リト信ジツツアルモノナリト前提シテ日本政府ハ一意徐ニ一層ノ援助ヲ与ヘラレ軍閥ヲ排シテ其所信ニ邁進シ得セシムル様ノ方針ニ出デラレ度キヲ希望シ進ンデ米國ノ態度ニ及ビ昨夕友人ノ某米國人ヨリ聞込ミタル所ニ依レバ最近孫文ノ發セル電報ハ「ウィルソン」氏モ之ヲ非難セズ甚ダ好意ヲ以テ之ヲ迎ヘタリトノコトニテ未ダ確答ヲ有セザルモ將來其態度ニハ若干ノ変化ヲ来タス可キカト期待シ居リ結局徐世昌ガ従来同様ノ態度ヲ持統スル以上妥協ハ前途遠ナリトシ温宗堯、王正廷等ヲ以テ質セル所ニ依レバ李純モ將來ノ責任ヲ避ケテ単ニ南北ノ仲介者タルヲ以テ任シ居ルモノニ止マリ差当リ毫モ要領ヲ得ザルモ然モ彼ガ仲介者タル間ハ寧ロ可ナリ若シ北方ヨリ妥協ノ委任ヲ受ケテ正式ニ南方ト折衝セントスルガ如キ場合ニハ妥協ハ全然見込ナキニ至ルベシト觀測シ居タリ

第一七四号

今朝唐紹儀来訪其談ニ曰ク一日前徐世昌ヨリ自分ノ重ネテノ勸告ニ対スル返電到着セル処前半ニ於テハ自分ノ意見ヲ公平周到ナリト称ヘ居ルモ然カモ後半ニ至ツテハ依然李純ニ委ネテ一切ヲ弁理セシムト云ヒ文意ニ依リテ察スルニ其周囲ノ勢力ニ制セラレテ假令妥協ノ誠意アリトスルモ之ヲ貫徹シ能ハザルモノト認メラレ而シテ其周囲ノ勢力トシテ徐樹錚渡日ト段祺瑞一派ノ抬頭跳梁シ来リタル事実ハ注意ヲ要ストナシ徐ガ我政府筋ト何等カノ談合若クハ民間ヨリノ借款等ニ成功セルニ非ズヤト疑ヒ居タルニ付本官ハ徐ノ渡日ガ單純演習觀戰ニ止マリ我政府ガ同人ト談合ヲナスベキ理由ナキコト及民間ノ借款ト雖政府ハ相当ノ取締ヲナスニ決定シ居ルコト等ヲ説明セル処同人モ滯京中政府当局ニ会见セル結果ノ感想トシテハ斯ノ如キコトハアリ得可カラザルコトト思考スルモ一部人士ニハ各種ノ疑惑ヲ惹起シ居レリト認メラレ自分モ今日迄訪問客ニ対シテノミ日本側意向ヲ伝ヘ居リシノミナルガ十二日ヨリ廣東ニ開カルル憲法會議ニ出席ノ為出發スベキ議員送別会ノ本夕催サルルヲ機會ニ自分ノ觀察ヲ縷陳スル筈ナリトシ要スルニ南方ハ如何

北京、廣東へ電報シ南京へ暗号ノ假郵送セリ

一五六 十二月三日

田代陸軍少佐ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

中国南北妥協勸告ニ対スル北京各方面ノ反響

報告ノ件

支極秘第七三一号(十二月六日外務省接受)

南北妥協ニ関スル日本以下五箇國ノ協同勸告書ハ昨日午後四時五國公使徐總統ニ会见ノ上親シク交付サレシカ探知スル処ニヨレハ總統ハ本日各國務員及在京各督軍ヲ招致シテ該勸告書ヲ示シ且事玆ニ至リテハ吾人ハ速ニ平和ニ時局ヲ收拾シ以テ國際的地位ヲ鞏固ニスルコト緊要ナリ各督軍ハ速ニ帰任シテ各其省ノ統治ニ尽力スヘシト告ケ督軍等ハ唯々トシテ退出セリト云フ又該勸告ニ対スル各方面ノ意嚮ヲ探聞スルニ主和派ハ概シテ之ヲ歡迎シアルカ如ク旧主戰派ハ表面敢テ反対ノ意ヲ表示セサルモ内心ニ於テハ寧ロ無用ノ沙汰ナリトノ感ヲ懷ケルカ如シ本日ノ当地新聞界ノ一、二カ該勸告ニ関シ速ニ内争ヲ熄メ平和ニ時局ヲ收拾スヘキ強硬ナル意味ノ論說ヲ掲ケル外一般ニ未タ何等ノ意見ヲ發表セス、各地済

一五七 十二月三日 在北京坂西陸軍少將ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

中国南北妥協勸告ニ関スル北京政府側ノ動キ  
ニ関シ曹汝霖ノ談話報告ノ件

坂極秘第三〇四号 (十二月六日外務省接受)

曹汝霖ノ言ニ依レハ昨日五日五国公使南北妥協勸告アリシ爲  
今三日徐總統ハ國務各総長、段祺瑞及ヒ目下在京中ノ督軍  
全部ヲ召集會議シタル結果南北ヨリ人ヲ派シテ上海ニテ時  
局解決ノ為會議ヲ開催スヘク決定セル由ナリ各督軍間ニハ  
頗ル不滿ノモノアリシモ曹汝霖ハ一場ノ演說ヲ試ミ予モ由  
来主戰派ノ一人トシテ極力貴督軍等ノ支援ニ努メタルモ從  
来ノ行方ニテハ到底統一ノ目的ヲ達スル能ハサルヲ覺リ  
タレハ目下ノ所妥協ノ外ナカルヘク要スルニ貴督軍等ノ專  
政実行ニハ大ナル改善ヲ要スルモノアリト忠告シタルニ徐  
總統モ之ヲ贊成シ曹總長ノ言ハ各位ノ為有益ナル參考ナリ  
ト附言セル由ナリ尚曹汝霖トシテ今日懷ケル感想ニ依レハ  
北方ハ無理ナカラモ徐總統ト面前ニ於テ丈ナリトモ服從ス  
ルモ一旦妥協會議開カルレハ南方ハ必ス勝手ナル議案ヲ提  
出スヘク其時ニ至リ北方督軍等カ如何ナル態度ヲ執ルヘキ

一五九 十二月四日 在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国政府ノ借款ニ関シ訓令ノ次第ヲ出淵ヲ  
シテ國務卿代理ニ申入レシメタル件

第七九〇号

十二月四日出淵參事官ヲシテ貴電第五八一号御訓令ノ次第  
ヲ篤ト國務卿代理ニ申入レシメタル処同代理ハ帝國政府ノ  
態度ニ対シ満足ノ意ヲ表シ米國政府ニ於テハ御來示ノ如キ  
借款ニ関シ米國資本家ノ運動シ居ル事實ヲ承知セザルモ念  
ノ為直チニ在支米國公使ニ電訓ヲ發シ万一ニモ斯ル運動ヲ  
為シ居ル者アラバ「デイスアプルーブ」スル様命ズ可シト  
答ヘタル由尙当日極東部長ハ同參事官ニ対シ北京ニハ真面  
目ニ此種借款交渉ニ応ジ得ルガ如キ米國資本家居ラザルノ  
ミナラズ、目下米國ニ於テ各方面ニ対スル資金ノ需要急ナ  
ルモノアリ此際纏リタル資金ヲ支那ニ供給スルガ如キハ先  
ヅ覺束ナキ狀況ナリト語り尙往電第七三一号末段米國政府  
ノ対支借款方針ハ特ニ日本政府ニノミ申入レタルモノニシ  
テ他ノ關係國政府ニハ何等通知シ居ラズ米國政府ノ考ニテ  
ハ北京ニ於テ日米兩公使協議ノ上關係國公使ニ諮リ彼等ヨ

ヤハ殆ト予想シ難ク決シテ樂觀ヲ許サス云々トテ危惧シ居  
レリ依テ小官ハ過般ノ調停案ニ基キ北方政府トシテ正義公  
理ヲ以テ進マハ列國ノ同情ヲ失フコト勿カルヘク必スシモ  
悲觀ノ必要ナカルヘント説キ置ケリ

一五八 十二月四日 内田外務大臣ヨリ  
在上海有吉總領事宛(電報)

孫文ニ対シ此際穩健自重日本ノ方針ニ賛同ス  
ル様懇説方訓令ノ件

第九八号

貴電第一六八号ニ関シ孫文カ終始東亞ノ大局ヲ慮リテ日支  
提携ヲ念トスルハ帝國政府及本邦人一般ノ深ク諒トスル所  
ニシテ帝國政府ノ対支方針モ亦方法ニ於テ同氏ノ意見ト異  
ナル所アルヘント雖終局ノ目的ニ於テハ全然一ニ歸スモノ  
ナルコトヲ信ス我方針ハ既ニ累次ノ電報ニ依リ御承悉ノ通  
ニシテ殊ニ今回支那南北ニ対シ勸告ノ次第モアリ貴官ハ孫  
ニ対シ大勢ノ偏向ニ顧ミ此際穩健自重ノ態度ヲ持シ日本ノ  
方針ニ賛同スル様可然懇篤ニ御説示相成度シ  
右北京及広東ニ転電アリ度シ

リ本国政府ニ請訓シ何レモ同意ナル場合初メテ支那政府ニ  
向ヒテ何分ノ申入ヲナスコトトシ度キ趣旨ナリト附言シタ  
ル由ナリ

一六〇 十二月六日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

孫文ニ対シ此際自重スル様申入レ孫文ヨリ日  
本ノ行動ニ関シ希望及批判陳述ノ件

第一七六号

貴電第九八号ニ関シ

昨日孫文ニ面会御來示ノ趣旨ヲ伝ヘタル処日本政府ガ自己  
ニ対スル友情ヲ深謝シ其旨伝達ヲ希望スルト同時ニ此上ハ  
時機ヲ待ツノ外有ラザルベシト啣チタル後尙共同勸告ニ関  
シテ右ハ北方ニ対シ多大ノ効果有リタルモノト認メラレ間  
接ニ聞ク所ニ依レバ徐世昌ハ旧國會ヲ回復シ右ニ依リ正式  
ニ大總統ニ選舉セラルルノ義ハ同意ナリトノコトニテ左ス  
レバ會議モ容易ニ開催セラルルニ至ルベク何レニシテモ今  
次ノ勸告ハ日本ノ發意ニ出デタリトノコトナレバ妥協ヲ正  
義ニ基キテ遂行セシムルハ此上共日本ノ責任タルベク宜シ  
ク干涉ヲモ敢テシテ旧國會ヲ回復セシムル等正義ニ從ツテ

行動サレンコト希望ニ堪ヘズ、果シテ斯ノ如クナレバ列国亦之ニ反対スル理由有ラザルベシト云ヒ、自分ハ全然局外ニ在リテ行動シ會議ニハ毫モ干与セザルベキヲ言明シ更ニ参戦督弁処ニ於テ今尚日本ノ援助ニ依リテ軍隊ヲ訓練シツツ有ル事実ヲ拳ゲ支那ニ於テハ完備セル警察官ヲ要スル外一切ノ軍隊ノ不必要ヲ説キ、今ヤ一律裁兵ノ要有ルニ当リ日本ガ尚一部軍閥ニ勢力ヲ附スルト同様ノ結果ヲ生ズル措置ヲ執ルノ徒ニ中外ノ疑惑ヲ招ク所以ヲ力説シ其折角訓練セル兵ハ他日却ツテ他国ノ用ヲ為スノ日アルモ亦知ルベカラザルヲ注意スルヲ要スベシト極言シ縷々慎重ノ考量ヲ希望シ居タリ

北京へ電報セリ

一六一 十二月六日

在上海有吉総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協勸告後ノ状況ニ関シ唐紹儀ノ林出ニ

対スル談話報告ノ件

第一七七号

林出ヲシテ唐紹儀ニ就キ共同勸告後ノ状況ヲ問合サシメタル処彼曰ク勸告ハ極メテ其時機ヲ得今ヤ督軍等ハ殆ド其拳

措ヲ失シ殆ド屏息シツツアルモノト認メラレ其状恰モ突然妖怪ノ出現ニ会シ其本性出所ノ判明セザル為驚愕失心セルニ譬フベク此機ヲ利用シ徐世昌ニシテ一断ヲ下セバ万事彼ノ思フガ如ク遂行シ得ベシト雖モ若シ時機ヲ失シ妖怪ノ出所性質漸ク明白トナリ其恐ルルニ足ラザルヲ発見スルガ如キ事アラバ更ニ其ノ跋扈ヲ再ビセシムルニ至ルベシ故ヲ以テ自分ハ一昨日徐ニ電報シテ他国ノ勸告ノ来ラザル前機宜ノ措置ヲ採ル可キヲ慫慂セルモ其意(脱)而モ之ヲ以テ乗スベキノ機ナリ將ニ速ニ其所信ヲ決行スベキ旨ヲ披陳シタルニ対シ只今返電到着今翻譯中ニ付明日内報スベシト云ヒ自分ハ徐ノ性質ヲ熟知シ常ニ其断行力ヲ欠キタルヲ遺憾トスルモノ今次又若干ノ懸念無キニ非ズトナシ更ニ北京広東間直接ニ交渉シツツアル旨ノ風説ニ関シテハ是迄単ニ一回ノ往復アリシノミニテ軍政府ハ自分ノ名ヲモ加ヘテ(一)辛亥ノ先例ニ依リ(二)上海ニテ(三)無条件ヲ以テ四對等ノ會議ヲ開カン事ヲ提議シタル事アルノミトシ尚段祺瑞ガ今尚日本ノ援助ニ依リ軍隊ヲ訓練シツツアル事実ヲ述ベ右ノ日支兩國ニ有害無益ナルヲ切言シ数ヶ月ノ訓練ハ假令段ノ威力ヲ増ス能ハザルニモセヨ将来ノ禍因ヲ為スベク殊ニ内外一部ノ

疑念ヲ招クノ因タルハ甚ダ悲ムベシトナシ居タル趣ナリ在支公使及広東へ電報、南京へ暗号ノ郵便送セリ

一六二 十二月六日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛

南北妥協勸告ニ関スル英字紙ノ論調報告ノ件

公第三四四号

(十二月十三日接受)

大正七年十二月六日

在支那

臨時代理公使 芳沢謙吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

南北妥協五国勸告ノ当地方面ニ於ケル反響ノ一般情況ニ関シテハ往電第一六九号ヲ以テ又右ノ内支那側ニ与ヘタル影響ノ詳細ハ本月五日附公第三四三号ヲ以テ及具報置候通ニ有之候処一方当方面各英字新聞ノ論調ヲ見ルニ是亦一般ニ好感ヲ以テ之ヲ迎ヘ居候今左ニ各新聞論評ノ要旨ヲ摘録センニ先ツ本月四日ノ北京「リーダー」ハ勸告ノ内容カ真摯友好ノ至誠ニ満チタルヲ称シ度シ難キ輩以外何人ト雖此ノ切実ナル同情ノ表彰ニ対シ一点ノ疑念ヲ挾ム者無カルヘシ更ニ今次ノ勸告カ一層有価値ナルハ地方督軍上京以來暗

雲漸ク低迷セル北京政界ヲ清浄ナラシムルニ与ツテ頗ル力アルノ一事ナリトス須ク各員克ク其責務ヲ恪守シ共ニ個人の感情等ヲ排シ其妥協ヲ計ツテ以テ国運ノ進暢ヲ期スベキナリトノ趣旨ヲ論シ同日発行ノ北京天津「タイムス」北京通信亦今回ノ勸告ハ過去二ヶ月ニ亘リ秘カニ或ハ主戦ヲ画シ或ハ大總統反噬ノ陰策ヲ巡ラシタル軍閥分子ニ対スル一大痛棒ナリトシ進ムテ元来所謂南北ノ紛争ハ毫モ地方住民ノ反目ニ非スシテ政治家乃至軍閥派ノ權力争奪戦ニ外ナラス今ヤ兩派共ニ警告ヲ受クルニ至ル速カニ何等カ和解ノ途ヲ講スルニ非サレハ將ニ開カレムトスル欧州媾和會議ニ於テ其求メムトスル所遂ニ列強ノ顧ミル所トナラサルヘシト論述シ同日同紙社説モ亦本件共同勸告ノ来ラサルヘカラサルヲ前提トシ列強ハ已ニ支那當局カ徒ニ曠日弥久何等為スコト無キヲ黙視シ難キニ至レルヲ指摘シタル上或ハ南方派中北京政府ノ無条件屈服ヲ見ルニ非サレハ和解ヲ承服セサル者アルヘキモ而モ尚北方督軍連ノ如ク強テ平和解決ヲ阻害セムトスルモノニ非ストシ進テ北方軍閥派ノ跳梁ニ論及シ支那ニ純正ナル共和政ヲ布カムトセハ須ク軍閥分子ヲ一掃スルコト必要条件ナル旨ヲ切論シ支那国内ノ乖離ハ国民

ノ反目ニ非シテ真ニ国民ノ後援ヲモ得サル極端分子ノ反  
噬ニ外ナラス国民ノ冀フ所ハ一ニ何等ノ圧迫ヲモ被ルコト  
無ク其堵ニ安ムセムコトニ在リ支那国民ハ今ヤ自ラ其輿論  
ヲモ高唱シ難キカ如キ混沌タル治下ニアルモ若シ彼等ヲシ  
テ克ク其輿論ヲ表明スルコトヲ得セシメハ必スヤ今次ノ共  
同勸告ハ全然彼等ノ歡迎スル所ナルヘシ只本件勸告カ大総  
統ノ和平統一ノ努力ニ対シ幾何貢獻スル所アルヘキヤ否ヤ  
ハ之ヲ今後ニ徴セサルヘカラサルモ惟ウニ或ハ尚更ニ断乎  
タル行動ヲ必要トスヘキ旨ヲ痛論致居候轉シテ「ノース、  
チャイナ、スター」北京通信ハ先ツ本件勸告カ一般ニ満足  
ヲ以テ迎ヘラレタル旨前提シタル上今次ノ勸告ニ關聯シテ  
注意スヘキハ(一)内閣ニ於ケル平和温健分子排撃ノ暴挙或ハ  
行ハレムトスルニ際シ会々共同勸告發セラレ軍国主義ノ再  
興ニ対スル列強ノ意思ヲ宣明シタルコト(二)本勸告ハ首席公  
使タル英國公使ニ依リ代表措置セラレ日本其首動者タラサ  
リシカ為本件カ強要のナリトノ解釈ヲ許サス隨テ文面通り  
誠意アル勸告以外他ニ何等ノ意味ヲモ包藏セサルヘキコト  
(三)今後關係列強ハ支那ノ財政ニ関与シ又ハ其自国民ノ之  
ニ関与スルヲ默認スルカ如キコト無カルヘキコト等ノ諸点

第一七一号

在支公使へ転電アリタシ

第一一三一号

本大臣發赤塚總領事宛往電第一六八号ニ関シ同總領事來電  
ニヨレハ張作霖ノ帰奉期日幾度カ遷延シ今以テ確定セサル  
趣ニ付貴官ヨリ同督軍ニ対シ往電第一六八号ノ趣旨ニヨリ  
可然説示相成度シ

右為参考上海広東ニ転電アリタシ

一六五 十二月九日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協成立迄对中国財政援助及武器供給ヲ

差控フル旨中国政府ニ申入方米国公使ヨリノ

提議ニ付請訓ノ件

第一七一六号

往電第一六七五号ニ関シ

十二月九日米国公使來訪本國政府ヨリ南北ノ統一成立スル  
迄ハ財政の援助ヲ与ヘズ且武器彈藥ノ供給ヲ為サザルモ統  
一完成ノ上ハ財政の援助ヲ辞セザルベキ旨去ル二日勸告ノ  
追加トシテ申入ルコトトナシタキ旨並右ニ付關係國代表

一 中国南北調停一件 一六五

ニ在ル旨論述致居候  
右御參考迄ニ不取敢及報告候也

本信写送付先 在上海有吉總領事

在広東太田總領事

註 林公使發第一六九九号電報及公第三四三号ヲ省略セリ

一六三 十二月七日

在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ノ南北妥協妨害運動中止方ハ北京ニテ

行フ方宜シカルベキ旨稟申ノ件

第三一六号

貴電第一六八号ニ関シ

張作霖ノ帰奉期日幾度カ遷延シ今以テ確定セザル有様ナル  
ニ付彼ニ対スル説諭方ハ不取敢北京ニテ芳沢代理公使ニ於  
テ之ヲ為シ置ク方時宜ニ適シタルモノト認メラル右卑見御  
採納ヲ得バ芳沢へ電訓方御取計ヲ請フ、

一六四 十二月八日

内田外務大臣ヨリ  
在奉天赤塚總領事宛(電報)

張作霖ニ対スル南北妥協妨害運動中止方説得

二関シ芳沢臨時代理公使ニ訓令ノ件

者ト協議スベキ旨本日訓令ニ接シタル趣ヲ述ベタル処、武  
器云々ノ点ハ新ナル提議ナルニ付本官ハ不取敢同公使ニ対  
シ一応考量ノ上何分ノ義回答スベキ旨答ヘ置キタリ、就テ  
ハ他ノ關係國公使(伊太利代理公使ハ本件ニ關係セザルベ  
キコト林公使電稟ノ通リトス)ニ於テ之ニ同意スルニ於テ  
ハ武器云々ノ点ヲモ併セテ前記米国公使ノ申入ノ通り決定  
シ、申入ノ形式、時機ニ就テハ關係公使ニテ取極ムルコト  
トシ勿論差支ナキコトト存ズルモ念ノ為何分ノ義至急回訓  
有リタシ

卑見ニ依レバ武器云々ハ我方從來ノ行動ニ対スル思惑ニ胚  
胎スルモノナルヤニ認メラルルモ趣意ニ於テ正當ナルガ故  
固ヨリ之ニ同意スルコト然ルベク、又財政の援助ノ点ニ関  
シテハ既ニ林公使ヨリ貴電第一〇八六号ニ基キ帝國政府ノ  
意嚮ヲ米国公使ヲ始メ其他關係公使ニ披露セラレタル次第  
ニモ有リ之亦同意ヲ与フルノ外ナキ義ナルガ唯茲ニ予メ一  
応ノ考量シ置クベキハ愈々右財政の援助実現ノコトトナル  
場合ニ於ケル本件ト既存四國団トノ關係ニ之有リ蓋シ往電  
第一六七五号後段十二月二日會議席上ニ於テ林公使ガ米國  
ノ対支借款団復帰乃至新借款団組織云々ニ付テ述べラレタ

ル所ハ単ニ伊太利除外方ニ対スル關係ニ基クモノニシテ本件ノ如ク米國ガ愈々他ノ關係國ト共同シテ政治借款ヲ為サントスルガ如キ具体的問題トナル場合ニハ先ヅ以テ米國加入ノ件ニ関シ予メ關係各國間ニ協議決定シ置ク方然ルベキカト存ズ、右ハ既ニ御氣附ノ義トハ思料セラルルモ為念申添フ

上海、広東へ電報セリ

一六六 十二月九日 在広東太田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協會議ノ開催地、會議ノ条件等ニ関スル岑春煊ノ談話報告ノ件

第二一七号 (十二月十二日接受)

十二月九日日本官岑春煊ニ面会ノ際岑ハ時局ニ関シ大要左ノ通り語リタリ

南北議和ノ地点ニ関シ十二月八日錢能訓ヨリ南京トスベキ旨申来リ尚會議ノ目的ニ関シテモ言辭極メテ曖昧ニシテ亦西南ノ停戦方ニ関シ南方ヨリ質問セシ処錢ヨリ陝西ニ於ケル土匪討伐ハ此限リニ非ズト申来ル等最近北京政府ノ誠意稍々疑ナキ能ハズ南方ハ會議ノ公平ヲ期スルタメ中立ノ地

在支代理公使發本官宛電報

第一四五号

張作霖十二月十日午前二時特別列車ニテ貴地へ向ケ当地出發セリ貴官宛大臣來電第一六八号ノ件ニ付テハ數回先方ノ都合ヲ問合セタルモ其都度外出中ノ為遂ニ面会ノ機ナカリシ次第ナルカ既ニ退京シタル以上南北妥協妨害運動ハ仮リニ事実トスルモ左迄懸念スヘキ必要ナカランモ今後同人ニ御面会ノ折大臣訓令ノ趣旨ニ基キ貴官ヨリ適宜然ルヘク申入レラルル様致シタシ  
大臣へ転電アリタシ

一六八 十二月十日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北妥協問題ニ関スル孫文陳策等ノ談話

報告ノ件

第一八一号

昨日孫文ニ面談、彼曰ク軍政府ニ向ケ「ウィルソン」ニ「アービトリーター」タルヲ請求スヘキ旨電報セルハ事実ニシテ自分ハ東亞ノ大局ニ照ラシ此際日本カ或程度迄单独行動ニ出ツルノ最得策ナルヲ信シ之カ実行ヲ望ミタルモノ

点タル上海ヲ選ブ所以ニシテ南京トスルコトハ恐ラクハ南方多數ノ同意ヲ得難カルベシ、余ハ會議ノ条件トシテハ(一)國會ノ回復、(二)地方自治制度確立、(三)軍区ノ確定、(四)南方軍資金及ビ軍器ノ保障等ヲ主張スル心算ナリ、尚國會問題ニ関シテハ國會自身ニテ解決セシムベキモ、余一己ノ考トシテハ旧國會ニ於テ憲法及ビ選舉法ヲ制定シタル上自ラ解散シ其新選舉法ニ依リ新國會ヲ召集スルコト然ルベシト思フ、現在多數ノ議員モ余ト同様ノ意見ヲ有シ居レリ、北京新國會ハ絶對ニ承認セズ之ハ問題トスル価値ナシ云々ト  
尚岑春煊ハ北京政府ヲシテ議和地点ヲ上海トセシムル様日本側ノ然ルベキ尽力ヲ請ヒタキ旨並ニ北京ノ最近南方ニ対スル態度ノ稍々變化シタルハ或ハ日本ヨリ借款ヲ得ルノ途立チタルニ非ズヤト疑ハルル旨ノ口吻ヲ漏ラシ居タリ  
北京、上海へ電報セリ

一六七 十二月十日 在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

張作霖說得方ニ関シ芳沢代理公使ヨリ電示ノ

件

第三一七号

ナルモ遂ニ聴カルル所トナラス他方米國側ハ元々徐世昌ノ請求ニ依リ其「アービトリーター」トシテ活動シツツアルニ見テ若シ其勢力ヲ以テ「ウィロビー」等ノ主張スル如ク旧國會ノ不法等ヲ説クコトモアラハ氣骨ナキ南方ノ政治家ハ直ニ之ニ屈服スルノ憂モ有レハ寧ロ此際南方ヨリモ大統領ニ対シ其主張ノ貫徹方斡旋ヲ申入レ彼ニ対シ双方互角ノ地位ニ立ツヲ策ノ得タルモノト認メ勸告ヲ發シタルニ外ナラストシ日本ニシテ英米等ト歩調ヲ共ニスル外途ナシトセハ自分ハ勿論南方モ其方針ニ從フノ外アルヘカラス然モ之レ日支ノ不幸ナリトシ和平會議ハ多分開催ニ至ルヘク旧國會ノ尊重ヲ先決問題トスル点唐紹儀全ク自分ト同意見ニナリタリトナシ會議ノ前途ハ若干有望ナリト申居タリ尚米國側ノ行動ニ付陳策等カ林出ニ語ル所ニ依レハ徐世昌ハ米國公使ト結ヒ而シテ同公使ハ「アンダーソン」(嘗テ「スタンダード、オイル」ニ在リ李純ノ顧問的地位ニ在ルモノ)ヲ通シテ李純ト消息ヲ通シ徐世昌、米國公使及李純ノ三角同盟ノモノナリ、從テ李純ノ態度極メテ怪シムヘシト言ヒ米國公使ハ尚其広東領事ヲ通シテ軍政府ニ運動スル等極力斡旋ニ努メ居ルモノ一ニ徐世昌ヲ擁護シ其利益ニ時局ヲ解

決セントスルニ外ナシトナシ居タル趣ナリ  
在支公使在広東総領事へ電報セリ、在南京領事へ暗号ノ便  
郵送セリ

一六九 十二月十日 在上海有吉総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ陸軍ガ日本ノ外交ヲ左右スト南方派ガ

指彈シ居ル旨稟申ノ件

第一八二号

徐樹錚ノ渡日カ我政府ト初メヨリ密接ノ關係アリ若クハ北方ヨリ特別ノ使命ヲ帶ヒタルモノナリ等ノ疑惑ハ在当地南方側有力者一部ノ抱懷シ居レル所ナルハ拙電已ニ報告ノ次第モ有之処最近田中陸軍大臣カ徐樹錚ノ手ヲ經テ參戰督弁処ニ訓練費ノ名義ニテ三百萬兩ヲ交付セリトノ說一般ニ信セラレ我政府特ニ我陸軍側ニ對シ反感ヲ抱クモノ尠カラサルカ如ク加之其以前ヨリ我陸軍ノ態度ニ嫌ラサルハ拙電孫文、唐紹儀等ノ口吻中已ニ其幾分ヲ認メラルモノアリ殊ニ松井大佐等カ陸軍省ヨリノ意ヲ受ケテ彼等ノ間ニ東奔西走、阪西少將等ノ電報ヲ齎シテ種々ノ遊說ヲ試ミツツアルハ益々一種ノ疑惑ヲ深クシツツアルモノノ如ク唐紹儀ハ本

官等ニ語ルニ日本滞在中其外交カ外務省ト陸軍省ノ二系統ニ依リ別個ニ行ハレ誤解アルコトハ貴国人ヨリ屢々之ヲ指摘セラレ且現ニ之ヲ事實ニ認ムト言ヒ軍人ハ蓋シ愛國者ニシテ且日支ノ親善ヲ希望スルコト勿論ナル可シト雖モ彼等ハ右ニ「デコレーション」左ニ「アームス」ノ目隠シヲ付ケ側目モ触ラス突進スル馬車馬ナリトシ之ニ外交ヲ左右セラルルノ弊ヲ見ルハ甚タ憂フヘシ等ノ直言ヲ為セルコトアリ其都度相当ノ弁解ヲ試ミ居タル次第ナルモ最近陳策等カ林出ニ語ル所ニ依レハ三百萬兩ノ徐樹錚ノ手ヲ經テ交付セルコトハ確實ナル筋ヨリ得タル報道ニシテ決シテ誤報ナラスト信スト言ヒ唐紹儀等ヨリ報道若クハ吾人ノ感想ニ依リ現内閣中外相内相等極メテ公平ノ態度ヲ有セラルルヲ確信スルモ別ニ外交調査會及陸軍ノ存スルアリ内閣ノ目的トスル所必スシモ之カ勵行ヲ見ラレ得ヘキニ非ス今次ノ事亦其結果ニ外ナラサル可シト觀測シ一方(不明)ニ媚ヲ売り而シテ他方松井大佐等ヲシテ暗中ニ飛躍セシム吾人ハ同大佐ヲ目シテ陸軍ノ間諜トスルモノ其言ノ如キ全然信ヲ置カサルモノナリトシ其広東行カ果シテ何ノ為ナルヤヲ嘲笑シ居タル趣ニテ孫洪伊等モ之等軍人ノ活動ニ對シ一種不快ノ念

ヲ抱キ往訪ノ邦人中種々ノ非難ヲ耳ニセルモノ尠カラサル姿ナリ軍人一派ノ活動ハ已往數年ノ歴史ニ見テ有害無益ナルハ已ニ御承知ノコトト考フルモ行掛リ上今更即時中止ヲ命シ難シトスルモ極メテ少數ナル一部ヲ除キ南方側支那人ト雖モ多數ノ夙ニ指彈シ居レル所ナルニ付御含ミ置相成様致シ度ク右閣下御含迄ニ申進ス  
在支公使へ電報セリ

一七〇 十二月十一日 内田外務大臣ヨリ  
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

徐樹錚來訪シタルニ付我方ノ日中親善方針ノ

根本ニ關シ説明ノ件

第一一四〇号

十二月六日徐樹錚周家彥ト同道本大臣ヲ來訪シ日支關係及其他ノ問題ニ關シ本大臣ノ意見ヲ求メタルニ付之ニ對シ本大臣ハ自分ハ真ノ日支親善ヲ希望スルノ余リ今回ノ支那南北妥協ニ關スル勸告並對支借款ニ關スル取締ヲ為スニ至リタル次第ニシテ之ニテモ本大臣ノ抱懷スル趣旨ノ一端ヲ了解セラルヘシト思考ス願フニ遠カラサル將來ニ於テ財政殊ニ借款ノ整理ハ必ス支那ノ最重要問題トナルヤ疑ナク從テ貴國トシテハ良ク國家ノ將來ト内外ノ情勢トヲ打算シ借款

一 中国南北調停一件 一七〇

問題ニ意ヲ用ヒ特ニ不生産的使途ニ之ヲ充當スルヲ避クルコト國家百年ノ大計ヨリ見テ極メテ緊要ノ事ニ屬スト述ヘタルニ徐ハ之ニ同意ヲ表シ將來漫リニ不生産的借款ヲ起サス百方画策ヲ巡ラシ財政上ノ整理ニ留意スルニ努ムヘシト答ヘ次イテ英米独等ニ對スル本大臣ノ所見ヲ求メタルヲ以テ本大臣ハ独逸ノ將來ハ未タ何人ト雖之ヲ予言スルコト能ハサルヘク又今回戰勝ノ結果英米ハ益々全世界ニ重キヲ為スニ至ルヘキハ疑ナシ日本トシテハ日英同盟ノ關係上英國關係ヲ最重要視スヘキハ理ノ当然ニシテ米國トノ關係ハ之ニ次キ重キヲ置カサルヘカラス而シテ現今世界ノ大勢ヨリ断スレハ英米ニ相繼ギ世界ニ重キヲ為スハ自画自賛ノ嫌アルモ結局日本ナリ故ニ此三大國ニシテ互ニ円満ニ協調シ就中貴國ニ關スル問題ニ對シ各自意思ノ疎通ヲ見ルニ於テハ所謂國際聯盟ノ成立スルト否トニ拘ラス世界ノ平和ハ依テ以テ保持セラルルコトヲ得ヘシ然ルニ從來日本ハ支那ニ對シテ領土的野心ヲ有スルカ如ク觀察セラレタルカ為貴國ノ疑惑ヲ招クニ至レルハ勿論他外國ヨリモ等シク誤解ヲ受ケ延イテ日本ト支那乃至ハ日本ト他國トノ離間策ニ利用セラレタルハ事實ナリ依テ本大臣ハ茲ニ日本カ断シテ支那ニ對

シ何等ノ領土の野心ヲ有セサルコトヲ言明ス由來日本ハ國小ニシテ支那ハ領域広シ從テ支那ニ於テ生産セラルル鉄、羊毛其他日本必需ノ原料品ハ之ヲ貴國ニ仰カサルヲ得サルナリ幸ヒ日本ガ支那ニ對シ特殊の關係ニ在ルコトハ各國ノ認容スル所ナルヲ以テ右ノ如キ經濟的問題ニ付テハ日支兩國間何等憚ル所ナク施措スルコトヲ得ヘシ將又日支親善ノ為ニハ日本ハ支那ノ分裂ヲ好マス統一セル支那ヲ欲スルコト益切ナルモノアルナリ支那分裂セハ日本ノ國論亦從テ分裂ス國論ノ分裂ハ日支親善ヲ實現スル所以ニ在ラス之レ日本政府ハ支那南北妥協ニ関スル勸告ヲナスニ至リタル重要ナル動機ナリト結ヒタル処徐ハ感動セル様子ニテ御趣旨ニ依リ甚タ教訓ヲ得タリト述ヘタルニヨリ本大臣ハ要スルニ世界ノ大勢ニ逆行セハ事必ス敗ル此点ハ努メテ了解セラレシコトヲ望ムト附言セルニ徐ハ多大ノ謝意ヲ表シ御話ノ趣ハ大統領初メ在北京各有力者ニ伝ヘ以テ充分之ヲ會得セシムヘシト答ヘ引取レリ

為參考上海、天津、奉天、廣東、雲南、漢口、南京ニ転電方可然取計ハレ度シ

一七二 十二月十三日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在雲南英仏領事唐督軍へ南北妥協ヲ勸告ノ願  
末在雲南領事ヨリ報告ノ件

第一七三五号

在雲南領事本官宛第一七号

十二月七日午後四時英國領事ハ首席領事トシテ唐督軍ヲ訪問シ口頭ヲ以テ支那南北ノ妥協ヲ希望スル旨ノ五國政府ノ意向ヲ通告シ英文及支那文ノ覚書ヲ交付セリ仏國領事ハ英國領事ヲ首席領事ト認メサル由ニテ英國領事ト同時ニ唐督軍ヲ訪問シ別ニ仏文覚書ヲ交付セル由ナリ本官ハ英國領事ヨリ予メ英文覚書ヲ送付ヲ受ケタルモ仏文覚書ノ内容ニ付テハ知ル所ナシ

唐督軍ハ右ノ通告ニ對シ先ツ五國政府ノ好意ヲ謝シ且南北ノ妥協ハ其ノ欲スル所ナリト告ケ次ニ妥協ノ方法ニ付北方政府カ(一)南方ニ對シ權力者タル態度ヲ持シ命令ヲ以テ時局ヲ解決セントシ或ハ(二)南方督軍各個ニ就キ各別ニ妥協セント試ムルノ妥當ナラサルヲ指摘シ(三)目下適當ノ地ニ平和會議ヲ開キ円満且速ニ時局ヲ解決セント努力中ナリト答ヘタリ

一七一 十二月十二日

在本邦英國大使館ヨリ  
日本外務省宛

日英米仏伊五國ハ中国南北妥協成立前ニハ南北兩派ニ對シ兵器彈藥ヲ売却セザル旨ヲ中国ニ申入ルル様米國ヨリ提議ノ旨通報ノ件

Confidential.

MEMORANDUM.

With regard to the suggestion of the United States Government as to the five Powers interested giving an assurance of readiness to furnish financial assistance to a reunited Chinese Government if proper guarantees were forthcoming as to the use to which such funds would be put, His Majesty's Ambassador now learns that the United States Government have suggested that an intimation in the above sense should be supplemented by a declaration on the part of the five Powers to the effect that until the Northern and Southern parties in China arrived at a settlement of their differences, no arms or ammunition would be sold to either side.

British Embassy, Tokyo.

December 12th, 1918.

外務大臣へ転電アリタシ

一七三 十二月十四日

内田外務大臣ヨリ  
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

南北妥協成立スル迄對中国財政援助及武器供給ヲ差控フル旨中国政府へ申入方ノ米國提議ニ関シ在本邦英國大使ニ對シ幣原外務次官所見開陳ノ件

第一一五三号

貴電第一七一六号ニ関シ

十二月十二日在本邦英國大使來省幣原次官ニ對シ右貴電所載米國公使提案ニ對スル帝國政府ノ意見ヲ求メタルヲ以テ幣原次官ハ同官一己ノ意見トシテ財政援助ノ件ハ曩ニ帝國政府カ「コンミュニケー」ヲ以テ宣明セル所ト全然同趣旨ナラハ我方ニ於テモ素ヨリ異存ナク又武器彈藥ノ件モ主義上日本ニ於テモ同意ナルモ只浦塩其ノ他西比利亞地方ニ出動セル支那軍隊所用ノモノニ付テハ日本ニ於テ日支軍事協定ノ關係等ヨリ供給ノ義務ヲ負担シ居ルモノナキヤ目下調査中ナリ尤モ仮令其ノ義務アルニ於テモ之カ実行ニ付テハ嚴重ニ監督ヲ行ヒ所定ノ目的外ニ武器ノ使用セラレサル様予防ノ方法ヲ講スヘキコト勿論ナリ乍去臘テ考フルニ元來

支那ニ対シ目下容易ニ武器彈藥ノ供給ヲ為シ得ルモノハ事實上独リ日本アルノミナルハ極メテ明白ニ付本件ハ結局日本ニノミ対スルモノト見ルノ外ナシ日本ハ支那南北ノ妥協統一ヲ切望シ誠心誠意之カ促進ニ尽シ居ルニ拘ラス今尚一種ノ疑惑ヲ以テ迎ヘラレ列国共同シテ事実上日本ノ行動ヲ掣肘セムトスルカ如キ趣旨ノ提議アルハ自分ノ極メテ不愉快トスル所ナリ從テ日本政府カ既ニ其ノ態度ヲ公表セル借款方針ノ外武器彈藥供給問題ニ関スル方針ヲモ此際共同宣言中ニ包含セシムルコトハ帝國政府トシテハ尚熟考ヲ要スルモノアリト思考スル旨ヲ述ヘタル処英國大使ハ右ハ日本政府ノ立場トシテ如何ニモ尤モニ付支那側ニ対シテハ單ニ財政援助ノ件ノミヲ申入ルルコトトシ武器彈藥ノ件ハ在支各公使間限リノ了解ニ止メ置クコト或ハ穩当ナラムカト答ヘタリ不取敢御含迄尤モ貴電第一七一六号米國提案ニ対スル帝國政府所見ハ追テ別ニ可申進ニ付右ニ御含置アリ度シ

一七四 十二月十四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

北方議和代表各自ノ政治的系統報告ノ件  
第一七四八号

理當時ノ秘書長ナリシカ目下法制局長ナリ  
施愚ハ李純トノ關係深ク嘗テハ袁世凱系ニ在リシモ袁ノ死後ハ李純ト親シク李ト南北中間ニ介シ今日迄ノ態度ヲ執リシハ同人ノ計策与ツテ大ニ力アリ

王克敏ハ馮國璋系ニシテ官僚派ナルカ前年中国銀行總裁タリ財政總長トナリ馮總統ノ地位維持ニ努力シ主戰ニ贊同セサリシ有力者ニシテ熊希齡トノ關係良シ

江紹杰ハ安徽人ニシテ中央ヨリ選出ノ參議院議員ナルカ倪嗣冲トノ關係深ク安福俱樂部ノ有力人物ナリ

劉恩格ハ奉天人ニシテ第一革命當時ハ国民党八人物ノ一人ナリシカ其後民黨ヲ去リ張作霖トノ關係深ク安福俱樂部ノ有力者トシテ衆議院副議長タリ常ニ中央政界ニ於テ張作霖ノ意思ヲ代表シ居レリ

李國珍ハ江西人ニシテ進歩黨系ノ研究会派ニ属シ現任全国水利局總裁タリ

尚各代表ノ妥協問題ニ対スル主張等ハ上記政治的系統ニ依リ各々異レル点アランモ主戰派ノ行詰レル今日大體平和策ニ依リ時局ヲ收拾スルコトニ決シ居ルカ如キモ未タ纏マリタル意見判明セス詳細ハ探聞ノ上追報ス可シ

貴電第一一四五号ニ関シ

北方議和代表各自最近ノ政治的系統左ノ如シ  
總代表朱啓鈴ハ從來ヨリ徐世昌ノ信任厚ク旧交通系ニ属シ梁士詒トハ親密ノ間柄ニ在リ參議院議長タリシモ最近辭職セリ同人ハ梁士詒等ト共ニ特赦セラレタル後南北統一ニ熱心尽力シタル為当地民黨側ニモ左シテ不人望ナラス人物確實ナリ

汪有齡ハ旧交通系ニシテ梁士詒トノ關係深ク參議院議員ニシテ主戰ニ反対シ平和期成会成立ニ熱心奔走セル有力者ナリ

徐仏蘇ハ進歩黨系ニ属スルモ其実ハ寧ロ穩健ナル中立派ナリ梁啓超トノ關係深ク且徐世昌ニモ從來ヨリ接近シ居リ時局ニ対シテハ最初ヨリ主戰派ニ反対シ今日迄時々平和統一ノ意見ヲ發表シタルコトアリ汪有齡ト共ニ平和期成会ノ主要人物ナリ

吳鼎昌ハ曹汝霖等ノ新交通系ニ属シ段祺瑞トノ關係良シ從來梁士詒トノ關係深カリシモ最近ハ余リ良好ナラサル傾向アリ財政次長ナルカ近々歐洲財政ノ視察ニ赴ク予定ナリ方樞ハ段祺瑞系ニシテ徐樹錚ト共ニ主戰派策士トシテ段總

上海、広東、南京、雲南ヘ電報セリ

註 十二月十二日外務大臣發第一一四五号省略セルガ該電ハ北方議和代表各自ノ最近ノ政治的系統及南北妥協問題ニ対スル立場主張等報告方ヲ訓令セルモノナリ

一七五 十二月十四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ニ関スル曹汝霖及仏国公使  
館書記官ノ談話報告ノ件  
第一七五〇号

十二月十四日日本官曹汝霖ニ会見ノ際曹ハ和平會議問題ニ言及シ北方派ニ於テハ誠心誠意會議ノ促進ニ努力シツツアリ勿論右會議開催後ニ於ケル推移如何ハ予知シ難キモ兎ニ角来月中ニハ南方代表者トノ間ニ開談ノ運ヒニ至ルヘキカト想察セラル唯此際懸念スヘキハ李純ノ立場ニシテ同人ニシテ自ラ軍隊ノ解散ヲ断行シ和平促進ニ関シ自ラ其範ヲ示スニアラサレハ面白カラサル地位ニ陥ルコトナキヲ保シ難カルヘキ旨内話シタリ將又同日別用ヲ以テ本官ヲ來訪セル仏国公使館書記官ト南北妥協問題ニ関シ談話ヲ交換シタルカ其節偶々同書記官ノ洩セル所ニ依レハ最近南方側ヨリ仏国

公使ニ対シ北方派ハ南京ニ於テ和平會議ヲ開カントスル意向ナルカ如キモ會議地点トシテハ上海ノ方遙ニ適當ナルハ勿論ニ付是非後者ニ決定セシムル様北京政府ニ然ルヘク勸告方依頼シ来レル趣ニテ其後同公使ハ之ヲ首席公使タル英國公使ニ謀リタル結果英國公使ノ意見トシテ勿論正式ノ勸告ハ為シ難キモ好機會ノ節非公式ニ右ノ次第当局ニ「サゼスト」スルコトト成リ居ルヤノ趣ナリ御参考迄ニ

一七六 十二月十六日 内田外務大臣ヨリ  
在中国芳沢臨時代理公使宛（電報）

南北妥協問題、日本人ノ对中国態度等ニ関スル劉崇傑ノ談話通報ノ件

第一一五八号

十二月十四日劉崇傑本大臣ヲ来訪シ会見中彼ノ述フル所ニヨレハ北京出發前大總統ニ謁シ妥協ニ対スル大總統ノ意見ヲ叩キタルニ右意見中ニ於テ大總統ハ広西、雲貴ハ共ニ富饒ナラス故ニ広西カ広東ヲ又雲貴カ四川ヲ其ノ勢力圈内ニ置カントスルハ無理ナラス事ナルヲ以テ其ノ辺ニ付テハ自分モ充分斟酌スル考ナリト内話シタル趣ニテ又段祺瑞モ今ハ衷心ヨリ和平賛成論ニテ現ニ陸徵祥ヨリ共ニ渡欧ヲ求メ

一七七 十二月十六日 在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

張作霖ニ対シ南北妥協ノ妨害運動ヲ為サザル様申入ノ件

第三二〇号

拙電第三一四号ニ関シ拾二月拾五日張作霖ヲ訪問シテ貴電第一六八号ノ趣旨篤ト申入レタル処張ハ南北妥協ニ対スル南方側ノ要求条件過大ニ失スルヲ以テ北方督軍團ニテ当初極メテ強硬ノ主張ヲ固持セシハ事実ナルモ五國勸告後全ク該主張ヲ撤回セリ尤モ今回ノ南北妥協ハ所謂督軍團ノ反対側ニ在ル梁士詒、周自齊其他ノ画策ニシテ督軍團ヲシテ全然関与セシメザル方針ニテ例之北方派遣講和委員拾名中七名迄ハ南方側ノ人物ト認メラルルガ如キ状態ナレバ督軍團ニ於テハ内心之ヲ快シトセザルモ大總統徐世昌ハ各督軍ガ協同シテ推戴シタル關係モアリ從テ其ノ妥協計画ニハ自然反対スル事能ハザル地位ニ在ルガ故ニ督軍團ハ總統ノ為ス所ニ信頼シ南北講和會議ニ関シテハ全ク傍觀の態度ヲ採ル事ニ決シタル次第ニシテ自分トシテハ右會議ノ成行ヲ注視スル外進デ之ヲ妨害スル意思ハ毫モ無シト語レリ

一 中国南北調停一件 一七七 一七八 一七九

ラレタルニ対シテモ自分ハ和平問題ニ付キテ徐世昌ヲ十分援助セサルヘカラサルヲ以テ其ノ意ナキニ非サルモ此際渡欧ハ実行シ難シト述ヘ居タル位ナリトノコトナリシニ付本大臣ハ之ニ対シ其ハ甚タ喜フヘキコトナリ帝國ノ意向ハ過日陸氏ト会見ノ際述ヘ置キタル通ニシテ一ニ日支兩國ノ為又世界和平ノ為計テ必要ナリトシテ現在ノ方針ヲ定ムルニ至リタル次第ナレハ支那ニ於テモ十分其ノ意ヲ諒セラレ度ク又妥協幸ニ成ルノ後ハ直チニ財政問題カ緊急ノ要務トシテ起ルコトト思ハルル処此ノ問題ハ余程意ヲ致ササルニ於テハ支那ハ世界ノ破産者トナルノ虞アルニ付吳々モ注意アリタシト述ヘタルニ彼ハ其ハ至極御尤ナリ又日本カ支那ニ対シ何等侵略の野心ヲ藏セサルコトハ陸徵祥トノ会見ニ於テモ明白トナリ陸ニ於テモ多大ノ満足ヲ表シ居タリ且又今回来朝シテ自分カ各方面ノ人士ニ接シ支那ニ対スル日本人ノ感想著シク変化シ公明正大且衷心支那ノ事ニ同情シ更ニ進ンテ真ニ共助共益ノ実ヲ挙クルコトヲ希望セルヲ見実ニ愉快ニ不堪之等ハ帰國ノ上詳細徐世昌其他ニ伝フヘシト述ヘタリ御参考迄

在支公使ヘ電報セリ

一七八 十二月二十日 内田外務大臣ヨリ  
在広東太田總領事宛（電報）

南北妥協ニ対スル南方派要人ノ動向隨時報告方訓令ノ件

第六九号

目下支那南北ノ妥協漸ク進捗セントシ当方ニ於テ貴地方政局ノ機微ニ通スルコト特ニ緊要ナルニ付此際貴官又ハ貴館員ニ於テ軍政府員ヲ始メ重要人物ト十分密接ナル接触ヲ保チ参考トナル可キ情報隨時急速電報アリタシ為念

一七九 十二月二十日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

中国南北妥協ニ対スル北方側努力、借款成立ヘノ日本ノ助力要望等ニ関スル錢總理ノ談話及武力ニ依ル南北統一ヲ必要ト見ル段祺瑞ノ談話報告ノ件

第一七七九号

十二月二十日本官告別ノ為錢總理ニ会見シタル節、錢總理ハ南北妥協ノ會議ニ関シ中央政府ハ極力誠意ヲ以テ之ガ進

行ヲ計リ居レルニ付其内ニハ妥協成立スルコトヲ考フルモ  
 万一方無理ナル主張ヲ固持シ例ヘバ徐世昌ヲ大總統ト  
 認メザルガ如キコトヲ唱ヘ妥協成立セザル場合ニハ北方側  
 ニ於テ矢張り主戦策ヲ主張スル一派有ルモ自分ハ絶対ニ主  
 戦ニ反対シ飽迄平和方針ヲ執リ軍隊解散其他ノ整理問題ヲ  
 漸次実行セントスル考ナル処中央政府ノ財政窮迫セル今日  
 妥協ノ成立ト不成立タルヲ問ハズ将来ノ政費ハ是非トモ外  
 国ノ借款ニ依ルヲ要スルニ付日本及ビ友邦ニ於テ南北双方  
 ノ妥協ニ関スル誠意如何ヲ公平ニ觀察シ不成立ノ責任南方  
 ニ在ル場合ニハ日本ハ友邦ヲ勧誘シ成ルベク協同シテ借款  
 ニ応ゼラレタク若シ各国ニ於テ借款ニ躊躇スル際ニハ日本  
 単独ニテモ応ゼラレンコトヲ切望スト述べ中央政府ノ妥協  
 會議ニ関スル誠意ノ例証トシテ (一) 南方ヨリ主張シタル南  
 北両者對等ナリトノ説ニ就テハ大總統又ハ國務院ノ名義ヲ  
 用ヒズ總理個人ノ名義ヲ以テ南北對等ノ説ヲ容レ、(二) 會議  
 ノ名称モ地点ノ確定ト共ニ南京又ハ上海會議トスルコトニ  
 左シテ異議ナク、(三) 地点ハ交通ノ便宜上、南京ヲ主張シ居  
 ルモ上海亦可ナリトノ意嚮ヲ有スル等讓歩的態度ニ出デ已  
 ニ北方ヨリハ代表ヲ選定シ南方ニ對シ至急代表派遣ヲ督促

居レルニ付日本政府ニ於テモ此苦衷ヲ諒察セラレ今後借款  
 ニ援助アランコトヲ切望スル旨述べタリ

將又同日本官段祺瑞ニ会见シタル処段ハ妥協會議ニ関シテ  
 ハ自分ハ余リ關係シ居ラザルモ急ニ成立スルコトハ困難ナ  
 ラン第一革命ハ自分等ノ実力アリタルガ故ニ成功シタルモ  
 ノナルニ南方人士ハ革命ノ功ヲ彼等ノ占有物ノ如ク考ヘ人  
 心浮動セルト且南方ニハ一定ノ首領ナク各人各個ノ主張ヲ  
 有セル狀況アルニ付昨年来主戦策ヲ執リ勢クトモ広東ヲ庄  
 迫シタル上統一ヲ計ラントシタルモ不幸北方軍隊ノ結束ニ  
 欠陥ヲ生ジ主戦策ハ一時失敗セルヨリ自分ハ總理ヲ辞シ成  
 行ヲ傍觀セル次第ナルガ南方人士ハ子供ノ我儔ヲ云フト同  
 様ニ付一撃ヲ加フルニアラザレバ覺醒スル所ナカルベク寸  
 ヲ得バ尺ヲ得ントノ主張ヲ為スベキニ付将来必ズヤ南方ニ  
 對シ武力ヲ以テ一撃ヲ加フルノ必要アル時ノ来ルベキヲ信  
 ズ自分ハ南北統一ガ支那ノ最モ緊急トスル所ナルコトヲ熟  
 知セルモ今日ノ如キ曖昧ナル方法ヲ以テ確實ナル統一ヲ計  
 ラントスルハ頗ル困難ナリト考フル旨内話セリ本官ノ觀測  
 ニ依レバ段祺瑞初メ從來ノ主戦派ハ徐世昌ノ平和統一策ニ  
 對シテハ渋々ナガラ反對セズ成行ヲ傍觀セル狀況ニテ錢綏

スル次第ナルガ

(一) 当初歐洲講和會議委員ニ於テ中央政府ヨリ伍朝樞ヲ其  
 一人ニ加ヘントテ自分及ビ陸徵祥ヨリ電報シタルニ何等ノ返  
 電ナキヨリ其低ト為シ置キタルガ最近南方ヨリハ該會議ノ  
 委員ヲ選定シ北方側委員ヲ南方ニテ承認スル代リニ北方ニ  
 テモ南方側委員ヲ承認ス可シト主張シ来レリ然ルニ各国ハ  
 中央政府ヲ承認シ居リ未ダ南方ヲ交戦団体又ハ政府トシテ  
 承認シ居ラザルニ付南北双方ヨリ委員派遣ノ如キハ各国ノ  
 承認セサルベキニ拘ハラズ斯カル要求ヲ為シ

(二) 福建陝西土匪討伐ノ為メ中央政府ノ増遣隊派遣ニ関シ南  
 方ヨリ反對シ来レル処福建増遣隊ニ對スル反對ハ多少理由  
 ナキニ非ザルモ北軍ハ斷ジテ南軍ニ對抗スル為ニ派遣セラ  
 レタルニ非ズ從ツテ派遣地点モ南北兩軍ノ近接地ヨリ遙カ  
 ニ後方ニ在リテ土匪討伐ニ從事セル実況ニシテ陝西ニ於テ  
 ハ數年来土匪跳梁シ既ニ數県ノ知事モ逃走シ督軍及ビ省長  
 一軍隊及ビ警察力ニテハ實際討伐不可能ナルヨリ増派シタ  
 ル次第ニテ他意アルニ非ズ右ノ通り此二問題ニテ妥協會議  
 ノ進行多少行惱ミ居レルモ國家ノ大局ヲ顧念シ大總統及ビ  
 自分ニ於テハ飽ク迄平和手段ニ依リ統一ヲ図ラント努力シ

理ガ北方側ニハ妥協不成立ノ場合ハ再び南方討伐ヲ実行セ  
 ントスル一派アリト云ヘルハ段派及主戦督軍派ヲ意味スル  
 モノト思考ス

上海広東雲南ヘ電報シ天津、南京ヘ暗号ノ郵便送セリ

一八〇 十二月二十一日 在広東太田總領事ヨリ  
 内田外務大臣宛(電報)

徐樹錚ガ田中陸相ヲ通ジ三百万円ノ借款ヲ獲  
 得セリトテ南方派ハ憤慨シ居ルニ付事ノ真相

内示方稟請ノ件

第二三六号 極秘

南方各要人ノ談話ヲ綜合スレバ曩ニ和議問題ニ関シ北方ハ  
 各地ニ於テ停戦シ又地点モ上海トスルコトニ同意シ円満ニ  
 進行シツツ有リシ処中途ヨリ俄ニ地点ヲ南京ト主張シ又陝  
 西、福建ニ於テ名ヲ土匪討伐ニ籍リテ進兵スルニ至リタル  
 ガ南方ニテハ北方ノ豹変ニ對シ不審ヲ抱キツツ有リシ処最  
 近上海方面ヨリ徐樹錚ガ日本ニ於テ田中陸相ヲ通ジテ陸軍  
 大學設立ノ名義ヲ以テ三百万円借款シ来リタルニ依リ之ニ  
 依リ北方派ハ勢ヲ得強硬ノ態度ヲ執ルニ至リタルモノナリ  
 トノ情報有リ南方各人士ニ對シ極メテ惡影響ヲ及ボシツツ

有り現ニ吳景濂ハ東方社八田ニ対シ徐樹錚借款ノ事実ナルコトヲ確言シ右ハ參謀本部及ビ田中陸相トノ間ニ極メテ秘密ニ契約セラレシ由ナルニ付外務省及ビ原首相ハ之ニ与リシヤ否ヤハ知ラザルモ然モ斯ノ如キ政治的資金ノ国内ヨリ出ヅルヲ首相トシテ知ラズト責任ヲ回避スルコト能ハザルベシトテ日本陸軍一派ノ陰險ナル政策ヲ執ルノ非ヲ述ベ斯クノ如クンバ日本ハ兩面政策ヲ執リ何時迄モ支那時局ノ紛糾ヲ長引カセ其間ニ利ヲ占メントスルモノナリトテ非常ニ憤慨シ居リタル由ナルガ帝國政府嚴正中立ノ態度ヲ執リ借款ニ対スル声明ヲナシテ以来南方ノ対日感情極メテ良好ナリシ処上述ノ如キ風評ノタメ支那人士ヲシテ日本ノ政策ノ陰險ニシテ其声明等ノ信用スベカラザルコトヲ思ハシムルハ将来ノ為極メテ重大ノコトト思ハルガ果シテ徐樹錚三百萬円借款ノ事実有リヤ否ヤ事実無根ナルトキハ弁明ノ必要有リ又事実ナルトキハ支那人ヲシテ誤解ヲ一掃セシムル為ニ何等カノ手段ヲ執ル必要有リト思ハル尤モ吳景濂ノ談ニ依レバ本件ニ関シテハ既ニ唐紹儀及ビ孫逸仙ヨリ詳細ノ報告有リ又吳自身当地滞在中ノ松井大佐ニ本件ニ関シ質問セシ処否定モセズ言ヲ曖昧ニセシ由ニテ支那側ニテハ事実

不利益ナルニ付爾今ハ旧来ノ方針ヲ全然更正スベキ旨ヲモ付言シタリ御含迄

為参考上海、南京、天津、濟南、奉天、漢口、廣東、雲南ニ転電アリ度シ

一八二 十二月二十五日 在広東太田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在広東日本陸軍武官ノ行動ニ対シ南方派ハ反

感ヲ懷キ我武官ト外務省ノ言動不一致ヲ譏議

シ居ル旨報告ノ件

第二四五号

貴大臣発在支公使宛第一一七三号ニ関シ目下当地ニ在ル松井大佐ガ本官ニ語リタル所ニ依レバ同大佐ハ田中陸軍大臣ノ命ヲ受ケ南北調停ニ尽力スル目的ヲ以テ来リタル由ニテ各方面ニ奔走中ナルガ或方面ヲ通シテ聞キ得タル所ニ依レバ同大佐ノ行動ハ支那側ヨリ余リ好感ヲ以テ迎ヘラレ居ラズ特ニ軍閥ニ対シテ反抗シツアル南方重要人物等ハ同大佐ノ行動ヲ以テ日本ノ軍閥ノ行動ト見做シ同様ノ反感ヲ懷キツツアルモノノ如シ猶支那側ヨリ聞ク所ニ依レバ現ニ十一月上旬頃田中陸相ヨリ軍政府各総裁ニ宛テ南方各派ハ単

一 中国南北調停一件 一八二 一八三

ナルコトヲ確信シツツ有ル有様ナルヲ以テ本官ニ於テモ何時カハ支那側ノ感情ヲ融和スベク適當ノ処置ヲ執ル必要有リト思ハルル次第ナルヲ以テ事実ノ真相ヲ御内示アリタク折返シ何分ノ義御回電有リタシ  
北京、上海へ電報セリ

一八一 十二月二十三日 内田外務大臣ヨリ  
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

我陸軍ヨリ在中国出先機關ニ対シ中国問題措

置方ニ関スル心得ヲ訓達シタル旨通報ノ件

第一一七三号

今般貴館附武官ニ補セラレタル東少將ヨリ小村課長ヘノ直話ニ依レバ陸軍ニ於テハ青木中將及坂西少將共ニ今後公使館附武官ト打合ノ上ニアラザレバ何等措置スベカラザル旨又東少將ニ対シテハ諸般ノ措置ハ必ズ予メ公使ト打合ハスヲ要スル旨夫々訓達シ且対支問題ニ付陸軍ニ於テハ敵ニ公正ノ態度ヲ持スルコトト相成居ル旨東少將ニ訓諭シタル趣ナル処十二月二十一日福田參謀次長モ本大臣ノ間ニ対シ右ノ通訓達シタル旨確言シ且在支帝國陸軍武官側ガ從來ノ如ク側面ヨリ手出スルハ事態ヲ紛糾セシムルノミニテ大局上

独ニ行動セズ各総裁一致シテ速ニ和議ノ進行ヲ計ルベキコトニ関シ来電アリタル由ニテ(当地駐在武官ノ談ニ依レバ単ニ田中陸相ノ希望ヲ口頭ヲ以テ岑春煊ニ伝ヘタルニ過ギザル由ナリ)之ニ対シ徐謙ハ外国ハ干涉セズト云ヒ乍ラ種々干涉的ナル言ヲ聞クハ心外ニ堪ヘズト述ベ殊ニ日本軍憲側ヨリ種々差出ガマシキ言ヲ聞クコトニ関シ憤慨ノ言ヲ洩ラシ居リタル由ナルガ支那側ニテハ武官ノ言動ニ対シテモ常ニ本國政府ノ行動ト見做シ外務省側ノ言動ト武官側ノ言動ト種々一致セザルモノカラ支那側之ヲ表裏二面ノ政策ト解シ其結果常ニ日本ノ真意ヲ疑ヒ誠意ヲ以テ相見ユルコトヲ得ザル如キ有様ニテ日本ノ真意ノアル所ヲ支那側ニ徹底セシムル上ニ於テ極メテ不利ト思ハル右ノ事実ハ北京公使宛貴電第一一七三号ト照ラシ合シ參謀本部ト陸軍大臣トノ間ニ猶意思ノ疎通シ居ラザル点モ有ル様思考セラルルニ付御参考迄ニ電報ス  
在支公使へ電報セリ

一八三 十二月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在広東太田総領事宛(電報)

徐樹錚ノ日本借款ノ如キ無根ノ風説ニ迷ハサ

ルルコト無く南北妥協ヲ達成センコトヲ望ム

旨南方要人ニ申入ルル様田中陸相ヨリ松井大

佐ニ電報セル旨通報ノ件

第七一号

貴電第二三六号ニ関シ

十二月二十五日田中陸軍大臣ヨリ貴地松井大佐ニ対シ同大臣個人ノ名義ニテ岑春煊其他ニ対シ右貴電御来示ノ如キ借款徐樹錚トノ間ニ成立シタリト云フハ全然無根ニシテ斯ル虚説ノ流布セラルルハ固ヨリ為ニセムトスルモノノ所為ニ外ナラザルベク日本ハ支那ノ統一ヲ希望スルヲ以テ妥協成立スルマデハ南北何レニ対シテモ政治的借款ニ応ゼザル方針ヲ恪守シ居リ又今回徐樹錚ノ渡来モ大演習ノ陪觀軍隊官衙学校ノ參觀ニ外ナラズシテ此ノ機ニ於テ自分(陸軍大臣)ハ同人ニ対シ和平統一ノ急務ヲ説キ其ノ尽力ヲ勸説シタル次第ナルガ南方側人士ニ於テ斯ル譏誣虚構ノ浮言ニ迷ハサルルコトナク大局ノ上ヨリ一日モ速ニ妥協統一ノ業ヲ達成セムコトヲ切望スル旨申入レ其ノ誤解ヲ解クニ努ムベキ旨發電シタル趣ナリ委細ハ松井ヨリ御聴取アリタシ尚本件ニ付テハ追テ何分ノ義申進スベキモ右不取敢御含迄

ナル監視方法ヲ設ケ毎月右一定ノ割当額ヲ支那政府ニ払渡スコトトナリ十一月分トシテ本月四日三百五十万円ヲ払渡シタルノ事実アリ本借款ハ往電第八九五号ノ通其ノ当時之ヲ米國政府ニ通報シ又貴地ニ於テモ林公使ヨリ各關係国公使ニ説明アリタル筈ナリ然ルニ三銀行ガ右契約ニ基ク支那政府預金ノ払渡ハ本月四日ヲ以テ開始セラレタル為諸方面ニ於テハ今回新借款ノ締結セラレタルガ如ク誤伝シ疑惑ヲ抱クノ状アルハ帝國政府ノ遺憾トスル所ナリト雖前頭預金払渡ハ三銀行ノ契約上ノ義務ニ属シ帝國政府トシテハ三銀行ヲシテ契約ヲ不法ニ廃棄セシムルノ責任ヲ執ルコト能ハザルハ列國政府ニ於テモ十分諒解スベキヲ信ズ第二次参戦借款ニ至リテハ未ダ具体的商議ノ進行セルモノナク又帝國政府ハ一切ノ誤解ヲ避ケムガ為既ニ右新借款ノ締結ヲ阻止スルノ手段ヲ執レリ貴官ハ此際以上ノ事情ヲ率直ニ米國其ノ他關係国公使ニ説明セラレタシ

米國公使提案第二点兵器彈藥供給ニ関スル件モ其ノ趣旨ニ於テ帝國政府ノ全然同意スル所ナリト雖前内閣時代ニ於テ泰平組合ト支那政府トノ間ニ於テ明年四月迄毎月一定数量ノ兵器彈藥ヲ供給スルノ契約成立シ之ガ履行ハ泰平組合ノ

右為参考北京、上海ニ転電アリタシ

一八四 十二月二十六日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛(電報)

中国南北妥協成立迄对中国財政援助及兵器供給ヲ差控フル旨中国政府ヘ申入ノ米國公使提案ニ対スル日本政府ノ見解米國其他關係国公使ニ説明方訓令ノ件

第一一八二号

貴電第一七一六号ニ関シ

米國公使提案第一点財政援助ニ関スル件ハ往電第一〇九〇号帝國政府借款方針ト全然一致スルモノナルニ於テハ帝國政府ハ素ヨリ本件支那政府ニ対スル声明ニ参加スルニ異議ナシ尤モ声明ノ用語広汎ニ過ギ恰モ南北妥協ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボスノ虞ナキ資金融通迄モ絶對ニ阻止スルノ趣旨ナルガ如キ誤解ヲ生ゼザル様注意ヲ要ス次ニ前内閣時代ニ所謂第一次参戦借款トシテ支那政府ト本邦三銀行トノ間ニ二千万円ノ借款成立シ右金額ハ三銀行ニ於テ直ニ支那政府ノ預金トシテ受入ヲ了シ所要経費ノ予算月割ヲ定メ其ノ使途ニ付テハ支那内争ノ目的ニ流用セラレザル様夫々嚴重

既定義務ニ属スルモノニシテ此際帝國政府トシテハ前記参戦借款ノ場合ト同様苟モ右兵器彈藥ガ内争ノ目的ニ供セラレザル様特ニ嚴重ナル監視ヲ行フノ外別ニ契約自体ノ廃棄ヲ強ユルハ帝國政府ガ信義ノ問題トシテ堪ヘ難キ所ナリ以上既定義務ニ属スルモノヲ除キテハ帝國政府ハ支那統一ノ完成セザル限り兵器彈藥ノ供給ヲ阻止スヘキコト勿論トス尤モ差当リ兵器彈藥ヲ支那ニ供給スルコトヲ得ベキ地位ニ在ルモノハ事実上殆ド日本ニ限ラルルノ情況ニ顧ミ本問題ニ関シ列國共同ノ自制的宣言ヲ為スニ於テハ恰モ列國共同シテ日本ノ行動ヲ掣肘セムトスルノ趣旨ニ出デタルガ如キ感想ヲ内外ニ与フルノ虞ナシトセズ今ヤ帝國政府ハ關係列國トノ協調ヲ維持シテ専心支那ノ統一完成ヲ念トスルニ方リスノ如キ一種不快ノ暗示ヲ含ムノ嫌アル共同宣言ヲ為スハ帝國政府ノ同意スルコト能ハザル所ナリ貴官ハ右帝國政府ノ立場ヲ篤ト關係同僚ニ説明シ今回支那側ニ対スル申入ハ財政援助ノ件ニ止メ兵器彈藥ノ件ハ単ニ關係国公使間限リノ申合ト為シ置クコトニ協議ヲ遂ゲラレタシ尚本件申入ノ形式及時機ニ付テハ貴見ノ通取計ハレ差支ナシ

リタシ

一八五 十二月二十九日

内田外務大臣ヨリ  
在上海有吉総領事宛(電報)

田中陸相方徐樹錚ニ三百万兩ヲ交付セリトノ  
風説ハ第一次参戦借款ノ第一回月割額ヲ關係  
銀行ヨリ中国政府ニ払渡シタルヲ誤伝セルモ  
ノト認ラルル旨通報ノ件

第一一五号

貴電第一八二号ニ関シ

最近陸軍大臣ヨリ徐樹錚ニ参戦督弁処訓練費ノ名義ヲ以テ  
三百万兩ヲ交付セリトノ説一般ニ信ゼラルル趣ナル処先般  
独塊勢力東漸ニ備フルヲ目的トセル日支軍事協定ノ趣旨ニ  
基キ日本軍ト協同動作ヲ為シ得ル支那国防軍隊ノ編成練成  
及戦争参加ニ要スル経費ニ充ツル為本年九月二十八日(前  
内閣時代)朝鮮興業及台湾三銀行ニ於テ二千万円ノ支那政  
府国库証券ヲ引受ケタルガ所要経費ノ予算月割額ニヨリ十  
二月四日第一回分三百五十万円ヲ契約ノ規定ニ従ヒ支那国  
防軍隊ヲ直接主管スル機關ニ属スル經理主任タル靳雲鵬ニ  
交付シタリ貴電御来示ニ係ル徐樹錚借款ハ右ヲ誤伝シタル

礙トナル虞アリト徐大總統ニ指摘セルニ徐ハ

南北妥協ノ前途ニ対シ樂觀的口吻ヲ洩セル旨

報告ノ件

第一八二五号

十二月廿二日本使大總統ニ内謁種々時局談ヲ試ミタルガ同  
總統ハ先ヅ歐洲大戰終熄後益々日支兩國ノ提携殊ニ実業聯  
絡ノ必要ヲ力説シ更ニ本使ヨリ陝西福建問題ニ言及シ同問  
題ガ或ハ南北統一ニ関スル偉大ノ障碍タルガ如キコトナキ  
ヤヲ虞ルル旨ヲ指摘シ進デ中央政府ニ於テハ曩ニ同問題処  
分弁法ヲ議定セラレタルヤニ聞知シタルモ爾来本使ノ得タ  
ル報ニ依レバ右中央政府ノ方針ハ未ダ南方側ニ通ゼザルモ  
ノノ如ク而モ一方北方軍隊ハ益々前進シツアルヤノ風聞  
モアリ(十二月二十九日当地特派員発日本宛電報ニテ最近  
参戦督弁公署ハ在陝西北軍ニ対シ進軍命令ヲ発シタル旨報  
道セル筈ナルニ付本件確メノ為此質問ヲ為シタルナリ)ト  
テ在広東日本総領事来電第一三七号ノ意味合ヒヲモ加味シ  
テ其実際ノ情况ニ関シ腹藏ナキ説明ヲ得バ好都合ナル旨述  
ベタル処總統ハ実ハ只今国务院ヨリノ報告ニ依レバ南方側  
ニ於テモ既ニ十名ノ代表ヲ選定シタリトノ確報ニ接シタル

一 中国南北調停一件 一八八

モノト認メラル就テハ在支公使ヨリ転電スベキ大臣発同公  
使宛往電第一一八二号前段右参戦借款ノ件ト併セ御含置ノ  
上必要アラバ唐紹儀等ヘモ然ルベク説明セラレタシ  
右為参考北京及広東ニ転電アリタシ

一八六 十二月三十日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国政府ニ対スル兵器供給差控ニ関シ第一次  
参戦借款ニ依ル購求兵器ノ供給ニ付問合ノ件

第一八二三号

貴電第一一八二号ニ関シ

陸軍側ヨリ坂西少将ニ達シタル電報ニハ兵器供給ハ泰平組  
合關係既定義務ニ属スルモノノ外第一次参戦借款ニ依リ新  
軍組織ノ為購入スル兵器ハ之ヲ供給スベキ旨記載シタル趣  
ノ処右ハ前記貴電トハ聊カ相違シ居ル様存ゼラルルニ付其  
点ニ関スル御意向為念至急御電示ヲ請フ米国公使初メ關係  
国公使ヘハ右御回示ヲ俟テ貴電ノ趣旨開陳致度キ考ナリ

一八七 十二月三十日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

陝西福建ニ於ケル北軍ノ進出ハ南北妥協ノ障

趣ニテ從テ前記陝西福建問題ニ関スル政府ノ方針ノ如キモ  
最早既ニ南方側ニ通ゼラレ其了解スル所ト思考セラルル旨  
ヲ答ヘタル上實際土匪跳梁ノ地点ハ漢中ホウスウ方面ナル  
ニ反シ北方軍隊ハ漸ク華陰渭南辺ニ到著セル位ニテ其間距  
離遠隔シ居リ一方福建ニ於テモ北軍ハ省城ニ達シタルニ過  
ギザル次第ナルコトヲ説明シ旁々事実ヲ精査セバ容易ニ誤  
解ヲ解クコトヲ得ベシトテ南北妥協ノ前途ニ対シテハ極メ  
テ樂觀的口吻ヲ洩セリ御参考迄

一八八 十二月三十日

在上海有吉総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

孫文唐紹儀等ハ参戦借款資金ハ段一派援助ト  
ナルトシ苦情ヲ唱フルモノナル旨説明ノ件

第二〇四号

貴電第一一五号ニ関シ

徐樹錚ニ三百万兩交付云々ノ説ハ貴電御来示ノ内容ヲ松井  
大佐ガ早晚世間ニ伝ヘラレ却テ誤解ヲ招クコトモアルベシ  
ト為シ唐紹儀ニ逐一内話シタルコトアル前後ヨリ發生シタ  
ルモノニテ唐等ハ右内容ハ篤ト承知シ居リ曩ニ電報ノ如ク  
同人ハ勿論孫文等ハ本件国防軍隊ノ編成等ニ対スル資金ヲ

一五七

目シテ或程度迄段祺瑞一派ヲ援助セラルルモノト為シ苦情ヲ唱ヘ居ル次第ニ付為念申進ス

北京、広東へ電報セリ

## 事項二 中国改革借款一件

一八九 一月三日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

仏国代理公使来訪ノ上第二次改革借款第二回

前貸ニ仏国参加ノ旨通報シタルニ付請訓ノ件

第三号

一月三日仏国代理公使来訪仏国政府ハ今回二百万磅ノ第二回前貸ニ参加スルコトニ決定シタル旨ヲ本官ニ通報シ且右ニ関シ本国ヨリノ電報(一日巴里発二日夜北京著)ニ依レハ英米両国政府モ本件参加ニ対シ仏国政府トノ間ニ完全ナル合意アリ在仏米國大使ノ如キハ仏国政府ニ向テ特ニ言明スル処アリ尚在支英國公使ハ近ク何等カノ訓令ニ接スル筈ナル趣ヲモ附言セリ仍テ本官ヨリ支那政府申出ノ二百万磅前貸ハ銀行団協議ノ結果不取敢千万円丈ヲ日本一手ニテ引受ケ残り千万円ハ後日ノ商議ニ讓ルコトト相成リ居ル關係ニ願ミ仏國ノ参加セントスルハ今回ノ千万円前貸ナリヤ夫レトモ今後ノ分ナリヤ今回ノ分ハ実ハ明日頃調印ノ筈ナル旨ヲ告ケタルニ仏国代理公使ハ右調印延期ヲ希望スト迄ハ

二 中国改革借款一件 一八九 一九〇

言明セサリシモ仏国政府ニ於テ愈々参加スルコトニ方針ヲ決定シタル以上事情一変シタル次第ナルコトヲ emphasizeセリ卑見ヲ以テセハ今回ノ千万円前貸ハ正金ニ於テ銀行団トノ間ニ完全ナル諒解ヲ遂ケタル上支那側ト商議ヲ遂ケ調印日取迄モ内定セルコトナレハ其ノ俚調印ヲ決行シ参加問題ハ之ヲ事後ニ協議スルコトトナスモ差支ナキ筋合トハ思量スルモ一面感情問題ヨリセハ既ニ仏國ニ於テ参加ヲ言明シタル以上之ヲ聞流シテ調印ヲ決行スルトキハ万一ノ誤解ヲ受クル虞ナキニシモアラスト認メ不取敢本官ノ責任ヲ以テ武内ニ対シ追テ何分ノ沙汰ヲナス迄調印ヲ延期シ支那側ニハ程好ク挨拶ヲナス様申聞ケ置キタリ本件ニ関シテハ關係國側ヨリ帝國政府ニ何等カ申出タル義ト存セラルルニ付篤ト御詮議ノ上至急何分ノ義電訓ヲ請フ

一九〇 一月五日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

第二次改革借款第二回前貸ニ仏国参加ノ問題

ニ関シ之ガ措置振ニ付至急回訓方稟請ノ件

一五九